

武 蔵 野 市
男女平等に関する意識調査
報告書

平成 30 年 3 月

武 蔵 野 市

目次

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の設計	3
3. 調査の内容	3
4. 回収結果	4
5. 報告書のみかた	4
6. 比較した調査の概要	5
7. 主な調査結果	6
II. 調査結果	13
1. 回答者のプロフィール	15
2. 日頃の生活について	19
3. 仕事とワーク・ライフ・バランスについて	52
4. セクシュアル・マイノリティについて	61
5. 男女平等意識について	64
6. 男女間の暴力について	97
7. 市の施策について	128
III. 調査票及び集計結果	155

I 調査概要

I. 調査概要

1. 調査の目的

武蔵野市では「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」に基づき、男女平等の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、男女平等社会の実現を目指すため、平成30年度末を目途に「武蔵野市第四次男女平等推進計画」の策定を予定している。その基礎資料とするため、この調査を実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象 武蔵野市内在住の満18歳以上の市民
 (2) 対象者数 1,500人
 (3) 抽出方法 無作為抽出法
 (4) 調査方法 郵送による無記名アンケート（郵送での調査票返送に加え、ウェブ調査画面にアクセスし回答する手段を用意）
 (5) 調査期間 平成29年10月2日（調査票発送）～16日（返送締切）
 (6) 調査項目 質問項目27問＋プロフィール6問

3. 調査の内容



ブロック	質問項目 ★印は今回調査で追加した項目		
日頃の生活	問1	理想の役割分担（性別役割分担）	
	問2	現実の役割分担（性別役割分担）	
	問3	日常生活における家事、育児、介護などの従事	
	問4	末子の成長段階	
		-1 育児休業の取得の有無 -2 育児休業の未取得の理由	★
	問5	介護休業の取得の有無	
		-1 介護休業の未取得の理由	★
問6	地域活動の参加の有無 -1 活動団体での課題	★	
問7	地域活動をしていくために必要な環境や条件		
仕事とワーク・ライフ・バランス	問8	男女がともに働きやすくなるために必要なこと	
	問9	ワーク・ライフ・バランスの希望と現実	
セクシュアル・マイノリティ	問10	性別についての悩みの有無	★
	問11	セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るための方策	★
男女平等意識	問12	男女平等などに関する言葉の認知度	★
	問13	夫婦役割分担	★
	問14	男女の地位の平等感	
	問15	男女の役割や子育てに対する考え方	
	問16	男女平等意識を育てるために学校教育に必要なこと	
	問17	メディアが発信する表現	★
	問18	災害対策に男女平等の視点を生かすために重要なこと	

ブロック	質問項目 ★印は今回調査で追加した項目		
男女間の暴力	問 19	親しい関係にある男女間の暴力の認識と経験 -1 相談の有無 -2 相談しなかった理由	★
	問 20	暴力を受けたときの相談機関の認知	
	問 21	男女間の暴力を防止するために必要な施策	
市の施策	問 22	武蔵野市の施策の認知	
	問 23	男女共同参画情報誌「まなこ」の特集記事として関心のあるテーマ	★
	問 24	男女平等の推進に関する条例について	★
	問 25	男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体について	★
	問 26	男女平等社会を実現するために、市の施策に望むこと	
	問 27	男女平等や男女共同参画、市の施策についての意見（自由回答）	
回答者のプロフィール	F1	性別	
	F2	年齢	
	F3	居住地域	
	F4	職業	★
	F5	未既婚 -1 配偶者の職業	★
	F6	世帯構成	

4. 回収結果

- (1) 対象者数 1,500人
(2) 有効回収数 534人（女性：270人、男性：240人、その他：2人、性別無回答：22人）
(3) 有効回収率 35.6%

5. 報告書のみかた

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（%）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- (3) 性別、年代別などは、無回答があるため、合計が全体と一致しない。なお、性別が「その他」の回答者はごく少数であることから全体に含め、グラフでの表記はしていない。
- (4) 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%を超えることがある。
- (5) 年代の表記にあたっては、調査票では5歳きざみであったが、10歳きざみとした（例「20～24歳」「25～29歳」を20代）。なお、「18～19歳」を10代、「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」を70代以上としている。
- (6) 集計表は、全体を10ポイント以上上回るものに 、10ポイント以上下回るものに  の網かけをしている。
- (7) 集計の母数が10以下の数値になっているものについては、統計上の優位性が低いため、分析には利用していない。
- (8) 無回答は「不明」と表記している。

6. 比較した調査の概要

本調査の分析にあたり、比較・引用した調査等は以下の通りである。

- (1) 武蔵野市：武蔵野市男女共同参画に関する意識調査報告書（平成 25 年）
調査対象：武蔵野市在住の満 18 歳以上の市民
標本数：1,500 人
調査時期：平成 24 年 11 月 30 日～12 月 14 日
有効回収数（率）：485 人（32.3%）
なお、本報告書では「平成 24 年調査」と表記している。

- (2) 武蔵野市：武蔵野市男女共同参画に関する意識調査報告書（平成 20 年）
調査対象：武蔵野市在住の満 20 歳以上の市民
標本数：1,500 人
調査時期：平成 20 年 7 月 17 日～7 月 28 日
有効回収数（率）：546 人（36.4%）
なお、本報告書では「平成 20 年調査」と表記している。

- (3) 武蔵野市：武蔵野市男女共同参画に関する意識調査報告書（平成 14 年）
調査対象：武蔵野市在住の満 20 歳以上の市民
標本数：1,500 人
調査時期：平成 14 年 8 月 20 日～9 月 3 日
有効回収数（率）：647 人（43.1%）
なお、本報告書では「平成 14 年調査」と表記している。

- (4) 内閣府：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）
調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
標本数：5,000 人
調査時期：平成 28 年 8 月 25 日～9 月 11 日
有効回収数（率）：3,059 人（61.2%）
なお、本報告書では「国調査」と表記している。

- (5) 東京都：男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）
調査対象：東京都全域に住む満 20 歳以上の男女個人
標本数：3,000 人
調査時期：平成 27 年 7 月 3 日～7 月 20 日
有効回収数（率）：1,821 人（60.7%）
なお、本報告書では「東京都調査」と表記している。

7. 主な調査結果

〔男女の役割分担〕(P19~P36)

- ▶ **男女の役割分担の理想については、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が女性で61.1%、男性で57.9%と最も高い。**
 - ・「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」の回答率が特に高いのは、女性の若年層と女性の正社員・役員、正職員である。
 - ・経年でみると、全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」という回答が平成14年よりは上昇しているが、平成24年よりは低下している。
- ▶ **男女の役割分担の現実については、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」は、女性で11.1%、男性で10.8%に止まる。**
 - ・「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」は21.7%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」は21.0%となっており、理想とは大きな隔たりがある。
 - ・平成14年からの変化をみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」については継続的に回答率が低下している。一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」については、平成14年よりは低下しているものの、平成24年よりは回答率は高くなっている（平成14年26.0%、平成24年15.7%）。
- ▶ **家事の実施率は、女性86.7%/男性66.3%。育児は女性26.3%/男性20.0%。介護・看護は女性10.0%/男性4.6%。**
 - ・家事にかかる時間は平日・休日ともに男性は女性の半分以下だが、育児・介護にかかる時間は、休日では男女の時間数は近い。

〔育児・介護休業〕(P37~P44)

- ▶ **育児休業の取得率は女性35.7%、男性2.5%。特に、女性の正社員・役員、正職員(83.3%)で取得率が高い。**
 - ・育児休業をとらなかった理由は、女性では「出産・育児を機に退職したから」が47.5%と最も回答率が高く、ついで「そのような休業の制度がなかったから」の32.5%。男性では「そのような休業の制度がなかったから」と「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」がともに43.6%。「出産・育児を機に退職したから」は、女性のパートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託などで高くなっている。
- ▶ **介護休業の取得率は、全体で4.7%、女性6.2%、男性2.6%と低い。**
 - ・介護休業をとらなかった理由は、全体では「そのような休業の制度がなかったから」の32.6%が最も高くなっている。「介護・看護を機に退職したから」という理由については、女性10.2%、男性1.5%と差が大きい。

〔地域活動〕(P45~P51)

▶地域活動への参加率は、女性 38.5%、男性 23.3%と女性が高い。

- ・活動領域としては「趣味、スポーツ、習い事、文化活動など」が、女性 24.1%、男性 12.9%で最も高くなっている。女性で次に高いのは「子育て関係の活動」の 14.1%、男性では「自治活動」の 5.0%となっている。

▶女性では「参加者の性別の偏り」についての回答が 30.8%。男性では、男女の役割の差についての回答が、女性と比較して多くなっている。

- ・男性では、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(14.3%)、「男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」(14.3%)、「女性が責任のある役職に就きたがらない」(10.7%)となっている。

▶男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくために必要なこととしては、女性では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が 55.9%、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 43.3%で最も高くなっている。

- ・国の調査（「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」）と比較すると、全体の傾向は同じだが、武蔵野市の方が「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」と「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の2つについて順位が低くなっている。

〔ワーク・ライフ・バランス〕(P52~P60)

▶男女ともに働きやすくなるために必要なこととしては、男女ともに在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方を求める声が多い。女性では、育児や介護に対する職場の理解と協力への回答が続く。

- ・男女別にみると、「育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること」(女性 52.6%)、「保育サービスなどの子育て支援を充実すること」(女性 46.7%) など多くの項目で男性に比べて女性の回答率が高く、「在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること」(男性 57.1%)、「長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること」(男性 51.7%) の2項目についてのみ男性の方が回答率が高い。

▶ワーク・ライフ・バランスについての希望では、仕事・家庭生活・個人の生活すべてを優先の回答率が高いが、現実には仕事優先が高い。男女別でみると、女性の希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべて優先が高く、現実では女性は仕事と家庭生活優先、男性では仕事優先が高い。

- ・ワーク・ライフ・バランスについての男女の差をみると、希望では、女性の方が「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」の割合が高く（女性 36.7%、男性 28.3%）、一方、「『仕事』を優先」が低い（女性 1.1%、男性 5.4%）。現実では、「『家庭生活』を優先」（女性 19.5%、男性 6.2%）、「『仕事』と『家庭生活』を優先」（女性 27.9%、男性 21.9%）、「『仕事』を優先」（女性 26.0%、男性 47.8%）となっている。
- ・男性の 20 代では、ワーク・ライフ・バランスの希望で「『個人の生活』を優先」の回答率が高い。また、子どものいる男性は「『仕事』と『家庭生活』を優先」が高い。一方、女性で中高生以下の子どもがいる層では、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が高くなっている。

- 国の調査および東京都の「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」とワーク・ライフ・バランスについての希望への回答を比べてみると、希望においては、男女ともに、『『個人の生活』を優先』、『『家庭生活』と『個人の生活』を優先』、『『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて』について、国より都、都より市の方が回答率が高くなっている。
- 一方、現実では、男女ともに、市よりも都、都よりも国の方が『『家庭生活』を優先』という項目への回答率が高くなっている。逆に、『『仕事』を優先』については、国より都、都より市の方が回答率が高くなっている。

〔セクシュアル・マイノリティ〕(P61~P63)

▶性の違和感について悩んだ人は 2.0%、周囲に悩んでいる人がいた比率 13.1%。

- 女性の方が「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」の回答率が高くなっている（女性 14.1%、男性 10.4%）。

▶セクシュアル・マイノリティの方の人権を守る方策としては、法律や制度の整備が必要という意見が最も多く、ついで学校教育、相談・支援体制の充実と続く。

- 全体では「セクシュアル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する」が 49.8%と最も高く、ついで「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」47.2%、「相談・支援体制を充実させる」34.8%。これらの項目は女性の方が回答率が高い。

〔男女平等意識〕(P64~P96)

▶用語として認知率が高いのは「男女雇用機会均等法」(87.5%)、「ストーカー規制法」(81.8%)。

- 女性の方が認知率が高いのは「セクシュアル・マイノリティ」(66.3%)、「ジェンダー」(63.7%)、「デート DV」(43.3%) などである。男性は「ワーク・ライフ・バランス」(65.8%) や「JK ビジネス」(60.8%)、「LGBT」(59.2%) など女性より認知率が高くなっている。
- 若年層ほど全般的に用語の認知率が高い傾向が見られる。一方、男女では、用語ごとのばらつきはあるものの、全体としての認知率の差は見だしにくい。
- 国の調査と比較すると、大きな差はないが、「男女雇用機会均等法」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」、「女性差別撤廃条約」については市の調査の方が認知率が高く、一方、「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション」については国の調査の方が認知率が高くなっている。

▶「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、賛成側の回答 39.0%に対し、反対側の回答は 45.0%となっている。男女別にみると、女性では反対側の比率が高い一方で、男性では賛成側が若干高くなっている。

- 同様の質問項目がある国の調査と比べてみると、市では、全体および女性で反対側の比率が高い。一方で、国では、全体と女性だけでなく、男性においても、若干ではあるが、反対側が高い。

▶男女が平等になっていると半数以上の人を感じているのは学校教育のみ。社会全体では70.1%の人が男性優遇と答えている。男女別では女性の方が男性優遇の回答率が高い。

- 全体で「男女の地位は平等になっている」の項目を比較してみると、最も高いのは「学校教育の場で」の54.3%で、ついで「法律や制度の上で」29.4%、「家庭生活の場で」28.7%、「地域社会で」27.3%、「職場で」19.3%。一方、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計でみると、「社会通念・習慣・しきたりなどで」(76.6%)、「政治の場で」(73.0%)、「社会全体では」(70.1%)の3項目では、男性優遇という回答が70%を超えている。
- 男女別に傾向をみると、全ての領域で、女性の方が（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた数値で）男性優遇と回答しており、また「男女の地位は平等になっている」の回答率が低い。
- 同様の質問項目がある国と東京都の調査と回答を比べてみると、武蔵野市より都、都より国の方が、「男女の地位は平等になっている」の回答率が高い傾向がみられる。

▶「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて77.9%、「希望する者には夫婦別姓を認めても良い」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて66.6%。また、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」は「どちらかといえばそう思う」を含めて49.8%と半数を下回る。

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計で比較すると、「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」(77.9%)、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」(66.6%)、「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」(50.4%)となっている。

▶児童・生徒に男女平等の意識を育てるために必要なこととして、最も回答率が高いのは「個性や人権の尊重」の72.8%、ついで「男女の協力」64.8%、「男女の別のない生活・進路指導」54.1%が続く。

- 「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が72.8%で最も高く、ついで「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと」(64.8%)、「生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること」(54.1%)と続いている。

▶メディア表現についての意見では「女性の容姿や若さの強調」が53.6%と回答率が高い。

- 全体では、「女性について、容姿や若さを強調している」が53.6%で最も高く、ついで「伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的な側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ」(30.3%)と続いている。
- 女性で、「女性について、容姿や若さを強調している」という回答が60.0%と高い。男性では、「特に問題はない」の回答が28.8%となっている。

▶災害対策における女性の視点で最も重視されているのは避難所におけるプライバシー確保の76.0%。特に女性は82.2%と高い。

- ・「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」が76.0%で最も回答率が高く、ついで「消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」(43.1%)、「災害対応や復興において女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する」(41.6%)と続いている。
- ・女性で、「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」(82.2%)、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」(46.3%)の回答率が高い。

〔男女間の暴力〕(P97~P127)

▶暴力という認識が60%を超えているのは、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」、「平手で打つ」、「『誰のおかげで生活ができているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」、「なぐるふりをしておどす」。一方、「大声でどなる」は、場合によるという認識。

- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が高い項目を全体でみると、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」が73.0%で最も高く、ついで「平手で打つ」(65.0%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(62.0%)、「なぐるふりをしておどす」(60.5%)などと続いている。一方、「大声でどなる」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(29.2%)より、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(56.4%)が、全項目の中で唯一高くなっている。
- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみていくと、「平手で打つ」(女性64.4%、男性67.1%)、「配偶者等の外出などを制限する」(女性43.7%、男性45.0%)のみ男性の方が回答率が高く、それ以外は女性の方が上回っている。

▶暴力を受けた経験で最も回答率が高いのは「大声でどなる」の39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」が15.7%となっている。

- ・暴力を受けた経験(「何度もある」「1、2度ある」の合計)でみてみると、最も多いのは「大声でどなる」が39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」(15.7%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(12.4%)と続く。
- ・男女別では、「配偶者等の外出などを制限する」(女性9.2%、男性8.0%)、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」(女性12.2%、男性3.8%)、「なぐるふりをしておどす」(女性8.2%、男性7.9%)、「生活費を十分に渡さない」(女性6.7%、男性4.2%)の4項目では女性の方が経験率が高く、「平手で打つ」(女性8.1%、男性11.7%)、「大声でどなる」(女性38.5%、男性41.6%)、「交友関係や電話・メールを細かく監視する」(女性5.2%、男性8.8%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(女性13.3%、男性18.7%)、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」(女性11.8%、男性13.7%)の5項目については男性の方が経験率が高い。

▶暴力を受けた経験がある人のうち、59.8%が「相談しようと思わなかった」、7.1%が「相談したかったが、できなかった」となっており、70%弱が相談していない。

- ・最も回答率が高かったのは「相談しようと思わなかった」の59.8%で、ついでかなり離れて「友人・知人・同僚に相談した」の13.8%、「家族・親族に相談した」の9.8%、「相談したかったが、できなかった」の7.1%と続く。「市の相談窓口や子ども家庭支援センターに相談した」は1.6%となっている。

▶相談しようと思わなかった理由の76.0%が「相談するほどのことではないと思った」。

- 全体で最も回答率が高いのは「相談するほどのことではないと思った」の76.0%で、ついでかなり離れて「自分にも悪いところがあると思った」の18.0%、「相談しても無駄だと思った」の15.6%、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」の9.0%と続く。
- 女性で「自分にも悪いところがあると思った」(20.5%)、男性で「相談しても無駄だと思った」(18.1%)、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」(10.8%)となっている。

▶相談窓口での認知率は、警察が55.6%と最も高く、市の法律相談の39.3%、子ども家庭支援センターの27.9%が続く。

- 全体で最も高かったのは「警察」の55.6%で、ついで「市の法律相談」の39.3%、「子ども家庭支援センター」の27.9%、「市の人権相談」の16.7%と続いている。
- 女性では「子ども家庭支援センター」が33.7%、「市のひとり親相談」が21.1%となっている。

▶男女間の暴力を防止するために必要な施策として最も回答率が高かったのは「窓口を増やすなどの条件整備」の49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発」の44.2%。

- 最も高かったのは「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」の49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の44.2%、「被害者に対する自立支援などを行う」の43.6%、「被害者を一時的に保護する施設を増やす」の42.5%と続く。
- 女性では「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」(49.3%)、「被害者に対する自立支援などを行う」(48.9%)、「住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」(44.1%)となっている。
- 平成29年調査で、平成20年および平成24年の過去調査双方よりも回答が増えているのは(平成29年調査で新たに追加された選択肢を除くと)、「加害者に対する再発防止教育を行う」、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の2つとなっている。

〔市の施策〕(P128~P154)

▶市の施策で認知率が最も高かったのは「男女平等推進情報誌『まなこ』」の26.0%。次に認知率が高いのは、「聞いたことがある」まで含めれば「武蔵野市男女共同参画フォーラム」の24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の23.7%が続く。

- 「内容まで一応知っている」「聞いたことがある」の合計では「男女平等推進情報誌『まなこ』」が26.0%と認知率が最も高く、ついで「武蔵野市男女共同参画フォーラム」24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」23.7%と続いている。男女別では女性の方が全体的に認知率が高い。

▶『まなこ』の記事テーマとして最も関心が高かったのは「ワーク・ライフ・バランス」の36.9%。ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」、「男性の家事・育児・地域活動参加」が続く。

- 全体でもっとも高かったのは「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」の36.9%で、ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」の28.1%、「男性の家事・育児・地域活動参加」の23.8%と続いている。
- 女性では「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」(39.6%)が高く、男性との比較では「女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援」(29.6%)、「女性の視点からみた防災」(23.0%)などが15ポイント程度上回っている。男性では、「男性の家事・育児・地域活動参加」(28.3%)、「男女平等、人権、ジェンダー」(24.2%)などが、女性との比較で7ポイント程度上回っている。

▶「条例ができたことはよいことだ」については、「どちらかといえばそう思う」まで含めると83.0%と回答率が高く、「関連のパンフレットを読みたい」も50%を超える。一方、「関連のセミナー等への参加意向」は18.3%となっている。

- 「武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ」については、「そう思う」54.5%、「どちらかといえばそう思う」28.5%の合計83.0%が「思う」と回答している。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い。
- 「(条例)関連のパンフレット等があったら読んでみたい」では、「そう思う」20.0%、「どちらかといえばそう思う」37.5%の合計57.5%が「思う」と回答している。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い。
- 「(条例)関連のセミナーやワークショップがあったら参加してみたい」の合計は18.3%となっている。

▶男女平等推進に関する団体への参加意向は12.0%、ボランティア実施意向は10.7%。

- 「男女平等に関して支援活動をしたり、相互の助け合いをしたり、学習活動をしたりする団体が地域にあったら入ってみたい」については「そう思う」2.6%、「どちらかといえばそう思う」9.4%となっており、「思う」の合計は12.0%となっている。
- 「武蔵野市が男女平等推進の施策検討や事業を行う際に、市民委員や事業実施の際のボランティア委員などとして協力してみたい」では、「そう思う」1.7%、「どちらかといえばそう思う」9.0%となっており、「思う」の合計は10.7%となっている。

▶男女平等社会を実現するために市に望む施策では「保育・介護制度の充実」が54.7%で最も回答率が高く、ついで「学校教育」(38.2%)、「女性のキャリアアップ、起業、就業支援」(31.5%)が続く。

- 全体では「保育・介護制度の充実」が54.7%で最も高く、ついで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」38.2%、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」31.5%と続いている。
- 女性では「保育・介護制度の充実」(57.4%)、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」(40.0%)となっている。男性では、「男女平等に関する相談窓口の充実」(30.8%)、「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」(27.9%)、「男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実」(24.2%)などが、女性との比較で高くなっている。

Ⅱ 調查結果

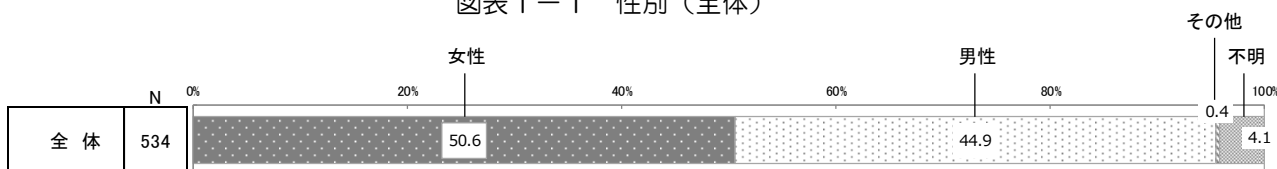
Ⅱ. 調査結果

1. 回答者のプロフィール

1-1 性別 (F1)

「女性」が50.6%、「男性」が44.9%、「その他」が0.4%となっている。

図表1-1 性別 (全体)

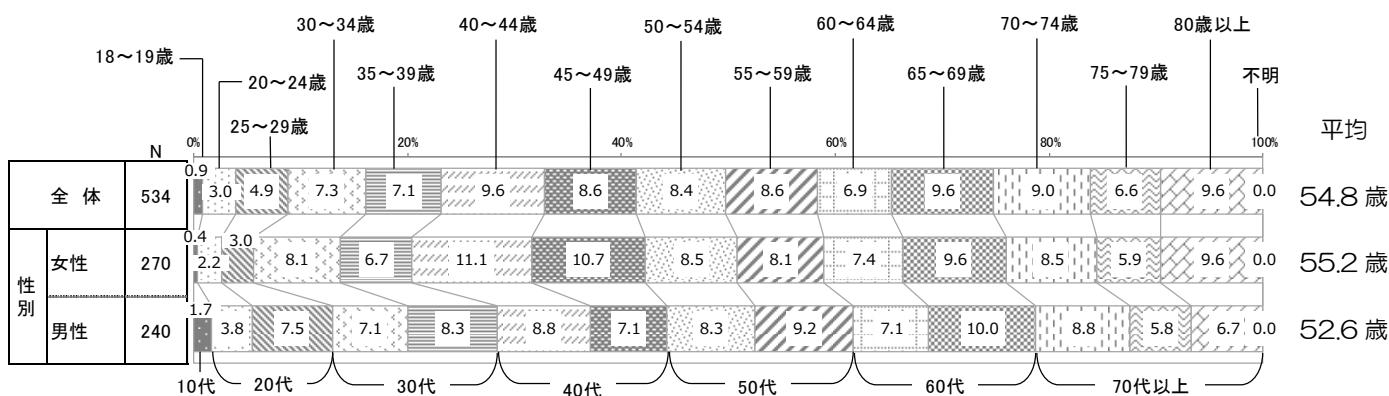


1-2 年齢 (F2)

全体では、40代が最も比率が高く、「40～44歳」9.6%、「45～49歳」8.6%の合計18.2%となっている。一方で、20代までの若年層の比率は低く、「18～19歳」0.9%、「20～24歳」3.0%、「25～29歳」4.9%となっている。全体の平均年齢は54.8歳である。

男女別で見ると、女性は40代が最も高く、「40～44歳」11.1%、「45～49歳」10.7%の合計21.8%となっている。男性は50代が最も高く、「50～54歳」8.3%、「55歳～59歳」9.2%の合計17.5%となっている。平均年齢は女性が55.2歳、男性が52.6歳である。

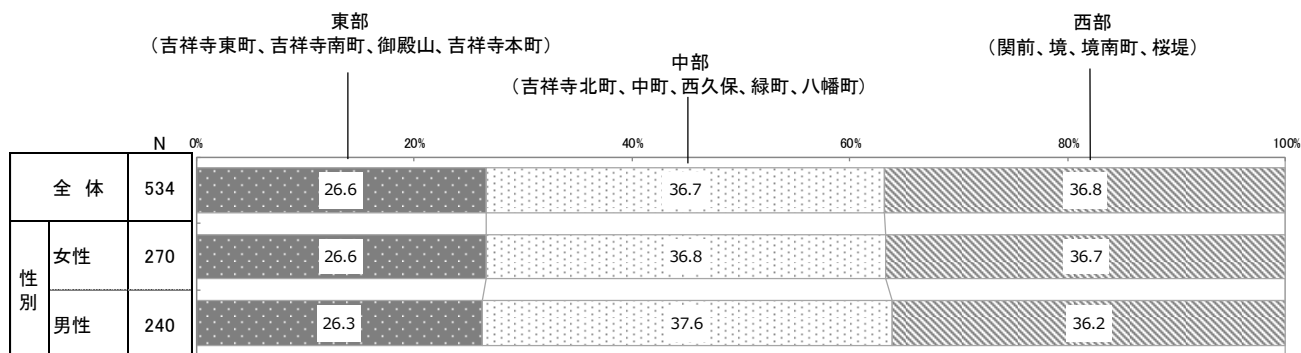
図表1-2 年齢 (全体、性別)



1-3 居住地域 (F3)

居住地域では、市「東部」が26.6%、市「中部」が36.7%、市「西部」が36.8%となっている。女性と男性での差は殆どみられない。

図表1-3 居住地域(全体、性別)

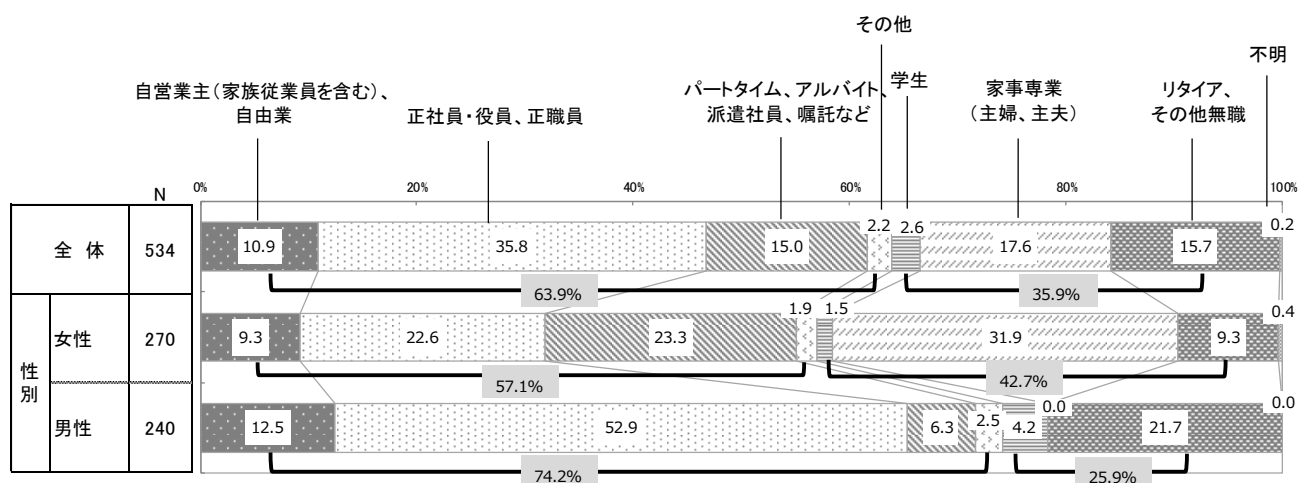


1-4 職業 (F4)

全体では「正社員・役員、正職員」が35.8%と最も比率が高く、ついで「家事専業(主婦、主夫)」の17.6%、「リタイア、その他無職」15.7%、「パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など」15.0%と続いている。

女性では「家事専業(主婦、主夫)」が31.9%と最も高く、ついで「パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など」の23.3%が続いている。一方、男性では、「正社員・役員、正職員」が52.9%と最も高く、「リタイア、その他無職」の21.7%が続いている。

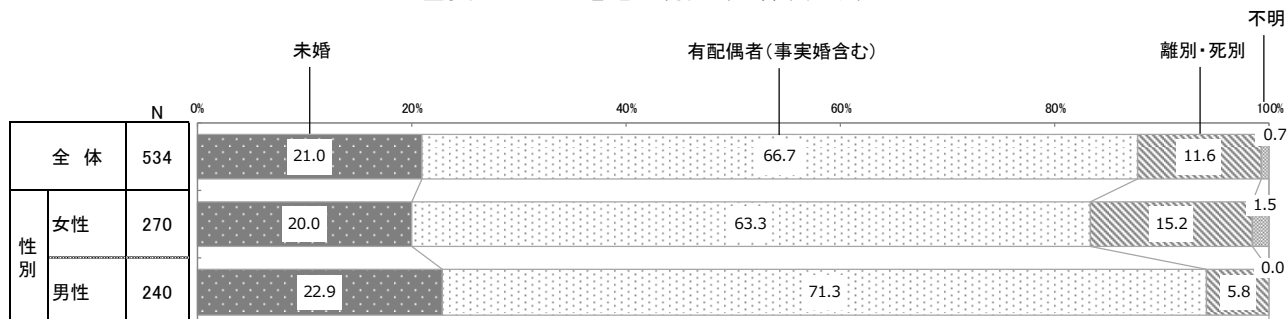
図表1-4 職業(全体、性別)



1-5 未既婚 (F5)

全体では 21.0%が「未婚」、66.7%が「有配偶者 (事実婚含む)」、11.6%が「離別・死別」となっている。女性、男性ともに「有配偶者 (事実婚含む)」の割合が高い。

図表1-5 婚姻の有無(全体、性別)

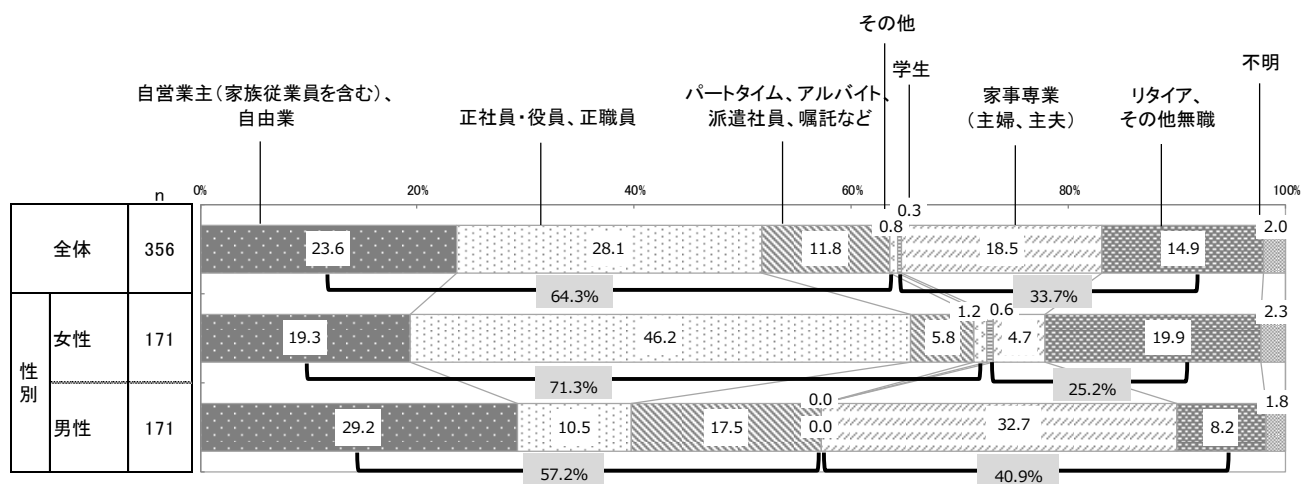


1-5-1 配偶者の職業 (F5-1)

配偶者の職業で最も比率が高いのは、「正社員・役員、正職員」の 28.1%で、ついで「自営業主 (家族従業員を含む)、自由業」23.6%、「家事専業 (主婦、主夫)」18.5%と続く。

女性では配偶者が「正社員・役員、正職員」が 46.2%と高く、「家事専業 (主婦、主夫)」の比率は 4.7%と低い。一方、男性では配偶者が「家事専業 (主婦、主夫)」の割合が 32.7%と最も高く、「正社員・役員、正職員」は 10.5%となっている。

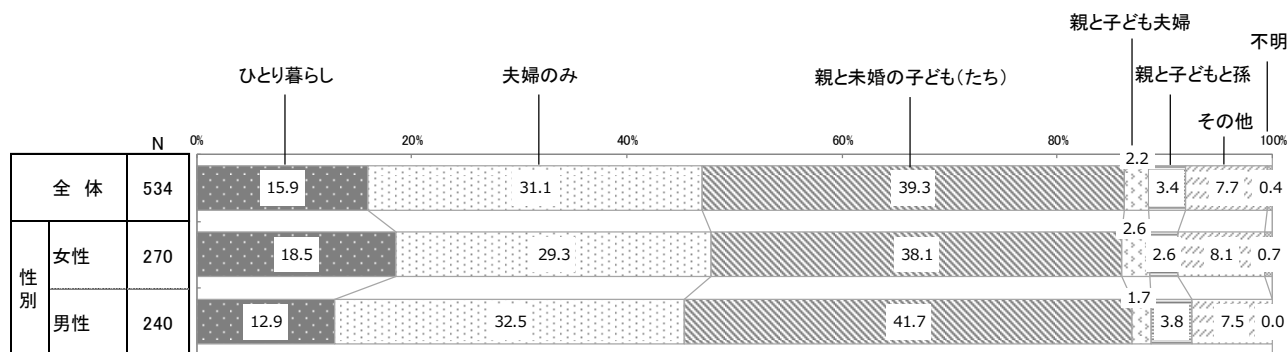
図表1-5-1 配偶者の職業(全体、性別)



1-6 世帯構成 (F6)

全体では「親と未婚の子ども(たち)」が 39.3%と最も比率が高く、ついで「夫婦のみ」31.1%、「ひとり暮らし」15.9%と続いている。

図表1-6 世帯構成 (全体、性別)



2. 日頃の生活について

問1

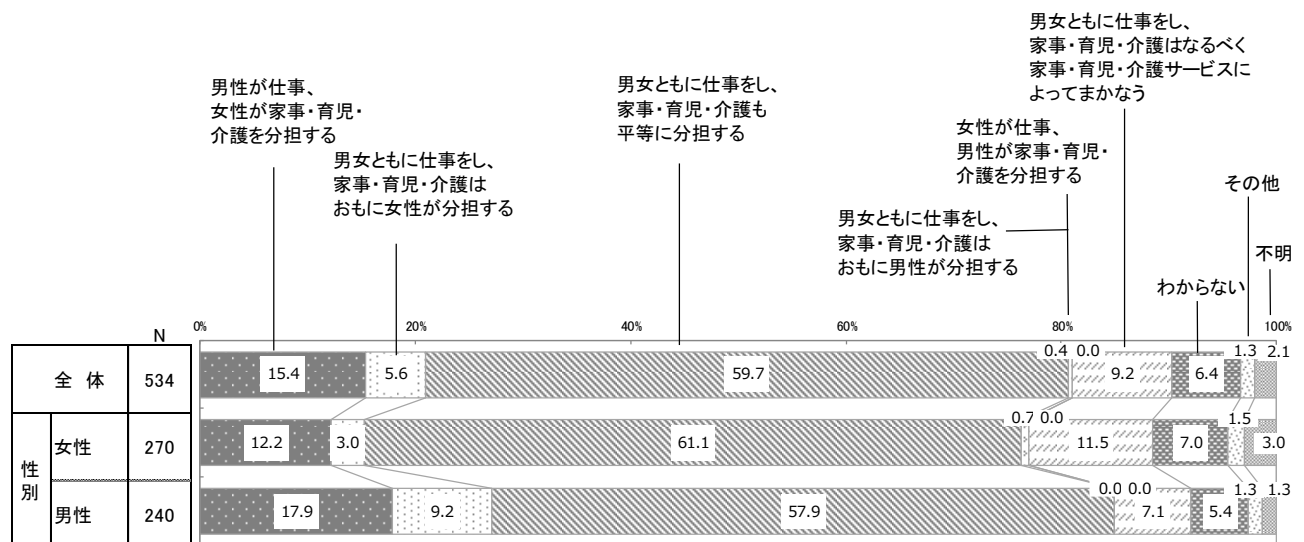
あなたの理想として、男女の仕事と家事・育児・介護の役割は、この中のどれがもっとも望ましいと思いますか。(○は1つ)

「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が女性で61.1%、男性で57.9%。女性の若年層、正社員層で特に回答率が高い。

全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が59.7%で最も回答率が高く、ついでかなり離れて「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」の15.4%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・介護サービスによってまかなう」の9.2%と続いている。

男女別でみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」は、女性は男性より回答率が低くなっている(12.2%)。また、男性では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」が9.2%と、女性より高くなっている。(図表一問1—①)。

図表一問1—① 理想の役割分担(性別役割分担)(全体、性別)



性・年代別でみると、女性では若年層が「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」への回答率が高くなっている。一方、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」という回答については、女性では70代以上、男性では60代以上で回答率が高い。性・職業別では、女性の正社員・役員、正職員で「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が82.0%と高くなっている（図表一問1—②）。

図表一問1—② 理想の役割分担（性別役割分担）
（全体、性別、性・年代別、性・職業別）

		N =	児 男 性 が 介 護 を 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 は お も に 女 性 が 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 も 平 等 に 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 は お も に 男 性 が 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 を 分 担 す る	な い	児 男 女 と も に 介 護 サ ー ビ ス に よ っ て ま か ら な い	わ か ら な い	そ の 他	不 明	
全体		534	15.4	5.6	59.7	0.4	0.0	9.2	6.4	1.3	2.1		
性別	女性	270	12.2	3.0	61.1	0.7	0.0	11.5	7.0	1.5	3.0		
	男性	240	17.9	9.2	57.9	0.0	0.0	7.1	5.4	1.3	1.3		
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	7.1	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
		30代	40	10.0	0.0	77.5	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0	2.5	
		40代	59	13.6	5.1	61.0	0.0	0.0	10.2	8.5	1.7	0.0	
		50代	45	6.7	4.4	62.2	0.0	0.0	13.3	8.9	4.4	0.0	
		60代	46	6.5	2.2	65.2	0.0	0.0	13.0	8.7	2.2	2.2	
		70代以上	65	21.5	3.1	41.5	3.1	0.0	16.9	6.2	0.0	7.7	
	男性	10代	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	7.4	22.2	59.3	0.0	0.0	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0
		30代	37	10.8	5.4	64.9	0.0	0.0	10.8	8.1	0.0	0.0	
		40代	38	18.4	7.9	60.5	0.0	0.0	5.3	5.3	2.6	0.0	
		50代	42	11.9	14.3	64.3	0.0	0.0	2.4	4.8	2.4	0.0	
		60代	41	22.0	7.3	58.5	0.0	0.0	9.8	2.4	0.0	0.0	
		70代以上	51	25.5	3.9	47.1	0.0	0.0	9.8	7.8	0.0	5.9	
性・職業別	女性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	25	16.0	4.0	48.0	4.0	0.0	12.0	12.0	4.0	0.0	
		正社員・役員、正職員	61	6.6	0.0	82.0	0.0	0.0	4.9	1.6	0.0	4.9	
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	63	6.3	7.9	65.1	0.0	0.0	11.1	9.5	0.0	0.0	
		その他（具体的に）	5	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	
		学生	4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		家事専業（主婦、主夫）	86	18.6	1.2	51.2	1.2	0.0	15.1	8.1	2.3	2.3	
		リタイア、その他無職	25	20.0	4.0	48.0	0.0	0.0	12.0	4.0	4.0	8.0	
	男性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	30	20.0	13.3	53.3	0.0	0.0	6.7	3.3	3.3	0.0	
		正社員・役員、正職員	127	15.7	9.4	63.8	0.0	0.0	5.5	4.7	0.8	0.0	
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15	13.3	0.0	60.0	0.0	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0	
		その他（具体的に）	6	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	
		学生	10	30.0	30.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		家事専業（主婦、主夫）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		リタイア、その他無職	52	19.2	3.8	53.8	0.0	0.0	11.5	5.8	0.0	5.8	

性・未既婚別では男性の未婚者で「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」が16.4%と回答率が高い。性・子どもの有無別でみると、女性で未就学児がいる回答者で「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が75.9%と高く、中高生がいる回答者では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」が15.8%と高くなっている。一方、男性では、中高生がいる回答者で「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」が31.6%と高くなっている(図表一問1-③)。

図表一問1-③理想の役割分担(性別役割分担)
(性・未既婚別、性・世帯構成別、性・子どもの有無別)

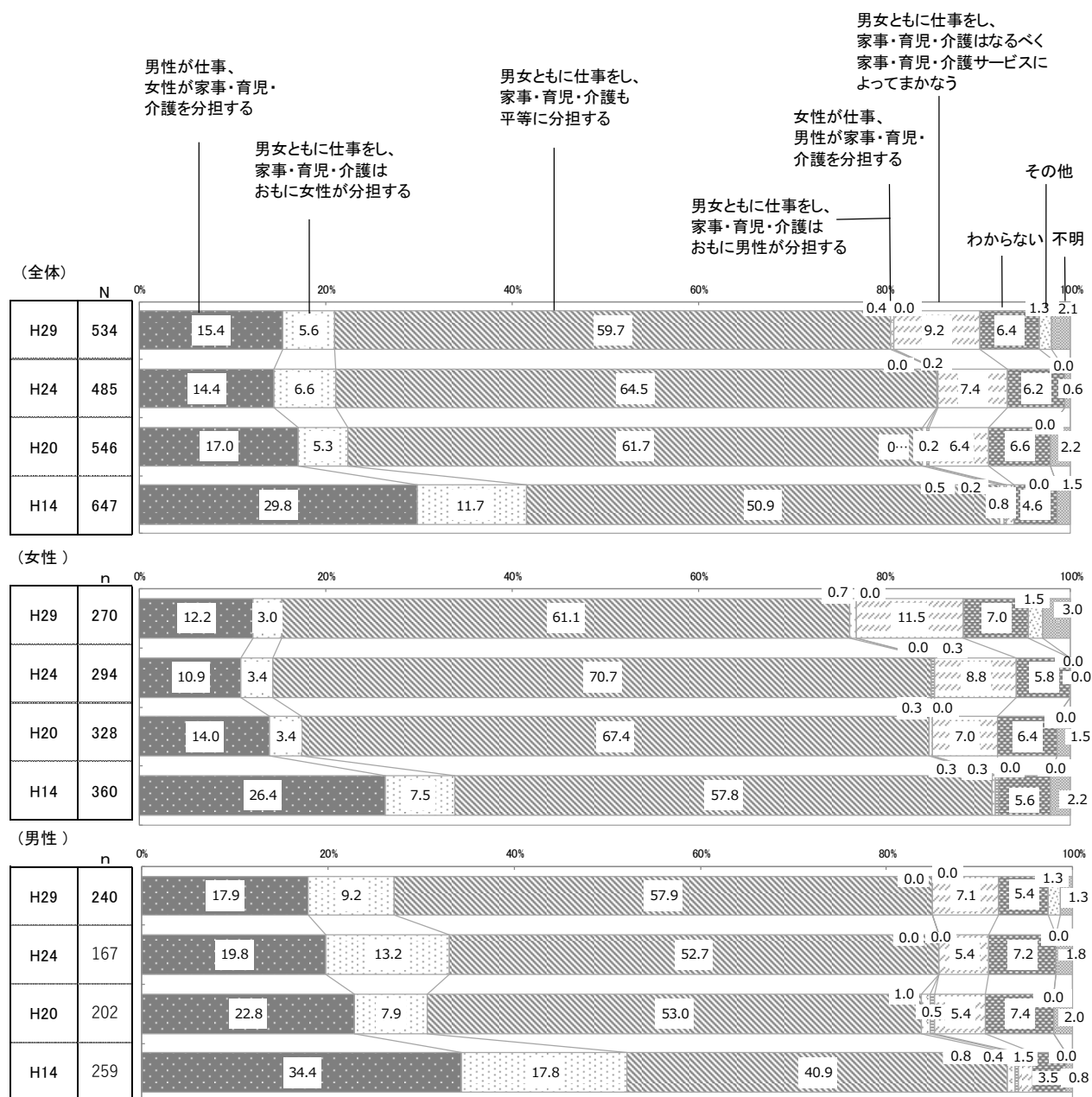
			n=	児 男 性 が 介 護 を 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 は お も に 女 性 が 分 担 す る	児 男 女 と も に 平 等 に 分 担 す る	児 男 女 と も に 介 護 は お も に 男 性 が 分 担 す る	児 男 女 が 介 護 を 分 担 す る	児 男 女 が 介 護 を 分 担 す る	児 男 女 が 介 護 を 分 担 す る	わ か ら な い	そ の 他	不 明
性・未既婚別	女性	未婚	54	9.3	3.7	68.5	0.0	0.0	3.7	7.4	1.9	5.6	
		有配偶者(事実婚含む)	171	12.9	2.3	61.4	1.2	0.0	14.0	6.4	1.2	0.6	
		離別・死別	41	14.6	4.9	51.2	0.0	0.0	9.8	9.8	2.4	7.3	
	男性	未婚	55	16.4	16.4	54.5	0.0	0.0	7.3	5.5	0.0	0.0	
		有配偶者(事実婚含む)	171	18.7	7.6	59.6	0.0	0.0	7.0	5.3	0.6	1.2	
		離別・死別	14	14.3	0.0	50.0	0.0	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1	
性・世帯構成別	女性	ひとり暮らし	50	14.0	4.0	60.0	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0	10.0	
		夫婦のみ	79	13.9	1.3	57.0	1.3	0.0	17.7	6.3	1.3	1.3	
		親と未婚の子ども(たち)	103	10.7	3.9	65.0	0.0	0.0	9.7	7.8	2.9	0.0	
		親と子ども夫婦	7	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	
		親と子どもと孫	7	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	
		その他	22	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	
	男性	ひとり暮らし	31	16.1	12.9	61.3	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0	3.2	
		夫婦のみ	78	15.4	3.8	69.2	0.0	0.0	7.7	2.6	0.0	1.3	
		親と未婚の子ども(たち)	100	20.0	12.0	51.0	0.0	0.0	6.0	8.0	2.0	1.0	
		親と子ども夫婦	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		親と子どもと孫	9	22.2	22.2	33.3	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	
		その他	18	11.1	0.0	61.1	0.0	0.0	16.7	5.6	5.6	0.0	
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	10.3	0.0	75.9	0.0	0.0	10.3	3.4	0.0	0.0	
		小学生	16	12.5	0.0	62.5	0.0	0.0	12.5	6.3	6.3	0.0	
		中高生	19	5.3	15.8	52.6	0.0	0.0	10.5	15.8	0.0	0.0	
		大学以上・成人	10	10.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	
		子どもはいない	71	15.5	1.4	57.7	1.4	0.0	19.7	4.2	0.0	0.0	
	男性	未就学児	27	18.5	14.8	51.9	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7	0.0	
		小学生	15	6.7	0.0	66.7	0.0	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0	
		中高生	19	31.6	5.3	52.6	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	
		大学以上・成人	8	37.5	0.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		子どもはいない	60	21.7	6.7	56.7	0.0	0.0	11.7	3.3	0.0	0.0	

＜経年比較＞

平成14年調査からの変化をみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」（平成14年29.8%、平成24年14.4%）については、平成14年調査よりは低下しているものの、平成24年調査よりは回答率が高くなっている。一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」（平成14年50.9%、平成24年64.5%）については、平成14年調査よりは上昇しているが、平成24年調査よりは低下している。

男女別にみると、女性については全体と同じ傾向となっているが、男性については、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」が、平成14年からだけでなく、平成24年調査からも低下している一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」については平成14年調査からも、平成24年調査からも上昇している（図表一問1-④）。

図表一問1-④ 理想の役割分担（性別役割分担）（全体、性別）【経年比較】



※調査対象者の年齢は、平成29年調査、平成24年調査は18歳以上、平成20年調査、平成14年調査は20歳以上である。

問2

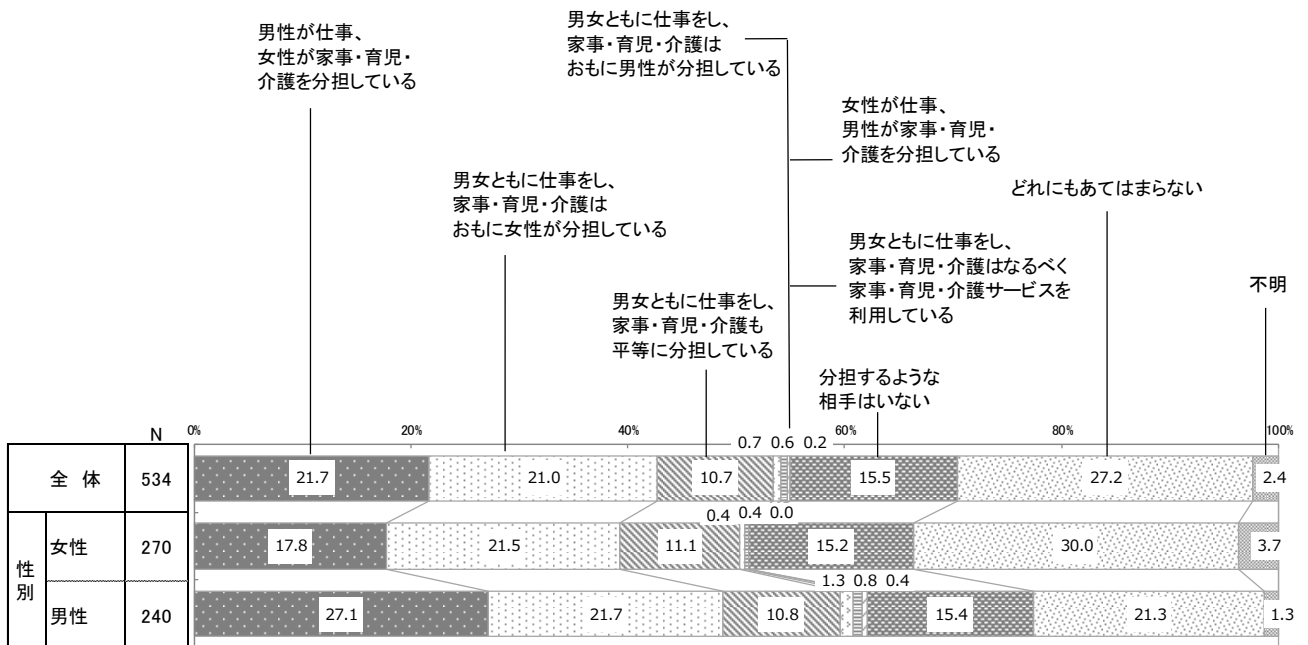
それでは、あなたのご家庭では、現在、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。(〇は1つ)

現実には「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」は男女ともに10%台。

全体では「どれにもあてはまらない」が27.2%で最も回答率が高く、ついで「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」の21.7%、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」の21.0%と続いている。望ましい役割分担で最も高かった「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」の回答比率は10.7%に止まる。

男女別でみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」は、女性は男性より回答率が低くなっている(17.8%) (図表一問2-①)。

図表一問2-① 現実の役割分担(性別役割分担)(全体、性別)



性・年代別でみると、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」で女性の30代(35.0%)、40代(44.1%)の回答率が高い。一方、男性では40代で「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」(39.5%)が高く、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」については、20代(40.7%)、50代(33.3%)で回答率が高い。また、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」については男性30代が27.0%と高くなっている。

性・職業別での女性の状況をみると、家事専業で「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」(41.9%)の回答率が高く、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」では自営業主・自業(36.0%)とパートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など(47.6%)で、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」では正社員・役員、正職員(29.5%)で高くなっている。一方、男性では、正社員・役員、正職員で「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」が35.4%と高くなっている(図表一問2-②)。

図表一問2-② 現実の役割分担(性別役割分担)

(全体、性別、性・年代別、性・職業別)

		N =	男 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	男 女 と も に 介 護 を 分 担 し て い る	男 女 と も に 平 等 に 介 護 を 分 担 し て い る	男 女 と も に 介 護 を 分 担 し て い る	男 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	女 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	男 女 と も に 介 護 を 分 担 し て い る	男 女 と も に 平 等 に 介 護 を 分 担 し て い る	ど れ に も あ て は ま ら な い	不 明	
全体		534	21.7	21.0	10.7	0.7	0.6	0.2	15.5	27.2	2.4		
性別	女性	270	17.8	21.5	11.1	0.4	0.4	0.0	15.2	30.0	3.7		
	男性	240	27.1	21.7	10.8	1.3	0.8	0.4	15.4	21.3	1.3		
	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0		
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	7.1	
		30代	40	25.0	35.0	15.0	0.0	0.0	0.0	12.5	10.0	2.5	
		40代	59	23.7	44.1	13.6	0.0	0.0	0.0	8.5	10.2	0.0	
		50代	45	22.2	26.7	17.8	0.0	2.2	0.0	17.8	11.1	2.2	
		60代	46	13.0	4.3	6.5	2.2	0.0	0.0	19.6	54.3	0.0	
		70代以上	65	4.6	3.1	4.6	0.0	0.0	0.0	18.5	58.5	10.8	
	男性	10代	4	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	22.2	40.7	3.7	3.7	0.0	0.0	22.2	7.4	0.0	
		30代	37	29.7	18.9	27.0	2.7	0.0	0.0	18.9	2.7	0.0	
		40代	38	39.5	23.7	18.4	0.0	0.0	0.0	7.9	10.5	0.0	
		50代	42	31.0	33.3	11.9	2.4	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	
		60代	41	17.1	14.6	7.3	0.0	2.4	2.4	22.0	34.1	0.0	
		70代以上	51	19.6	9.8	0.0	0.0	2.0	0.0	11.8	51.0	5.9	
性・職業別	女性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	25	8.0	36.0	8.0	0.0	4.0	0.0	24.0	16.0	4.0	
		正社員・役員、正職員	61	3.3	27.9	29.5	0.0	0.0	0.0	21.3	14.8	3.3	
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	63	4.8	47.6	11.1	1.6	0.0	0.0	12.7	20.6	1.6	
		その他(具体的に)	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0	
		学生	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		家事専業(主婦、主夫)	86	41.9	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	8.1	45.3	2.3	
		リタイア、その他無職	25	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	24.0	48.0	12.0	
	男性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	30	23.3	26.7	20.0	0.0	0.0	3.3	20.0	6.7	0.0	
		正社員・役員、正職員	127	35.4	26.0	15.7	1.6	0.0	0.0	14.2	7.1	0.0	
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15	13.3	26.7	0.0	6.7	0.0	0.0	20.0	33.3	0.0	
		その他(具体的に)	6	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	
		学生	10	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
		家事専業(主婦、主夫)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		リタイア、その他無職	52	7.7	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	17.3	61.5	5.8	

性・未既婚別では、男女とも、未婚、離別・死別で「分担するような相手はいない」の回答率が高い。また、性・子どもの有無別では、男女とも、未就学児、小学生の子どもがいる回答者で「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」が高い。また、女性で未就学児、小学生、中高生がいる回答者、男性で中高生がいる回答者では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している」が高い（図表一問2—③）。

図表一問2—③現実の役割分担（性別役割分担）

（性・未既婚別、性・子どもの有無別）

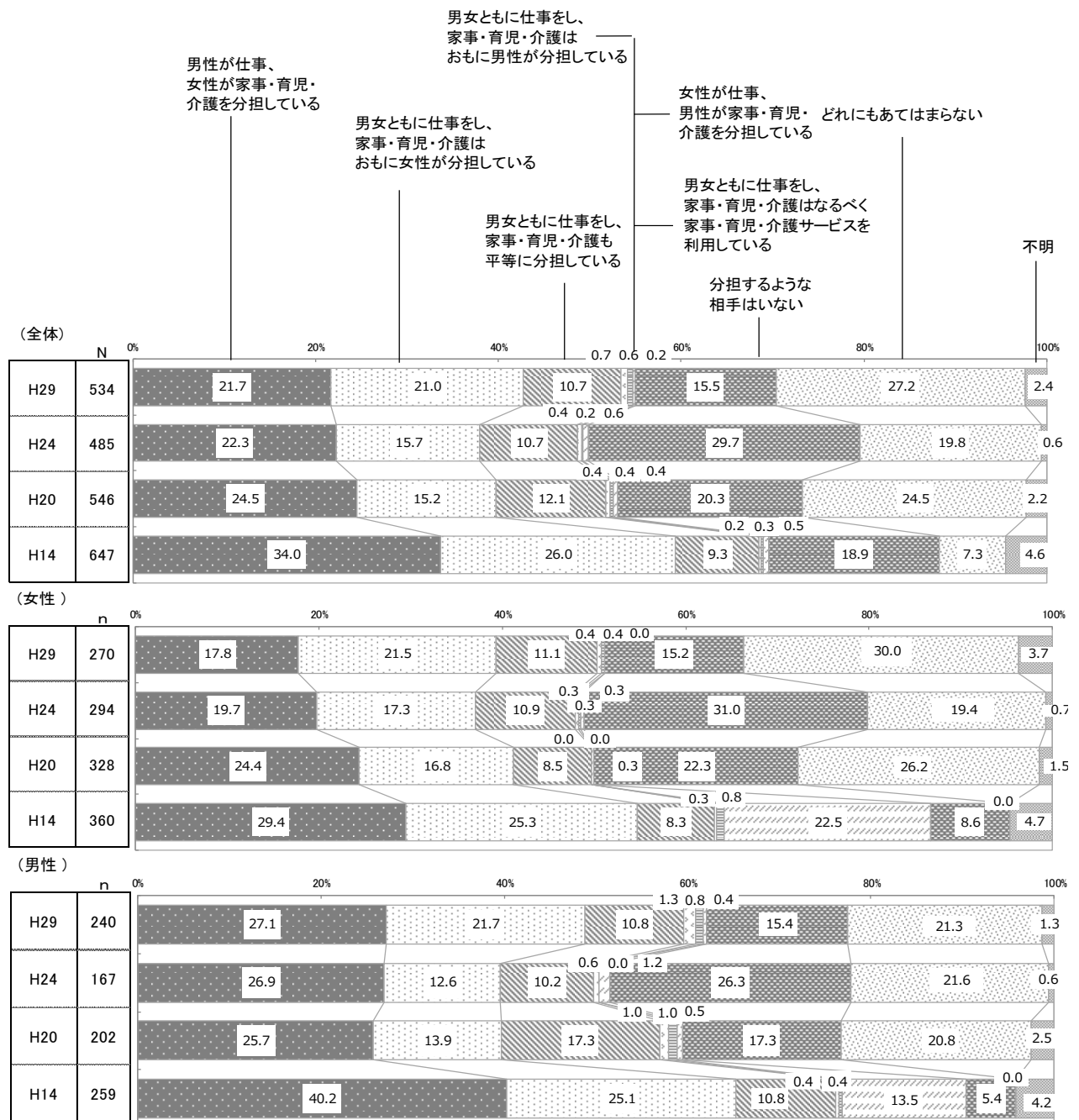
			男 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	男 性 と も に 介 護 を 分 担 し て い る	男 性 と も に 平 等 に 介 護 を 分 担 し て い る	女 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	女 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	女 性 が 介 護 を 分 担 し て い る	分 担 す る よ う な 相 手 は い な い	ど れ に も あ て は ま ら な い	不 明	
			n=									
性・未既婚別	女性	未婚	54	11.1	14.8	3.7	0.0	0.0	0.0	35.2	33.3	1.9
		有配偶者（事実婚含む）	171	24.0	28.1	15.8	0.6	0.6	0.0	2.3	26.9	1.8
		離別・死別	41	0.0	4.9	2.4	0.0	0.0	0.0	43.9	39.0	9.8
	男性	未婚	55	20.0	18.2	3.6	1.8	0.0	0.0	43.6	12.7	0.0
		有配偶者（事実婚含む）	171	30.4	23.4	14.0	1.2	1.2	0.6	4.1	24.0	1.2
		離別・死別	14	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	21.4	7.1
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	37.9	44.8	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		小学生	16	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中高生	19	21.1	57.9	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0
		大学以上・成人	10	20.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0
		子どもはいない	71	8.5	9.9	11.3	1.4	0.0	0.0	15.5	52.1	1.4
		未就学児	27	66.7	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	小学生	15	40.0	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0
		中高生	19	26.3	63.2	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0
		大学以上・成人	8	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
		子どもはいない	60	23.3	20.0	6.7	0.0	3.3	1.7	6.7	38.3	0.0

<経年比較>

平成14年調査からの変化をみると、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」については継続的に回答率が低下している一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」(平成14年26.0%、平成24年15.7%)については、平成14年調査よりは低下しているものの、平成24年調査よりは回答率が高くなっている。一方、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」(平成14年9.3%、平成20年12.1%、平成24年10.7%)については、平成14年調査よりは上昇しているが、ほぼ横ばいで推移している。

男女別にみると、女性については「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」については全体と同じ傾向、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」については、少しずつではあるが、上昇してきている。一方、男性では、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する」「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」は全体と同様の傾向だが、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している」は平成20年調査を底に微増傾向にある(図表一問2-④)。

図表一問2-④ 現実の役割分担(性別役割分担)(全体、性別)【経年比較】



※調査対象者の年齢は、平成29年調査、平成24年調査は18歳以上、平成20年調査、平成14年調査は20歳以上である。

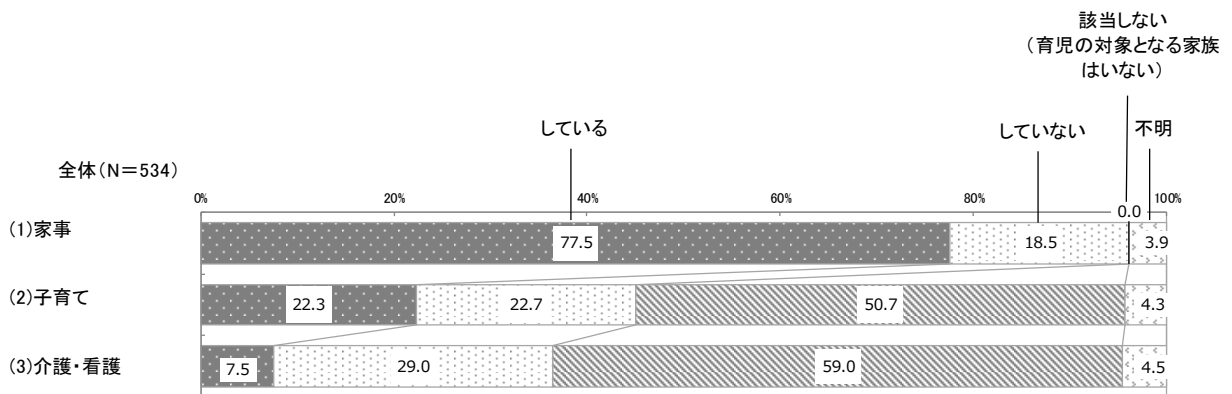
問 3

あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護・看護をしていますか。(それぞれについて○は1つ)
また、している場合は、どの程度時間をかけているかを合わせてお答えください。

家事の実施率は、女性 86.7%に対して男性 66.3%。育児は女性 26.3%に対して男性 20.0%。介護・看護は女性 10.0%に対して男性 4.6%。家事にかかる時間は平日・休日ともに男性は女性の半分以下だが、育児・介護にかかる時間は、休日では男女の時間数は近い。

全体では家事を「している」が77.5%、「していない」が18.5%である。子育てについては、「該当しない」と「不明」を除く45.0%のうち、「している」が22.3%、「していない」が22.7%、介護では、「該当しない」と「不明」を除く36.5%のうち、「している」が7.5%、「していない」が29.0%となっている(図表一問3-①)。

図表一問3-① 日常生活における家事、育児、介護などの従事(全体)

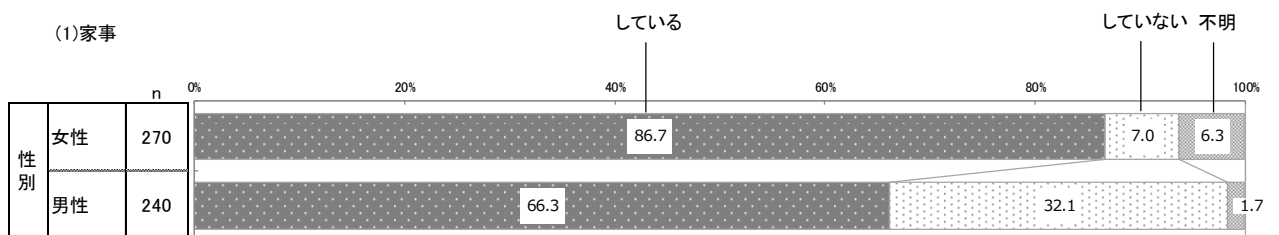


【家事】(食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れ、園芸など)

《実施率》

家事への従事を性別でみると、女性で「している」が86.7%に上る一方、男性では66.3%に止まる(図表一問3-②)。

図表一問3-② 日常生活における家事の従事(性別)



性・年代別では、女性の30～60代では「している」比率が高い。一方、男性では、20代以下と60代以上で「していない」が高くなっている。性・未既婚別では、女性の有配偶者で「している」が高く、男性の未婚で「していない」が高い。また、性・子どもの有無別では、子どもがいる女性で「している」が100.0%であるのに対し、男性では、未就学児や小学生がいる層を除き、「していない」が高い。また配偶者がいる層での有職・無職別にみると、女性では夫の仕事の有無に関わらず「している」が高い。一方、男性では母数が少ないため参考値となるが、「妻のみ有職」の場合のみ「している」が高くなっている（図表一問3-③）。

図表一問3-③ 日常生活における家事の従事

（全体、性別、性・年代別、性・未既婚別、性・子どもの有無別、有配偶者・性・有職無職別）

			して い る	して い ない	不 明	
		N =				
全体		534	77.5	18.5	3.9	
性別	女性	270	86.7	7.0	6.3	
	男性	240	66.3	32.1	1.7	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0
		20代	14	71.4	21.4	7.1
		30代	40	95.0	0.0	5.0
		40代	59	96.6	3.4	0.0
		50代	45	88.9	8.9	2.2
		60代	46	89.1	8.7	2.2
		70代以上	65	73.8	7.7	18.5
	男性	10代	4	0.0	100.0	0.0
		20代	27	51.9	44.4	3.7
		30代	37	73.0	27.0	0.0
		40代	38	81.6	18.4	0.0
		50代	42	76.2	23.8	0.0
		60代	41	70.7	29.3	0.0
		70代以上	51	51.0	43.1	5.9
性・未既婚別	女性	未婚	54	79.6	14.8	5.6
		有配偶者（事実婚含む）	171	93.6	2.3	4.1
		離別・死別	41	68.3	14.6	17.1
	男性	未婚	55	50.9	47.3	1.8
		有配偶者（事実婚含む）	171	71.3	27.5	1.2
		離別・死別	14	64.3	28.6	7.1
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	100.0	0.0	0.0
		小学生	16	100.0	0.0	0.0
		中高生	19	100.0	0.0	0.0
		大学以上・成人	10	100.0	0.0	0.0
		子どもはいない	71	85.9	8.5	5.6
	男性	未就学児	27	81.5	18.5	0.0
		小学生	15	86.7	13.3	0.0
		中高生	19	63.2	36.8	0.0
		大学以上・成人	8	62.5	37.5	0.0
		子どもはいない	60	65.0	35.0	0.0
性・有配偶者・有職無職別	女性	共働き	86	94.2	2.3	3.5
		夫のみ有職	38	100.0	0.0	0.0
		妻のみ有職	10	90.0	10.0	0.0
		夫婦ともに無職	33	87.9	3.0	9.1
	男性	共働き	90	78.9	21.1	0.0
		夫のみ有職	40	60.0	40.0	0.0
		妻のみ有職	8	87.5	12.5	0.0
		夫婦ともに無職	30	56.7	36.7	6.7

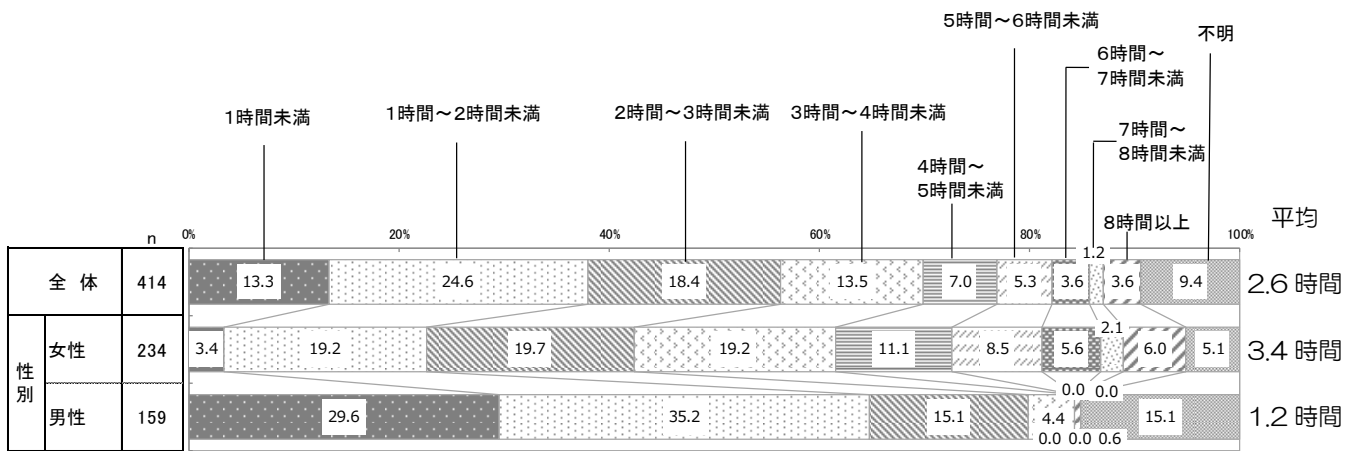
《家事にかかる時間》

家事をしている人の平日の家事時間の平均は、全体で2.6時間、女性は3.4時間、男性は1.2時間となっている。実施時間の分布では、「1時間～2時間未満」が、全体（24.6%）、男性（35.2%）で回答率が最も高いのに対し、女性では「2時間～3時間未満」が19.7%で最も高い（図表一問3—④）。

一方、休日の家事時間は、全体で3.0時間、女性は3.9時間、男性は1.8時間となっている。実施時間の分布では、全体では「2時間～3時間未満」が18.6%と最も高く、女性では「3時間～4時間未満」の18.8%が、男性では「1時間～2時間未満」の31.4%が高くなっている（図表一問3—⑤）。

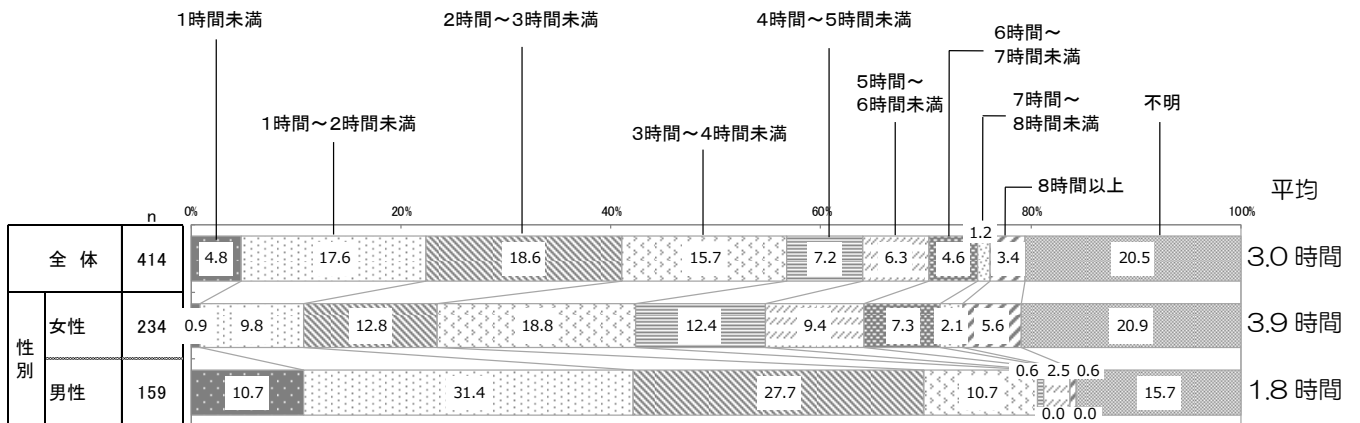
[平日]

図表一問3—④ 家事にかかる平均時間[平日]（全体、性別）



[休日]

図表一問3—⑤ 家事にかかる平均時間[休日]（全体、性別）



平日の家事時間の平均を性・年代別にみると、女性では50代以上、男性では60代以上で各性別の平均より家事時間が長くなっている。また職業別では、女性の家事専業（4.7時間）、男性の自営業、自業（1.6時間）、リタイア、その他無職（1.7時間）で、家事時間が、各性別の平均より長い。

休日の家事時間平均の性・年代別では、女性の50代以上で、女性平均より家事時間が長い。また性・職業別では、女性の家事専業（4.4時間）、リタイア、その他無職（4.3時間）で、女性平均より家事時間が長い（図表一問3-⑥）。

図表一問3-⑥ 家事にかかる平均時間[平日/休日]（全体、性別、性・年代別、性・職業別）

問3. 家事の平均時間 * 平日（平均）

			平
			均
n=			
全体			375 2.6
性別	女性	222	3.4
	男性	135	1.2
	その他	1	2.0
性・年代別	女性	10代	0 0.0
		20代	10 2.1
		30代	36 3.0
		40代	56 2.8
		50代	39 3.6
		60代	38 4.1
		70代以上	43 4.0
	男性	10代	0 0.0
		20代	13 1.2
		30代	24 1.0
		40代	27 0.7
		50代	25 1.2
		60代	23 1.4
		70代以上	23 1.7
性・職業別	女性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	18 3.2
		正社員・役員、正職員	56 2.0
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	55 3.3
		その他（具体的に）	2 2.5
		学生	1 1.0
		家事専業（主婦、主夫）	74 4.7
		リタイア、その他無職	16 3.1
	男性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	18 1.6
		正社員・役員、正職員	78 0.8
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	4 3.3
		その他（具体的に）	3 1.0
		学生	0 0.0
		家事専業（主婦、主夫）	0 0.0
		リタイア、その他無職	32 1.7

問3. 家事の平均時間 * 休日（平均）

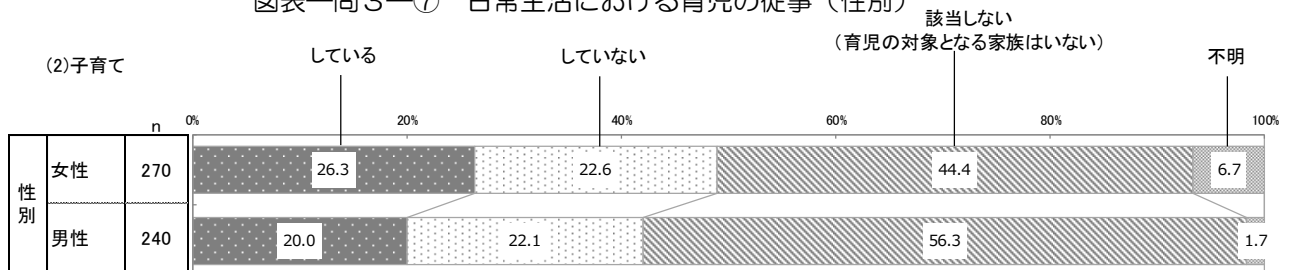
			平
			均
n=			
全体			329 3.0
性別	女性	185	3.9
	男性	134	1.8
	その他	1	2.0
性・年代別	女性	10代	0 0.0
		20代	9 2.8
		30代	31 3.7
		40代	49 3.3
		50代	37 4.2
		60代	32 4.7
		70代以上	27 4.0
	男性	10代	0 0.0
		20代	13 2.1
		30代	25 1.5
		40代	29 1.6
		50代	28 2.0
		60代	20 1.6
		70代以上	19 1.8
性・職業別	女性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	17 3.6
		正社員・役員、正職員	50 3.3
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	49 3.9
		その他（具体的に）	1 3.0
		学生	1 1.0
		家事専業（主婦、主夫）	56 4.4
		リタイア、その他無職	11 4.3
	男性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	18 2.1
		正社員・役員、正職員	84 1.6
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	5 2.7
		その他（具体的に）	3 2.2
		学生	1 1.0
		家事専業（主婦、主夫）	0 0.0
		リタイア、その他無職	23 1.9

【子育て】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

《実施率》

育児への従事を性別でみると、女性では「該当しない」と「不明」を除く48.9%のうち、「している」が26.3%、「していない」が22.6%と「している」の方が比率が高い。一方、男性では「該当しない」と「不明」を除く42.1%のうち、「している」が20.0%、「していない」が22.1%と「していない」の方が高くなっている（図表一問3-⑦）。

図表一問3-⑦ 日常生活における育児の従事（性別）



性・年代別では、女性の30代(35.0%)、40代(67.8%)と男性の40代(55.3%)で「している」という比率が高い。性・子どもの有無別でみると、女性で未就学児や小学生がいる層では「している」が100.0%、中高生では78.9%となっている。男性では、未就学児で88.9%、小学生で86.7%、中高生で42.1%が「している」と回答しており、女性ほどではないものの、育児対象の子どもがいる場合は、男性でも一定の関与をしている状況がわかる。また共働き層では男女とも従事している比率が高くなっている（図表一問3-⑧）。

図表一問3-⑧ 日常生活における育児の従事（全体、性別、性・年代別、性・子どもの有無別、有配偶者・性・有職無職別）

		N =	している	していない	る(該当しない家族はいない)	不明	
全体		534	22.3	22.7	50.7	4.3	
性別	女性	270	26.3	22.6	44.4	6.7	
	男性	240	20.0	22.1	56.3	1.7	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	14.3	0.0	78.6	7.1
		30代	40	35.0	17.5	45.0	2.5
		40代	59	67.8	11.9	20.3	0.0
		50代	45	20.0	40.0	35.6	4.4
		60代	46	6.5	32.6	58.7	2.2
		70代以上	65	4.6	21.5	53.8	20.0
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	11.1	18.5	70.4	0.0
		30代	37	29.7	10.8	59.5	0.0
		40代	38	55.3	18.4	26.3	0.0
		50代	42	28.6	23.8	47.6	0.0
		60代	41	2.4	26.8	68.3	2.4
		70代以上	51	0.0	31.4	62.7	5.9
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	100.0	0.0	0.0	0.0
		小学生	16	100.0	0.0	0.0	0.0
		中高生	19	78.9	21.1	0.0	0.0
		大学以上・成人	10	20.0	10.0	60.0	10.0
		子どもはいない	71	5.6	35.2	50.7	8.5
	男性	未就学児	27	88.9	11.1	0.0	0.0
		小学生	15	86.7	6.7	6.7	0.0
		中高生	19	42.1	36.8	21.1	0.0
		大学以上・成人	8	12.5	50.0	37.5	0.0
		子どもはいない	60	0.0	25.0	73.3	1.7
性・有配偶者・有職無職別	女性	共働き	86	47.7	22.1	26.7	3.5
		夫のみ有職	38	55.3	15.8	28.9	0.0
		妻のみ有職	10	0.0	50.0	50.0	0.0
		夫婦ともに無職	33	12.1	12.1	63.6	12.1
	男性	共働き	90	34.4	17.8	47.8	0.0
		夫のみ有職	40	30.0	30.0	37.5	2.5
		妻のみ有職	8	0.0	0.0	100.0	0.0
		夫婦ともに無職	30	0.0	30.0	63.3	6.7

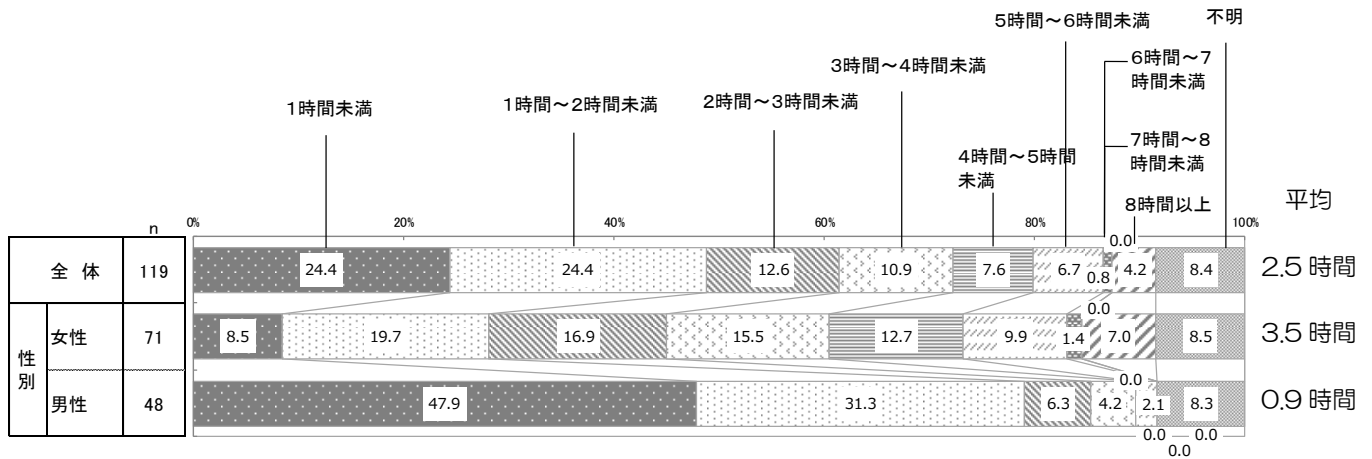
《子育てにける時間》

育児をしている人の平日の育児時間の平均は、全体で 2.5 時間、女性は 3.5 時間、男性は 0.9 時間となっており、男女の時間の差が非常に大きい。実施時間の分布では、全体では「1 時間未満」と「1 時間～2 時間未満」が 24.4%と回答率が最も高い。性別では、女性で「1 時間未満」が 8.5%と非常に低く、多くの時間を掛けていている人が多い一方で、男性では、「1 時間未満」が 47.9%に達している（図表一問 3—⑨）。

一方、休日の育児時間は、全体で 4.6 時間、女性は 5.2 時間、男性は 4.0 時間となっており、平日ほど男女の時間の差はない。実施時間の分布では、全体では「2 時間～3 時間未満」が 12.6%と最も高く、女性では「1 時間～2 時間未満」「8 時間以上」の 11.3%が、男性では「3 時間～4 時間未満」の 18.8%が高くなっている（図表一問 3—⑩）。

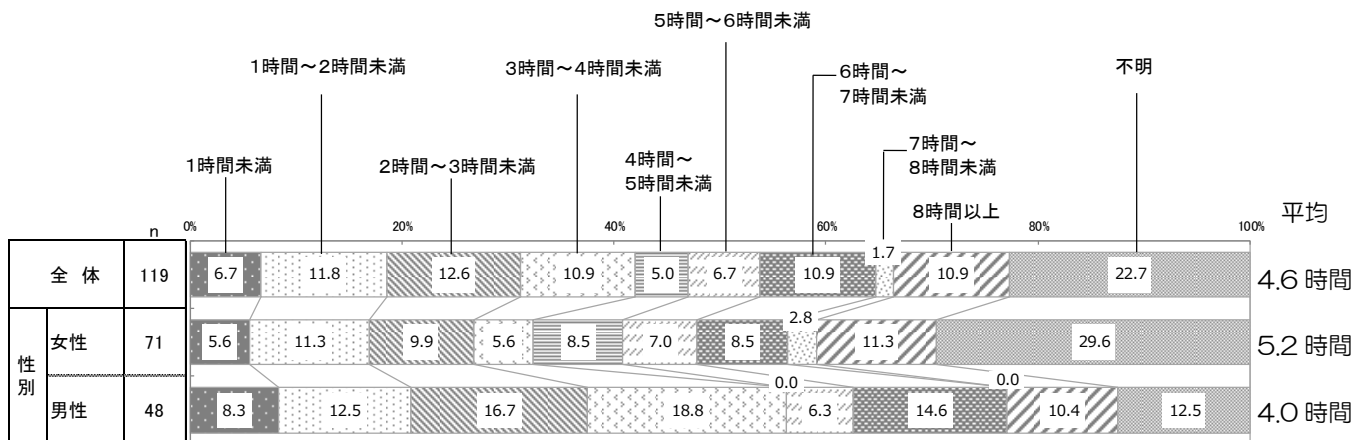
[平日]

図表一問 3—⑨ 育児にかかる平均時間[平日]（全体、性別）



[休日]

図表一問 3—⑩ 育児にかかる平均時間[休日]（全体、性別）



性・年代別に平日の育児時間をみると、女性 30 代の育児時間が長い。また、性・子どもの有無別では、女性で未就学児がいる層（5.4 時間）で育児時間が長くなっている。また休日の育児時間でも、女性で未就学児がいる層で 8.4 時間と育児時間が長い（図表一問3—⑪）。

図表一問3—⑪ 育児にかかる平均時間[平日/休日]（全体、性別、性・年代別、性・子どもの有無別）

問3. 子育ての平均時間 * 平日（平均）

			平
			均
			n=
全体		109	2.5
性別	女性	65	3.5
	男性	44	0.9
	その他	0	0.0
性・年代別	女性	10代	0 0.0
		20代	2 12.0
		30代	12 5.3
		40代	39 2.9
		50代	8 2.1
		60代	2 2.3
		70代以上	2 2.8
	男性	10代	0 0.0
		20代	3 1.3
		30代	11 0.8
		40代	19 0.9
		50代	10 0.7
		60代	1 3.0
		70代以上	0 0.0
性・子どもの有無別	女性	未就学児	27 5.4
		小学生	16 2.7
		中高生	13 1.3
		大学以上・成人	2 2.0
		子どもはいない	3 1.3
	男性	未就学児	22 0.8
		小学生	13 1.1
		中高生	7 0.6
		大学以上・成人	0 0.0
子どもはいない	0 0.0		

問3. 子育ての平均時間 * 休日（平均）

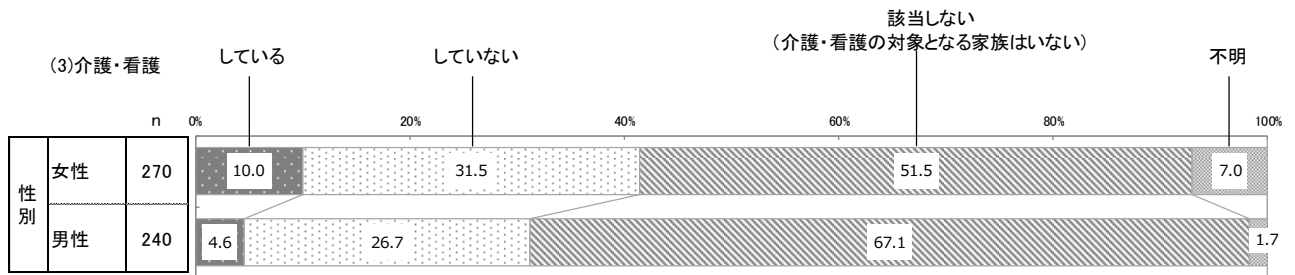
			平
			均
			n=
全体		92	4.6
性別	女性	50	5.2
	男性	42	4.0
	その他	0	0.0
性・年代別	女性	10代	0 0.0
		20代	2 9.5
		30代	9 9.3
		40代	32 4.3
		50代	5 2.4
		60代	1 6.0
		70代以上	1 4.0
	男性	10代	0 0.0
		20代	3 9.3
		30代	10 4.1
		40代	20 4.4
		50代	9 1.1
		60代	0 0.0
		70代以上	0 0.0
性・子どもの有無別	女性	未就学児	21 8.4
		小学生	13 3.0
		中高生	11 1.8
		大学以上・成人	1 2.0
		子どもはいない	1 6.0
	男性	未就学児	24 4.8
		小学生	12 4.0
		中高生	5 0.7
		大学以上・成人	1 0.5
子どもはいない	0 0.0		

【介護・看護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

《実施率》

介護への従事を男女別でみると、女性では「該当しない」と「不明」を除く41.5%のうち、「している」が10.0%、「していない」が31.5%となっている。一方、男性では「該当しない」と「不明」を除く31.3%のうち、「している」が4.6%、「していない」が26.7%となっている（図表一問3—⑫）。

図表一問3—⑫ 日常生活における介護・看護の従事（性別）



性・年代別では、女性の50代（17.8%）、60代（23.9%）で「している」という比率が高い。有配偶者層の有職・無職別でみると、夫婦とも無職の層で、女性では「している」比率が高い一方、男性では「している」比率が0.0%となっているのが目立つ。（図表一問3—⑬）。

図表一問3—⑬ 日常生活における介護・看護の従事（全体、性別、性・年代別、有配偶者・性・有職無職別）

		N =	している (%)	していない (%)	該当しない （介護・看護の対象 となる家族は いない） (%)	不明 (%)	
全体		534	7.5	29.0	59.0	4.5	
性別	女性	270	10.0	31.5	51.5	7.0	
	男性	240	4.6	26.7	67.1	1.7	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	7.1	85.7	7.1
		30代	40	5.0	27.5	60.0	7.5
		40代	59	1.7	49.2	47.5	1.7
		50代	45	17.8	35.6	42.2	4.4
		60代	46	23.9	26.1	47.8	2.2
		70代以上	65	7.7	24.6	50.8	16.9
	男性	10代	4	0.0	25.0	75.0	0.0
		20代	27	0.0	25.9	74.1	0.0
		30代	37	0.0	27.0	73.0	0.0
		40代	38	5.3	21.1	73.7	0.0
		50代	42	7.1	31.0	61.9	0.0
		60代	41	12.2	24.4	61.0	2.4
		70代以上	51	2.0	29.4	62.7	5.9
性・有配偶者・有職無職別	女性	共働き	86	5.8	40.7	45.3	8.1
		夫のみ有職	38	5.3	39.5	52.6	2.6
		妻のみ有職	10	0.0	20.0	80.0	0.0
		夫婦ともに無職	33	27.3	15.2	48.5	9.1
	男性	共働き	90	4.4	24.4	71.1	0.0
		夫のみ有職	40	10.0	30.0	57.5	2.5
		妻のみ有職	8	0.0	12.5	87.5	0.0
	夫婦ともに無職	30	0.0	33.3	60.0	6.7	

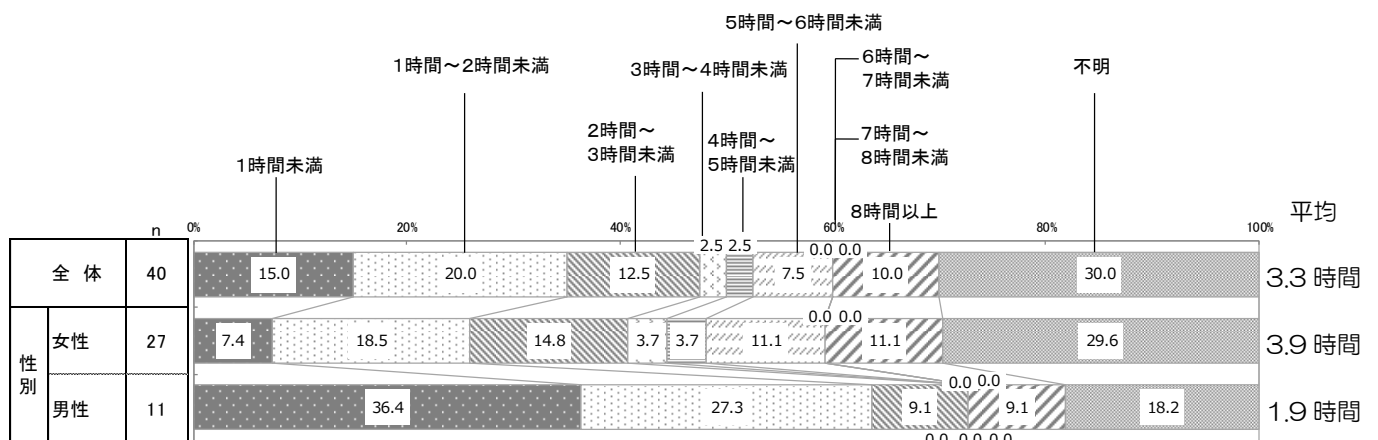
《介護・看護にかける時間》

介護をしている人の平日の介護・看護時間の平均は、全体で 3.3 時間、女性は 3.9 時間、男性は 1.9 時間となっており、男女の時間の差が大きい。実施時間の分布では、全体では「1 時間～2 時間未満」が 20.0%と回答率が最も高くなっている。男女別では女性で「1 時間～2 時間未満」が 18.5%と高くなっている一方で、男性では、「1 時間未満」が 36.4%に達している（図表一問 3—⑭）。

一方、休日の介護時間は、全体で 5.1 時間、女性は 5.1 時間、男性は 5.5 時間となっており、平日とは異なり男性の方が時間が長い。実施時間の分布では、全体では「3 時間～4 時間未満」が 20.0%と最も高く、女性では「3 時間～4 時間未満」の 22.2%が、男性では「2 時間～3 時間未満」の 18.2%が高くなっている（図表一問 3—⑮）。

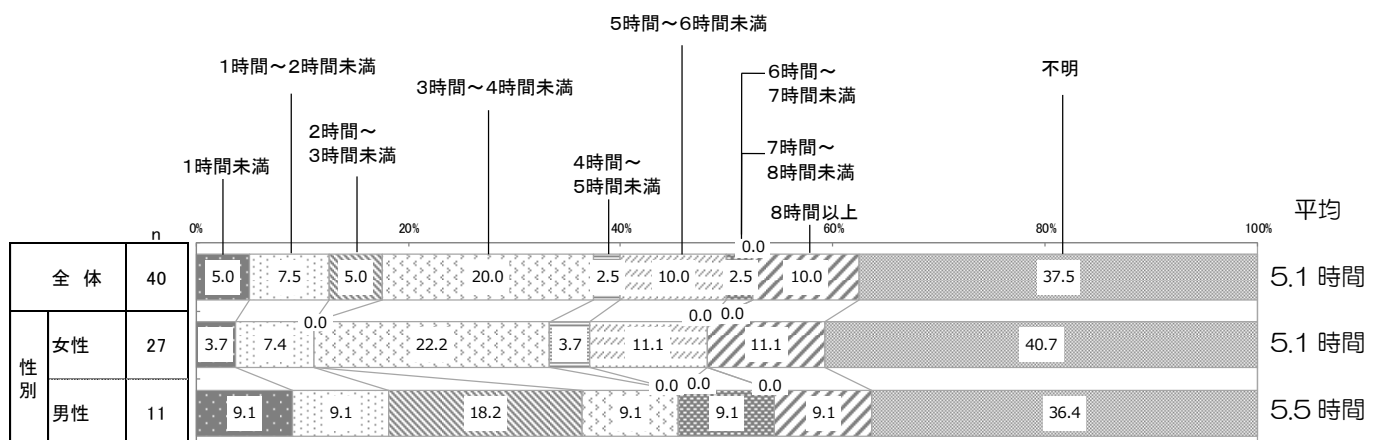
[平日]

図表一問 3—⑭ 介護・看護にかける平均時間[平日] (全体、性別)



[休日]

図表一問 3—⑮ 介護・看護にかける平均時間[休日] (全体、性別)



性・年代別では、母数が少ないため参考値となるが、平日・休日とも、女性の60代、70代以上では介護・看護の時間が長い傾向がみられる（図表一問3—⑯）。

図表一問3—⑯ 介護・看護にかかる平均時間[平日/休日]（全体、性別、性・年代別）

問3. 介護・看護の平均時間 * 平日（平均）

		平均		
		n=		
全体		28	3.3	
性別	女性	19	3.9	
	男性	9	1.9	
	その他	0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0
		20代	0	0.0
		30代	1	3.0
		40代	0	0.0
		50代	8	3.2
		60代	6	5.5
		70代以上	4	3.1
	男性	10代	0	0.0
		20代	0	0.0
		30代	0	0.0
		40代	2	0.5
		50代	3	0.0
		60代	3	4.7
		70代以上	1	2.0

問3. 介護・看護の平均時間 * 休日（平均）

		平均		
		n=		
全体		25	5.1	
性別	女性	16	5.1	
	男性	7	5.5	
	その他	0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0
		20代	0	0.0
		30代	2	2.0
		40代	1	0.5
		50代	3	3.0
		60代	9	6.6
		70代以上	1	8.5
	男性	10代	0	0.0
		20代	0	0.0
		30代	0	0.0
		40代	0	0.0
		50代	3	3.7
		60代	4	6.9
		70代以上	0	0.0

問 4

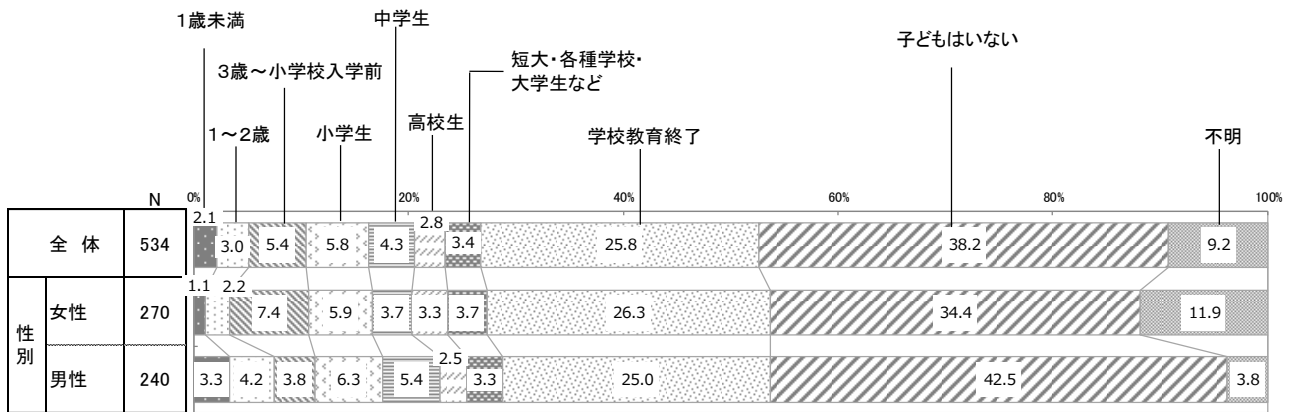
あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃるとすれば、一番下のお子さんは次のどの段階にあたりますか。(○は1つ)

子どもがいる比率は合計 52.6%。就学状況別にみると、学校教育終了が 25.8%と最も高く、ついで未就学児の 10.5%、小学生の 5.8%となる。

全体では、子どもがいるの合計が 52.6%、「子どもはいない」が 38.2%である。子どもの年齢別の内訳をみると、未就学児（「1歳未満」から「3歳～小学校入学前」までの合計）が 10.5%、「小学生」が 5.8%、「中学生」が 4.3%、「高校生」が 2.8%、「短大・各種学校・大学生など」が 3.4%、「学校教育終了」が 25.8%となっている。

男女差は大きくない(図表一問4-①)。

図表一問4-① 末子の成長段階(全体、性別)



性・年代別では、男女とも、年代が上がるに連れて子どもの年齢も上がっている(図表一問4-②)。

図表一問4-② 末子の成長段階(全体、性別、性・年代別)

		N =	1歳未満	1~2歳	3歳~小学校入学前	小学生	中学生	高校生	短大・各種学校・大学生など	学校教育終了	子どもはいない	不明	
全体		534	2.1	3.0	5.4	5.8	4.3	2.8	3.4	25.8	38.2	9.2	
性別	女性	270	1.1	2.2	7.4	5.9	3.7	3.3	3.7	26.3	34.4	11.9	
	男性	240	3.3	4.2	3.8	6.3	5.4	2.5	3.3	25.0	42.5	3.8	
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.6	7.1
		30代	40	7.5	10.0	7.5	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	5.0
		40代	59	0.0	1.7	27.1	18.6	11.9	8.5	5.1	0.0	27.1	0.0
		50代	45	0.0	0.0	0.0	4.4	6.7	6.7	13.3	26.7	40.0	2.2
		60代	46	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	65.2	21.7	10.9
		70代以上	65	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	44.6	18.5	35.4
	男性	10代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.2	0.0
		30代	37	13.5	10.8	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.0	0.0
		40代	38	2.6	10.5	15.8	28.9	15.8	2.6	0.0	0.0	23.7	0.0
		50代	42	0.0	2.4	2.4	9.5	16.7	11.9	14.3	16.7	26.2	0.0
		60代	41	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	58.5	34.1	2.4
		70代以上	51	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.9	27.5	15.7

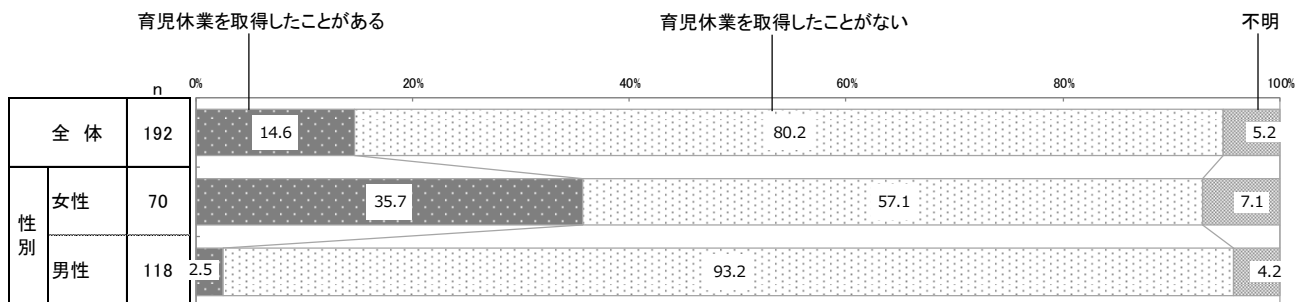
(問4で「1.1歳未満」～「8.学校教育終了」と答えた方)

問4-1 あなたは、育児休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

取得率は女性35.7%、男性2.5%。特に、女性の正社員・役員、正職員についている人(83.3%)で取得率が高い。

「育児休業を取得したことがある」比率は、全体では、14.6%、女性では35.7%、男性では2.5%となっている(図表-問4-③)。

図表-問4-③ 育児休業取得の有無(全体、性別)



※問4-2で「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

性・年代別では、女性の40代(66.7%)で「育児休業を取得したことがある」の回答率が高く、40代以下の女性では制度利用が普及しつつあることがわかる。また、女性で現在正社員・役員、正職員についている人では、83.3%が「育児休業を取得したことがある」と答えている。一方、現在、パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託などについている人については、女性でも、「取得したことがある」という回答は15.0%に止まる。末子の成長段階別では、女性で小学校入学前の末子がいる層で取得率が高い(図表一問4-④)。

図表一問4-④ 育児休業取得の有無(全体、性別、性・年代別、性・職業別、性・末子の成長段階別)

		n=	取 得 し た こ と が あ る	取 得 し た こ と が な い	不 明	
全体		192	14.6	80.2	5.2	
性別	女性	70	35.7	57.1	7.1	
	男性	118	2.5	93.2	4.2	
	その他	0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0
		20代	1	0.0	100.0	0.0
		30代	9	77.8	22.2	0.0
		40代	24	66.7	33.3	0.0
		50代	13	7.7	84.6	7.7
		60代	9	0.0	100.0	0.0
		70代以上	14	7.1	64.3	28.6
	男性	10代	0	0.0	0.0	0.0
		20代	4	0.0	100.0	0.0
		30代	9	0.0	100.0	0.0
		40代	25	8.0	92.0	0.0
		50代	30	3.3	90.0	6.7
		60代	25	0.0	96.0	3.8
		70代以上	25	0.0	92.0	6.9
性・職業別	女性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	2	0.0	100.0	0.0
		正社員・役員、正職員	24	83.3	12.5	4.2
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	20	15.0	85.0	0.0
		その他(具体的に)	1	0.0	100.0	0.0
		学生	0	0.0	0.0	0.0
		家事専業(主婦、主夫)	14	14.3	64.3	21.4
		リタイア、その他無職	9	0.0	88.9	11.1
	男性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	13	7.7	92.3	0.0
		正社員・役員、正職員	71	2.8	94.4	2.8
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	5	0.0	100.0	0.0
		その他(具体的に)	3	0.0	100.0	0.0
		学生	0	0.0	0.0	0.0
		家事専業(主婦、主夫)	0	0.0	0.0	0.0
		リタイア、その他無職	26	0.0	88.5	11.5
性・末子の成長段階別	女性	1歳未満	3	66.7	33.3	0.0
		1~2歳	3	100.0	0.0	0.0
		3歳~小学校入学前	15	80.0	20.0	0.0
		小学生	7	28.6	71.4	0.0
		中学生	5	20.0	80.0	0.0
		高校生	4	25.0	75.0	0.0
		短大・各種学校・大学生など	4	50.0	50.0	0.0
		学校教育終了	29	6.9	75.9	17.2
		子どもはいない	0	0.0	0.0	0.0
	男性	1歳未満	8	0.0	100.0	0.0
		1~2歳	9	11.1	88.9	0.0
		3歳~小学校入学前	8	0.0	100.0	0.0
		小学生	14	7.1	85.7	7.1
		中学生	10	0.0	100.0	0.0
		高校生	6	0.0	100.0	0.0
		短大・各種学校・大学生など	8	0.0	87.5	12.5
		学校教育終了	55	1.8	92.7	5.5
		子どもはいない	0	0.0	0.0	0.0

※問4-2で「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

(問 4-1 で「2.育児休業を取得したことがない」と答えた方)

問 4-2

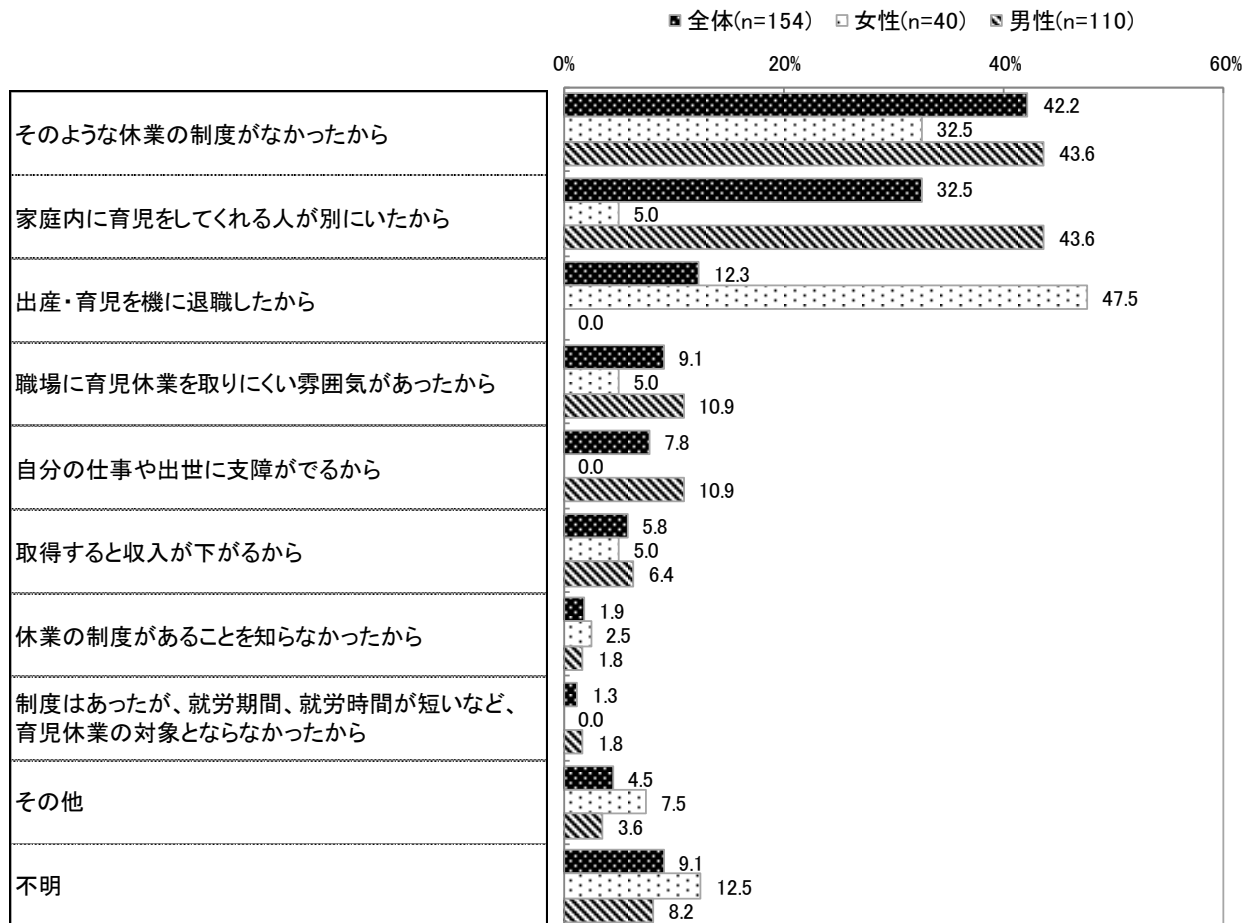
あなたが育児休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(〇はいくつでも)

とらなかった理由は、女性では、「出産・育児を機に退職した」47.5%、「そのような制度がなかった」32.5%。男性では、「そのような制度がなかった」「育児をしてくれる人が別にいた」がともに 43.6%。

全体では、「そのような休業の制度がなかったから」が 42.2%で回答率が最も高く、ついで「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」の 32.5%となっている。

女性では「出産・育児を機に退職したから」が 47.5%と最も高く、ついで「そのような休業の制度がなかったから」の 32.5%となる。男性では「そのような休業の制度がなかったから」と「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」がともに 43.6%と高い(図表一問4—⑤)。

図表一問4—⑤ 育児休業未取得の理由(全体、性別)



※「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

性・年代別でみると、男性の40代では「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」(65.2%)以外では、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから」(26.1%)、「取得すると収入が低下するから」(17.4%)の回答率が高く、仕事や経済面への影響を強く考えている傾向がみられた。また、性・職業別では、女性のパートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託などで「出産・育児を機に退職したから」(76.5%)が高く、性・末子の就学状態別では、子どもが学校教育終了で、女性は「出産・育児を機に退職したから」が27.3%、男性は「そのような休業の制度がなかったから」(62.7%)、「家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから」が25.5%となっている(図表一問4-⑥)。

図表一問4-⑥ 育児休業未取得の理由(全体、性別、性・年代別、性・職業別、性・末子の成長段階別)

		n=	た か ら	そ の よ う な 休 業 の 制 度 が な か つ た	別 に い た か ら	家 庭 内 に 育 児 を し て く れ る 人 が	出 産 ・ 育 児 を 機 に 退 職 し た か ら	雰 囲 気 が あ っ た か ら	職 場 に 育 児 休 業 を 取 り に く い 雰 囲 気 が あ っ た か ら	自 分 の 仕 事 や 出 世 に 支 障 が で る	取 得 す る と 収 入 が 下 が る か ら	休 業 の 制 度 が あ る こ と を 知 ら な か つ た か ら	対 象 と な ら な か つ た か ら	制 度 は あ っ た が 、 就 労 期 間 、 就 業 時 間 が 短 い な ど 、 育 	そ の 他	不 明
全体		154	42.2	32.5	12.3	9.1	7.8	5.8	1.9	1.3	4.5	9.1	12.5	9.1	4.5	9.1
性別	女性	40	32.5	5.0	47.5	5.0	0.0	10.9	10.9	6.4	1.8	1.8	3.6	8.2	3.6	8.2
	男性	110	43.6	43.6	0.0	10.9	10.9	6.4	1.8	1.8	3.6	8.2	3.6	8.2	3.6	8.2
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		40代	8	12.5	12.5	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	
		50代	11	54.5	9.1	54.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	
		60代	9	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	
		70代以上	9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
	男性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		20代	4	0.0	100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		30代	9	11.1	77.8	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		40代	23	26.1	65.2	0.0	26.1	17.4	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	
		50代	27	44.4	37.0	0.0	14.8	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	11.1	
		60代	24	58.3	33.3	0.0	4.2	8.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	
		70代以上	23	65.2	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	8.7	13.0	
性・職業別	女性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		正社員・役員、正職員	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	17	35.3	0.0	76.5	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8		
		その他(具体的に)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		家事専業(主婦、主夫)	9	11.1	11.1	55.6	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1		
		リタイア、その他無職	8	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5		
	男性	自営業主(家族従業員を含む)、自業	12	41.7	25.0	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	25.0		
		正社員・役員、正職員	67	37.3	50.7	0.0	14.9	16.4	7.5	1.5	1.5	1.5	0.0	6.0		
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	5	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		その他(具体的に)	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3		
		学生	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		家事専業(主婦、主夫)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		リタイア、その他無職	23	60.9	39.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7		
性・末子の成長段階別	女性	1歳未満	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		1~2歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		3歳~小学校入学前	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		小学生	5	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0		
		中学生	4	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		高校生	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3		
		短大・各種学校・大学生など	2	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		学校教育終了	22	45.5	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	4.5	18.2		
		子どもはいない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	男性	1歳未満	8	0.0	75.0	0.0	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		1~2歳	8	12.5	62.5	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		3歳~小学校入学前	8	25.0	62.5	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		小学生	12	33.3	58.3	0.0	25.0	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	16.7		
		中学生	10	30.0	70.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		高校生	6	50.0	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		短大・各種学校・大学生など	7	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9		
		学校教育終了	51	62.7	25.5	0.0	3.9	3.9	2.0	2.0	3.9	5.9	7.8	7.8		
		子どもはいない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

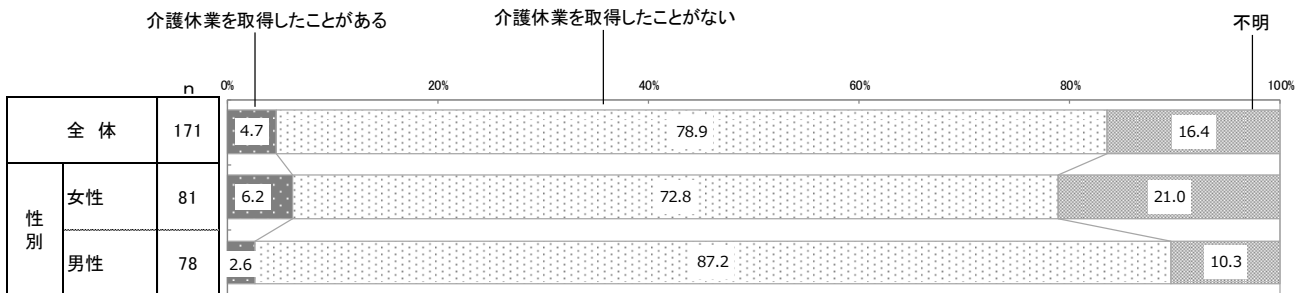
※「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

問5 あなたは、介護休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

介護休業の取得率は、全体で4.7%、女性6.2%、男性2.6%と低い。

「介護休業を取得したことがある」の回答率は、全体で4.7%、女性で6.2%、男性で2.6%となっている(図表一問5-①)。

図表一問5-① 介護休業取得の有無(全体、性別)



※問5-1で「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

性・年代別では、女性60代(14.3%)、70代以上(6.9%)、男性60代(5.0%)、70代以上(3.6%)で若干高い傾向が見られる(図表一問5-②)。

図表一問5-② 介護休業取得の有無(全体、性別、性・年代別)

		n=	と介護休業を取得したこ	と介護休業を取得したこ	不明	
全体		171	4.7	78.9	16.4	
性別	女性	81	6.2	72.8	21.0	
	男性	78	2.6	87.2	10.3	
	その他	0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0
		20代	3	0.0	66.7	33.3
		30代	6	0.0	83.3	16.7
		40代	15	6.7	86.7	6.7
		50代	14	0.0	100.0	0.0
		60代	14	14.3	78.6	7.1
		70代以上	29	6.9	48.3	44.8
	男性	10代	1	0.0	100.0	0.0
		20代	8	0.0	100.0	0.0
		30代	3	0.0	100.0	0.0
		40代	2	0.0	100.0	0.0
		50代	16	0.0	100.0	0.0
		60代	20	5.0	95.0	0.0
		70代以上	28	3.6	67.9	28.6

※問5-1で「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

(問5で「2.介護休業を取得したことがない」と答えた方)

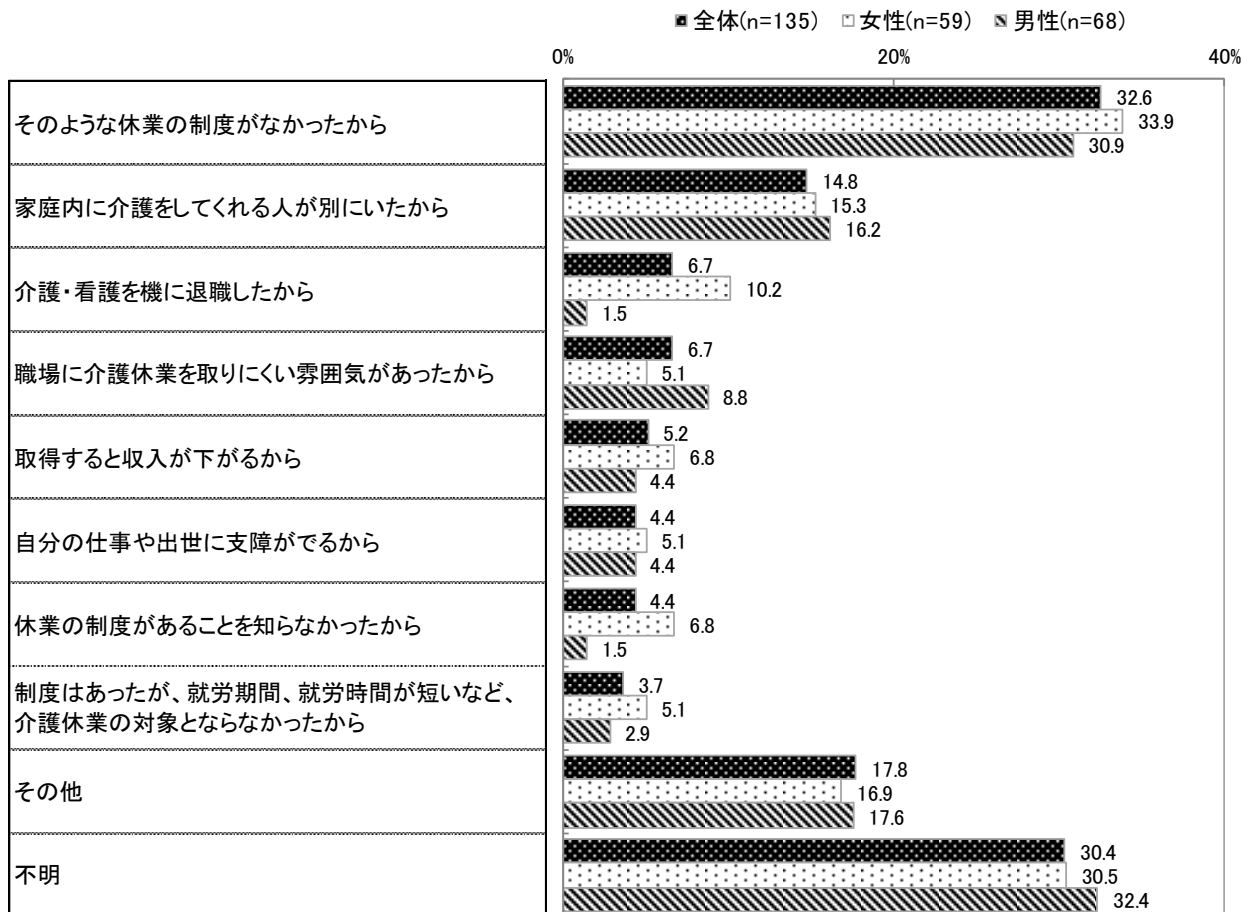
問5-1

あなたが介護休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(〇はいくつでも)

取得していない最大の理由は「そのような休業の制度がなかったから」(32.6%)。

全体では「そのような休業の制度がなかったから」の割合が32.6%と高い(図表一問5-③)。

図表一問5-③ 介護休業未取得の理由(全体、性別)



※「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

性・年代別では、男女とも、60代以上では「そのような休業の制度がなかったから」の回答率が高くなっている（図表一問5-④）。

図表一問5-④ 介護休業未取得の理由（全体、性別、性・年代別）

		n=	た か ら の よ う な 休 業 の 制 度 が な か っ た	別 に い た か ら	家 庭 内 に 介 護 を し て く れ る 人 が	介 護 ・ 看 護 を 機 に 退 職 し た か ら	職 場 に 介 護 休 業 を 取 り に く い 霧	取 得 す る と 収 入 が 下 が る か ら	か ら 自 分 の 仕 事 や 出 世 に 支 障 が で る	休 業 の 制 度 が あ る こ と を 知 ら な か つ た か ら	制 度 は あ つ た が 、 就 労 期 間 、 就 業 時 間 が 短 い な ど 、 介 護 休 業 の 対 象 と な ら な か つ た か ら	そ の 他	不 明
全体		135	32.6	14.8	6.7	6.7	5.2	4.4	4.4	3.7	17.8	30.4	
性別	女性	59	33.9	15.3	10.2	5.1	6.8	5.1	6.8	5.1	16.9	30.5	
	男性	68	30.9	16.2	1.5	8.8	4.4	4.4	1.5	2.9	17.6	32.4	
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
		30代	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	60.0
		40代	13	23.1	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4	46.2
		50代	14	35.7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	7.1	28.6
		60代	11	45.5	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4	9.1
		70代以上	14	42.9	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	7.1	14.3	21.4
	男性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		20代	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0
		30代	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
		40代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		50代	16	12.5	25.0	0.0	18.8	6.3	6.3	0.0	0.0	12.5	43.8
		60代	19	42.1	21.1	5.3	10.5	5.3	5.3	5.3	0.0	15.8	15.8
		70代以上	19	57.9	10.5	0.0	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5	26.3	5.3

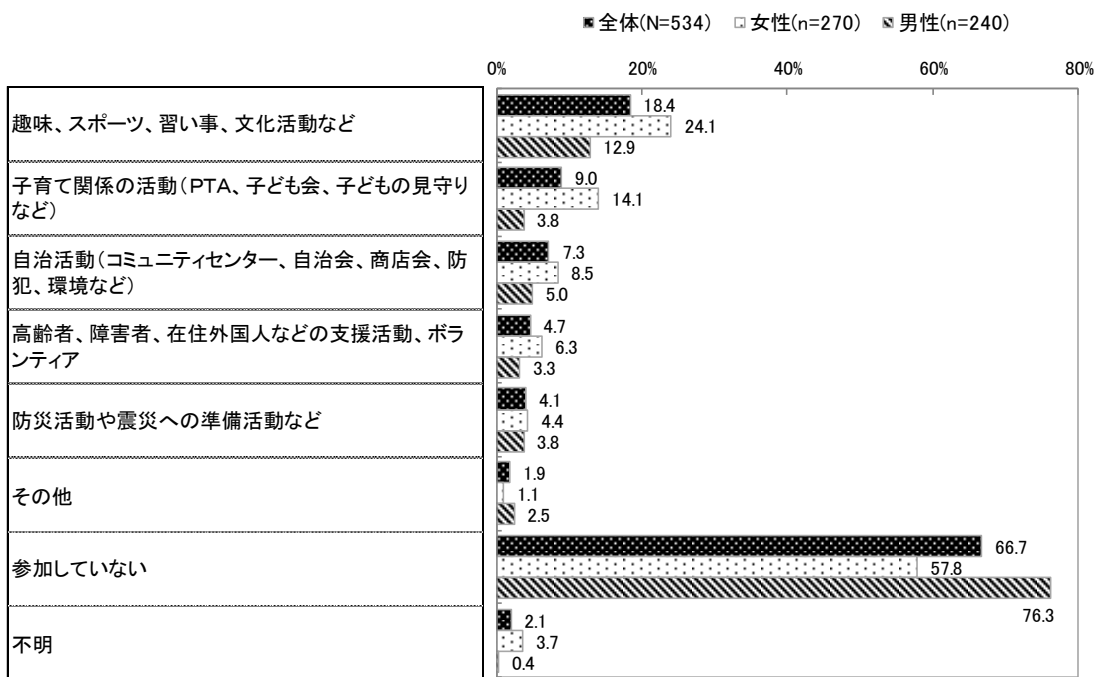
※「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いた集計。

問6 あなたは市や地域での活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

地域活動への参加率は、全体で31.2%、女性38.5%、男性23.3%。多いのは趣味などの活動。

全体での参加率(「参加していない」「不明」を除く数値)は31.2%、女性38.5%、男性23.3%となっており、女性の方が参加率が高い。活動領域としては「趣味、スポーツ、習い事、文化活動など」が、全体18.4%、女性24.1%、男性12.9%で最も高くなっている。女性で次に高いのは「子育て関係の活動」の14.1%、男性では「自治活動」の5.0%である(図表-問6-①)。

図表-問6-① 地域活動参加の有無(全体、性別)



性・年代別では、女性60代(32.6%)、70代以上(38.5%)で「趣味、スポーツ、習い事、文化活動など」が高く、女性40代で「子育て関係の活動」(37.3%)が、女性60代(15.2%)で「高齢者、障害者、在住外国人などの支援活動、ボランティア」が高い。また、男女とも、20代、30代では「参加していない」の回答率が高い。

性・職業別では、女性の家事専業で「趣味、スポーツ、習い事、文化活動など」が38.4%と高く、パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託などでは「子育て関係の活動」が23.8%と高い。一方、正社員・役員、正職員では「参加していない」が77.0%となっている。性・子どもの有無別では、女性で小学生がいる層(81.3%)と中高生がいる層(42.1%)では「子育て関係の活動」への参加率が高い。(図表-問6-②)。

図表一問6-② 地域活動参加の有無（全体、性別、性・年代別、性・職業別、性・子どもの有無別）

		N =	活動 趣味、 スポーツ、 習い事、 文化	子 ども 育 て 関 係 の 活 動 （ P T A 、 子 ども の 見 守 り な ど ）	環 境 な ど ）	自 治 活 動 （ コ ミ ュ ニ テ ィ セ ン 、 自 治 会 、 商 店 会 、 防 犯 、	高 齢 者 、 障 害 者 、 在 住 外 国 人 な ど の 支 援 活 動 、 ボ ラ ン テ ィ ア	防 災 活 動 や 震 災 へ の 準 備 活 動 な ど	そ の 他	参 加 し て い な い	不 明
		全体	534	18.4	9.0	7.3	4.7	4.1	1.9	66.7	2.1
性別	女性	270	24.1	14.1	5.0	6.3	4.4	1.1	57.8	3.7	
	男性	240	12.9	3.8	8.5	3.3	3.8	2.5	76.3	0.4	
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9	0.0
		30代	40	5.0	5.0	0.0	2.5	2.5	0.0	85.0	0.0
		40代	59	22.0	37.3	8.5	1.7	5.1	1.7	47.5	0.0
		50代	45	20.0	8.9	11.1	2.2	2.2	0.0	64.4	2.2
		60代	46	32.6	8.7	10.9	15.2	4.3	2.2	54.3	2.2
		70代以上	65	38.5	9.2	12.3	10.8	7.7	1.5	40.0	12.3
	男性	10代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	3.7	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0	92.6	0.0
		30代	37	8.1	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	86.5	0.0
		40代	38	13.2	13.2	7.9	0.0	0.0	0.0	71.1	0.0
		50代	42	19.0	7.1	4.8	2.4	4.8	4.8	69.0	0.0
		60代	41	7.3	2.4	4.9	7.3	2.4	2.4	80.5	0.0
		70代以上	51	21.6	0.0	7.8	3.9	9.8	5.9	64.7	2.0
性・職業別	女性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	25	28.0	8.0	12.0	4.0	4.0	0.0	56.0	4.0
		正社員・役員、正職員	61	11.5	9.8	1.6	3.3	1.6	1.6	77.0	0.0
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	63	17.5	23.8	7.9	1.6	6.3	1.6	54.0	3.2
		その他（具体的に）	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0
		学生	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		家事専業（主婦、主夫）	86	38.4	16.3	14.0	10.5	5.8	0.0	51.2	2.3
		リタイア、その他無職	25	20.0	4.0	8.0	16.0	4.0	0.0	44.0	16.0
	男性	自営業主（家族従業員を含む）、自業	30	10.0	6.7	13.3	6.7	10.0	10.0	60.0	0.0
		正社員・役員、正職員	127	11.0	5.5	1.6	1.6	0.8	0.8	82.7	0.0
		パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15	6.7	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	80.0	0.0
		その他（具体的に）	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
		学生	10	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	90.0	0.0
		家事専業（主婦、主夫）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		リタイア、その他無職	52	21.2	0.0	7.7	5.8	7.7	3.8	65.4	1.9
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	20.7	17.2	6.9	0.0	3.4	0.0	69.0	0.0
		小学生	16	25.0	81.3	6.3	0.0	6.3	0.0	12.5	0.0
		中高生	19	21.1	42.1	10.5	0.0	5.3	5.3	31.6	0.0
		大学以上・成人	10	30.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	50.0	10.0
		子どもはいない	71	36.6	11.3	12.7	15.5	5.6	1.4	45.1	4.2
	男性	未就学児	27	7.4	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	85.2	0.0
		小学生	15	20.0	26.7	26.7	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
		中高生	19	26.3	10.5	0.0	0.0	5.3	10.5	63.2	0.0
		大学以上・成人	8	25.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	62.5	0.0
		子どもはいない	60	11.7	0.0	8.3	3.3	5.0	5.0	78.3	1.7

(問6で「1.子育て関係の活動」～「6.その他」と答えた方)

問6-1

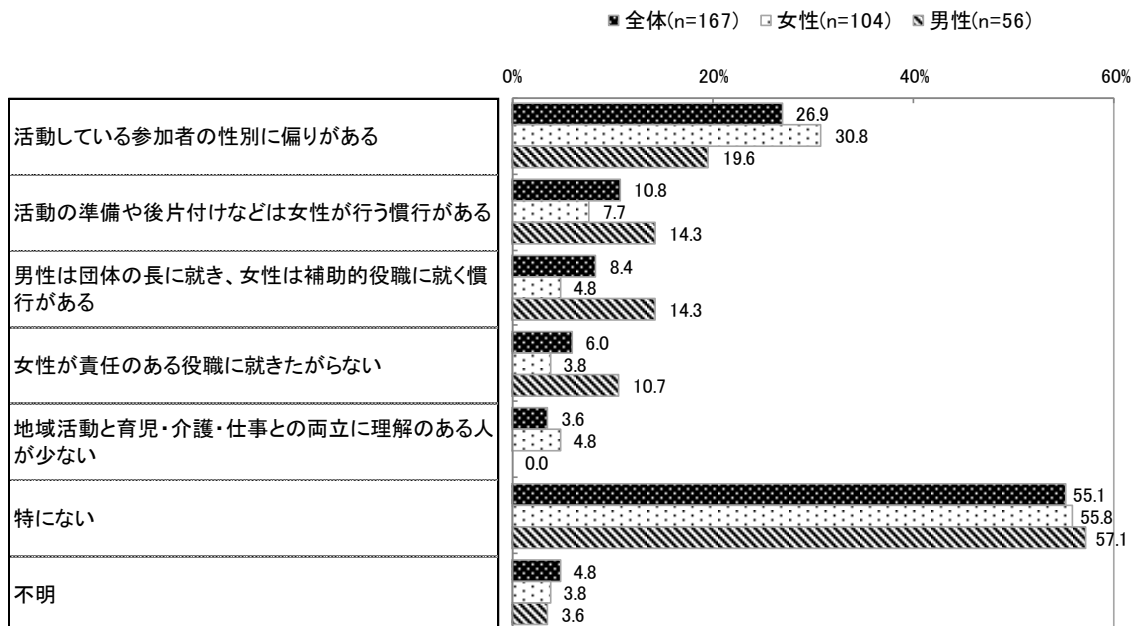
あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。(〇はいくつでも)

男女とも「特にない」との回答が多いが、他では、女性は「参加者の性別の偏り」が高く、男性は「男女の役割の差」についてが、女性との比較で多い。

全体で高いのは「活動している参加者の性別に偏りがある」の26.9%で、ついで「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」10.8%、「男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」8.4%と続いている。

男女別では、女性では「活動している参加者の性別に偏りがある」が30.8%と高い。男性では、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(14.3%)、「男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」(14.3%)、「女性が責任のある役割に就きたがらない」(10.7%)などが女性との比較で高くなっている(図表一問6-③)。

図表一問6-③ 活動団体での課題(全体、性別)



性・年代別では、男女の差をみると、女性 40 代で「活動している参加者の性別に偏りがある」が 41.9%と高い。一方、男性では、40 代で「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(27.3%)が高く、50代で「男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」(23.1%)、が高い(図表一問6-④)。

図表一問6-④ 活動団体での課題(全体、性別、性・年代別)

		n=	活動している参加者の性別に偏りがある	活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	補助的役割に就く慣行がある	男性は団体の長に就き、女性は補助的役割に就く慣行がある	女性が責任のある役割に就きたがらない	地域の活動と育児・介護・仕事との両立に理解のある人が少ない	特にない	不明
全体		167	26.9	10.8	8.4	6.0	3.6	55.1	4.8	
性別	女性	104	30.8	7.7	4.8	3.8	4.8	55.8	3.8	
	男性	56	19.6	14.3	14.3	10.7	0.0	57.1	3.6	
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
		40代	31	41.9	9.7	0.0	6.5	9.7	48.4	3.2
		50代	15	26.7	6.7	0.0	0.0	6.7	53.3	6.7
		60代	20	30.0	5.0	10.0	0.0	0.0	60.0	0.0
		70代以上	31	22.6	9.7	9.7	6.5	3.2	58.1	6.5
	男性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
		30代	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0
		40代	11	18.2	27.3	9.1	9.1	0.0	54.5	0.0
		50代	13	15.4	15.4	23.1	7.7	0.0	61.5	0.0
		60代	8	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	62.5	0.0
		70代以上	17	17.6	11.8	17.6	17.6	0.0	58.8	5.9

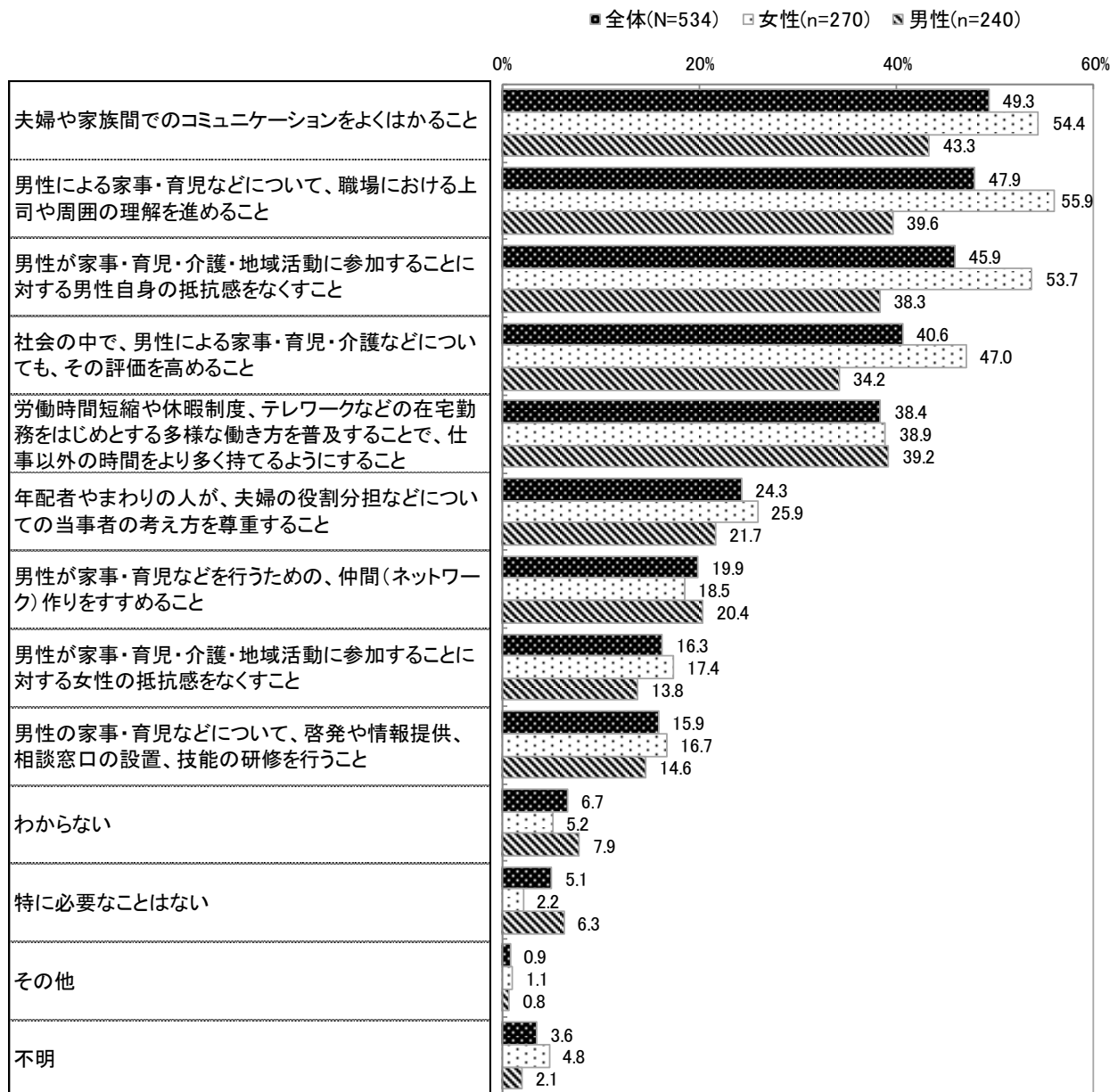
問7 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「夫婦や家族間でのコミュニケーション」(49.3%)、「男性による家事・育児への職場の理解」(47.9%)、「男性の抵抗感をなくすこと」(45.9%)という意見が上位。

全体で回答率が高いのは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の49.3%で、ついで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」47.9%、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」45.9%と続く。

女性では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が55.9%と最も高く、ついで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(54.4%)、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(53.7%)と続いている(図表一問7-①)。

図表一問7-① 男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと(全体、性別)



性・年代別にみていくと、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」については女性の50代と60代で、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」については女性の20代から50代で、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については女性の20代、50代、60代で、「社会の中で、男性による家事・育児・介護などについても、その評価を高めること」については女性20代、30代、50代で回答率が高い。

一方、男性については、「労働時間短縮や給食制度、テレワークなどの在宅勤務をはじめとする多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」について30代と40代、「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」について30代が高くなっている（図表一問7-②）。

図表一問7-② 男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと
(全体、性別、性・年代別)

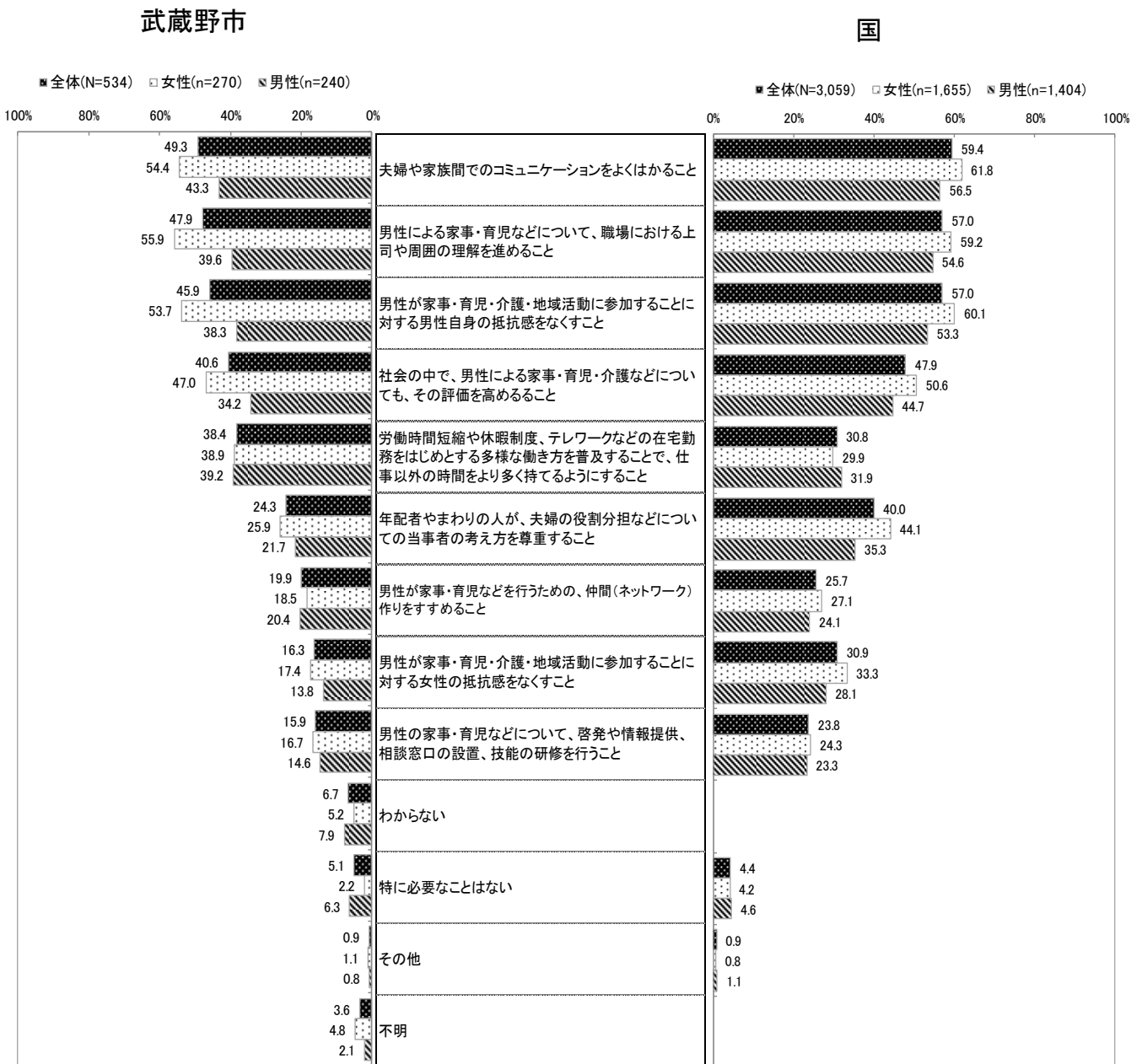
		N =	シヨ ン を よ く は か る こ と	夫 婦 や 家 族 間 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を よ く は か る こ と	理 解 を 進 め る こ と	男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 な ど に つ い て 、 職 場 に お け る 上 司 や 周 圍 の 理 解 を 進 め る こ と	男 性 自 身 の 抵 抗 感 を な く す こ と	活 動 に 参 加 す る こ と に 対 す る 男 性 自 身 の 抵 抗 感 を な く す こ と	男 性 が 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 ・ 地 域 活 動 に 参 加 す る こ と に 対 す る 男 性 自 身 の 抵 抗 感 を な く す こ と	社 会 の 中 で 、 男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 な ど に つ い て 、 そ の 評 価 を 高 め る こ と	多 く 持 て る よ う に す る こ と	と す る よ う に す る こ と	ワ ー ク な ど の 在 宅 勤 務 を は じ め る こ と	労 働 時 間 短 縮 や 給 食 制 度 、 テ レ ワ ー ク な ど の 在 宅 勤 務 を は じ め る こ と	役 割 分 担 な ど に つ い て の 考 え 方 を 尊 重 す る こ と	年 配 者 や ま わ り の 人 が 、 夫 婦 の 考 え 方 を 尊 重 す る こ と	り を す す 仲 間 （ ネ ッ ト ワ ー ク ） を 行 う こ と	男 性 が 家 事 ・ 育 児 な ど に つ い て 、 社 会 の 中 で 、 男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 な ど に つ い て 、 そ の 評 価 を 高 め る こ と	活 動 に 参 加 す る こ と に 対 す る 男 性 自 身 の 抵 抗 感 を な く す こ と	の 設 置 、 啓 発 や 情 報 提 供 、 相 談 窓 口 な ど に つ い て 、 男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 な ど に つ い て 、 そ の 評 価 を 高 め る こ と	わ か ら な い	特 に 必 要 な こ と は な い	そ の 他	不 明
全体		534	49.3	47.9	45.9	40.6	38.4	24.3	19.9	16.3	15.9	6.7	5.1	0.9	3.6									
性別	女性	270	54.4	55.9	53.7	47.0	38.9	25.9	18.5	17.4	16.7	5.2	2.2	1.1	4.8									
	男性	240	43.3	39.6	38.3	34.2	39.2	21.7	20.4	13.8	14.6	7.9	6.3	0.8	2.1									
	その他	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								
		20代	14	50.0	78.6	78.6	64.3	35.7	21.4	14.3	21.4	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0								
		30代	40	52.5	62.5	52.5	55.0	45.0	20.0	5.0	15.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0								
		40代	59	54.2	59.3	50.8	40.7	42.4	20.3	27.1	18.6	11.9	5.1	0.0	1.7	1.7								
		50代	45	66.7	64.4	62.2	60.0	46.7	31.1	20.0	13.3	13.3	2.2	4.4	4.4	2.2								
		60代	46	60.9	45.7	63.0	41.3	39.1	32.6	17.4	26.1	26.1	2.2	0.0	0.0	4.3								
		70代以上	65	43.1	44.6	38.5	40.0	27.7	27.7	20.0	13.8	23.1	9.2	6.2	0.0	10.8								
	男性	10代	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0								
		20代	27	29.6	51.9	25.9	29.6	37.0	29.6	14.8	7.4	3.7	14.8	11.1	0.0	3.7								
		30代	37	35.1	51.4	29.7	48.6	51.4	27.0	24.3	29.7	16.2	2.7	10.8	0.0	0.0								
		40代	38	36.8	36.8	34.2	34.2	52.6	10.5	21.1	13.2	13.2	10.5	2.6	0.0	0.0								
		50代	42	59.5	42.9	38.1	35.7	42.9	11.9	26.2	14.3	21.4	2.4	0.0	2.4	4.8								
		60代	41	51.2	34.1	61.0	26.8	36.6	24.4	14.6	12.2	14.6	7.3	7.3	0.0	0.0								
		70代以上	51	43.1	29.4	37.3	31.4	21.6	29.4	21.6	7.8	15.7	7.8	5.9	2.0	3.9								

<類似調査との比較>

同様の質問項目がある国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」と比べてみると、全体的な回答率では本調査より国の調査の方が高い傾向となっているものの、上位の選択肢の順位については同じ傾向となっている（本調査では国の調査にはない「わからない」という選択肢を設けていること、また不明を除かずに集計している）。

ただし、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重すること」と「男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の2つの項目については、本調査（武蔵野市）よりも国の調査の方が選択肢の順位が高くなっており、若干の違いが見られる（図表一問7-③）。

図表一問7-③ 男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと
（全体、性別）【類似調査比較】



※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」

3. 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

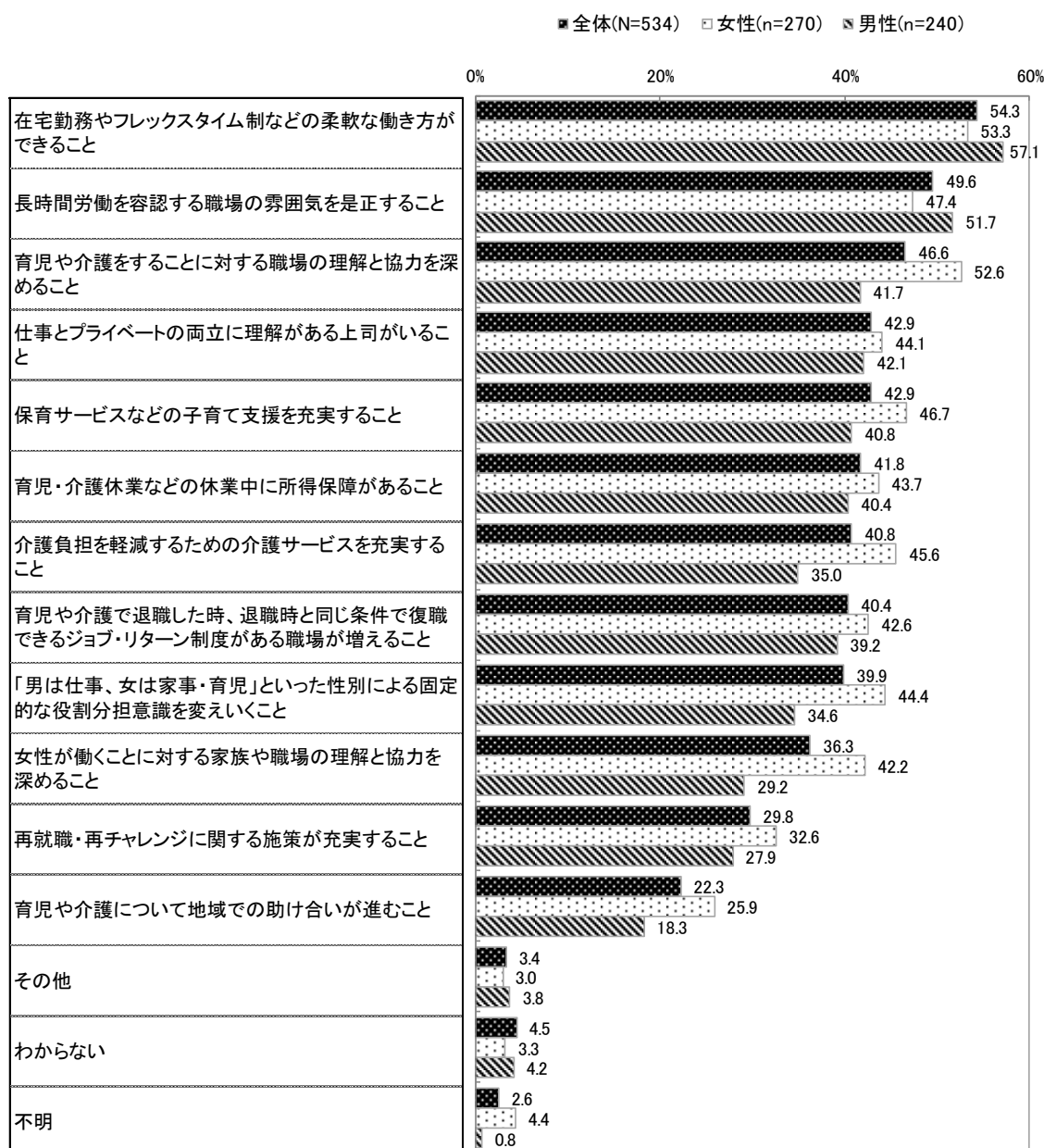
問8

これから男女がともに働きやすくなるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女ともに在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方を求める声が多い。女性では、育児や介護に対する職場の理解と協力への回答が続く。

全体で多いのは「在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること」(54.3%)で、「長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること」(49.6%)、「育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること」(46.6%)と続いている。男女別にみると、「育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること」(女性 52.6%)、「保育サービスなどの子育て支援を充実すること」(女性 46.7%)など多くの項目で女性の回答率が高く、「在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること」(男性 57.1%)、「長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること」(男性 51.7%)の2項目についてのみ男性の方が高い(図表一問8—①)。

図表一問8—① 男女がともに働きやすくなるために必要なこと(全体、性別)



Ⅱ-3 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

性・年代別にみていくと、女性 20 代と男性 20 代で「仕事とプライベートの両立に理解がある上司がいること」の回答率が高い。また、女性 20 代と 30 代では「保育サービスなどの子育て支援を充実すること」、「再就職・再チャレンジに関する施策が充実すること」が高く、子育て支援とその後のキャリア再開への意識が強くなっている。一方、女性の 50 代では「介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること」も回答率が高くなっており、介護への意識が高い。

また、「在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること」は女性の 30 代から 50 代と男性 50 代で、「女性が働くことに対する家族や職場の理解と協力を深めること」は女性 20 代で、「長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること」は男性 60 代で、「育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること」は男性 50 代で高くなっている（図表一問 8—②）。

図表一問 8—② 男女がともに働きやすくなるために必要なこと（全体、性別、性・年代別）

		N =	と在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること	育児や介護と協力を深めることに対する職場の理解と協力を深めること	仕事とプライベートの両立に理解がある上司がいること	保育サービスなどの子育て支援を充実すること	所得保障があること	介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	増えること	時と同じ条件で復職した時、退職・リターン制度がある職場が	割分担当意識を変えいくこと	「男は仕事、女は家事・育児」といった性別による固定的な役割	職場の理解と協力を深めること	再就職・再チャレンジに関する施策が充実すること	育児や介護について地域での助け合いが進むこと	その他	わからない	不明
全体		534	54.3	49.6	46.6	42.9	42.9	41.8	40.8	40.4	39.9	36.3	29.8	22.3	3.4	4.5	2.6		
性別	女性	270	53.3	47.4	52.6	44.1	46.7	43.7	45.6	42.6	44.4	42.2	32.6	25.9	3.0	3.3	4.4		
	男性	240	57.1	51.7	41.7	42.1	40.8	40.4	35.0	39.2	34.6	29.2	27.9	18.3	3.8	4.2	0.8		
	その他	2	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0		
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		20代	14	42.9	42.9	50.0	64.3	57.1	57.1	7.1	50.0	42.9	71.4	50.0	7.1	7.1	0.0	0.0	
		30代	40	67.5	55.0	52.5	47.5	55.0	50.0	42.5	40.0	50.0	35.0	47.5	25.0	2.5	0.0	2.5	
		40代	59	61.0	47.5	55.9	54.2	50.8	39.0	42.4	45.8	42.4	45.8	27.1	30.5	0.0	3.4	0.0	
		50代	45	64.4	44.4	51.1	44.4	42.2	42.2	62.2	46.7	51.1	42.2	37.8	31.1	6.7	4.4	2.2	
		60代	46	52.2	54.3	56.5	41.3	45.7	50.0	50.0	41.3	41.3	47.8	32.6	21.7	4.3	0.0	2.2	
		70代以上	65	32.3	41.5	47.7	29.2	40.0	38.5	44.6	38.5	41.5	32.3	20.0	26.2	1.5	7.7	13.8	
	男性	10代	4	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	
		20代	27	55.6	44.4	44.4	55.6	29.6	44.4	14.8	55.6	29.6	33.3	22.2	3.7	3.7	3.7	0.0	
		30代	37	56.8	43.2	43.2	48.6	43.2	45.9	24.3	32.4	29.7	32.4	29.7	21.6	5.4	5.4	0.0	
		40代	38	60.5	52.6	36.8	42.1	50.0	36.8	42.1	42.1	36.8	23.7	23.7	21.1	2.6	0.0	0.0	
		50代	42	73.8	59.5	57.1	47.6	47.6	45.2	42.9	35.7	35.7	35.7	38.1	26.2	0.0	2.4	0.0	
		60代	41	51.2	61.0	41.5	39.0	41.5	36.6	46.3	43.9	31.7	26.8	36.6	22.0	0.0	2.4	0.0	
		70代以上	51	49.0	49.0	31.4	27.5	35.3	39.2	35.3	33.3	43.1	27.5	19.6	11.8	5.9	7.8	3.9	

問9

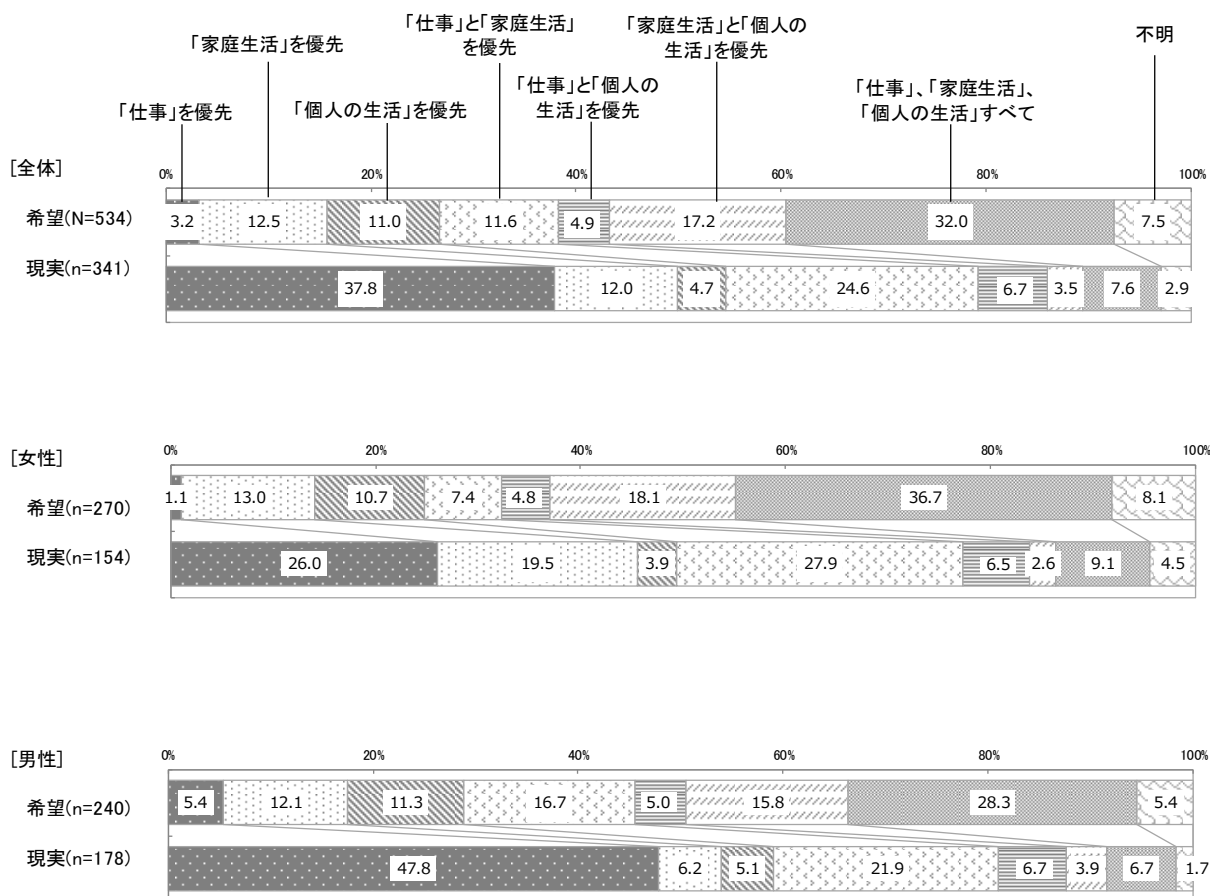
あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべてを優先の回答率が高いが、現実には仕事優先。男女別でみると、男女とも希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべて優先が高く、現実では女性は仕事と家庭生活を優先、男性では仕事優先が高い。

全体では、希望で、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が32.0%と最も回答率が高く、ついで「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」の17.2%が続いている。一方、現実では、「『仕事』を優先」が37.8%と最も高く、ついで「『仕事』と『家庭生活』を優先」の24.6%となっている。

男女の差をみると、希望では、女性の方が「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」の割合が高く（女性36.7%、男性28.3%）、一方、「『仕事』を優先」が低い（女性1.1%、男性5.4%）。現実では、女性で「『仕事』と『家庭生活』を優先」（27.9%）が高く、男性で「『仕事』を優先」（47.8%）が高い（図表一問9-①）。

図表一問9-① ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（全体、性別）



Ⅱ-3 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

希望を性・年代別にみていくと、男性 20 代で『『個人の生活』を優先』の回答が多い。また、『『仕事』と『家庭生活』を優先』は男性の 40 代で 23.7%、50 代で 28.6%となっている。

性・子どもの有無別をみると、子どものいる男性は『『仕事』と『家庭生活』を優先』の回答の割合が高い。一方、女性で中高生以下の子どもがいる層では、『『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて』が 4 割を超えている（図表一問 9-②）。

図表一問 9-② ワーク・ライフ・バランスの希望（全体、性別、性・年代別、性・子どもの有無別）

		N =	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	先「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	不明
全体		534	3.2	12.5	11.0	11.6	4.9	17.2	32.0	7.5
性別	女性	270	1.1	13.0	10.7	7.4	4.8	18.1	36.7	8.1
	男性	240	5.4	12.1	11.3	16.7	5.0	15.8	28.3	5.4
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	0.0	0.0	21.4	0.0	7.1	21.4	50.0
		30代	40	0.0	17.5	7.5	10.0	5.0	17.5	40.0
		40代	59	0.0	15.3	8.5	10.2	5.1	22.0	35.6
		50代	45	2.2	11.1	15.6	2.2	6.7	8.9	46.7
		60代	46	2.2	8.7	8.7	6.5	4.3	23.9	39.1
		70代以上	65	1.5	15.4	10.8	9.2	1.5	16.9	24.6
	男性	10代	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		20代	27	3.7	3.7	29.6	11.1	7.4	14.8	25.9
		30代	37	10.8	10.8	10.8	13.5	5.4	16.2	32.4
		40代	38	2.6	15.8	2.6	23.7	0.0	21.1	34.2
		50代	42	2.4	14.3	7.1	28.6	2.4	9.5	35.7
		60代	41	2.4	12.2	17.1	9.8	7.3	19.5	19.5
		70代以上	51	7.8	13.7	3.9	13.7	7.8	15.7	23.5
性・子どもの有無別	女性	未就学児	29	0.0	13.8	3.4	17.2	3.4	13.8	44.8
		小学生	16	0.0	31.3	0.0	0.0	0.0	18.8	43.8
		中高生	19	0.0	15.8	5.3	5.3	0.0	26.3	42.1
		大学以上・成人	10	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	50.0	20.0
		子どもはいない	71	4.2	12.7	9.9	9.9	2.8	19.7	35.2
	男性	未就学児	27	3.7	7.4	3.7	40.7	0.0	25.9	18.5
		小学生	15	6.7	20.0	0.0	33.3	0.0	13.3	26.7
		中高生	19	0.0	26.3	0.0	26.3	0.0	10.5	36.8
		大学以上・成人	8	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	12.5	12.5
		子どもはいない	60	8.3	11.7	5.0	13.3	8.3	20.0	23.3

Ⅱ-3 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

現実を性・年代別にみていくと、女性40代と女性60代で「『仕事』と『家庭生活』を優先」の回答率が高く、男性の20代から70代以上で「『仕事』を優先」が高くなっている。

性・子どもの有無別をみると、中高生以下の子どもがいる女性で「『家庭生活』を優先」が高くなっている一方、男性では、小学生・中高生の子どもがいても「『仕事』を優先」が高くなっている（図表一問9-③）。

図表一問9-③ ワーク・ライフ・バランスの現実（全体、性別、性・年代別、性・子どもの有無別）

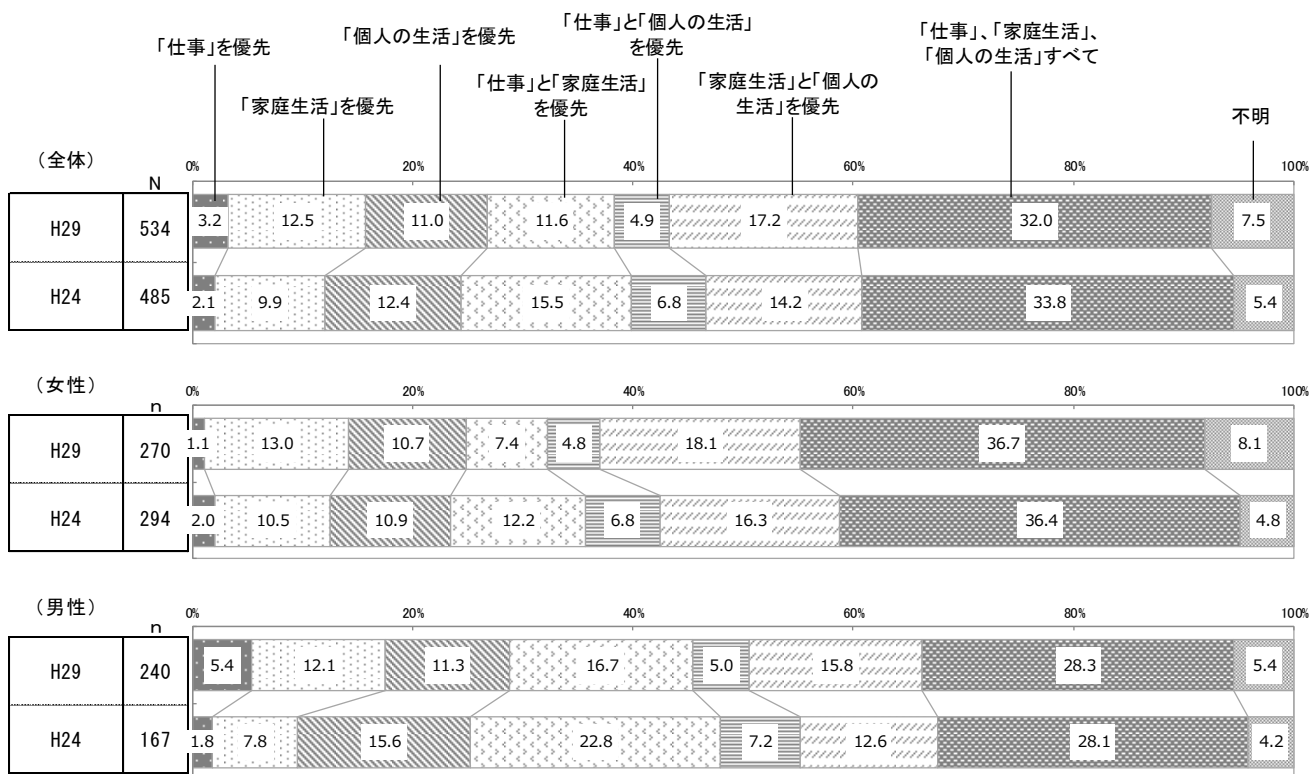
		n=	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	先「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	不明	
全体		341	37.8	12.0	4.7	24.6	6.7	3.5	7.6	2.9	
性別	女性	154	26.0	19.5	3.9	27.9	6.5	2.6	9.1	4.5	
	男性	178	47.8	6.2	5.1	21.9	6.7	3.9	6.7	1.7	
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	9	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代	32	31.3	15.6	6.3	18.8	12.5	3.1	9.4	3.1
		40代	44	15.9	25.0	2.3	34.1	0.0	4.5	15.9	2.3
		50代	34	35.3	20.6	2.9	14.7	11.8	2.9	5.9	5.9
		60代	20	15.0	25.0	10.0	25.0	10.0	0.0	10.0	5.0
		70代以上	15	13.3	13.3	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	13.3
	男性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	20	50.0	5.0	5.0	15.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		30代	36	47.2	8.3	8.3	25.0	5.6	2.8	2.8	0.0
		40代	38	52.6	5.3	2.6	28.9	2.6	5.3	2.6	0.0
		50代	41	53.7	7.3	0.0	14.6	7.3	2.4	14.6	0.0
		60代	27	37.0	7.4	14.8	25.9	3.7	3.7	7.4	0.0
		70代以上	16	37.5	0.0	0.0	18.8	0.0	12.5	12.5	18.8
性・子どもの有無別	女性	未就学児	18	5.6	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	5.6	5.6
		小学生	9	22.2	55.6	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
		中高生	16	0.0	25.0	0.0	31.3	0.0	12.5	31.3	0.0
		大学以上・成人	7	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
		子どもはいない	27	22.2	22.2	7.4	29.6	3.7	3.7	3.7	7.4
	男性	未就学児	27	44.4	14.8	0.0	33.3	0.0	7.4	0.0	0.0
		小学生	15	53.3	0.0	6.7	33.3	0.0	0.0	6.7	0.0
		中高生	19	57.9	5.3	0.0	21.1	5.3	0.0	10.5	0.0
		大学以上・成人	8	37.5	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0
		子どもはいない	33	42.4	3.0	3.0	21.2	0.0	9.1	15.2	6.1

<経年比較>

平成24年調査と比較すると、今回の調査では、男女別では、男女ともに『家庭生活』を優先、『家庭生活』と『個人の生活』を優先がやや増加し、また、『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてが微増している。逆に、『個人の生活』を優先、『仕事』と『家庭生活』を優先、『仕事』と『個人の生活』を優先は、男女とも、減少傾向にある。一方、『仕事』を優先は、女性では減少、男性では増加と傾向が分かれている（図表一問9-④）。

図表一問9-④ ワーク・ライフ・バランスの希望（全体、性別）【経年比較】

【希望】



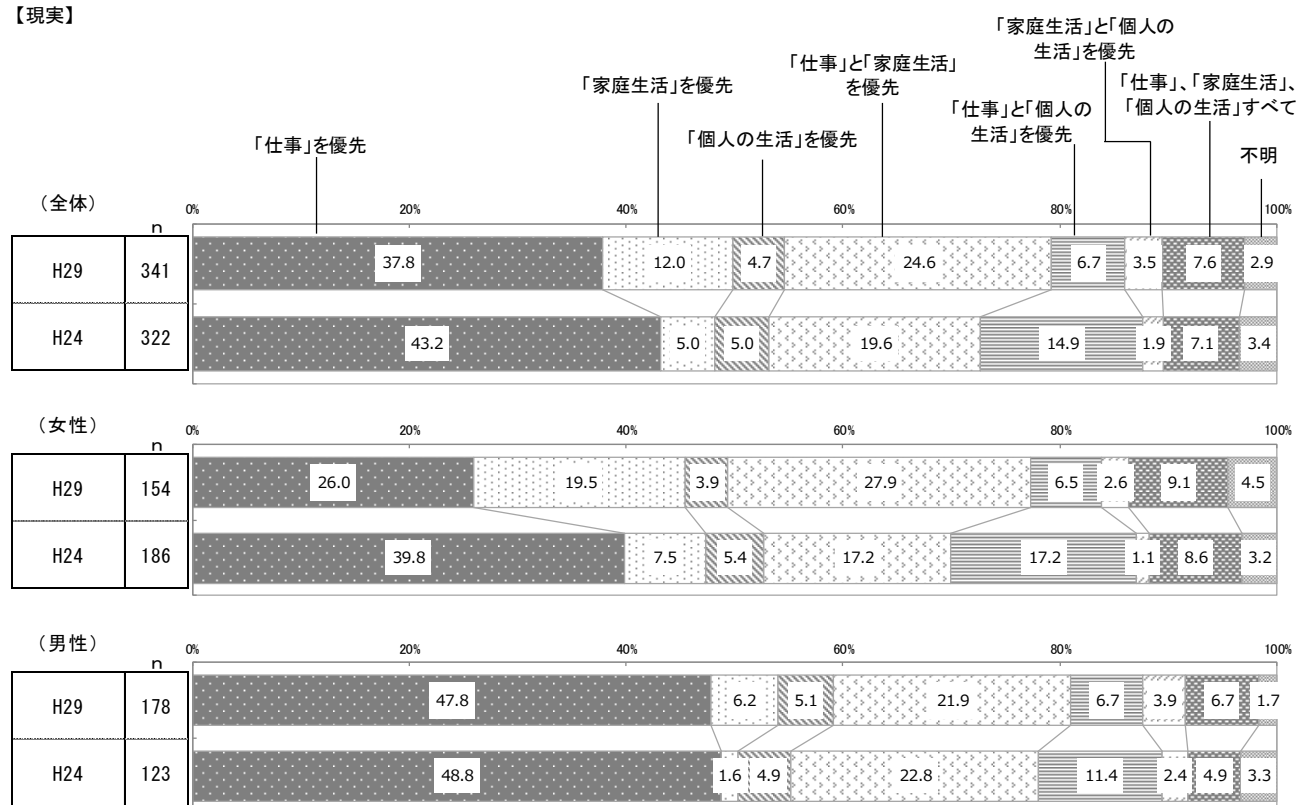
Ⅱ-3 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

現実でみると、男女ともに増えているのは「『家庭生活』を優先」と「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」の3つとなっている。このうち、「『家庭生活』を優先」と「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」は、希望の変化と同じ傾向となっている。一方、男女ともに減少しているのは、「『仕事』を優先」、「『仕事』と『個人の生活』を優先」の2つとなっている。

男女で傾向が異なるのは、「『個人の生活』を優先」（女性は減少、男性は増加）、「『仕事』と『家庭生活』を優先」（女性は増加、男性は減少）の2項目である（図表一問9-⑤）。

図表一問9-⑤ ワーク・ライフ・バランスの現実（全体、性別）【経年比較】

【現実】

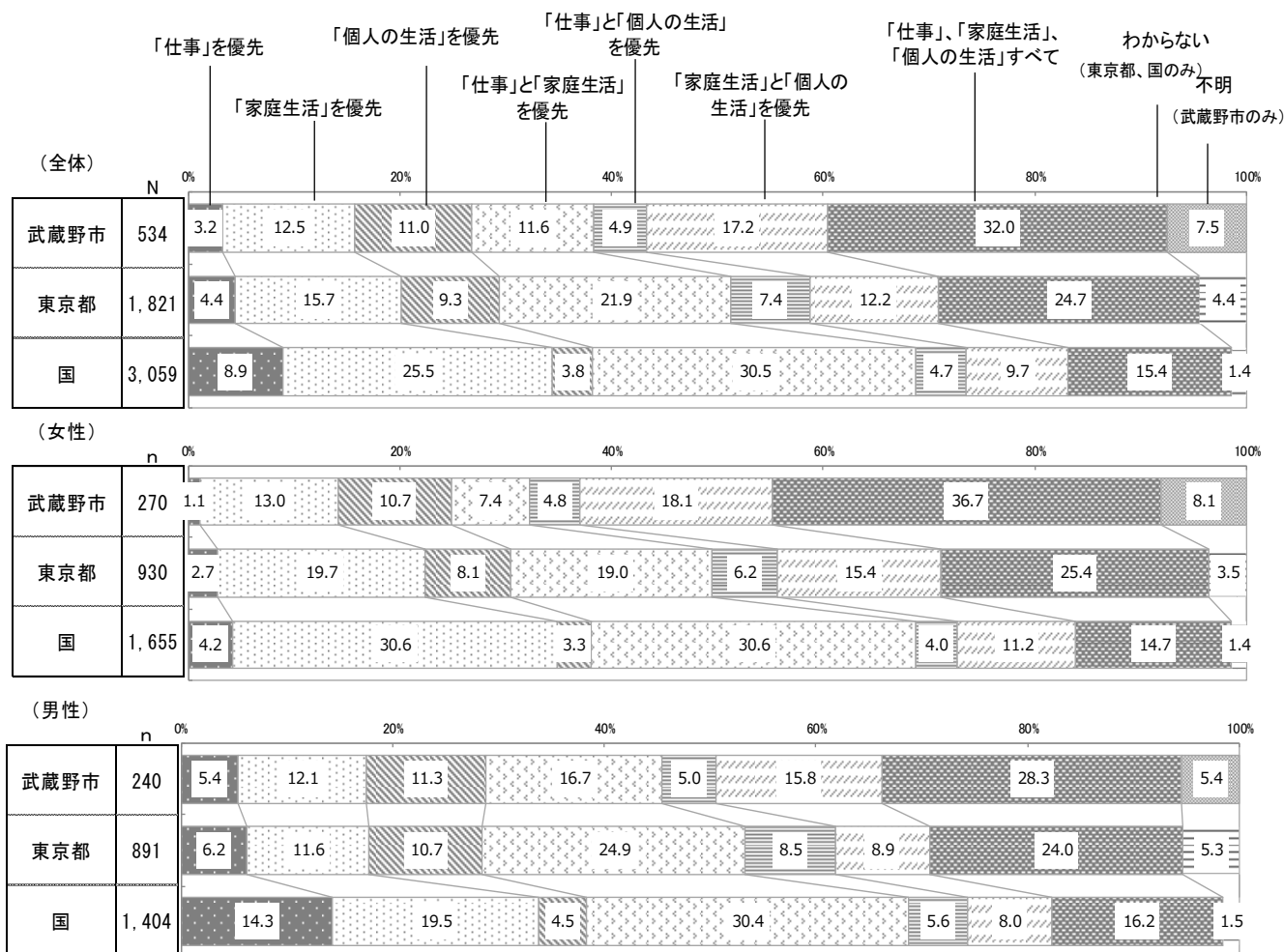


<類似調査との比較>

同様の質問項目がある国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」及び東京都の「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」とワーク・ライフ・バランスについての希望への回答を比べてみると、男女ともに、市よりも都、都よりも国の方が「『仕事』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』を優先」という項目への回答率が高い。一方、「『個人の生活』を優先」、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」については、国より都、都より市の方が回答率が高くなっている（図表一問9-⑥）。

図表一問9-⑥ ワーク・ライフ・バランスの希望（全体、性別）【類似調査比較】

【希望】



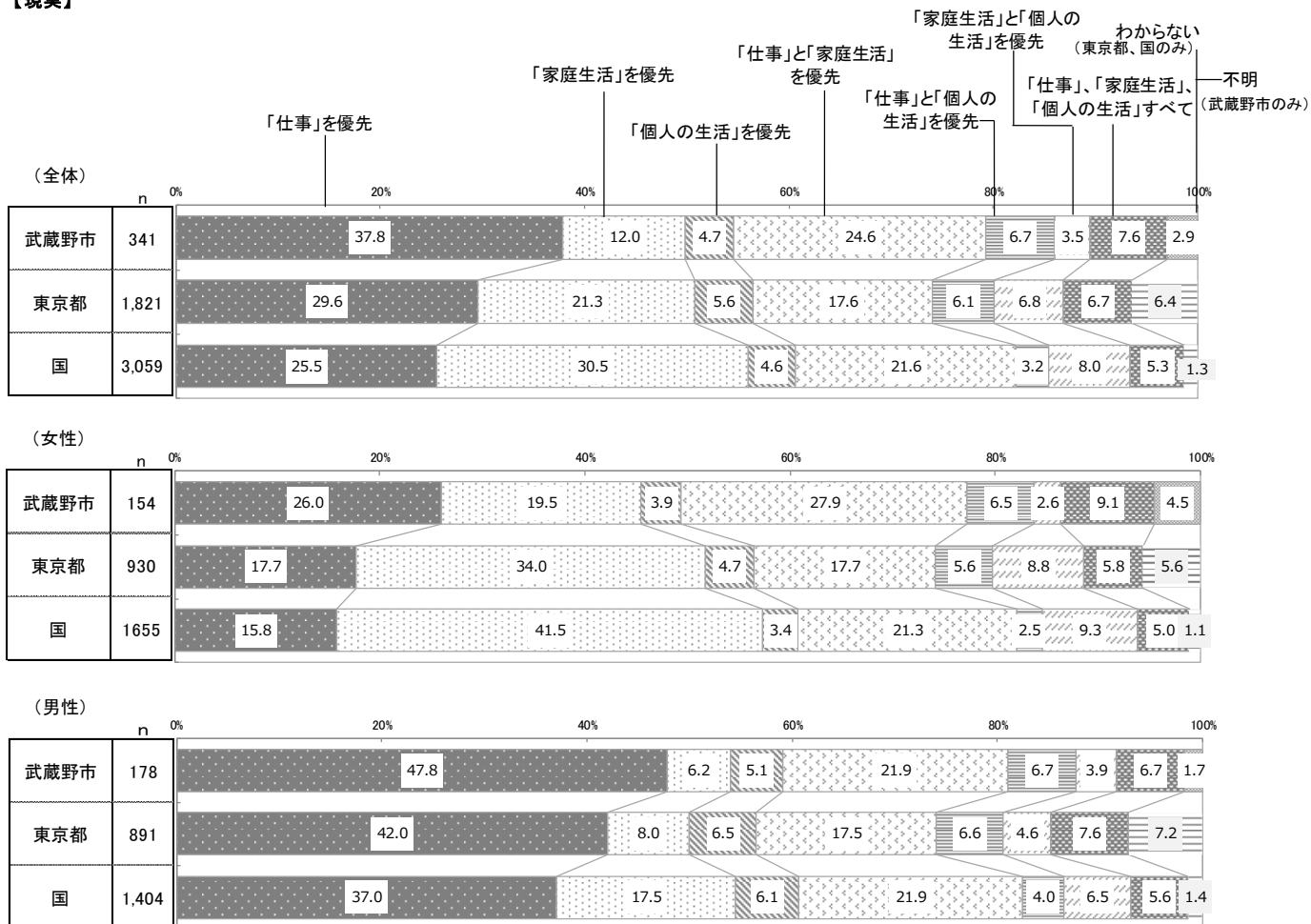
※国調査の選択肢は「個人の生活」が「地域・個人の生活」になっている。
 ※東京都調査は「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」
 ※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」
 ※調査対象者の年齢は、武蔵野市、国は 18 歳以上、東京都は 20 歳以上である。

Ⅱ-3 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

同様に他調査とワーク・ライフ・バランスの現実への回答を比べてみると、男女ともに、市よりも都、都よりも国の方が『家庭生活』を優先という項目への回答率が高くなっている。逆に、『仕事』を優先については、国より都、都より市の方が高くなっている（図表一問9-⑦）。

図表一問9-⑦ ワーク・ライフ・バランスの現実（全体、性別）【類似調査比較】

【現実】



※国調査の選択肢は「個人の生活」が「地域・個人の生活」になっている。

※東京都調査は「男女平等参画に関する世論調査（平成27年）」

※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成28年）」

※調査対象者の年齢は、武蔵野市、国は18歳以上、東京都は20歳以上である。

4. セクシュアル・マイノリティについて

問 10

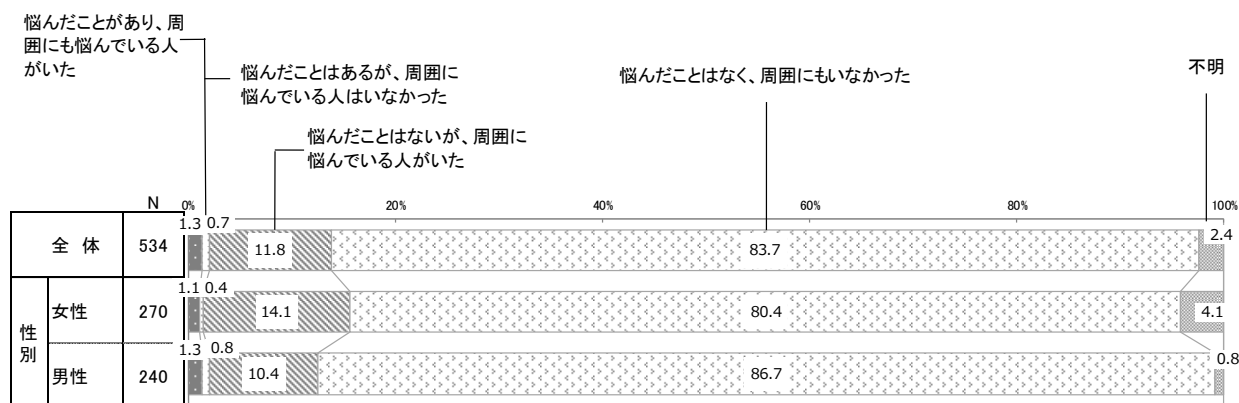
あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。または、周囲で悩んでいる人はいましたか。(○は1つ)

性の違和感について悩んだ人は 2.0%、周囲に悩んでいる人がいた比率は 13.1%。

全体では、「悩んだことがあり、周囲にも悩んでいる人がいた」1.3%、「悩んだことはあるが、周囲に悩んでいる人はいなかった」0.7%、「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」11.8%となっており、本人が悩んだ割合 2.0%、周囲に悩んでいる人がいた割合 13.1%となっている。

男女別にみると、女性の方が「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」の回答率が高い(女性 14.1%、男性 10.4%) (図表一問 10—①)。

図表一問 10—① 性についての悩みの有無 (全体、性別)



性・年代別では、「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた」の回答率が、女性の 20 代で 35.7%、30 代で 27.5%となっている (図表一問 10—②)。

図表一問 10—② 性についての悩みの有無 (全体、性別、性・年代別)

		N =	悩んだことがあり、周囲にも悩んでいる人がいた	悩んだことはあるが、周囲に悩んでいる人はいなかった	悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた	悩んだことはなく、周囲にもいなかった	不明	
全体		534	1.3	0.7	11.8	83.7	2.4	
性別	女性	270	1.1	0.4	14.1	80.4	4.1	
	男性	240	1.3	0.8	10.4	86.7	0.8	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	0.0	35.7	64.3	0.0
		30代	40	5.0	0.0	27.5	67.5	0.0
		40代	59	0.0	0.0	18.6	81.4	0.0
		50代	45	2.2	2.2	8.9	84.4	2.2
		60代	46	0.0	0.0	6.5	87.0	6.5
		70代以上	65	0.0	0.0	6.2	83.1	10.8
	男性	10代	4	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0
		20代	27	0.0	0.0	18.5	81.5	0.0
		30代	37	2.7	0.0	18.9	78.4	0.0
		40代	38	0.0	0.0	13.2	86.8	0.0
		50代	42	0.0	2.4	7.1	90.5	0.0
		60代	41	2.4	0.0	4.9	92.7	0.0
		70代以上	51	2.0	0.0	5.9	88.2	3.9

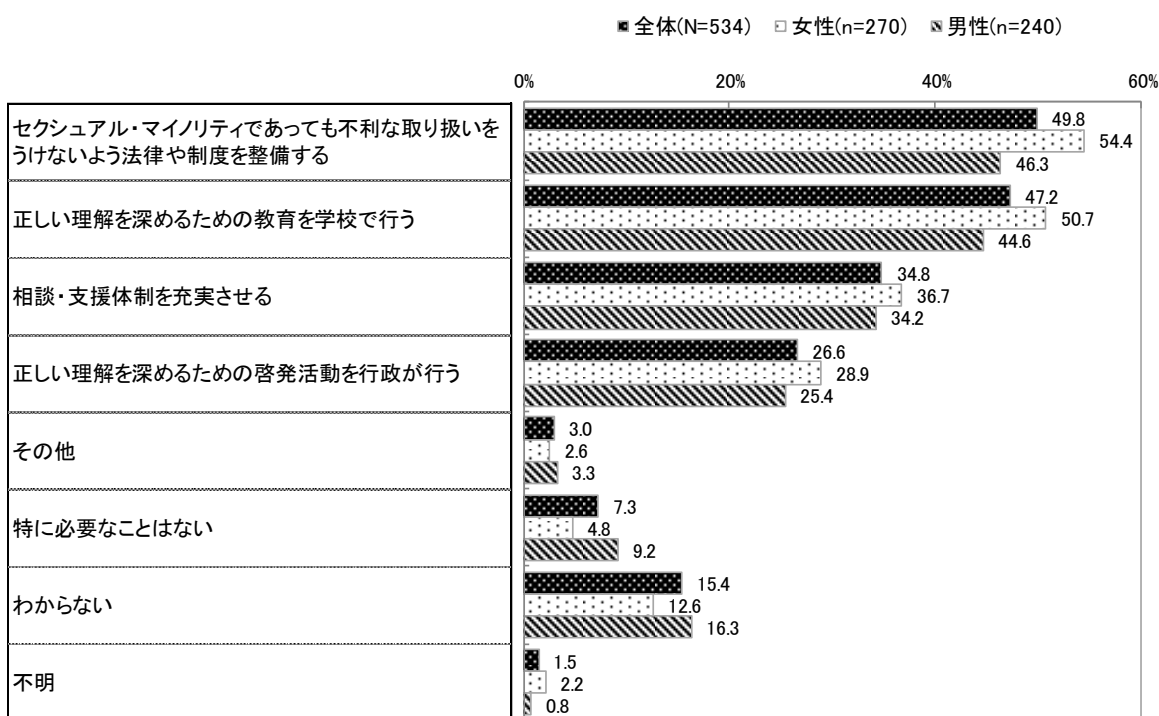
問 11

あなたは、セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。(〇はいくつでも)

方策としては、法律や制度の整備が必要という意見が最も多く、ついで学校教育、相談・支援体制の充実と続く。

全体では、「セクシュアル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する」が49.8%と最も多く、ついで「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」47.2%、「相談・支援体制を充実させる」34.8%と続いている。方策に対する回答率は女性の方が高くなっている(図表一問11-①)。

図表一問11-① セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために必要な方策(全体、性別)



Ⅱ-4 セクシュアル・マイノリティについて

性・年代別では、「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」という項目で、50代以下の女性の回答の割合が高い。また、「セクシャル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する」については女性の30代、50代、60代で、「相談・支援体制を充実させる」では女性50代と60代で、「正しい理解を深めるための啓発活動を行政が行う」は、女性30代と50代で高くなっている（図表一問11-②）。

図表一問11-② セクシャル・マイノリティの人々の人権を守るために必要な方策
（全体、性別、性・年代別）

		N =	ない よ う 法 律 や 制 度 を 整 備 す る	あ つ て も 不 利 な 取 り 扱 い を 整 備 す る	セ ク シ ユ ア ル ・ マ イ ノ リ テ ィ	を 学 校 で 行 う	正 し い 理 解 を 深 め る た め の 教 育	相 談 ・ 支 援 体 制 を 充 実 さ せ る	活 動 を 行 政 が 行 う	正 し い 理 解 を 深 め る た め の 啓 発	そ の 他	特 に 必 要 な こ と は な い	わ か ら な い	不 明
全体		534	49.8	47.2	34.8	26.6	3.0	7.3	15.4	1.5				
性別	女性	270	54.4	50.7	36.7	28.9	2.6	4.8	12.6	2.2				
	男性	240	46.3	44.6	34.2	25.4	3.3	9.2	16.3	0.8				
	その他	2	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0				
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	42.9	71.4	35.7	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0			
		30代	40	70.0	65.0	42.5	37.5	5.0	0.0	2.5	0.0			
		40代	59	49.2	57.6	32.2	30.5	1.7	1.7	11.9	0.0			
		50代	45	57.8	57.8	48.9	42.2	6.7	6.7	6.7	0.0			
		60代	46	60.9	43.5	45.7	32.6	2.2	2.2	8.7	4.3			
		70代以上	65	44.6	30.8	23.1	16.9	0.0	12.3	27.7	6.2			
	男性	10代	4	50.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0			
		20代	27	48.1	29.6	29.6	14.8	7.4	7.4	25.9	0.0			
		30代	37	45.9	48.6	43.2	27.0	2.7	10.8	10.8	0.0			
		40代	38	39.5	63.2	36.8	28.9	0.0	10.5	13.2	0.0			
		50代	42	54.8	47.6	40.5	33.3	4.8	7.1	14.3	0.0			
		60代	41	48.8	43.9	34.1	26.8	0.0	7.3	22.0	0.0			
		70代以上	51	41.2	35.3	25.5	19.6	2.0	11.8	13.7	3.9			

5. 男女平等意識について

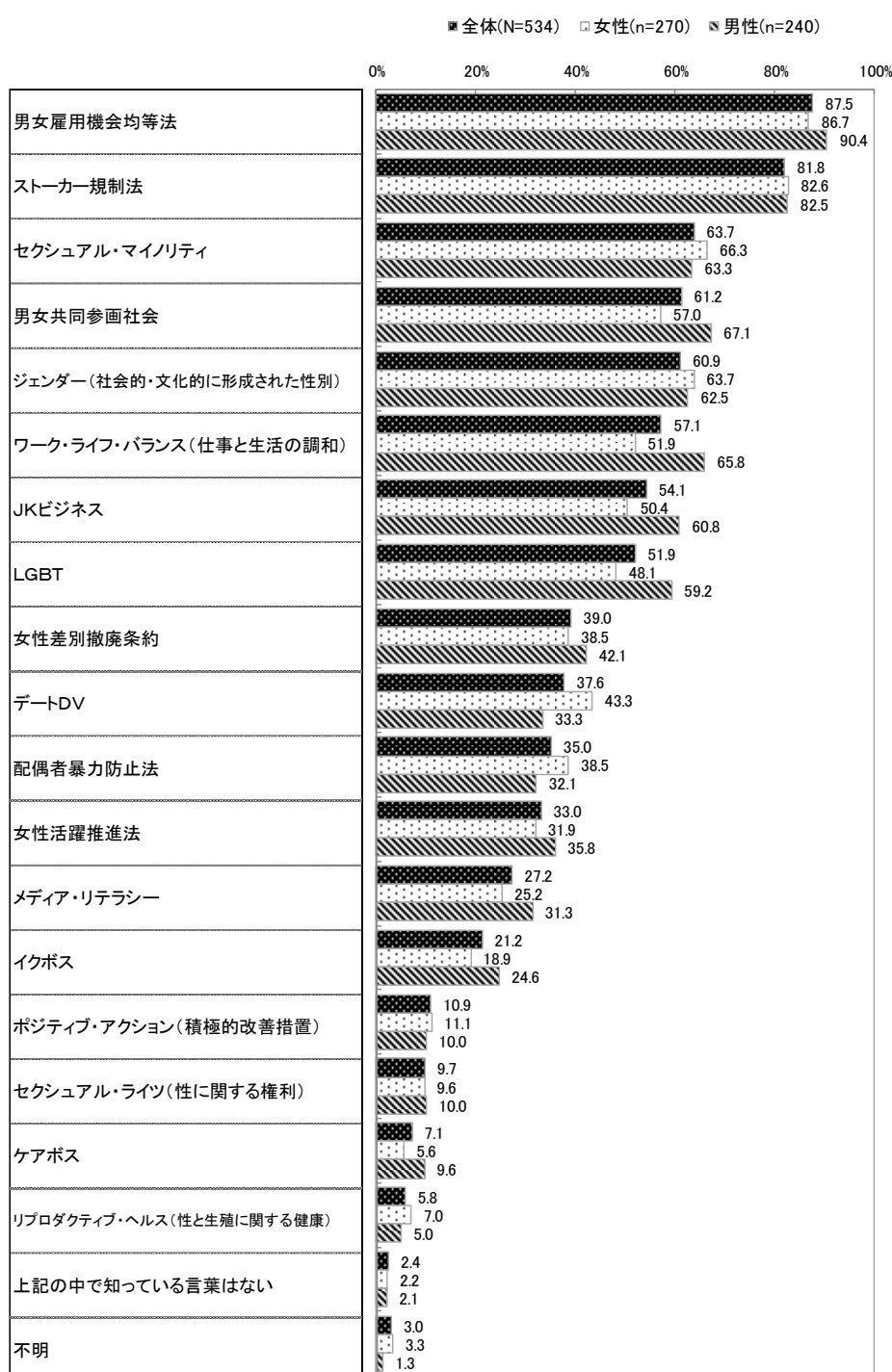
問 12

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。
(○はいくつでも)

男女雇用機会均等法とストーカー規制法の認知率が高い。

全体では、「男女雇用機会均等法」の認知率が87.5%で最も高く、ついで「ストーカー規制法」(81.8%)、「セクシュアル・マイノリティ」(63.7%)と続く。女性の方が認知率が高いのは「セクシュアル・マイノリティ」、「ジェンダー」、「デートDV」などであり、「デートDV」は男性に比べて10ポイント以上高くなっている。男性は「ワーク・ライフ・バランス」や「JKビジネス」、「LGBT」などで女性より認知率が高くなっている(図表一問12-①)。

図表一問12-① 男女平等などに関する言葉の認知(全体、性別)



性・年代別にみると、全体的に若年層で認知率が高い傾向がある（図表一問12-②）。

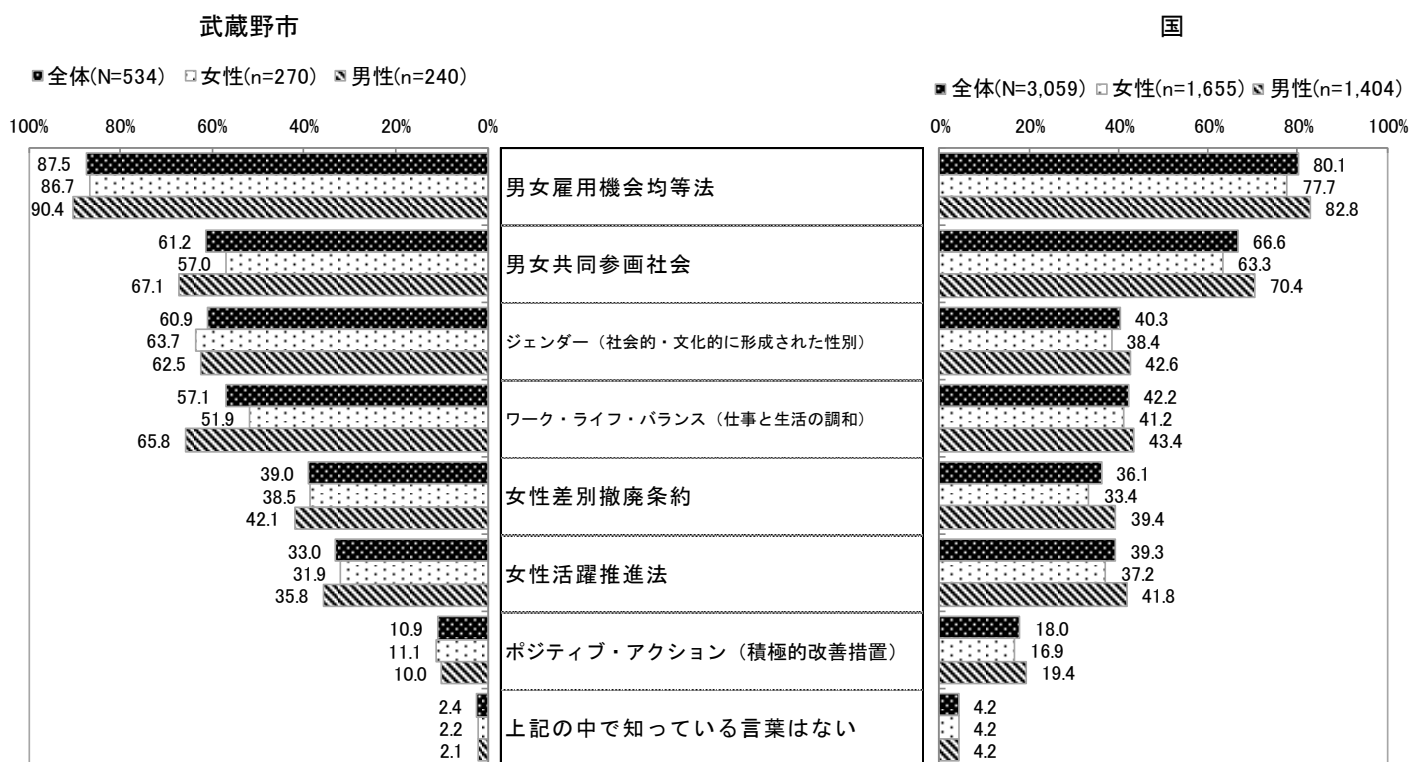
図表一問12-② 男女平等などに関する言葉の認知（全体、性別、性・年代別）

		男女雇用機会均等法	ストーカー規制法	セクシュアル・マイノリティ	男女共同参画社会	形成された性別	ジェンダー（社会的・文化的に	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	JKBビジネス	LGBT	女性差別撤廃条約	デートDV	配偶者暴力防止法	女性活躍推進法	メディア・リテラシー	イクボス	ボジティブ・アクション（積極的改善措置）	セクシュアル・ライツ（性に関する権利）	ケアボス	リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）	上記の中で知っている言葉はない	不明	
全体		534	87.5	81.8	63.7	61.2	60.9	57.1	54.1	51.9	39.0	37.6	35.0	33.0	27.2	21.2	10.9	9.7	7.1	5.8	2.4	3.0	
性別	女性	270	86.7	82.6	66.3	57.0	63.7	51.9	50.4	48.1	38.5	43.3	38.5	31.9	25.2	18.9	11.1	9.6	5.6	7.0	2.2	3.3	
	男性	240	90.4	82.5	63.3	67.1	62.5	65.8	60.8	59.2	42.1	33.3	32.1	35.8	31.3	24.6	10.0	10.0	9.6	5.0	2.1	1.3	
	その他	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	10代	1	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	14	100.0	85.7	64.3	92.9	92.9	85.7	78.6	64.3	64.3	78.6	21.4	64.3	64.3	28.6	28.6	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	40	95.0	87.5	90.0	70.0	90.0	77.5	72.5	72.5	42.5	62.5	30.0	45.0	45.0	22.5	5.0	15.0	5.0	15.0	0.0	0.0	0.0
	40代	59	91.5	89.8	69.5	45.8	71.2	59.3	64.4	57.6	32.2	45.8	40.7	25.4	23.7	20.3	15.3	10.2	10.2	6.8	1.7	0.0	0.0
	50代	45	93.3	93.3	75.6	44.4	68.9	55.6	66.7	64.4	37.8	49.9	51.1	22.2	31.1	15.6	6.7	8.9	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0
	60代	46	80.4	82.6	63.0	73.9	60.9	41.3	39.1	32.6	45.7	39.1	47.8	39.1	10.9	23.9	10.9	10.9	4.3	6.5	0.0	6.5	
	70代以上	65	73.8	66.2	44.6	47.7	32.3	27.7	15.4	20.0	32.3	20.0	30.8	24.6	10.8	12.3	10.8	6.2	0.0	4.6	7.7	9.2	
	10代	4	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	20代	27	88.9	59.3	66.7	77.8	88.9	81.5	70.4	55.6	51.9	59.3	25.9	29.6	55.6	3.7	3.7	11.1	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0
	30代	37	89.2	86.5	75.7	73.0	81.1	86.5	75.7	81.1	59.5	48.6	29.7	51.4	56.8	27.0	16.2	18.9	13.5	8.1	2.7	0.0	0.0
	40代	38	94.7	94.7	71.1	71.1	78.9	86.8	76.9	78.9	39.5	44.7	31.6	34.2	36.8	31.6	5.3	10.5	7.9	5.3	0.0	0.0	0.0
	50代	42	95.2	90.5	69.0	69.0	66.7	76.2	66.7	73.8	33.3	33.3	40.5	42.9	19.0	35.7	14.3	7.1	14.3	4.8	0.0	0.0	0.0
	60代	41	90.2	80.5	51.2	51.2	46.3	43.9	51.2	41.5	26.8	19.5	29.3	26.8	14.6	22.0	4.9	4.9	12.2	4.9	2.4	0.0	0.0
	70代以上	51	88.2	82.4	52.9	66.7	33.3	37.3	37.3	35.3	43.1	11.8	33.3	31.4	17.6	23.5	13.7	7.8	7.8	2.0	2.0	5.9	

<類似調査との比較>

一部同様の質問項目がある国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成28年）」と比べてみると、「男女雇用機会均等法」、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性差別撤廃条約」については武蔵野市の方が認知率が高い。一方、「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション」については国の調査の方が認知率が高いという結果になった（図表一問12-③）。

図表一問 12-③ 男女平等などに関する言葉の認知（全体、性別）【類似調査比較】



※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成28年）」

問 13

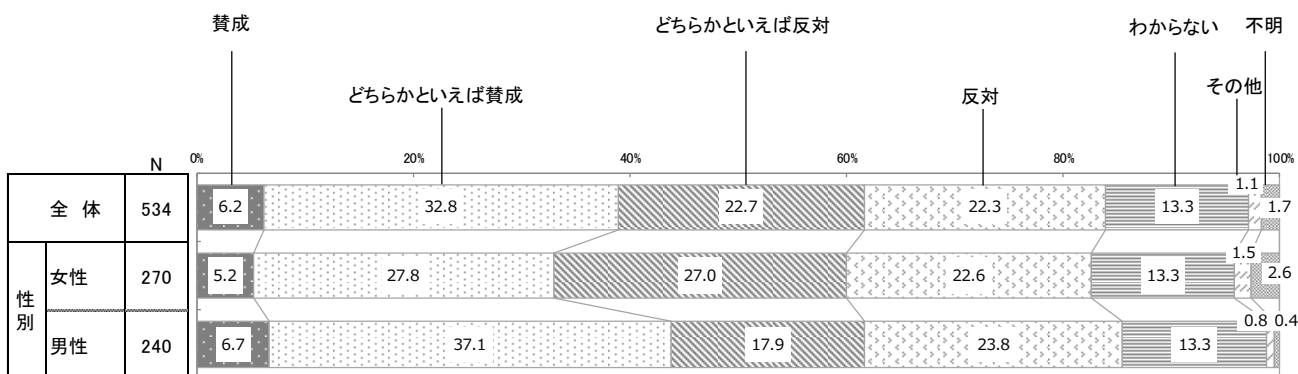
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうかお考えですか。この中から1つだけお答えください。(○は1つ)

賛成側の回答 39.0%に対し、反対側の回答は 45.0%と反対の比率が高い。ただし、男女別にみると、女性では反対側の比率が高い一方で、男性では賛成側が若干高い。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成側の回答は 39.0%、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた反対側の回答は 45.0%となっており、反対側の比率が高くなっている。

男女別にみると、女性では賛成側の回答 33.0%に対し反対側の回答 49.6%と、反対側が高いのに対し、男性では、賛成側 43.8%、反対側 41.7%と賛成側が若干高くなっている(図表一問 13—①)。

図表一問 13—① 夫婦役割分担 (全体、性別)



性・年代別でみると、女性では 20 代、30 代で反対側の意見が多い。一方、男性では、60 代、70 代以上で賛成側の意見が多くなっている(図表一問 13—②)。

図表一問 13—② 夫婦役割分担 (全体、性別、性・年代別)

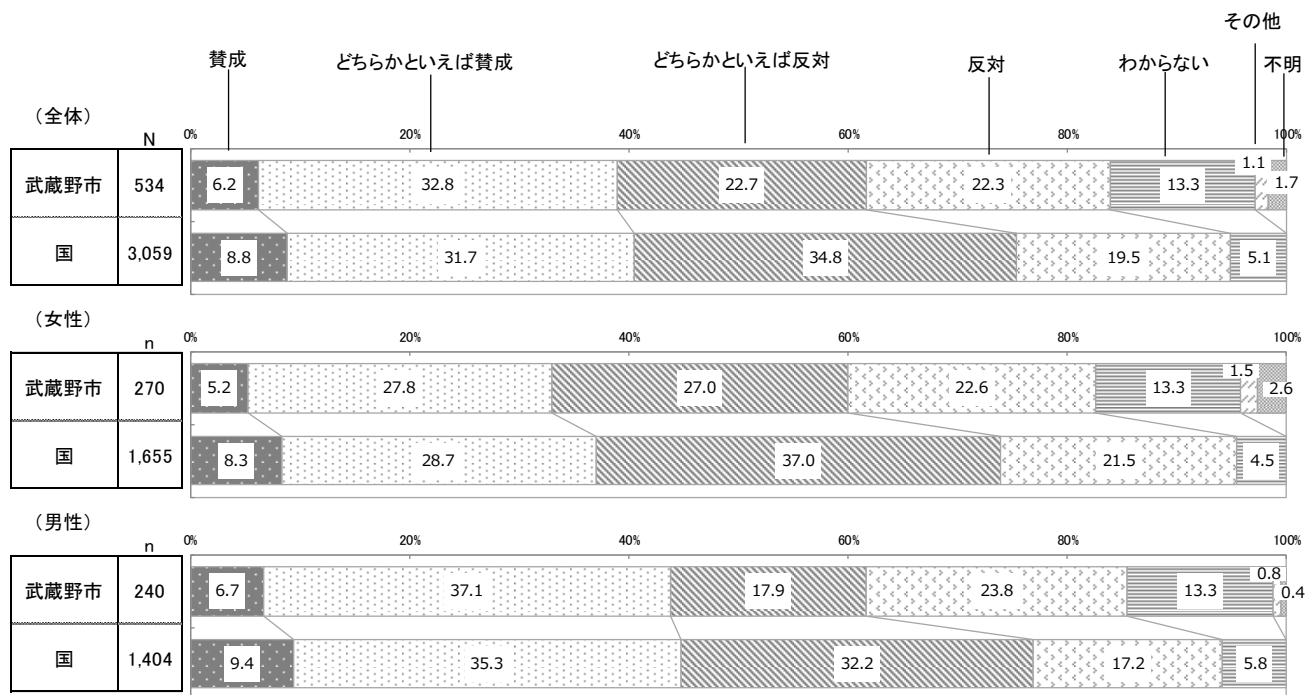
		N =	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	その他	不明	
全体		534	6.2	32.8	22.7	22.3	13.3	1.1	1.7	
性別	女性	270	5.2	27.8	27.0	22.6	13.3	1.5	2.6	
	男性	240	6.7	37.1	17.9	23.8	13.3	0.8	0.4	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	7.1	28.6	14.3	50.0	0.0	0.0	0.0
		30代	40	5.0	22.5	35.0	15.0	17.5	5.0	0.0
		40代	59	1.7	28.8	30.5	23.7	13.6	1.7	0.0
		50代	45	2.2	22.2	20.0	31.1	22.2	2.2	0.0
		60代	46	0.0	28.3	32.6	21.7	10.9	0.0	6.5
		70代以上	65	13.8	33.8	21.5	15.4	9.2	0.0	6.2
	男性	10代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	0.0	25.9	25.9	11.1	37.0	0.0	0.0
		30代	37	5.4	29.7	21.6	29.7	10.8	2.7	0.0
		40代	38	10.5	28.9	13.2	23.7	23.7	0.0	0.0
		50代	42	2.4	40.5	19.0	26.2	9.5	2.4	0.0
		60代	41	4.9	46.3	12.2	24.4	12.2	0.0	0.0
		70代以上	51	11.8	43.1	17.6	25.5	0.0	0.0	2.0

<類似調査との比較>

同様の質問項目がある国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」と比べてみると、市では、全体および女性で反対側の意見の回答率が高い一方で、国では、全体と女性だけでなく、男性においても、若干ではあるが、反対側の意見の回答率が高い。

また、全体、女性、男性いずれにおいても、市の調査の方が、国より、「わからない」という回答の比率が高くなっている（図表一問 13—③）。

図表一問 13—③ 夫婦役割分担（全体、性別）【類似調査比較】



※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」

問 14

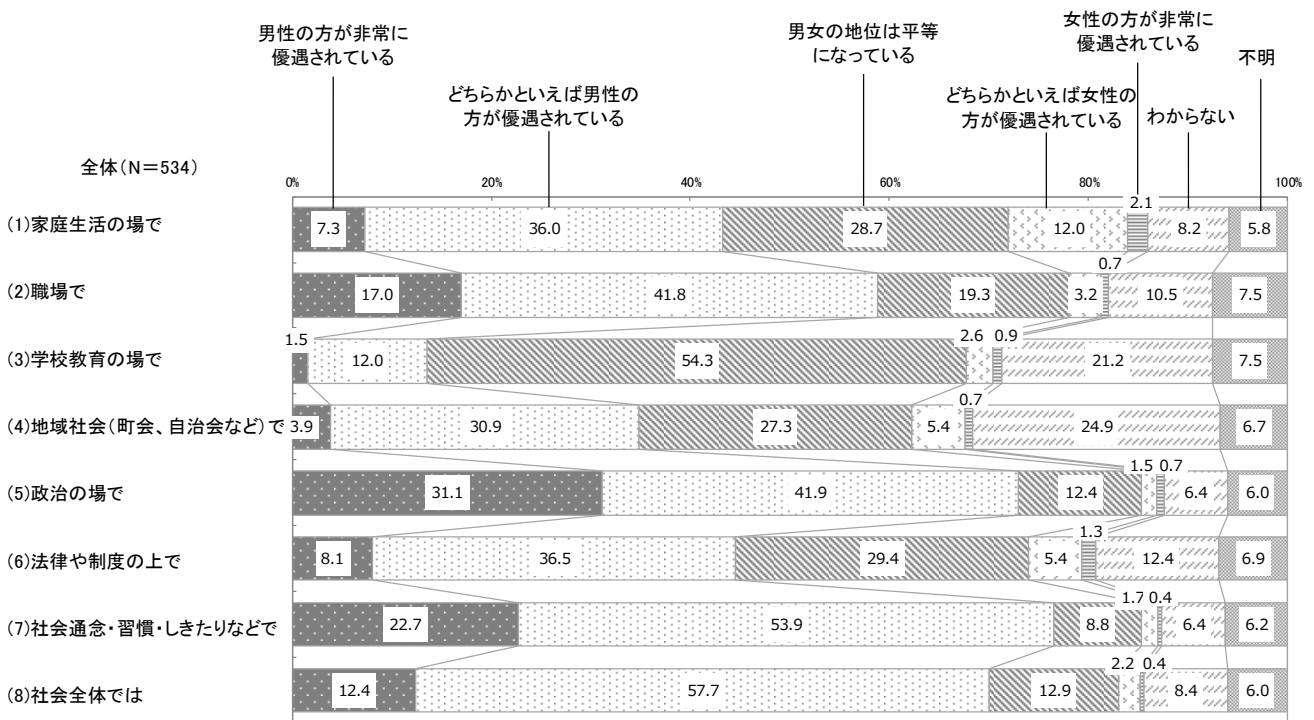
あなたは次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれについて○は1つ)

男女が平等になっていると半数以上の人を感じているのは学校教育の場のみ。社会全体では70.1%の人が男性優遇と答えている。男女別では女性の方が男性優遇の回答率が高い。

領域ごとに「男女の地位は平等になっている」の項目を比較してみると、最も回答率が高いのは「学校教育の場で」の54.3%で、ついで「法律や制度の上で」29.4%、「家庭生活の場で」28.7%、「地域社会で」27.3%、「職場で」19.3%と続いており、過半数で平等が進んでいると認識しているのは学校教育の場のみとなっている。

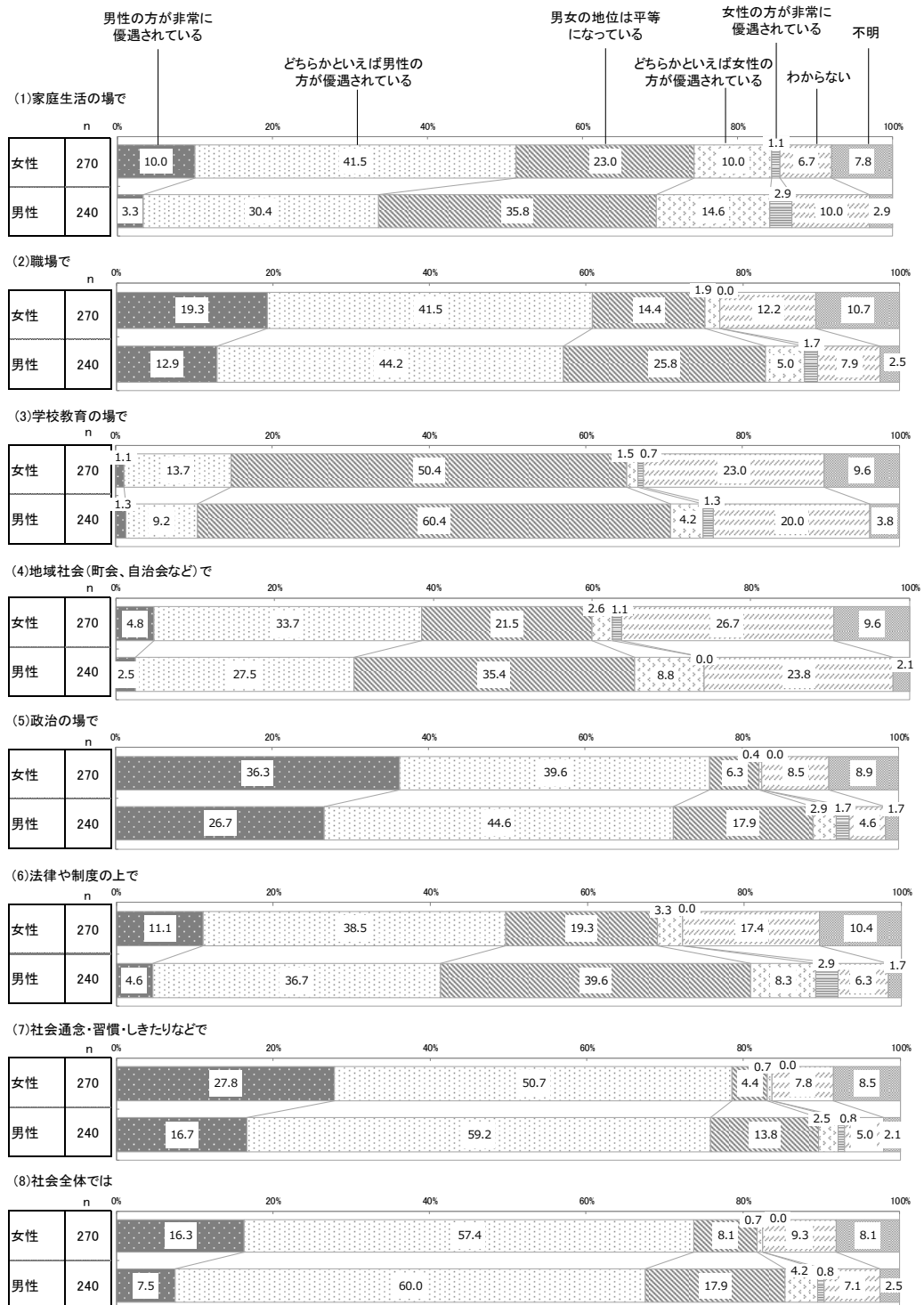
学校教育の場以外の領域では、全てにおいて男性の方が優遇されているの回答率が高く、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計すると、「社会通念・習慣・しきたりなどで」では76.6%、「政治の場で」では73.0%、「社会全体では」では70.1%の人が男性優遇と回答している（図表一問14-①）。

図表一問14-① 男女の地位の平等感（全体）



男女別に傾向をみると、全ての領域で、女性の方が「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた数値で男性優遇の回答率が高く、また「男女の地位は平等になっている」の回答率が低い（図表一問 14-②）。

図表一問 14-② 男女の地位の平等感（性別）



≪性・年代別の傾向≫

(1) 家庭生活の場で

性・年代別にみると、女性では特に20代から70代以上で、男性優遇の回答率が高い（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた合計値。以下同様）。一方、男性の20代から50代までは、男性優遇の回答率は低くなっている（図表一問14-③）。

図表一問14-③ 男女の地位の平等感（1）家庭生活の場で（全体、性別、性・年代別）

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	る女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	7.3	36.0	28.7	12.0	2.1	8.2	5.8	
性別	女性	270	10.0	41.5	23.0	10.0	1.1	6.7	7.8	
	男性	240	3.3	30.4	35.8	14.6	2.9	10.0	2.9	
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	7.1	50.0	21.4	14.3	0.0	0.0	7.1
		30代	40	10.0	32.5	32.5	5.0	5.0	12.5	2.5
		40代	59	3.4	40.7	25.4	18.6	1.7	5.1	5.1
		50代	45	8.9	42.2	26.7	13.3	0.0	8.9	0.0
		60代	46	10.9	41.3	26.1	8.7	0.0	6.5	6.5
		70代以上	65	16.9	46.2	10.8	1.5	0.0	4.6	20.0
	男性	10代	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	0.0	25.9	33.3	18.5	3.7	18.5	0.0
		30代	37	2.7	16.2	35.1	18.9	2.7	21.6	2.7
		40代	38	5.3	18.4	50.0	13.2	5.3	7.9	0.0
		50代	42	2.4	23.8	40.5	16.7	2.4	9.5	4.8
		60代	41	2.4	51.2	36.6	4.9	0.0	4.9	0.0
		70代以上	51	5.9	41.2	21.6	15.7	3.9	3.9	7.8

(2) 職場で

性・年代別にみると、女性では特に 20 代から 60 代で男性優遇の回答率が高い。一方、男性では、20 代、40 代、50 代で「男女の地位は平等になっている」の回答率が高く、30 代では女性優遇の回答率がやや高くなっている（図表一問 14—④）。

図表一問 14—④ 男女の地位の平等感（2）職場で（全体、性別、性・年代別）

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優	る女性の方が非常に優遇されてい	わからない	不明	
全体		534	17.0	41.8	19.3	3.2	0.7	10.5	7.5	
性別	女性	270	19.3	41.5	14.4	1.9	0.0	12.2	10.7	
	男性	240	12.9	44.2	25.8	5.0	1.7	7.9	2.5	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	21.4	42.9	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0
		30代	40	20.0	52.5	15.0	2.5	0.0	7.5	2.5
		40代	59	18.6	40.7	20.3	3.4	0.0	13.6	3.4
		50代	45	24.4	33.3	22.2	4.4	0.0	15.6	0.0
		60代	46	21.7	54.3	10.9	0.0	0.0	6.5	6.5
		70代以上	65	13.8	30.8	3.1	0.0	0.0	16.9	35.4
	男性	10代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	7.4	40.7	44.4	0.0	0.0	7.4	0.0
		30代	37	5.4	40.5	21.6	18.9	5.4	8.1	0.0
		40代	38	13.2	36.8	31.6	5.3	5.3	7.9	0.0
		50代	42	11.9	50.0	33.3	2.4	0.0	0.0	2.4
		60代	41	17.1	48.8	22.0	2.4	0.0	9.8	0.0
		70代以上	51	17.6	45.1	11.8	2.0	0.0	13.7	9.8

(3) 学校教育の場で

性・年代別にみると、女性では60代で男性優遇が26.1%。一方、男性では、20代、50代で「男女の地位は平等になっている」の回答は7割程度で、60代では男性優遇の回答が全体に比べ高くなっている(図表一問14-⑤)。

図表一問14-⑤ 男女の地位の平等感(3) 学校教育の場で(全体、性別、性・年代別)

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	る女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	1.5	12.0	54.3	2.6	0.9	21.2	7.5	
性別	女性	270	1.1	13.7	50.4	1.5	0.7	23.0	9.6	
	男性	240	1.3	9.2	60.4	4.2	1.3	20.0	3.8	
	その他	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	0.0	21.4	57.1	7.1	0.0	14.3	0.0
		30代	40	0.0	10.0	50.0	5.0	0.0	32.5	2.5
		40代	59	1.7	13.6	59.3	0.0	1.7	22.0	1.7
		50代	45	4.4	13.3	48.9	2.2	0.0	31.1	0.0
		60代	46	0.0	26.1	54.3	0.0	2.2	13.0	4.3
		70代以上	65	0.0	6.2	38.5	0.0	0.0	21.5	33.8
	男性	10代	4	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	3.7	3.7	66.7	14.8	0.0	11.1	0.0
		30代	37	2.7	5.4	48.6	8.1	0.0	35.1	0.0
		40代	38	0.0	13.2	55.3	5.3	2.6	23.7	0.0
		50代	42	0.0	2.4	78.6	2.4	0.0	14.3	2.4
		60代	41	0.0	22.0	51.2	0.0	0.0	24.4	2.4
		70代以上	51	2.0	5.9	60.8	0.0	3.9	13.7	13.7

(4) 地域社会（町会、自治会など）で

性・年代別にみると、女性では20代と60代で男性優遇の回答率が全体に比べ高い。一方、男性では、70代以上で「男女の地位は平等になっている」の回答率が高く、20代、30代では男性優遇の回答率が低い（図表一問14-⑥）。

図表一問14-⑥ 男女の地位の平等感（4）地域社会で（全体、性別、性・年代別）

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	3.9	30.9	27.3	5.4	0.7	24.9	6.7	
性別	女性	270	4.8	33.7	21.5	2.6	1.1	26.7	9.6	
	男性	240	2.5	27.5	35.4	8.8	0.0	23.8	2.1	
	その他	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	42.9	7.1	7.1	0.0	42.9	0.0
		30代	40	0.0	32.5	17.5	2.5	2.5	42.5	2.5
		40代	59	1.7	33.9	30.5	1.7	0.0	28.8	3.4
		50代	45	6.7	33.3	24.4	4.4	0.0	28.9	2.2
		60代	46	13.0	41.3	26.1	2.2	0.0	13.0	4.3
		70代以上	65	4.6	27.7	13.8	1.5	3.1	18.5	30.8
	男性	10代	4	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20代	27	0.0	22.2	33.3	14.8	0.0	29.6	0.0
		30代	37	2.7	16.2	35.1	10.8	0.0	35.1	0.0
		40代	38	2.6	26.3	28.9	7.9	0.0	34.2	0.0
		50代	42	2.4	35.7	31.0	7.1	0.0	23.8	0.0
		60代	41	7.3	31.7	34.1	2.4	0.0	24.4	0.0
		70代以上	51	0.0	29.4	45.1	11.8	0.0	3.9	9.8

(5)政治の場で

性・年代別にみると、女性では20代から60代で、男性では30代から60代で男性優遇の回答が70%を超えている(図表一問14-⑦)。

図表一問14-⑦ 男女の地位の平等感(5)政治の場で(全体、性別、性・年代別)

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	31.1	41.9	12.4	1.5	0.7	6.4	6.0	
性別	女性	270	36.3	39.6	6.3	0.4	0.0	8.5	8.9	
	男性	240	26.7	44.6	17.9	2.9	1.7	4.6	1.7	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	35.7	42.9	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0
		30代	40	50.0	30.0	7.5	0.0	0.0	10.0	2.5
		40代	59	32.2	40.7	10.2	0.0	0.0	15.3	1.7
		50代	45	48.9	44.4	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
		60代	46	39.1	45.7	4.3	0.0	0.0	4.3	6.5
		70代以上	65	21.5	36.9	7.7	0.0	0.0	4.6	29.2
	男性	10代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20代	27	11.1	40.7	22.2	7.4	0.0	18.5	0.0
		30代	37	27.0	54.1	13.5	2.7	2.7	0.0	0.0
		40代	38	23.7	50.0	13.2	2.6	5.3	5.3	0.0
		50代	42	38.1	40.5	16.7	2.4	0.0	2.4	0.0
		60代	41	24.4	51.2	19.5	0.0	2.4	2.4	0.0
		70代以上	51	29.4	35.3	21.6	3.9	0.0	2.0	7.8

(6)法律や制度の上で

性・年代別にみると、女性では50代と60代で、男性優遇の回答が60%を超える。一方、男性では、30代、50代、70代以上で「男女の地位は平等になっている」の回答が40%台となっており、20代では女性優遇の回答率がやや高くなっている（図表一問14-⑧）。

図表一問 14-⑧ 男女の地位の平等感（6）法律や制度の上で（全体、性別、性・年代別）

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	どどちらかといえば男性の方が優	男女の地位は平等になっている	どどちらかといえば女性の方が優	る女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	8.1	36.5	29.4	5.4	1.3	12.4	6.9	
性別	女性	270	11.1	38.5	19.3	3.3	0.0	17.4	10.4	
	男性	240	4.6	36.7	39.6	8.3	2.9	6.3	1.7	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	7.1	28.6	35.7	14.3	0.0	14.3	0.0
		30代	40	5.0	32.5	35.0	2.5	0.0	22.5	2.5
		40代	59	8.5	32.2	23.7	3.4	0.0	27.1	5.1
		50代	45	20.0	57.8	2.2	6.7	0.0	13.3	0.0
		60代	46	15.2	52.2	17.4	0.0	0.0	10.9	4.3
		70代以上	65	9.2	26.2	15.4	1.5	0.0	13.8	33.8
	男性	10代	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	0.0	25.9	37.0	18.5	7.4	11.1	0.0
		30代	37	8.1	16.2	43.2	10.8	8.1	13.5	0.0
		40代	38	2.6	50.0	31.6	7.9	2.6	5.3	0.0
		50代	42	0.0	45.2	42.9	7.1	0.0	4.8	0.0
		60代	41	9.8	43.9	36.6	2.4	2.4	4.9	0.0
		70代以上	51	5.9	33.3	43.1	7.8	0.0	2.0	7.8

(7)社会通念・習慣・しきたりなどで

性・年代別にみると、女性では20代、40代、50代、60代で、男性優遇の回答が80%を超える。一方、男性では、20代で「男女の地位は平等になっている」の回答率が22.2%、50代、60代では男性優遇という回答が90%を超えている（図表一問14-⑨）。

図表一問 14-⑨ 男女の地位の平等感 (7) 社会通念・習慣・しきたりなどで (全体、性別、性・年代別)

		N =	る男性の方が非常に優遇されている	遇どちらかといえば男性の方が優	男女の地位は平等になっている	遇どちらかといえば女性の方が優	る女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	22.7	53.9	8.8	1.7	0.4	6.4	6.2	
性別	女性	270	27.8	50.7	4.4	0.7	0.0	7.8	8.5	
	男性	240	16.7	59.2	13.8	2.5	0.8	5.0	2.1	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	35.7	50.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
		30代	40	22.5	55.0	10.0	0.0	0.0	10.0	2.5
		40代	59	28.8	52.5	5.1	0.0	0.0	11.9	1.7
		50代	45	42.2	48.9	4.4	2.2	0.0	2.2	0.0
		60代	46	32.6	56.5	2.2	0.0	0.0	4.3	4.3
		70代以上	65	15.4	44.6	1.5	1.5	0.0	7.7	29.2
	男性	10代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20代	27	7.4	55.6	22.2	7.4	0.0	7.4	0.0
		30代	37	21.6	40.5	16.2	8.1	2.7	10.8	0.0
		40代	38	13.2	55.3	18.4	0.0	2.6	10.5	0.0
		50代	42	16.7	73.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
		60代	41	19.5	73.2	4.9	0.0	0.0	2.4	0.0
		70代以上	51	17.6	56.9	13.7	2.0	0.0	0.0	9.8

(8)社会全体では

性・年代別にみると、女性では50代、60代で、男性優遇の回答が80%を超えている。一方、男性では、30代と40代で「男女の地位は平等になっている」の回答率が高く、60代では男性優遇の回答率が高くなっている（図表一問14-⑩）。

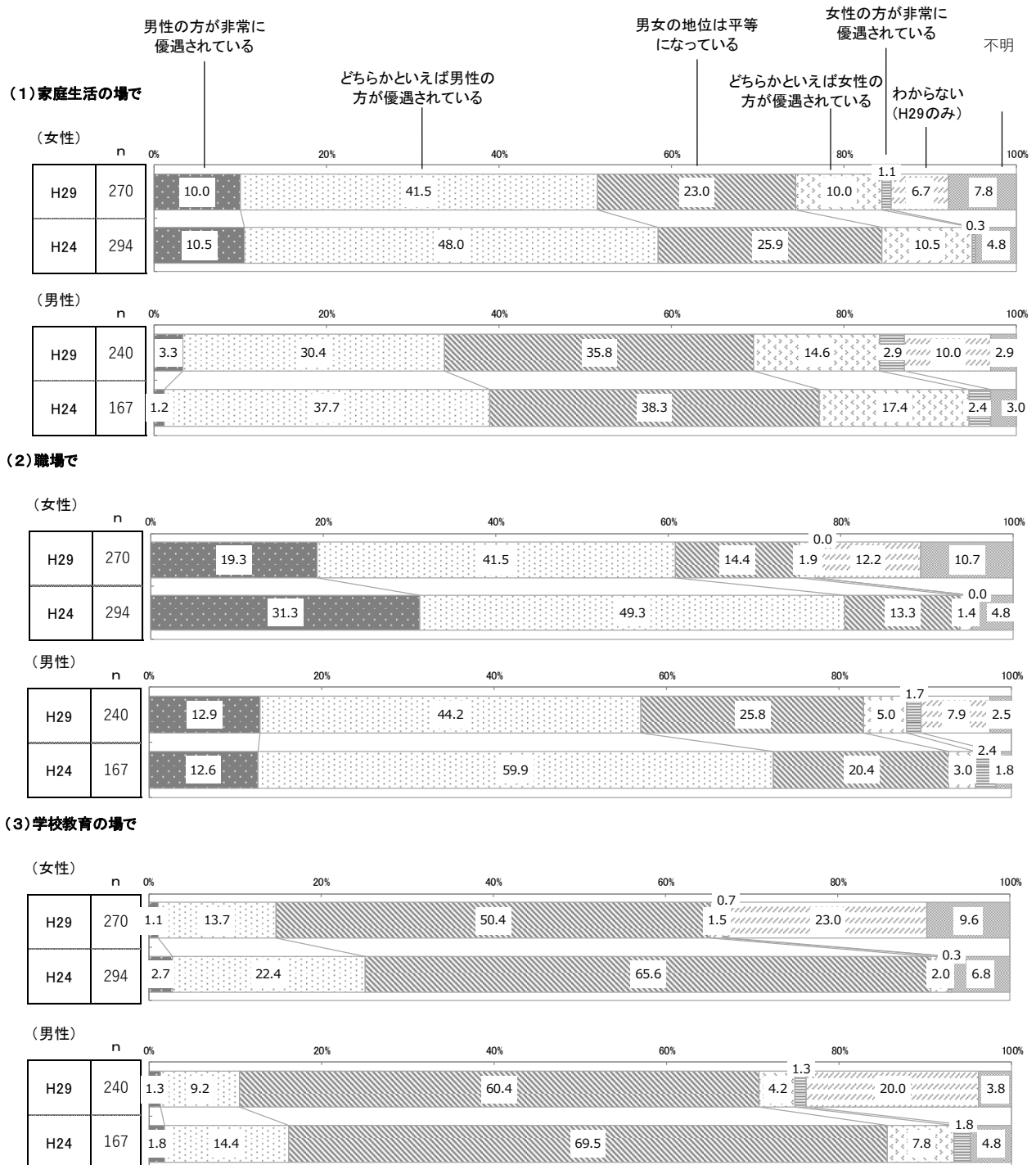
図表一問14-⑩ 男女の地位の平等感 (8) 社会全体では (全体、性別、性・年代別)

		N =	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明	
全体		534	12.4	57.7	12.9	2.2	0.4	8.4	6.0	
性別	女性	270	16.3	57.4	8.1	0.7	0.0	9.3	8.1	
	男性	240	7.5	60.0	17.9	4.2	0.8	7.1	2.5	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
		20代	14	14.3	64.3	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0
		30代	40	10.0	65.0	12.5	0.0	0.0	10.0	2.5
		40代	59	13.6	62.7	8.5	1.7	0.0	11.9	1.7
		50代	45	26.7	57.8	4.4	2.2	0.0	8.9	0.0
		60代	46	21.7	67.4	4.3	0.0	0.0	2.2	4.3
		70代以上	65	12.3	40.0	10.8	0.0	0.0	9.2	27.7
	男性	10代	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20代	27	0.0	55.6	14.8	11.1	0.0	18.5	0.0
		30代	37	2.7	45.9	24.3	13.5	2.7	10.8	0.0
		40代	38	2.6	63.2	23.7	0.0	2.6	7.9	0.0
		50代	42	9.5	66.7	16.7	4.8	0.0	2.4	0.0
		60代	41	14.6	70.7	7.3	0.0	0.0	4.9	2.4
		70代以上	51	11.8	56.9	19.6	0.0	0.0	2.0	9.8

＜経年比較＞

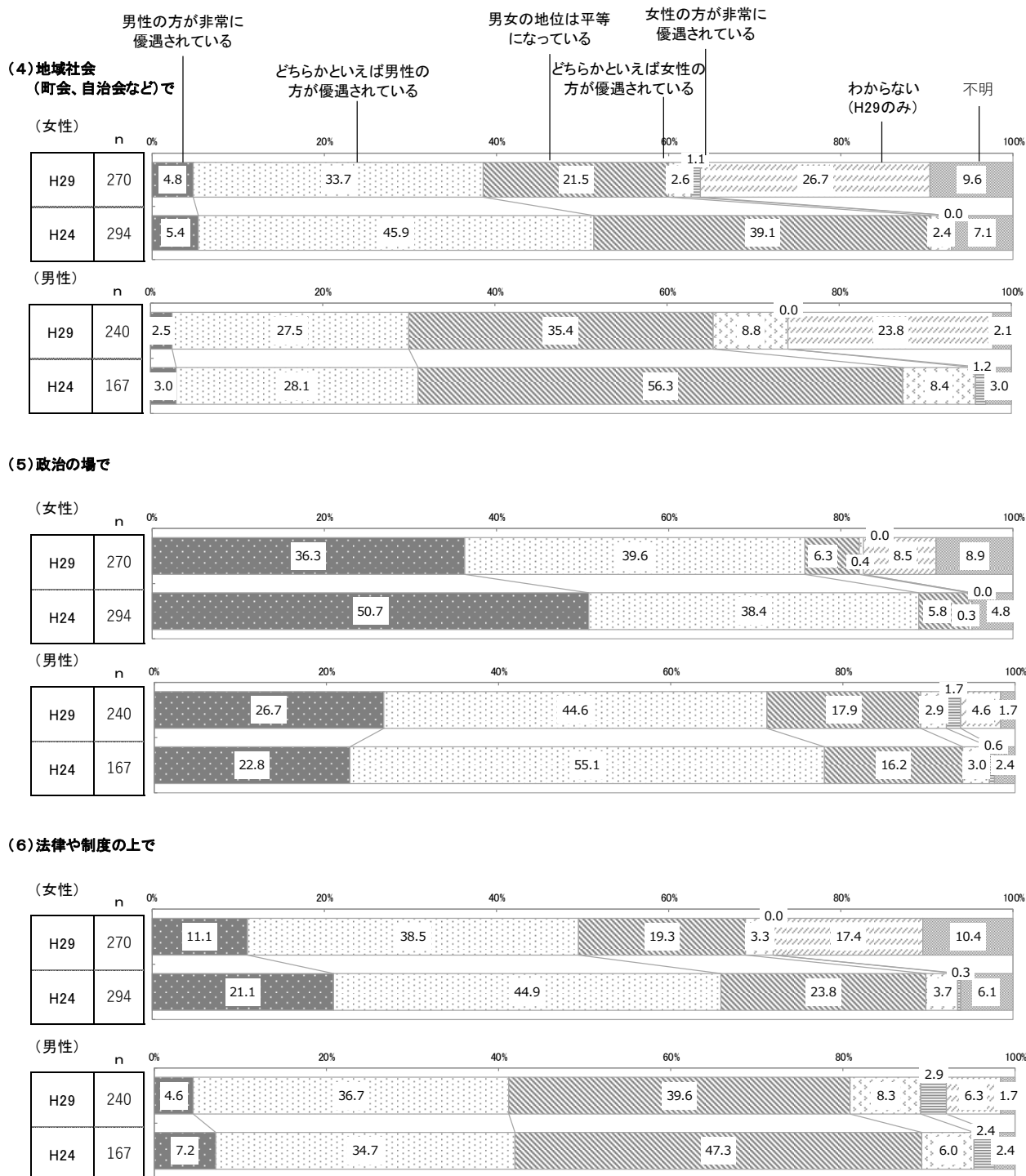
平成 24 年調査と本調査を比較すると、「家庭生活の場で」「職場で」「学校教育の場で」のいずれにおいても、「非常に優遇されている」「どちらかといえば優遇されている」の計でみて、平成 24 年調査より今回の方が、男性の方が優遇されているの回答率が、男女ともに低下している（図表一問 14—⑪）。

図表一問 14—⑪ 男女の地位の平等感（性別）/家庭生活・職場・学校教育【経年比較】



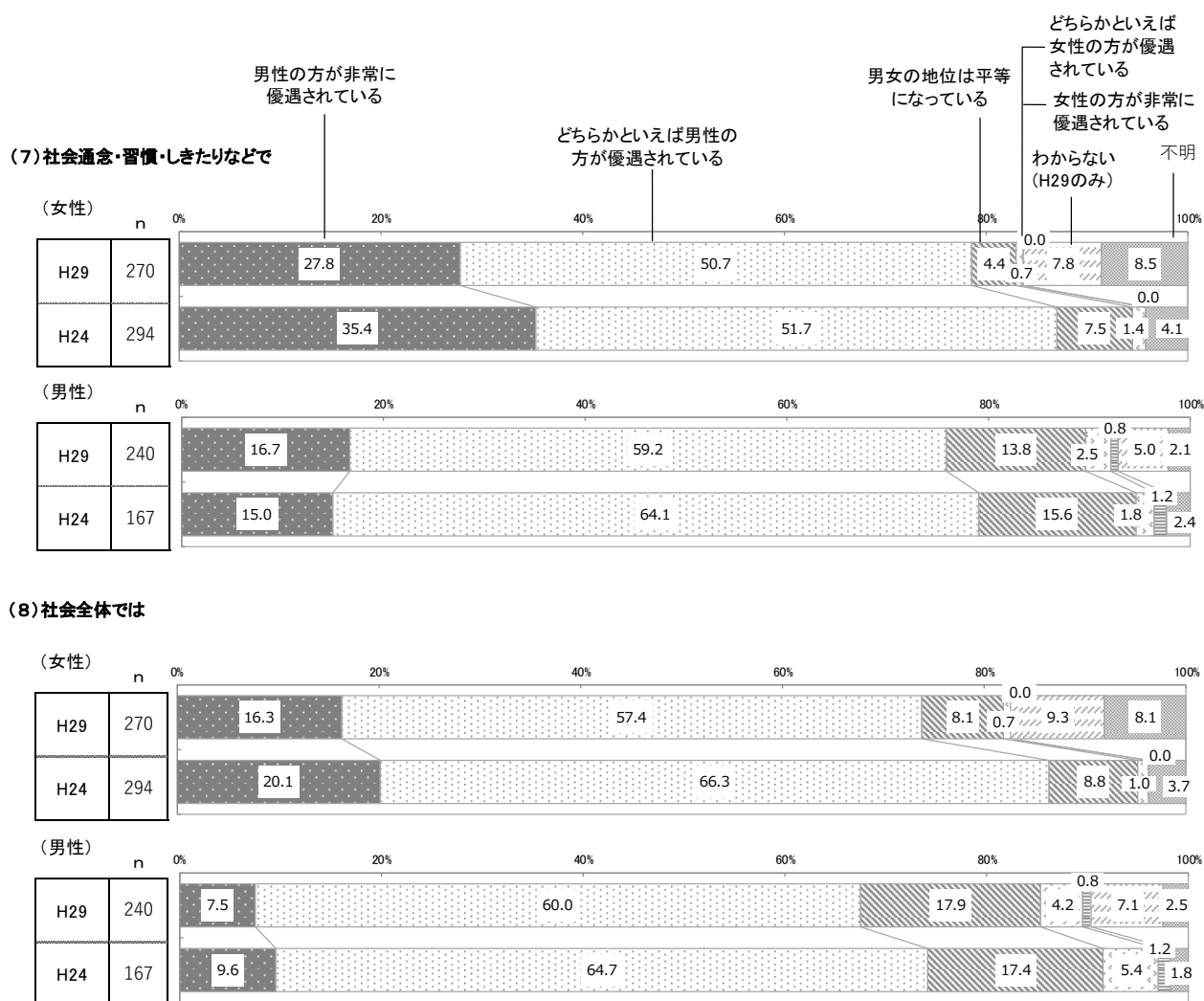
「地域社会で」「政治の場で」「法律や制度の上で」でも、「非常に優遇されている」「どちらかといえば優遇されている」の計でみて、平成 24 年調査より今回の方が、男性の方が優遇されているの回答率が、男女ともに低下している（図表一問 14—⑫）。

図表一問 14—⑫ 男女の地位の平等感（性別）/地域社会・政治・法律や制度【経年比較】



「社会通念・習慣・しきたりなどで」「社会全体では」でも、「非常に優遇されている」「どちらかといえば優遇されている」の計でみて、平成 24 年調査より今回の方が、男性の方が優遇されているへの回答率が、男女ともに低下している（図表一問 14—⑬）。

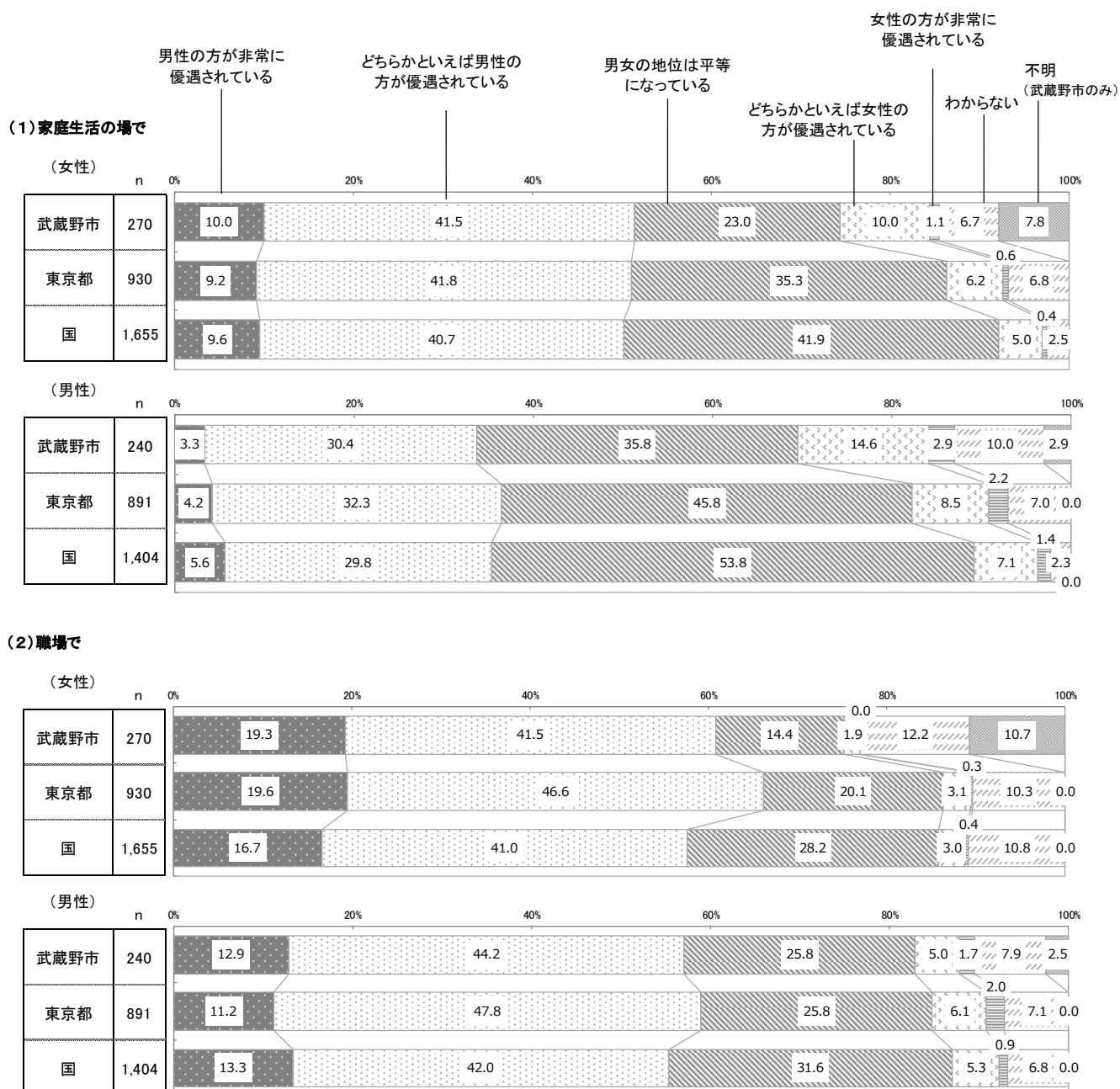
図表一問 14—⑬ 男女の地位の平等感（性別）/社会通念・社会全体【経年比較】



<類似調査との比較>

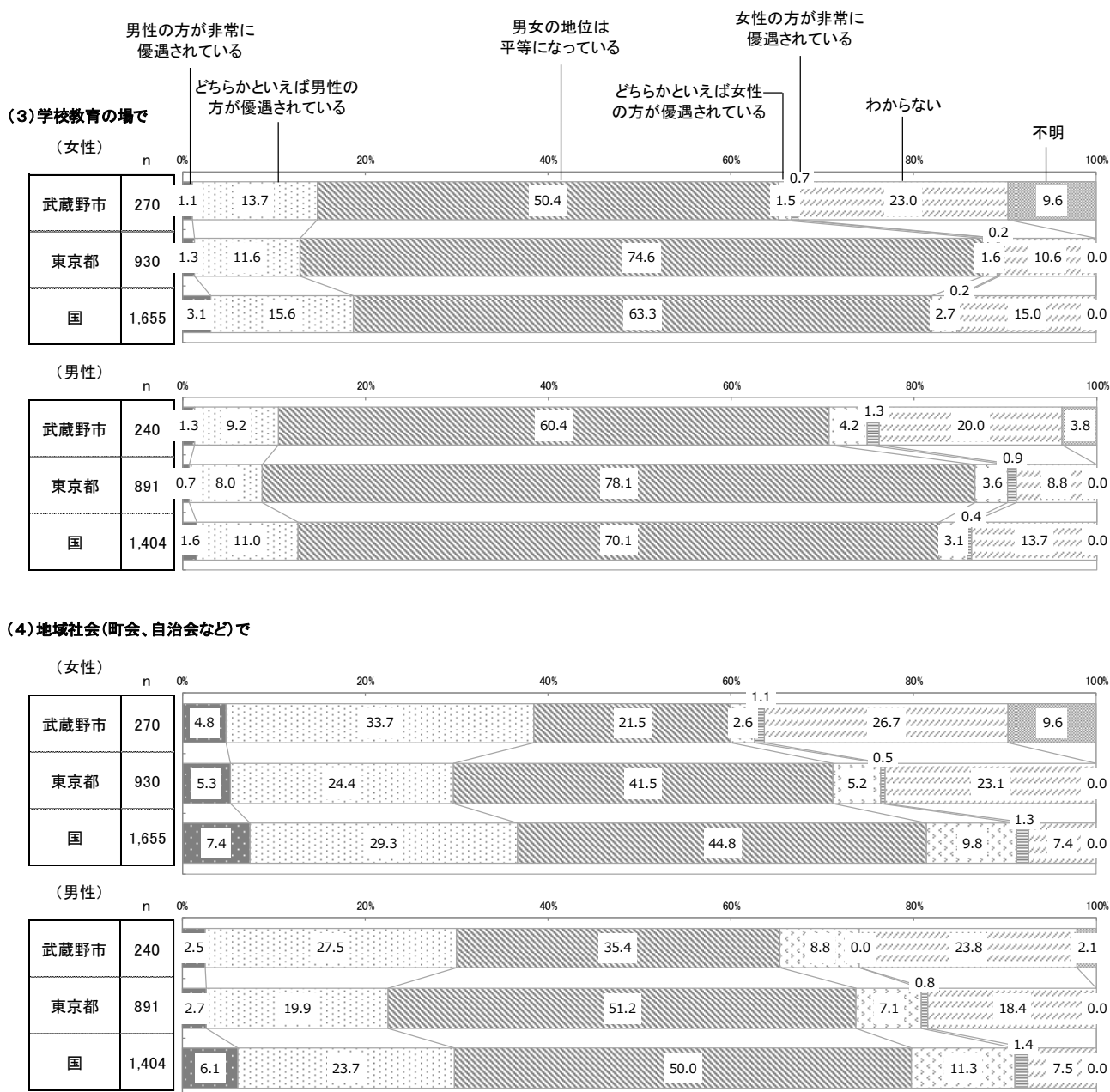
同様の質問項目がある国の「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」及び東京都の「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」と比べてみると、「家庭生活の場で」と「職場で」の双方において、男女とも、武蔵野市より都、都より国の方が、「男女の地位は平等になっている」の回答率が高い（ただし、「職場で」の男性についてのみ、武蔵野市と都の数値が同率となっている）（図表一問 14—⑭）。

図表一問 14—⑭ 男女の地位の平等感（性別）/家庭生活・職場【類似調査比較】



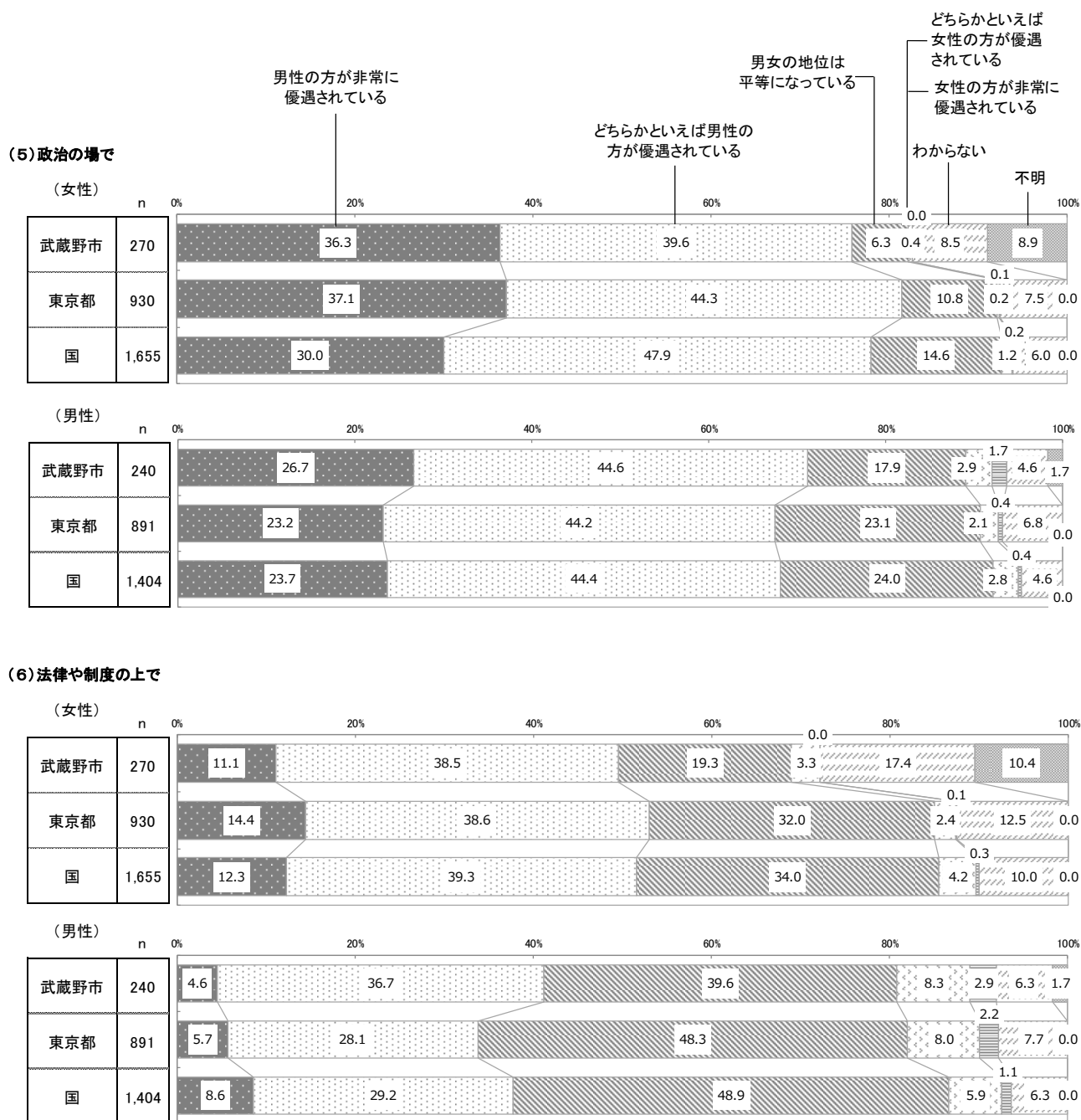
「学校教育の場で」においては、「男女の地位は平等になっている」について、武蔵野市より国、国より都の方が男女とも回答率が高い。一方、「地域社会で」においては、女性は、武蔵野市より都、都より国の回答率が高いが、男性では武蔵野市より国、国より都の回答率が高くなっている（図表一問14-⑮）。

図表一問 14-⑮ 男女の地位の平等感（性別）/学校教育・地域社会【類似調査比較】



「政治の場で」「法律や制度の上で」双方において、「男女の地位は平等になっている」について、武蔵野市より都、都より国の方が男女とも回答率が高い（図表一問 14—⑯）。

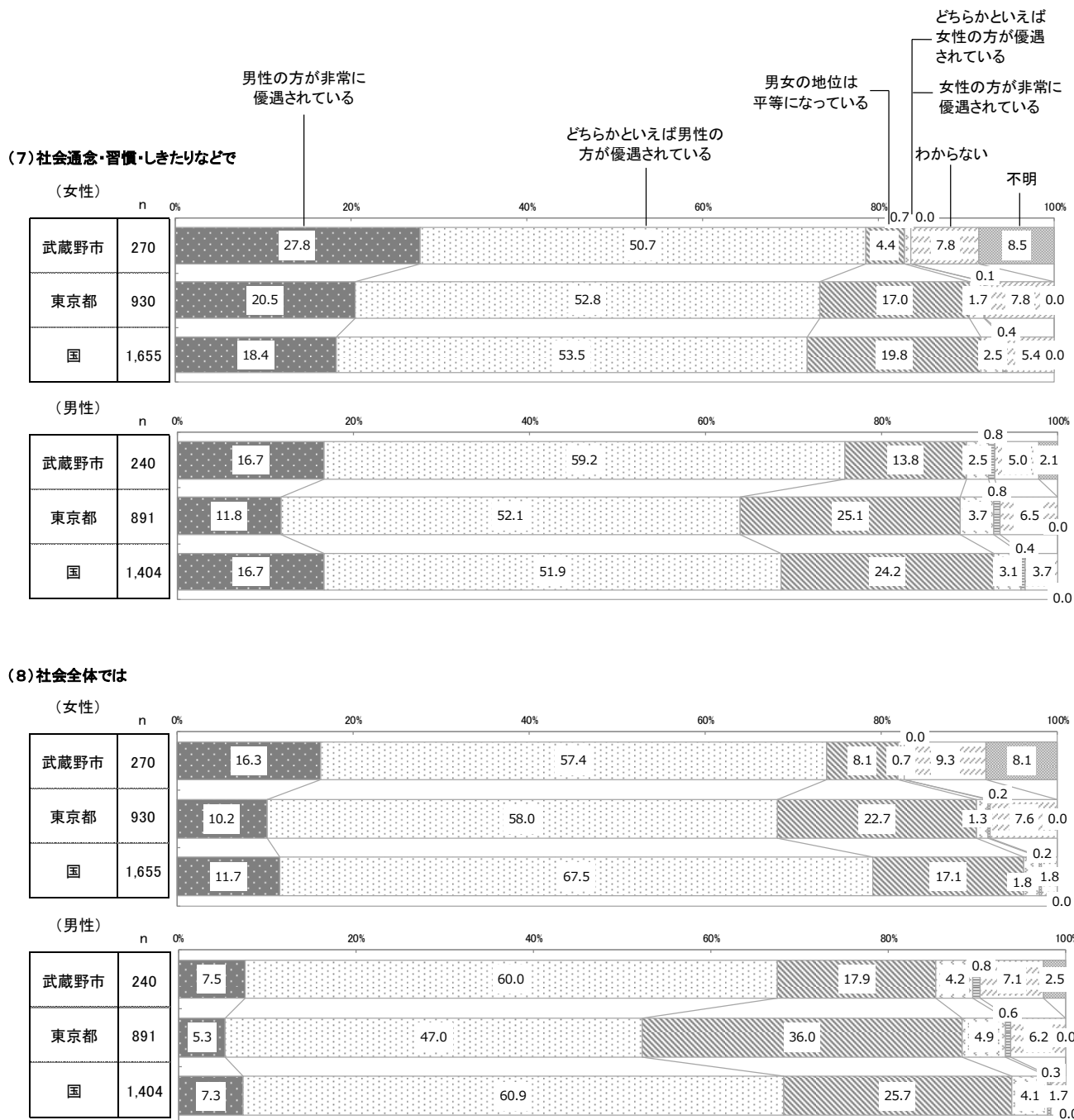
図表一問 14—⑯ 男女の地位の平等感（性別）/政治・法律や制度【類似調査比較】



「社会通念・習慣・しきたりなどで」においては、「男女の地位は平等になっている」について、女性では武蔵野市より都、都より国の方が回答率が高い。一方、男性では、市より国、国より都の方が回答率が高くなっている。

「社会全体では」については、男女とも武蔵野市より国、国より都の回答率が高くなっている（図表一問 14—⑰）。

図表一問 14—⑰ 男女の地位の平等感（性別）/社会通念・社会全体【類似調査比較】



※「地域社会（町会、自治会など）で」が東京都調査では「自治会やNPOなどの地域活動の場」、

国調査では「自治会やPTAなどの地域活動の場」になっている。

※東京都調査では「社会全体では」が「全体として」になっている。

※東京都調査は「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」

※国の調査は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年）」

※調査対象者の年齢は、武蔵野市、国は 18 歳以上、東京都は 20 歳以上である。

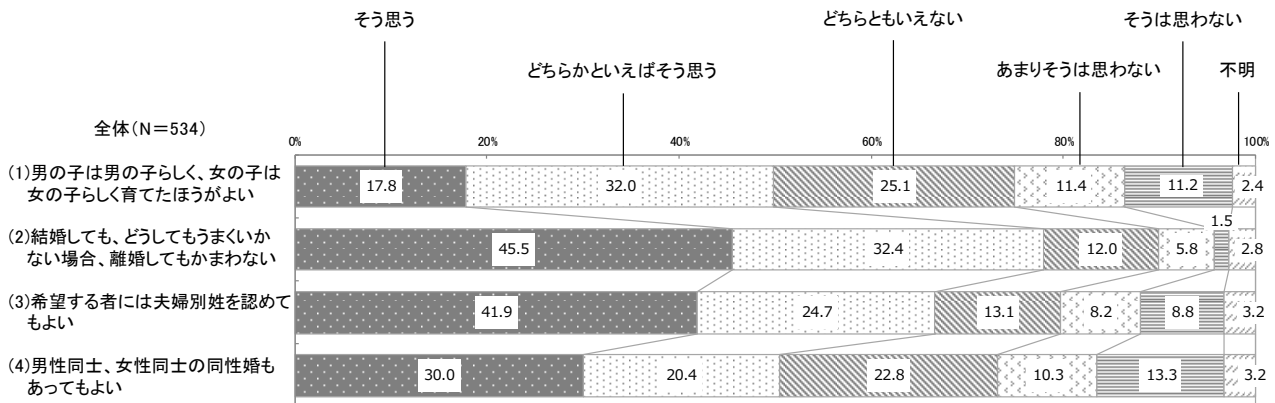
問 15

次にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれについて○は1つ)

「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて77.9%、「希望する者には夫婦別姓を認めても良い」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて66.6%。

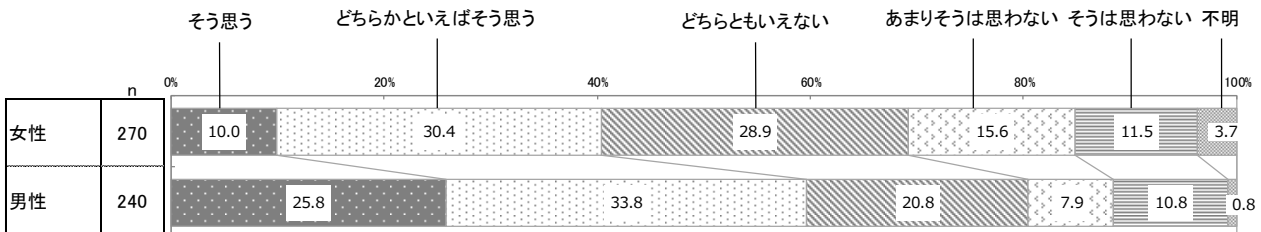
全体では、「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が77.9%と最も高く、「希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」は66.6%、「男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい」は50.4%となっている(図表一問15-①)。男女別では、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」を除き、女性の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率が高い(図表一問15-②)。

図表一問 15-① 男女の役割や子育てに対する考え方(全体)

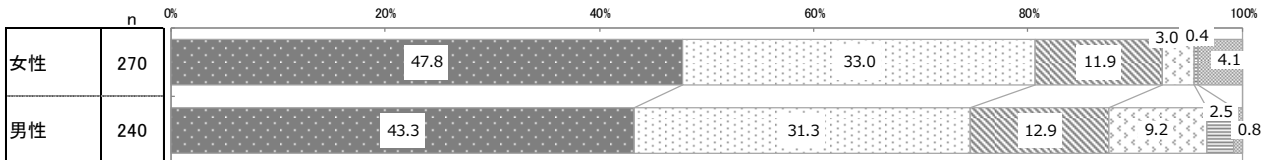


図表一問 15-② 男女の役割や子育てに対する考え方(性別)

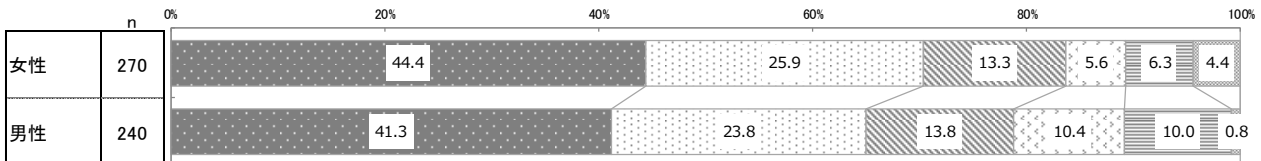
(1)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい



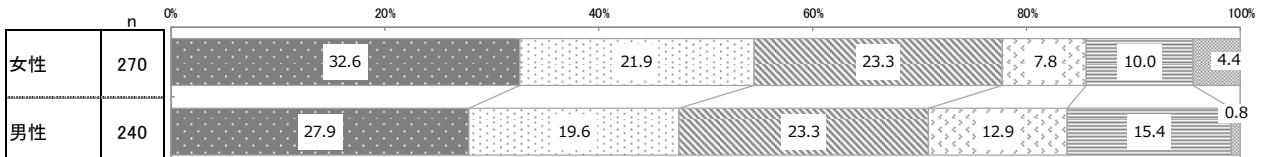
(2)結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない



(3)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい



(4)男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい



<性・年代別の傾向>

(1) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい

性・年代別にみると、女性では20代で「どちらともいえない」、30代、50代、60代で、「思わない」「そうは思わない」と「あまりそうは思わない」を合わせた合計値。以下同様)の回答が30%を超える。一方、男性の60代以上では「思う」「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた合計値。以下同様)の回答が70%を超える(図表一問15-③)。

図表一問15-③ 男女の役割や子育てに対する考え方

(1) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい(全体、性別、性・年代別)

		N =	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	不 明	
全体		534	17.8	32.0	25.1	11.4	11.2	2.4	
性別	女性	270	10.0	30.4	28.9	15.6	11.5	3.7	
	男性	240	25.8	33.8	20.8	7.9	10.8	0.8	
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	7.1	35.7	42.9	14.3	0.0	0.0
		30代	40	2.5	30.0	27.5	20.0	17.5	2.5
		40代	59	5.1	42.4	30.5	13.6	8.5	0.0
		50代	45	6.7	31.1	28.9	13.3	20.0	0.0
		60代	46	10.9	23.9	28.3	21.7	10.9	4.3
		70代以上	65	21.5	21.5	26.2	12.3	7.7	10.8
	男性	10代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	18.5	22.2	25.9	14.8	18.5	0.0
		30代	37	16.2	24.3	29.7	10.8	18.9	0.0
		40代	38	21.1	31.6	34.2	7.9	5.3	0.0
		50代	42	19.0	42.9	14.3	14.3	9.5	0.0
		60代	41	29.3	41.5	14.6	4.9	9.8	0.0
		70代以上	51	43.1	33.3	11.8	0.0	7.8	3.9

(2) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない

性・年代別にみると、女性では特に20代、30代で「そう思う」の回答が60%を超える（図表一問15-④）。

図表一問15-④ 男女の役割や子育てに対する考え方

(2) 結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない（全体、性別、性・年代別）

		N =	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	不 明	
全体		534	45.5	32.4	12.0	5.8	1.5	2.8	
性別	女性	270	47.8	33.0	11.9	3.0	0.4	4.1	
	男性	240	43.3	31.3	12.9	9.2	2.5	0.8	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0
		30代	40	67.5	17.5	7.5	5.0	0.0	2.5
		40代	59	50.8	39.0	6.8	3.4	0.0	0.0
		50代	45	44.4	40.0	13.3	2.2	0.0	0.0
		60代	46	43.5	37.0	13.0	2.2	0.0	4.3
		70代以上	65	33.8	32.3	16.9	3.1	1.5	12.3
	男性	10代	4	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	40.7	40.7	3.7	11.1	3.7	0.0
		30代	37	43.2	27.0	13.5	13.5	2.7	0.0
		40代	38	52.6	28.9	10.5	5.3	2.6	0.0
		50代	42	50.0	28.6	14.3	2.4	4.8	0.0
		60代	41	39.0	31.7	17.1	12.2	0.0	0.0
		70代以上	51	37.3	33.3	13.7	9.8	2.0	3.9

(3) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい

性・年代別にみると、女性では特に30代、40代で「思う」の回答が80%を超える。一方、男性では、40代、50代で「思う」の回答が70%を超えている（図表一問15-⑤）。

図表一問15-⑤ 男女の役割や子育てに対する考え方

(3) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい（全体、性別、性・年代別）

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明		
		N =							
全体		534	41.9	24.7	13.1	8.2	8.8	3.2	
性別	女性	270	44.4	25.9	13.3	5.6	6.3	4.4	
	男性	240	41.3	23.8	13.8	10.4	10.0	0.8	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	50.0	28.6	0.0	14.3	7.1	0.0
		30代	40	60.0	27.5	7.5	0.0	2.5	2.5
		40代	59	52.5	30.5	6.8	5.1	5.1	0.0
		50代	45	51.1	24.4	15.6	6.7	2.2	0.0
		60代	46	39.1	23.9	17.4	6.5	8.7	4.3
		70代以上	65	24.6	23.1	21.5	6.2	10.8	13.8
	男性	10代	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	44.4	22.2	7.4	14.8	11.1	0.0
		30代	37	37.8	24.3	13.5	10.8	13.5	0.0
		40代	38	52.6	23.7	5.3	7.9	10.5	0.0
		50代	42	38.1	33.3	16.7	7.1	4.8	0.0
		60代	41	41.5	24.4	14.6	17.1	2.4	0.0
		70代以上	51	35.3	17.6	17.6	7.8	17.6	3.9

(4) 男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい

性・年代別にみると、女性では30代、40代、50代で「思う」の回答が60%を超えており、特に30代では82.5%である。一方、男性では、20代で「思う」の回答が74.0%、70代以上では「思わない」が53.0%となっている(図表一問15-⑥)。

図表一問15-⑥ 男女の役割や子育てに対する考え方

(4) 男性同士、女性同士の同性婚があってもよい(全体、性別、性・年代別)

		N =	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う は 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	不 明	
全体		534	30.0	20.4	22.8	10.3	13.3	3.2	
性別	女性	270	32.6	21.9	23.3	7.8	10.0	4.4	
	男性	240	27.9	19.6	23.3	12.9	15.4	0.8	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	35.7	14.3	35.7	7.1	7.1	0.0
		30代	40	60.0	22.5	12.5	0.0	2.5	2.5
		40代	59	35.6	37.3	15.3	6.8	5.1	0.0
		50代	45	40.0	20.0	26.7	4.4	8.9	0.0
		60代	46	21.7	23.9	34.8	8.7	6.5	4.3
		70代以上	65	15.4	9.2	23.1	15.4	23.1	13.8
	男性	10代	4	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	40.7	33.3	18.5	7.4	0.0	0.0
		30代	37	29.7	29.7	24.3	5.4	10.8	0.0
		40代	38	39.5	21.1	21.1	5.3	13.2	0.0
		50代	42	26.2	21.4	31.0	11.9	9.5	0.0
		60代	41	29.3	9.8	22.0	19.5	19.5	0.0
		70代以上	51	9.8	11.8	21.6	21.6	31.4	3.9

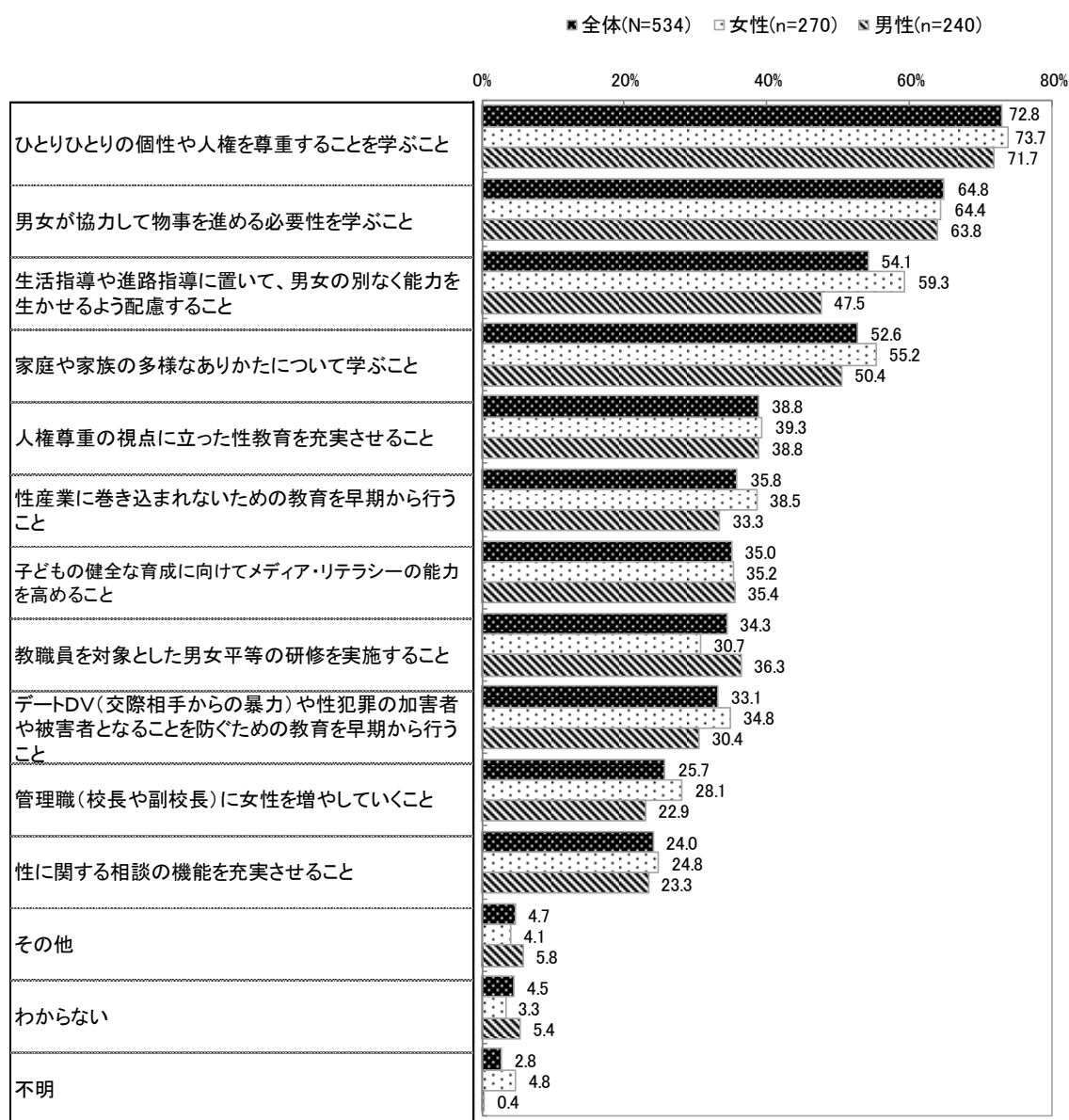
問 16

児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思いますか。(○はいくつでも)

最も回答率が高いのは「個性や人権の尊重」の72.8%、ついで「男女の協力」64.8%、「男女の別のない生活・進路指導」54.1%が続く。

全体では、「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が72.8%で最も高く、ついで「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと」(64.8%)、「生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること」(54.1%)と続いている。女性では「生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること」が59.3%と男性を11.8ポイント上回っている(図表一問16-①)。

図表一問16-① 男女平等意識を育てるために学校教育で必要な取り組み(全体、性別)



性・年代別にみると、女性では20代で、多数の項目での回答率が高くなっている。男性で比較的多くの選択肢で回答率が高いのは60代となっている（図表一問16-②）。

図表一問16-② 男女平等意識を育てるために学校教育に必要な取り組み（全体、性別、性・年代別）

		N=	重 んじ り こ と を 学 ぶ こ と	ひ と り の こ と を 学 ぶ こ と	要 求 を 学 ぶ こ と	男 女 が 協 力 し て 物 事 を 進 め る 必 要 を 学 ぶ こ と	男 女 の 別 な こ と を 考 え る こ と	生 活 指 導 や 進 路 指 導 に 置 い て 、 男 女 	家 庭 や 家 族 の 多 様 な あ り か た に つ い て 学 ぶ こ と	人 権 尊 重 の 視 点 に 立 っ た 性 教 育 を 充 実 さ せ る こ と	性 産 業 に 巻 き 込 ま れ な い た め の 教 育 を 早 期 か ら 行 う こ と	め る こ と	子 ど も の 健 全 な 育 成 に 向 け て メ デ ィ ア ・ リ テ ラ シ ー の 能 力 を 高 め る こ と	研 修 を 実 施 す る こ と	教 職 員 を 対 象 と し た 男 女 平 等 の 研 究 を 実 施 す る こ と	早 期 か ら 行 う こ と	力 ） や 性 犯 罪 の 加 害 者 や 被 害 者 と な る こ と を 防 ぐ た め の 教 育 を 早 期 か ら 行 う こ と	管 理 職 （ 校 長 や 副 校 長 ） に 女 性 を 増 や し て い く こ と	性 に 関 す る 相 談 の 機 能 を 充 実 さ せ る こ と	そ の 他	わ か ら な い	不 明
	全体	534	72.8	64.8	54.1	52.6	38.8	35.8	35.0	34.3	33.1	25.7	24.0	4.7	4.5	2.8						
性別	女性	270	73.7	64.4	59.3	55.2	39.3	38.5	35.2	30.7	34.8	28.1	24.8	4.1	3.3	4.8						
	男性	240	71.7	63.8	47.5	50.4	38.8	33.3	35.4	36.3	30.4	22.9	23.3	5.8	5.4	0.4						
	その他	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0						
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
		20代	14	85.7	78.6	64.3	85.7	35.7	14.3	64.3	21.4	21.4	42.9	21.4	0.0	0.0	0.0					
		30代	40	77.5	50.0	62.5	55.0	42.5	47.5	42.5	30.0	40.0	37.5	30.0	7.5	0.0	2.5					
		40代	59	74.6	59.3	37.3	62.7	37.3	42.4	33.9	27.1	33.9	18.6	18.6	1.7	5.1	1.7					
		50代	45	80.0	64.4	71.1	62.2	42.2	37.8	42.2	40.0	35.6	26.7	35.6	8.9	4.4	2.2					
		60代	46	80.4	67.4	67.4	54.3	39.1	37.0	21.7	30.4	37.0	28.3	23.9	4.3	2.2	2.2					
		70代以上	65	58.5	72.3	63.1	38.5	38.5	36.9	30.8	29.2	33.8	27.7	21.5	1.5	4.6	13.8					
	男性	10代	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0					
		20代	27	55.6	40.7	37.0	37.0	22.2	29.6	40.7	14.8	29.6	7.4	18.5	3.7	14.8	0.0					
		30代	37	83.8	51.4	32.4	59.5	37.8	24.3	40.5	27.0	29.7	27.0	29.7	8.1	5.4	0.0					
		40代	38	71.1	60.5	55.3	57.9	47.4	52.6	42.1	31.6	47.4	21.1	28.9	5.3	5.3	0.0					
		50代	42	73.8	69.0	59.5	45.2	35.7	33.3	38.1	38.1	28.6	21.4	23.8	7.1	4.8	0.0					
		60代	41	90.2	80.5	48.8	46.3	53.7	29.3	26.8	51.2	26.8	29.3	22.0	2.4	0.0	0.0					
		70代以上	51	58.8	72.5	51.0	56.9	35.3	33.3	31.4	47.1	25.5	27.5	19.6	3.9	3.9	2.0					

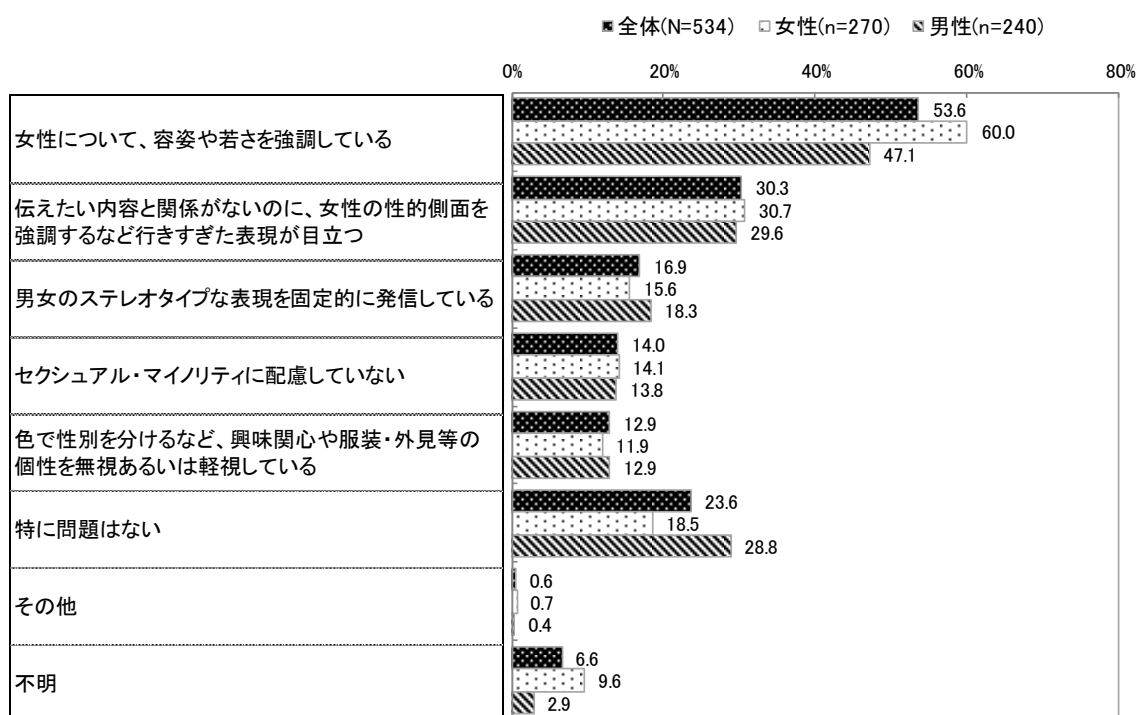
問 17

テレビや雑誌、インターネットなどのメディアが発信する表現について、あなたは日頃どのように感じますか。(〇はいくつでも)

「女性の容姿や若さの強調」が全体で 53.6%

全体では、「女性について、容姿や若さを強調している」が 53.6%で最も高く、ついで「伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ」(30.3%)が続いている。女性では、「女性について、容姿や若さを強調している」の回答率が 60.0%と男性を 12.9ポイント上回っている(図表一問 17-①)。

図表一問 17-① メディアが発信する表現について感じること(全体、性別)



性・年代別で見ると、女性の20代、30代で「女性について、容姿や若さを強調している」が全体より25ポイント以上上回っており、50代で「伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ」、「男女のステレオタイプな表現を固定的に発信している」の回答が全体より10ポイント以上上回っている。

一方、男性では、20代で「特に問題はない」が、30代で「色で性別を分けるなど、興味関心や服装・外見等の個性を無視あるいは軽視している」の回答が全体を10ポイント以上上回っている(図表一問17-②)。

図表一問17-② メディアが発信する表現について感じること(全体、性別、性・年代別)

		N =	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	女性について、容姿や若さを強調している	
全体		534	53.6	30.3	16.9	14.0	12.9	23.6	0.6	6.6	
性別	女性	270	60.0	30.7	15.6	14.1	11.9	18.5	0.7	9.6	
	男性	240	47.1	29.6	18.3	13.8	12.9	28.8	0.4	2.9	
	その他	2	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	78.6	35.7	21.4	7.1	7.1	7.1	0.0	7.1
		30代	40	80.0	25.0	25.0	22.5	15.0	12.5	0.0	2.5
		40代	59	59.3	25.4	6.8	10.2	6.8	27.1	0.0	3.4
		50代	45	62.2	42.2	28.9	22.2	20.0	15.6	0.0	4.4
		60代	46	63.0	34.8	15.2	10.9	13.0	17.4	2.2	8.7
		70代以上	65	40.0	26.2	7.7	10.8	9.2	20.0	1.5	24.6
	男性	10代	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
		20代	27	33.3	29.6	7.4	7.4	7.4	40.7	0.0	3.7
		30代	37	43.2	29.7	18.9	13.5	24.3	29.7	0.0	2.7
		40代	38	36.8	26.3	15.8	21.1	10.5	31.6	2.6	2.6
		50代	42	57.1	28.6	23.8	21.4	7.1	26.2	0.0	2.4
		60代	41	46.3	31.7	14.6	9.8	7.3	29.3	0.0	0.0
		70代以上	51	56.9	33.3	23.5	9.8	19.6	19.6	0.0	5.9

問 18

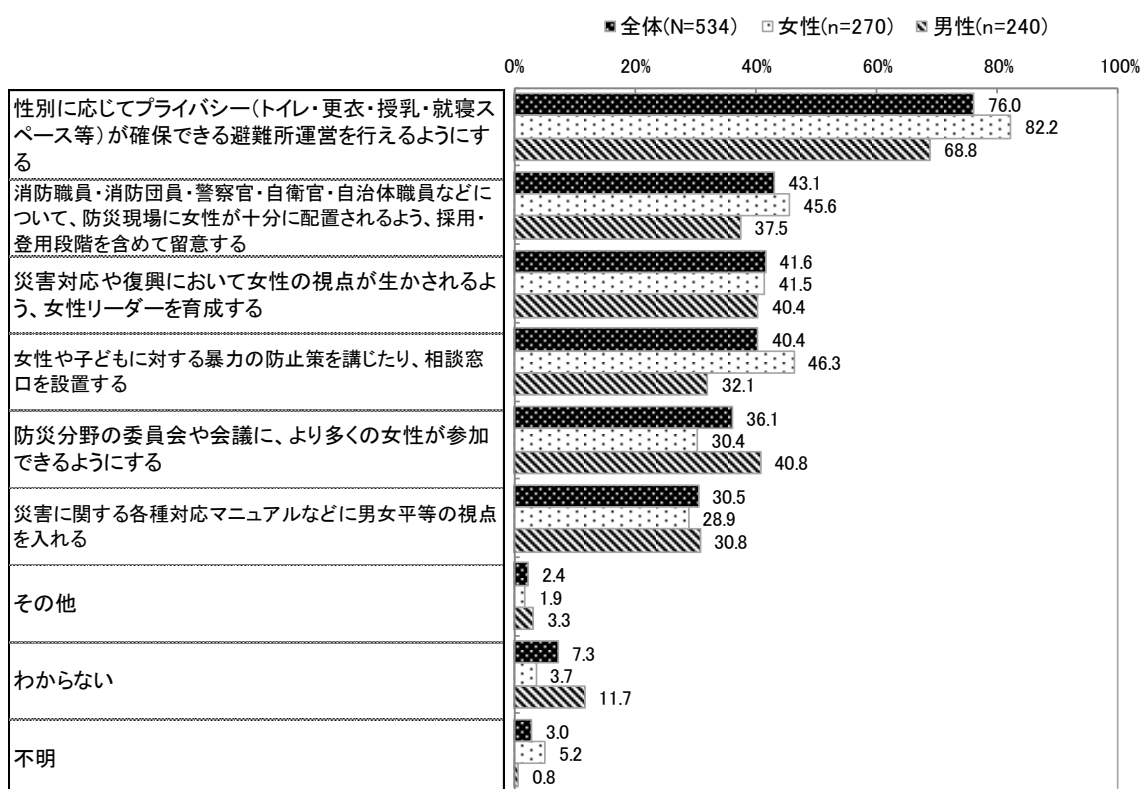
あなたは、災害対策に男女平等の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

最も重視されているのは避難所におけるプライバシー確保の 76.0%。特に女性は 82.2%と高い。

全体では、「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」が 76.0%で最も回答率が高く、ついで「消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」(43.1%)、「災害対応や復興において女性の視点が生かされるよう、女性リーダーを育成する」(41.6%)と続いている。

男女別では、女性で、「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」(82.2%)、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」(46.3%)の回答率が高い。男性では、「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする」(40.8%)が、女性との比較で高くなっている(図表-問 18-①)。

図表-問 18-① 災害対策に男女平等の視点を生かすために重要なこと(全体、性別)



性・年代別でみると、女性の20代、30代、60代で「性別に応じてプライバシーが確保できる避難所運営を行えるようにする」の回答率が80%を超えている。女性の20代で「消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員について、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」が71.4%となっている。また、男性の60代では、「災害対応や復興において女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する」の回答の割合が高くなっている。「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する」については女性の50代と60代で50%を超えている。男性の60代と70代以上では、「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする」が50%を超えている（図表一問18-②）。

図表一問18-② 災害対策に男女平等の視点を生かすために重要なこと（全体、性別、性・年代別）

		N =	をス イ 性 行 等 別 行 え が 更 応 確 衣 保 授 乳 避 難 所 運 営	を 置 て 自 消 防 職 員 自 治 体 職 員 採 用 登 用 段 階	リ 視 災 害 対 応 や 復 興 に お い て 女 性 の	置 止 女 性 や 講 じ た も の 対 相 談 窓 口 を の 設 防	に り 多 分 の 野 の 女 性 が 参 加 で き る よ う	る 災 害 に 関 する 各 種 の 対 応 マ ニ ュ ア	そ の 他	わ か ら な い	不 明	
全体		534	76.0	43.1	41.6	40.4	36.1	30.5	2.4	7.3	3.0	
性別	女性	270	82.2	45.6	41.5	46.3	30.4	28.9	1.9	3.7	5.2	
	男性	240	68.8	37.5	40.4	32.1	40.8	30.8	3.3	11.7	0.8	
	その他	2	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	92.9	71.4	57.1	35.7	21.4	35.7	0.0	0.0	0.0
		30代	40	87.5	45.0	35.0	50.0	27.5	37.5	2.5	7.5	2.5
		40代	59	79.7	35.6	42.4	44.1	28.8	20.3	0.0	3.4	3.4
		50代	45	82.2	44.4	37.8	51.1	31.1	17.8	4.4	2.2	2.2
		60代	46	91.3	56.5	50.0	54.3	30.4	34.8	4.3	0.0	4.3
		70代以上	65	72.3	41.5	38.5	40.0	35.4	33.8	0.0	6.2	12.3
	男性	10代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
		20代	27	70.4	22.2	37.0	22.2	25.9	22.2	3.7	14.8	0.0
		30代	37	59.5	21.6	27.0	43.2	27.0	16.2	5.4	24.3	0.0
		40代	38	78.9	34.2	47.4	44.7	42.1	26.3	2.6	10.5	0.0
		50代	42	69.0	42.9	38.1	35.7	35.7	50.0	4.8	4.8	0.0
		60代	41	80.5	43.9	53.7	17.1	53.7	26.8	0.0	4.9	0.0
		70代以上	51	62.7	52.9	41.2	31.4	52.9	39.2	3.9	7.8	3.9

6. 男女間の暴力について

問 19

親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。
 (それぞれの項目について、番号に1つずつ○)
 また、これまでに配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
 (それぞれの項目について、アルファベットに1つずつ○)

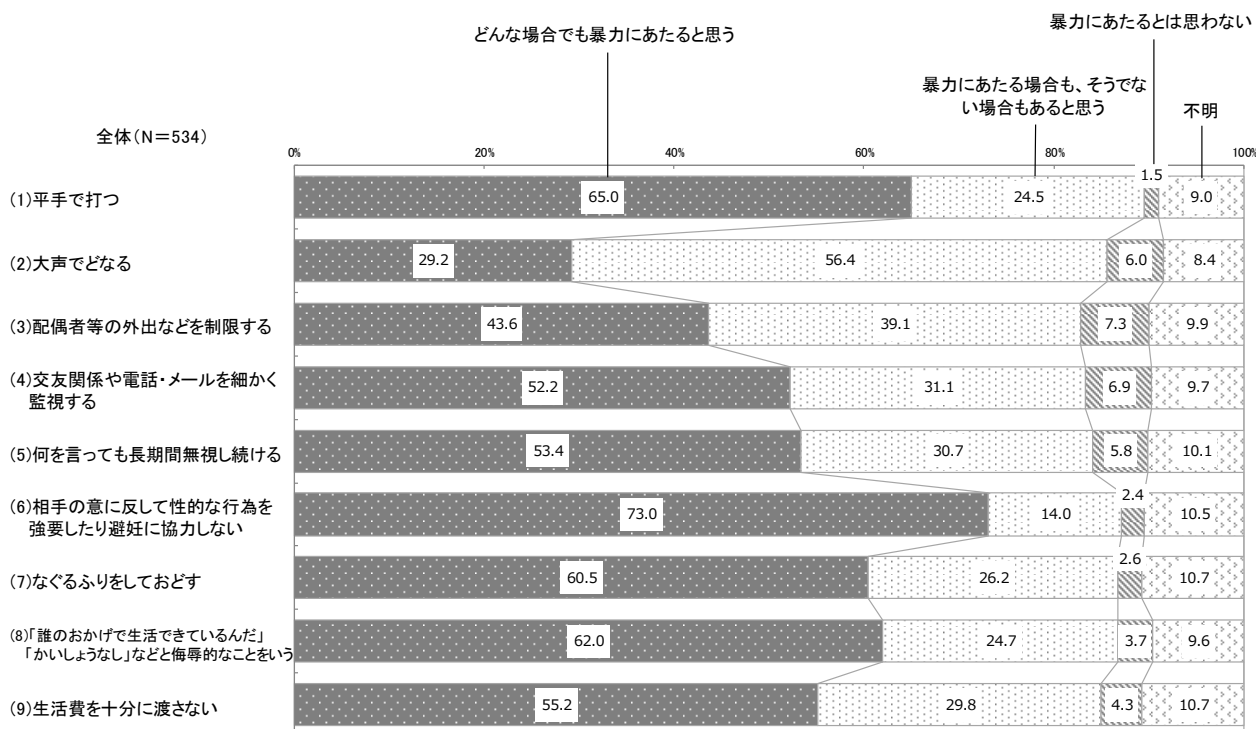
《暴力の認識》

暴力という認識が60%を超えているのは、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」、「平手で打つ」、「『誰のおかげで生活ができているんだ』『かいしようなし』などと侮辱的なことをいう」、「なぐるふりをしておどす」。一方、「大声でどなる」は、場合によるという認識。

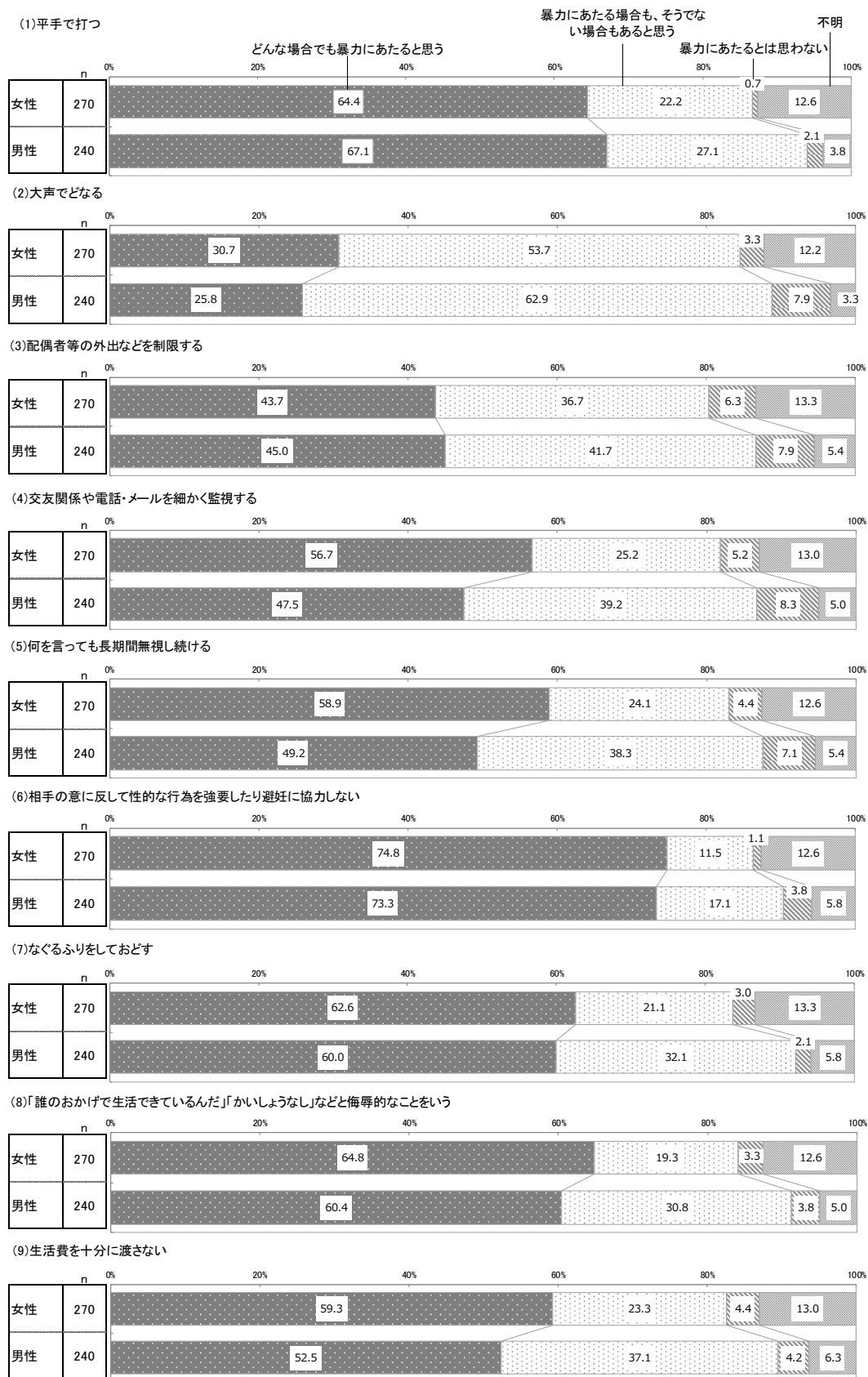
「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が高い項目を全体でみると、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」が73.0%で最も高く、ついで「平手で打つ」(65.0%)、「『誰のおかげで生活ができているんだ』『かいしようなし』などと侮辱的なことをいう」(62.0%)、「なぐるふりをしておどす」(60.5%)などと続いている。一方、「大声でどなる」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の29.2%より、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の56.4%が、全項目の中で唯一高くなっている(図表-問19-①)。

男女別で「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみていくと、「平手で打つ」(女性64.4%、男性67.1%)、「配偶者等の外出などを制限する」(女性43.7%、男性45.0%)のみ男性の方が回答の割合が高く、それ以外は女性の方が上回っている(図表-問19-②)。

図表-問19-① 親しい関係にある男女間の暴力の認識(全体)



図表一問 19-② 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）



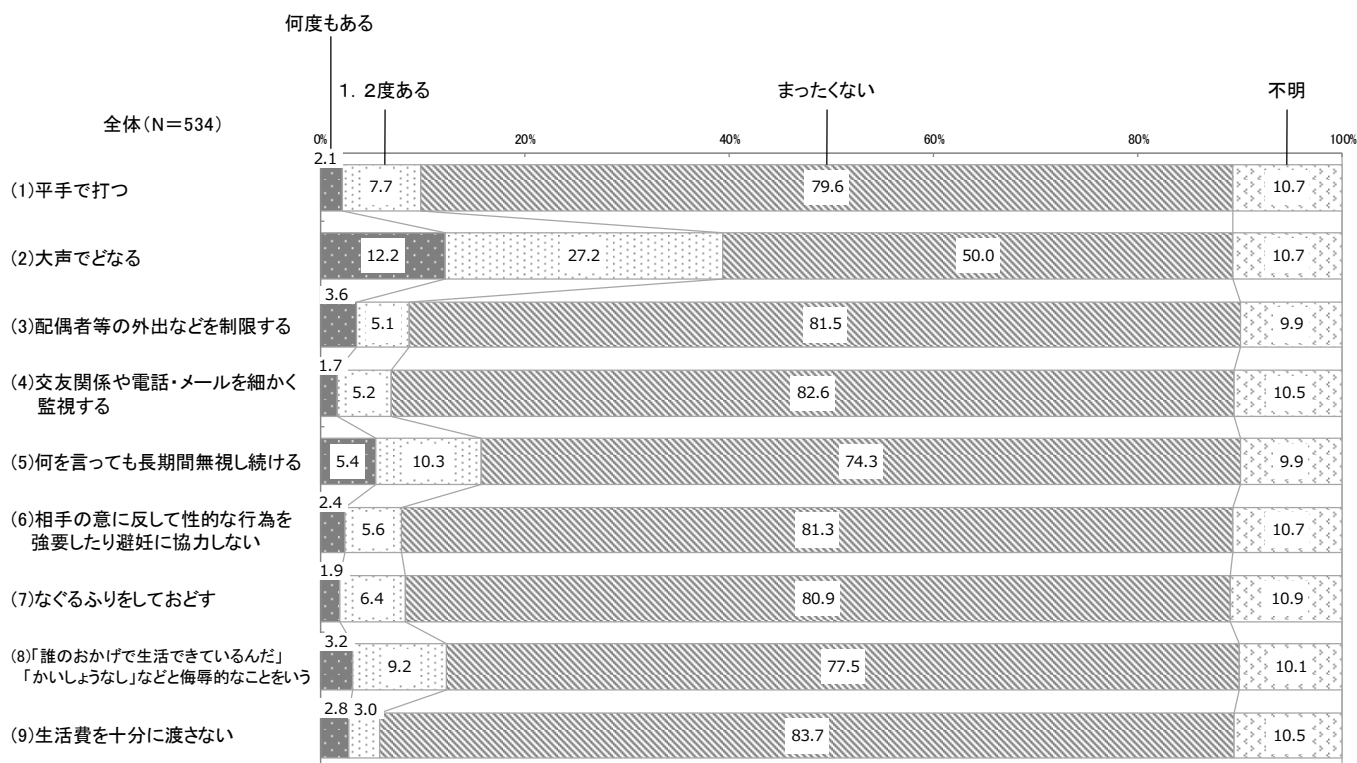
《暴力を受けた経験》

最も回答率が高いのは「大声でどなる」の39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」の15.7%となっている。

暴力を受けた経験（「何度もある」「1、2度ある」の合計）をみると、最も高いのは「大声でどなる」の39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」（15.7%）、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしようなし』などと侮辱的なことをいう」（12.4%）と続く（図表一問19-③）。

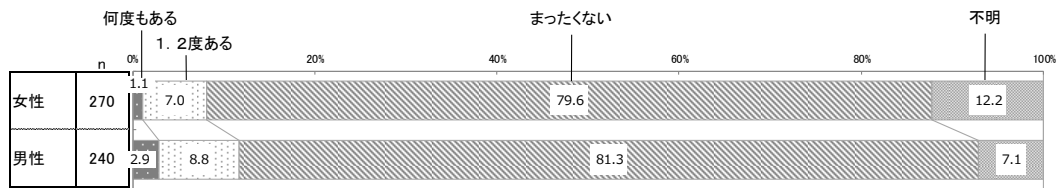
男女別では、「配偶者等の外出などを制限する」（女性9.2%、男性8.0%）、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」（女性12.2%、男性3.8%）、「なぐるふりをしておどす」（女性8.2%、男性7.9%）、「生活費を十分に渡さない」（女性6.7%、男性4.2%）の4項目では女性の方が経験率が高く、「平手で打つ」（女性8.1%、男性11.7%）、「大声でどなる」（女性38.5%、男性41.6%）、「交友関係や電話・メールを細かく監視する」（女性5.2%、男性8.8%）、「何を言っても長期間無視し続ける」（女性13.3%、男性18.7%）、「『誰のおかげで生活できているんだ』『かいしようなし』などと侮辱的なことをいう」（女性11.8%、男性13.7%）の5項目については男性の方が経験率が高い（図表一問19-④）。

図表一問19-③ 親しい関係にある男女間の暴力の経験（全体）

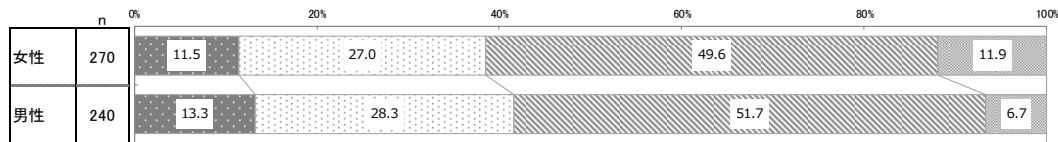


図表一問 19-④ 親しい関係にある男女間の暴力の経験（性別）

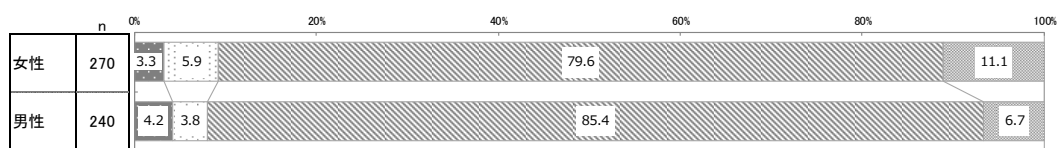
(1) 平手で打つ



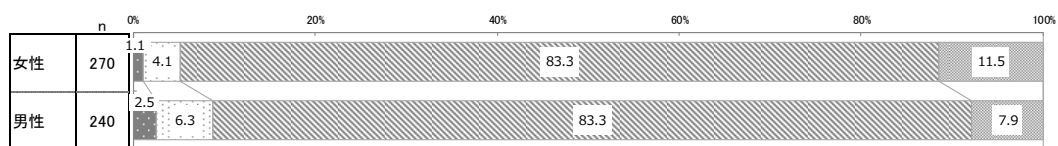
(2) 大声でどなる



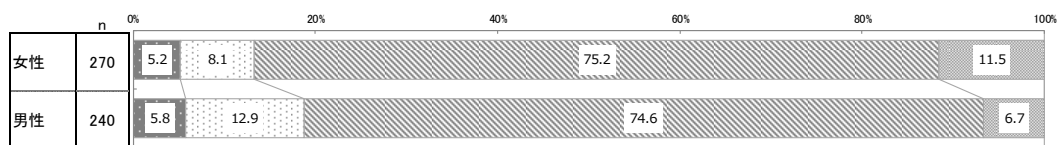
(3) 配偶者等の外出などを制限する



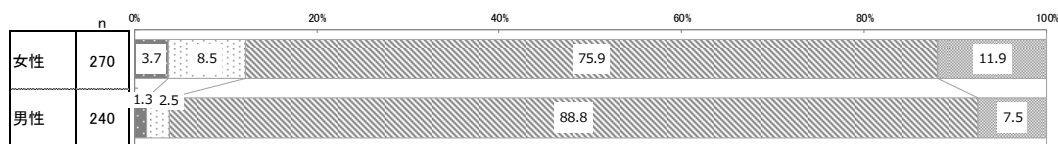
(4) 交友関係や電話・メールを細かく監視する



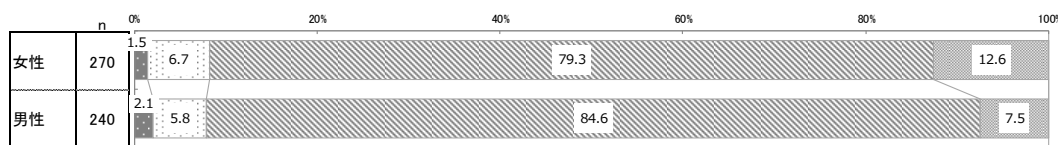
(5) 何を言っても長期間無視続ける



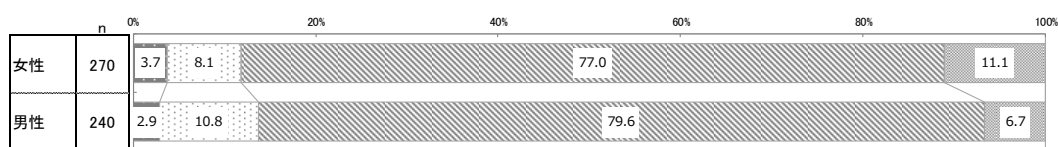
(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない



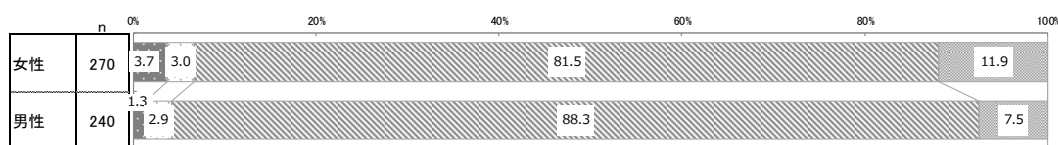
(7) ながるふりをしておどす



(8) 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしようなし」など侮辱的なことをいう



(9) 生活費を十分に渡さない



<性・年代別、性・未既婚別の傾向>

(1) 平手で打つ

性・年代別にみると、認識では、女性30代、男性50代、60代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が70%以上となっている。女性20代と男性20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答がそれぞれ35.7%、44.4%である。性・未既婚別では、男性未婚で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が38.2%となっている。

経験では、男性の30代で経験した割合が18.9%となっている(図表一問19-⑤)。

図表一問19-⑤ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(1) 平手で打つ(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明	
全体		534	65.0	24.5	1.5	9.0	
性別	女性	270	64.4	22.2	0.7	12.6	
	男性	240	67.1	27.1	2.1	3.8	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	64.3	35.7	0.0	0.0
		30代	40	75.0	22.5	0.0	2.5
		40代	59	67.8	23.7	1.7	6.8
		50代	45	71.1	20.0	0.0	8.9
		60代	46	67.4	28.3	2.2	2.2
		70代以上	65	49.2	13.8	0.0	36.9
	男性	10代	4	75.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	51.9	44.4	3.7	0.0
		30代	37	73.0	24.3	0.0	2.7
		40代	38	73.7	23.7	2.6	0.0
		50代	42	76.2	21.4	0.0	2.4
		60代	41	78.0	19.5	2.4	0.0
		70代以上	51	49.0	33.3	3.9	13.7
性・未既婚別	女性	未婚	54	61.1	27.8	1.9	9.3
		有配偶者(事実婚含む)	171	69.0	22.2	0.0	8.8
		離別・死別	41	56.1	12.2	2.4	29.3
	男性	未婚	55	58.2	38.2	1.8	1.8
		有配偶者(事実婚含む)	171	70.8	24.0	1.8	3.5
離別・死別	14	57.1	21.4	7.1	14.3		

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明	
全体		534	2.1	7.7	79.6	10.7	
性別	女性	270	1.1	7.0	79.6	12.2	
	男性	240	2.9	8.8	81.3	7.1	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	7.1	7.1	85.7	0.0
		30代	40	0.0	5.0	90.0	5.0
		40代	59	0.0	8.5	88.1	3.4
		50代	45	0.0	8.9	82.2	8.9
		60代	46	0.0	6.5	82.6	10.9
		70代以上	65	3.1	6.2	60.0	30.8
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	3.7	3.7	92.6	0.0
		30代	37	0.0	18.9	78.4	2.7
		40代	38	2.6	10.5	86.8	0.0
		50代	42	7.1	9.5	78.6	4.8
		60代	41	2.4	7.3	80.5	9.8
		70代以上	51	2.0	3.9	74.5	19.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	1.9	7.4	75.9	14.8
		有配偶者(事実婚含む)	171	0.6	6.4	84.2	8.8
		離別・死別	41	2.4	7.3	70.7	19.5
	男性	未婚	55	3.6	10.9	81.8	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	2.3	8.2	81.9	7.6
離別・死別	14	7.1	7.1	71.4	14.3		

(2) 大声でどなる

性・年代別にみると、認識では、女性30代と男性30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が40%を超え、男性20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が70%を超えている。

経験では、女性の40代、50代、男性の40代で経験した割合が高い(図表一問19-⑥)。

図表一問19-⑥ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験
(2) 大声でどなる(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明	
全体		534	29.2	56.4	6.0	8.4	
性別	女性	270	30.7	53.7	3.3	12.2	
	男性	240	25.8	62.9	7.9	3.3	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	35.7	57.1	7.1	0.0
		30代	40	42.5	55.0	0.0	2.5
		40代	59	23.7	61.0	8.5	6.8
		50代	45	31.1	60.0	0.0	8.9
		60代	46	37.0	54.3	6.5	2.2
		70代以上	65	24.6	40.0	0.0	35.4
	男性	10代	4	0.0	75.0	25.0	0.0
		20代	27	14.8	70.4	14.8	0.0
		30代	37	40.5	51.4	5.4	2.7
		40代	38	28.9	65.8	5.3	0.0
		50代	42	26.2	64.3	7.1	2.4
		60代	41	29.3	65.9	4.9	0.0
		70代以上	51	17.6	60.8	9.8	11.8
性・未既婚別	女性	未婚	54	27.8	59.3	3.7	9.3
		有配偶者(事実婚含む)	171	33.9	53.2	3.5	9.4
		離別・死別	41	24.4	48.8	2.4	24.4
	男性	未婚	55	25.5	61.8	10.9	1.8
		有配偶者(事実婚含む)	171	27.5	63.2	6.4	2.9
		離別・死別	14	7.1	64.3	14.3	14.3

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た た く な い	不 明	
全体		534	12.2	27.2	50.0	10.7	
性別	女性	270	11.5	27.0	49.6	11.9	
	男性	240	13.3	28.3	51.7	6.7	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	14.3	28.6	57.1	0.0
		30代	40	12.5	12.5	70.0	5.0
		40代	59	8.5	39.0	49.2	3.4
		50代	45	15.6	40.0	33.3	11.1
		60代	46	8.7	23.9	58.7	8.7
		70代以上	65	12.3	18.5	40.0	29.2
	男性	10代	4	0.0	25.0	75.0	0.0
		20代	27	22.2	7.4	70.4	0.0
		30代	37	5.4	21.6	70.3	2.7
		40代	38	10.5	44.7	44.7	0.0
		50代	42	19.0	31.0	45.2	4.8
		60代	41	14.6	31.7	43.9	9.8
		70代以上	51	11.8	27.5	43.1	17.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	7.4	18.5	59.3	14.8
		有配偶者(事実婚含む)	171	12.9	29.8	49.1	8.2
		離別・死別	41	12.2	29.3	41.5	17.1
	男性	未婚	55	14.5	12.7	69.1	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	12.9	32.2	48.0	7.0
		離別・死別	14	14.3	42.9	28.6	14.3

(3) 配偶者等の外出などを制限する

性・年代別にみると、認識では、女性20代、30代、50代、60代と男性30代、40代、50代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が50%を超えている。性・未既婚別では、男性未婚で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が50%を超えている。

経験では、女性20代、30代、男性20代、40代、男性未婚で経験した割合が低い(図表一問19-⑦)。

図表一問 19-⑦ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(3) 配偶者等の外出などを制限する(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明	
全体		534	43.6	39.1	7.3	9.9	
性別	女性	270	43.7	36.7	6.3	13.3	
	男性	240	45.0	41.7	7.9	5.4	
	その他	2	0.0	100.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	57.1	42.9	0.0	0.0
		30代	40	65.0	30.0	2.5	2.5
		40代	59	35.6	45.8	11.9	6.8
		50代	45	51.1	42.2	0.0	6.7
		60代	46	50.0	41.3	6.5	2.2
		70代以上	65	26.2	23.1	9.2	41.5
	男性	10代	4	25.0	75.0	0.0	0.0
		20代	27	33.3	48.1	18.5	0.0
		30代	37	54.1	37.8	2.7	5.4
		40代	38	57.9	39.5	0.0	2.6
		50代	42	50.0	40.5	7.1	2.4
		60代	41	41.5	46.3	9.8	2.4
		70代以上	51	35.3	37.3	11.8	15.7
性・未既婚別	女性	未婚	54	50.0	35.2	3.7	11.1
		有配偶者(事実婚含む)	171	45.0	39.2	6.4	9.4
		離別・死別	41	31.7	31.7	9.8	26.8
	男性	未婚	55	38.2	50.9	7.3	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	47.4	39.8	8.2	4.7
		離別・死別	14	42.9	28.6	7.1	21.4

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明	
全体		534	3.6	5.1	81.5	9.9	
性別	女性	270	3.3	5.9	79.6	11.1	
	男性	240	4.2	3.8	85.4	6.7	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代	40	0.0	0.0	95.0	5.0
		40代	59	3.4	10.2	83.1	3.4
		50代	45	6.7	8.9	75.6	8.9
		60代	46	2.2	2.2	87.0	8.7
		70代以上	65	4.6	6.2	61.5	27.7
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	3.7	96.3	0.0
		30代	37	2.7	5.4	89.2	2.7
		40代	38	5.3	2.6	92.1	0.0
		50代	42	4.8	7.1	83.3	4.8
		60代	41	4.9	0.0	82.9	12.2
		70代以上	51	5.9	3.9	74.5	15.7
性・未既婚別	女性	未婚	54	0.0	5.6	81.5	13.0
		有配偶者(事実婚含む)	171	1.8	5.3	84.8	8.2
		離別・死別	41	12.2	9.8	61.0	17.1
	男性	未婚	55	3.6	0.0	92.7	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	4.1	4.7	84.8	6.4
		離別・死別	14	7.1	7.1	64.3	21.4

(4) 交友関係や電話・メールを細かく監視する

性・年代別にみると、認識では、女性30代、50代、60代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が60%を超え、男性20代、40代、70代以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が40%を超えている。性・未既婚別では、男性未婚で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が41.8%となっている。

経験では、女性の20代、男性の20代で経験した割合が低い(図表一問19-⑧)。

図表一問 19-⑧ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(4) 交友関係や電話・メールを細かく監視する(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う	ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と 思 う	い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明		
全体		534	52.2	31.1	6.9	9.7			
性別	女性	270	56.7	25.2	5.2	13.0			
	男性	240	47.5	39.2	8.3	5.0			
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0			
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0		
		20代	14	50.0	35.7	14.3	0.0		
		30代	40	70.0	27.5	0.0	2.5		
		40代	59	59.3	27.1	6.8	6.8		
		50代	45	66.7	26.7	0.0	6.7		
		60代	46	60.9	28.3	8.7	2.2		
		70代以上	65	38.5	15.4	6.2	40.0		
	男性	10代	4	0.0	75.0	25.0	0.0		
		20代	27	44.4	40.7	14.8	0.0		
		30代	37	51.4	37.8	5.4	5.4		
		40代	38	50.0	42.1	7.9	0.0		
		50代	42	61.9	31.0	4.8	2.4		
		60代	41	46.3	39.0	12.2	2.4		
		70代以上	51	37.3	41.2	5.9	15.7		
性・未既婚別	女性	未婚	54	48.1	33.3	7.4	11.1		
		有配偶者(事実婚含む)	171	62.0	24.0	4.1	9.9		
		離別・死別	41	48.8	19.5	4.9	26.8		
		男性	未婚	55	47.3	41.8	7.3	3.6	
			有配偶者(事実婚含む)	171	48.0	39.2	8.8	4.1	
	離別・死別		14	42.9	28.6	7.1	21.4		

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明		
全体		534	1.7	5.2	82.6	10.5		
性別	女性	270	1.1	4.1	83.3	11.5		
	男性	240	2.5	6.3	83.3	7.9		
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0		
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	
		20代	14	0.0	7.1	92.9	0.0	
		30代	40	0.0	5.0	90.0	5.0	
		40代	59	0.0	5.1	91.5	3.4	
		50代	45	2.2	6.7	82.2	8.9	
		60代	46	0.0	2.2	89.1	8.7	
		70代以上	65	3.1	1.5	66.2	29.2	
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0	
		20代	27	0.0	7.4	92.6	0.0	
		30代	37	2.7	8.1	86.5	2.7	
		40代	38	5.3	7.9	86.8	0.0	
		50代	42	2.4	7.1	83.3	7.1	
		60代	41	2.4	0.0	82.9	14.6	
		70代以上	51	2.0	7.8	72.5	17.6	
性・未既婚別	女性	未婚	54	0.0	9.3	77.8	13.0	
		有配偶者(事実婚含む)	171	0.0	1.8	89.5	8.8	
		離別・死別	41	4.9	7.3	70.7	17.1	
		男性	未婚	55	3.6	3.6	89.1	3.6
			有配偶者(事実婚含む)	171	2.3	7.0	83.0	7.6
	離別・死別		14	0.0	7.1	64.3	28.6	

(5) 何を言っても長期間無視し続ける

性・年代別にみると、認識では、女性30代、50代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が70%を超え、男性20代、60代、70代以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が40%を超えている。性・未既婚別では、女性有配偶者で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が64.3%となっている。

経験では、女性の20代～40代で経験した割合が低い(図表一問19-⑨)。

図表一問 19-⑨ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(5) 何を言っても長期間無視し続ける(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い 場 合 も あ た る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明
全体		534	53.4	30.7	5.8	10.1
性別	女性	270	58.9	24.1	4.4	12.6
	男性	240	49.2	38.3	7.1	5.4
その他		2	50.0	50.0	0.0	0.0
性・年代別	女性					
	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	20代	14	57.1	35.7	7.1	0.0
	30代	40	77.5	17.5	2.5	2.5
	40代	59	61.0	23.7	8.5	6.8
	50代	45	77.8	15.6	0.0	6.7
	60代	46	56.5	37.0	4.3	2.2
	70代以上	65	35.4	21.5	4.6	38.5
	男性					
	10代	4	25.0	50.0	25.0	0.0
	20代	27	55.6	40.7	3.7	0.0
	30代	37	54.1	32.4	8.1	5.4
	40代	38	63.2	36.8	0.0	0.0
	50代	42	59.5	28.6	9.5	2.4
60代	41	43.9	46.3	7.3	2.4	
70代以上	51	29.4	43.1	9.8	17.6	
性・未既婚別	女性					
	未婚	54	51.9	29.6	7.4	11.1
	有配偶者(事実婚含む)	171	64.3	23.4	3.5	8.8
	離別・死別	41	48.8	19.5	4.9	26.8
	男性					
	未婚	55	52.7	38.2	5.5	3.6
有配偶者(事実婚含む)	171	49.1	38.6	7.0	5.3	
離別・死別	14	35.7	35.7	14.3	14.3	

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明
全体		534	5.4	10.3	74.3	9.9
性別	女性	270	5.2	8.1	75.2	11.5
	男性	240	5.8	12.9	74.6	6.7
その他		2	0.0	0.0	100.0	0.0
性・年代別	女性					
	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代	14	7.1	0.0	92.9	0.0
	30代	40	0.0	7.5	87.5	5.0
	40代	59	5.1	6.8	83.1	5.1
	50代	45	6.7	17.8	66.7	8.9
	60代	46	2.2	6.5	80.4	10.9
	70代以上	65	9.2	6.2	58.5	26.2
	男性					
	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代	27	14.8	11.1	74.1	0.0
	30代	37	2.7	10.8	83.8	2.7
	40代	38	10.5	7.9	81.6	0.0
	50代	42	4.8	9.5	81.0	4.8
60代	41	2.4	17.1	70.7	9.8	
70代以上	51	3.9	19.6	58.8	17.6	
性・未既婚別	女性					
	未婚	54	1.9	9.3	75.9	13.0
	有配偶者(事実婚含む)	171	5.3	8.8	77.2	8.8
	離別・死別	41	4.9	4.9	70.7	19.5
	男性					
	未婚	55	5.5	9.1	81.8	3.6
有配偶者(事実婚含む)	171	5.8	13.5	73.7	7.0	
離別・死別	14	7.1	21.4	57.1	14.3	

(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない

性・年代別にみると、認識では、女性の20代から50代、男性の20代、40代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が80%を超えている。性・未既婚別では、男性未婚で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が85.5%となっている。

経験では、男性の20代～50代、未婚で経験した割合が低い(図表一問19-⑩)。

図表一問 19-⑩ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない

(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	不明	
全体		534	73.0	14.0	2.4	10.5	
性別	女性	270	74.8	11.5	1.1	12.6	
	男性	240	73.3	17.1	3.8	5.8	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	92.9	7.1	0.0	0.0
		30代	40	95.0	2.5	0.0	2.5
		40代	59	81.4	10.2	1.7	6.8
		50代	45	86.7	6.7	0.0	6.7
		60代	46	71.7	23.9	2.2	2.2
		70代以上	65	46.2	13.8	1.5	38.5
	男性	10代	4	75.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	92.6	3.7	3.7	0.0
		30代	37	78.4	13.5	2.7	5.4
		40代	38	84.2	13.2	0.0	2.6
		50代	42	78.6	14.3	4.8	2.4
		60代	41	73.2	19.5	2.4	4.9
		70代以上	51	47.1	29.4	7.8	15.7
性・未既婚別	女性	未婚	54	77.8	9.3	1.9	11.1
		有配偶者(事実婚含む)	171	78.4	13.5	0.0	8.2
		離別・死別	41	58.5	7.3	4.9	29.3
	男性	未婚	55	85.5	10.9	0.0	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	71.3	18.7	4.7	5.3
		離別・死別	14	50.0	21.4	7.1	21.4

		N =	何度もある	1、2度ある	まったくない	不明	
全体		534	2.4	5.6	81.3	10.7	
性別	女性	270	3.7	8.5	75.9	11.9	
	男性	240	1.3	2.5	88.8	7.5	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	14.3	85.7	0.0
		30代	40	2.5	7.5	85.0	5.0
		40代	59	0.0	6.8	89.8	3.4
		50代	45	8.9	11.1	71.1	8.9
		60代	46	2.2	8.7	80.4	8.7
		70代以上	65	6.2	7.7	55.4	30.8
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代	37	0.0	2.7	94.6	2.7
		40代	38	2.6	0.0	97.4	0.0
		50代	42	2.4	0.0	92.9	4.8
		60代	41	2.4	2.4	80.5	14.6
		70代以上	51	0.0	7.8	74.5	17.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	1.9	7.4	77.8	13.0
		有配偶者(事実婚含む)	171	1.8	8.2	81.3	8.8
		離別・死別	41	12.2	12.2	56.1	19.5
	男性	未婚	55	0.0	1.8	94.5	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	1.8	2.3	88.3	7.6
		離別・死別	14	0.0	7.1	71.4	21.4

(7) なぐるふりをしておどす

性・年代別にみると、認識では、女性20代、30代、50代、男性20代、30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が70%を超えている。性・未既婚別では、男性未婚で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が70.9%となっている。

経験では、女性の20代、男性の20代、30代、男性未婚で経験した割合が低い(図表一問19-⑪)。

図表一問19-⑪ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験
(7) なぐるふりをしておどす(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い 場 合 も あ た る 場 合 も 、 そ う で な い	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明
全体		534	60.5	26.2	2.6	10.7
性別	女性	270	62.6	21.1	3.0	13.3
	男性	240	60.0	32.1	2.1	5.8
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
性・年代別	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	14	78.6	21.4	0.0	0.0
	30代	40	87.5	10.0	0.0	2.5
	40代	59	69.5	20.3	3.4	6.8
	50代	45	73.3	17.8	0.0	8.9
	60代	46	54.3	32.6	6.5	6.5
	70代以上	65	35.4	23.1	4.6	36.9
	10代	4	25.0	75.0	0.0	0.0
	20代	27	81.5	14.8	3.7	0.0
	30代	37	73.0	21.6	0.0	5.4
	40代	38	68.4	28.9	0.0	2.6
	50代	42	66.7	26.2	4.8	2.4
	60代	41	56.1	39.0	0.0	4.9
	70代以上	51	33.3	47.1	3.9	15.7
性・未既婚別	女性					
	未婚	54	63.0	24.1	1.9	11.1
	有配偶者(事実婚含む)	171	66.7	20.5	2.9	9.9
	離別・死別	41	51.2	19.5	4.9	24.4
	男性					
	未婚	55	70.9	21.8	3.6	3.6
有配偶者(事実婚含む)	171	58.5	35.1	1.2	5.3	
離別・死別	14	35.7	35.7	7.1	21.4	

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明
全体		534	1.9	6.4	80.9	10.9
性別	女性	270	1.5	6.7	79.3	12.6
	男性	240	2.1	5.8	84.6	7.5
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0
性・年代別	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代	14	0.0	7.1	92.9	0.0
	30代	40	2.5	5.0	85.0	7.5
	40代	59	1.7	6.8	88.1	3.4
	50代	45	2.2	6.7	82.2	8.9
	60代	46	0.0	6.5	80.4	13.0
	70代以上	65	1.5	7.7	61.5	29.2
	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代	27	3.7	3.7	92.6	0.0
	30代	37	0.0	0.0	97.3	2.7
	40代	38	0.0	7.9	89.5	2.6
	50代	42	7.1	4.8	83.3	4.8
	60代	41	0.0	7.3	80.5	12.2
	70代以上	51	2.0	9.8	70.6	17.6
性・未既婚別	女性					
	未婚	54	0.0	9.3	77.8	13.0
	有配偶者(事実婚含む)	171	0.6	6.4	83.0	9.9
	離別・死別	41	4.9	4.9	70.7	19.5
	男性					
	未婚	55	1.8	1.8	92.7	3.6
有配偶者(事実婚含む)	171	2.3	7.6	82.5	7.6	
離別・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	

(8) 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう

性・年代別にみると、認識では、女性の20代、30代、50代、男性20代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が70%を超えている。また、男性70代以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が37.3%となっている。

経験では、女性の30代、男性の20代、30代、未婚で経験した割合が低い(図表一問19-⑫)。

図表一問 19-⑫ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験

(8) 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう

(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と	い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明	
全体		534	62.0	24.7	3.7	9.6	
性別	女性	270	64.8	19.3	3.3	12.6	
	男性	240	60.4	30.8	3.8	5.0	
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	78.6	21.4	0.0	0.0
		30代	40	85.0	12.5	0.0	2.5
		40代	59	66.1	23.7	3.4	6.8
		50代	45	73.3	20.0	0.0	6.7
		60代	46	63.0	26.1	8.7	2.2
		70代以上	65	44.6	12.3	4.6	38.5
	男性	10代	4	25.0	75.0	0.0	0.0
		20代	27	77.8	18.5	3.7	0.0
		30代	37	62.2	27.0	5.4	5.4
		40代	38	71.1	28.9	0.0	0.0
		50代	42	59.5	33.3	4.8	2.4
		60代	41	65.9	29.3	2.4	2.4
		70代以上	51	41.2	37.3	5.9	15.7
性・未既婚別	女性	未婚	54	64.8	22.2	1.9	11.1
		有配偶者(事実婚含む)	171	68.4	19.3	3.5	8.8
		離別・死別	41	53.7	14.6	4.9	26.8
	男性	未婚	55	67.3	25.5	3.6	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	60.2	31.0	4.1	4.7
		離別・死別	14	35.7	50.0	0.0	14.3

		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明	
全体		534	3.2	9.2	77.5	10.1	
性別	女性	270	3.7	8.1	77.0	11.1	
	男性	240	2.9	10.8	79.6	6.7	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	14.3	85.7	0.0
		30代	40	2.5	2.5	87.5	7.5
		40代	59	3.4	13.6	79.7	3.4
		50代	45	8.9	11.1	71.1	8.9
		60代	46	2.2	8.7	80.4	8.7
		70代以上	65	3.1	3.1	67.7	26.2
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	11.1	0.0	88.9	0.0
		30代	37	0.0	5.4	91.9	2.7
		40代	38	0.0	21.1	78.9	0.0
		50代	42	2.4	14.3	78.6	4.8
		60代	41	2.4	7.3	80.5	9.8
		70代以上	51	3.9	13.7	64.7	17.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	3.7	7.4	75.9	13.0
		有配偶者(事実婚含む)	171	2.9	8.2	80.1	8.8
		離別・死別	41	4.9	9.8	70.7	14.6
	男性	未婚	55	3.6	0.0	92.7	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	2.3	14.6	76.0	7.0
		離別・死別	14	7.1	7.1	71.4	14.3

(9) 生活費を十分に渡さない

性・年代別にみると、認識では、女性30代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が82.5%となっている。また、男性30代、70代以上で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が40%を超えている。性・未既婚別では、女性有配偶者で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が65.5%となっている。

経験では、女性の20代、男性の20代～40代で経験した割合が低い。女性の離別・死別では「何度もある」が14.6%となっている(図表一問19-⑬)。

図表一問19-⑬ 親しい関係にある男女間の暴力の認識・経験
(9) 生活費を十分に渡さない(全体、性別、性・年代別、性・未既婚別)

		N =	思 う	い 場 合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	不 明	
全体		534	55.2	29.8	4.3	10.7	
性別	女性	270	59.3	23.3	4.4	13.0	
	男性	240	52.5	37.1	4.2	6.3	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代	14	64.3	28.6	7.1	0.0
		30代	40	82.5	10.0	5.0	2.5
		40代	59	61.0	27.1	5.1	6.8
		50代	45	64.4	28.9	0.0	6.7
		60代	46	63.0	23.9	8.7	4.3
		70代以上	65	36.9	21.5	3.1	38.5
	男性	10代	4	50.0	50.0	0.0	0.0
		20代	27	59.3	37.0	3.7	0.0
		30代	37	43.2	43.2	8.1	5.4
		40代	38	68.4	31.6	0.0	0.0
		50代	42	52.4	35.7	7.1	4.8
		60代	41	63.4	24.4	7.3	4.9
		70代以上	51	35.3	47.1	0.0	17.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	53.7	25.9	9.3	11.1
		有配偶者(事実婚含む)	171	65.5	22.8	2.3	9.4
	男性	離別・死別	41	43.9	22.0	7.3	26.8
		未婚	55	49.1	43.6	3.6	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	55.6	34.5	4.1	5.8
		離別・死別	14	28.6	42.9	7.1	21.4

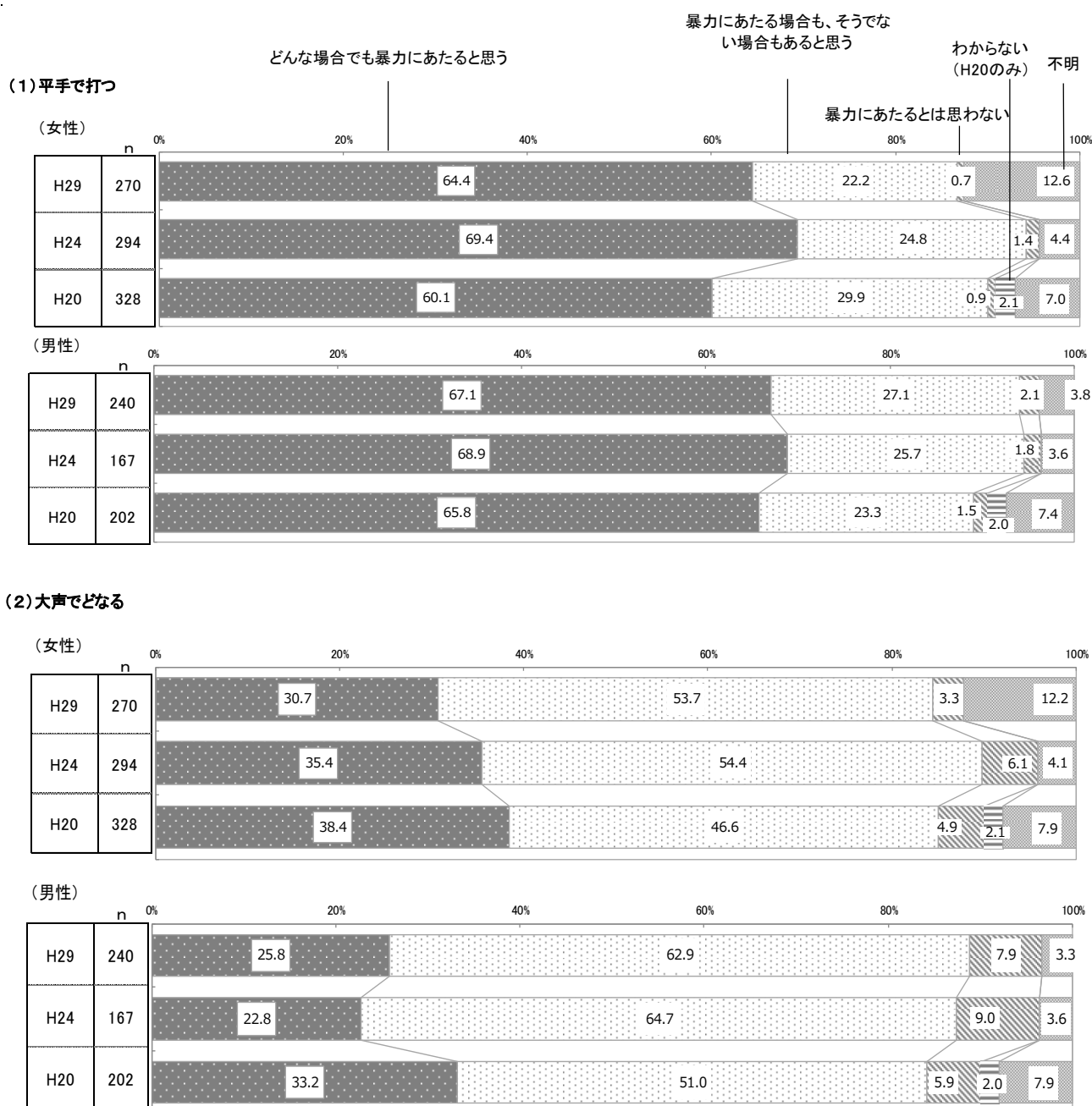
		N =	何 度 も あ る	1、 2 度 あ る	ま っ た く な い	不 明	
全体		534	2.8	3.0	83.7	10.5	
性別	女性	270	3.7	3.0	81.5	11.9	
	男性	240	1.3	2.9	88.3	7.5	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代	40	2.5	0.0	90.0	7.5
		40代	59	5.1	3.4	88.1	3.4
		50代	45	6.7	4.4	80.0	8.9
		60代	46	2.2	6.5	82.6	8.7
		70代以上	65	3.1	1.5	66.2	29.2
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	3.7	0.0	96.3	0.0
		30代	37	0.0	2.7	94.6	2.7
		40代	38	0.0	5.3	94.7	0.0
		50代	42	2.4	0.0	92.9	4.8
		60代	41	0.0	4.9	80.5	14.6
		70代以上	51	2.0	3.9	76.5	17.6
性・未既婚別	女性	未婚	54	0.0	3.7	81.5	14.8
		有配偶者(事実婚含む)	171	1.8	3.5	86.0	8.8
	男性	離別・死別	41	14.6	0.0	68.3	17.1
		未婚	55	0.0	0.0	96.4	3.6
		有配偶者(事実婚含む)	171	1.8	3.5	87.1	7.6
		離別・死別	14	0.0	7.1	71.4	21.4

<経年比較>

平成 20 年からの暴力の認識についての変化をみると、「平手で打つ」については、男女とも、平成 20 年より「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が上昇しているが、平成 24 年と比較すると、若干低下する傾向が見られる。

「大声でどなる」については、女性で、平成 20 年から「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が連続して低下している。男性についても、平成 24 年よりは若干上昇したが、それでも平成 20 年の水準には戻っていない（図表一問 19—⑭）。

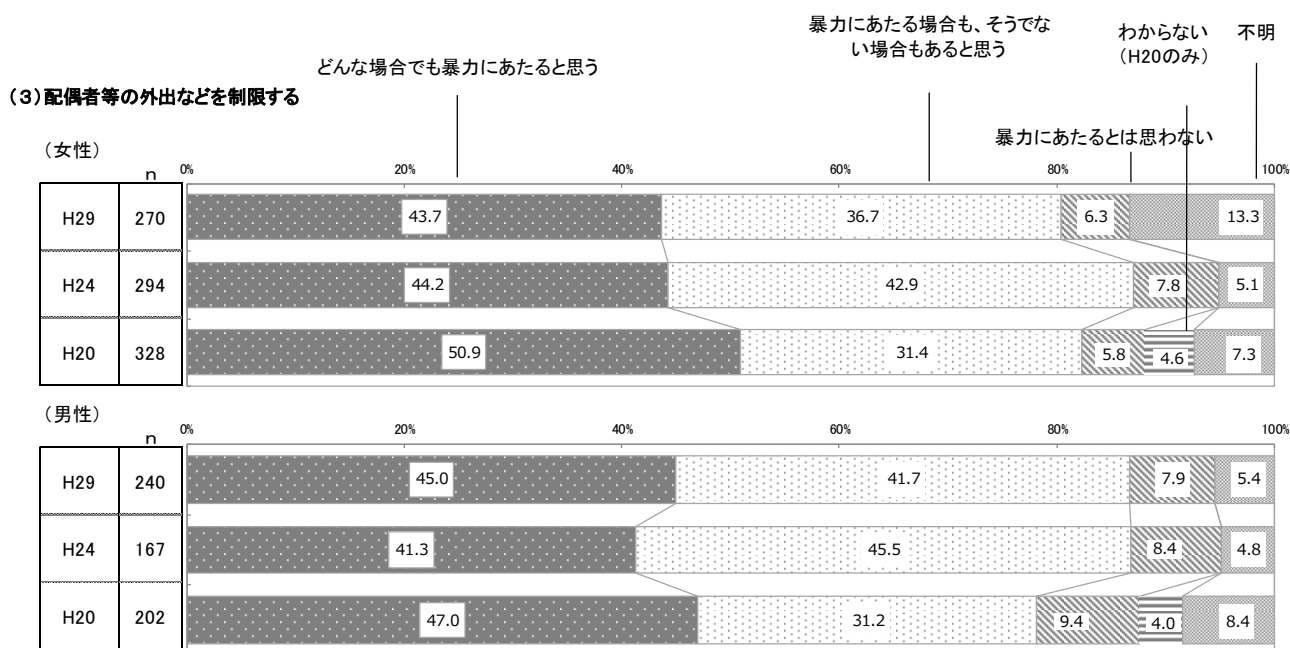
図表一問 19—⑭ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【経年比較】
平手で打つ/大声でどなる



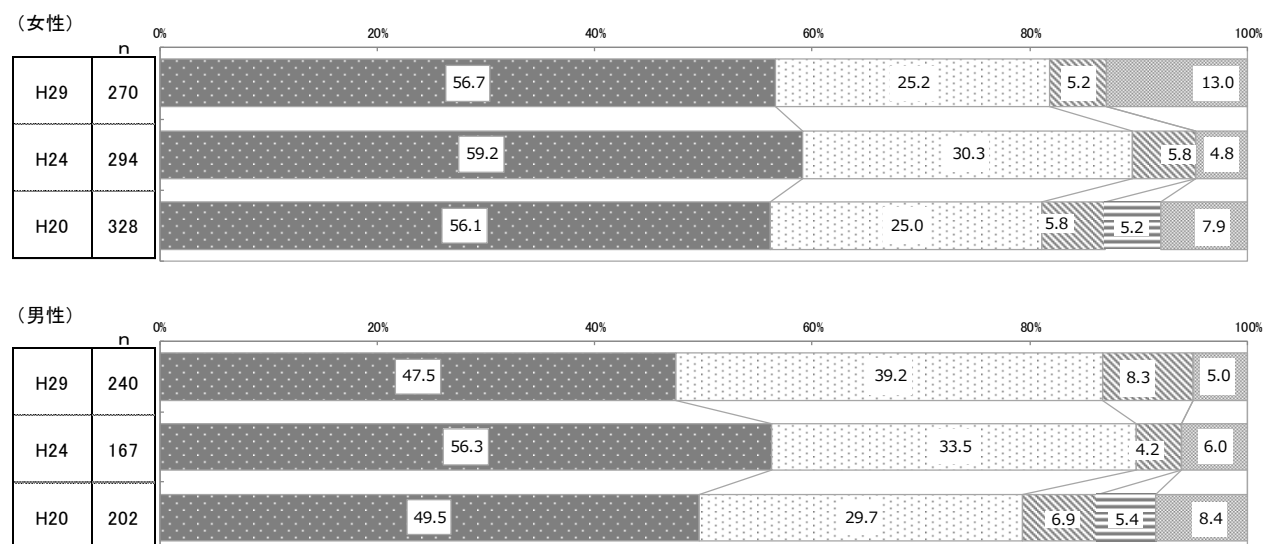
「配偶者等の外出などを制限する」については、女性では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が、平成 20 年から、連続して低下している。一方、男性については、平成 24 年よりは若干上昇したが、それでも平成 20 年の水準には戻っていない。

「交友関係や電話・メールを細かく監視する」については、女性で、平成 20 年から平成 24 年にかけて「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が上昇したものの、平成 29 年では再び低下している。男性についても同様の推移を示している（図表一問 19—⑮）。

図表一問 19—⑮ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【経年比較】
配偶者などの外出などを制限する/交友関係や電話・メールを細かく監視する



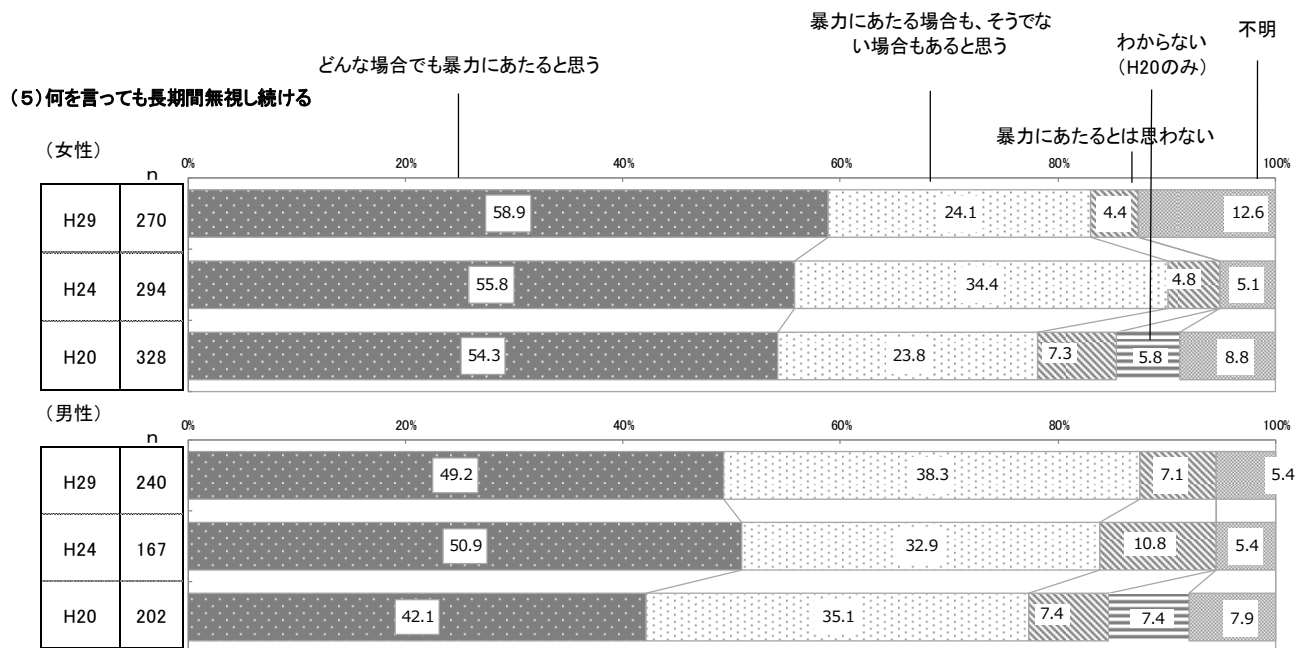
(4) 交友関係や電話・メールを細かく監視する



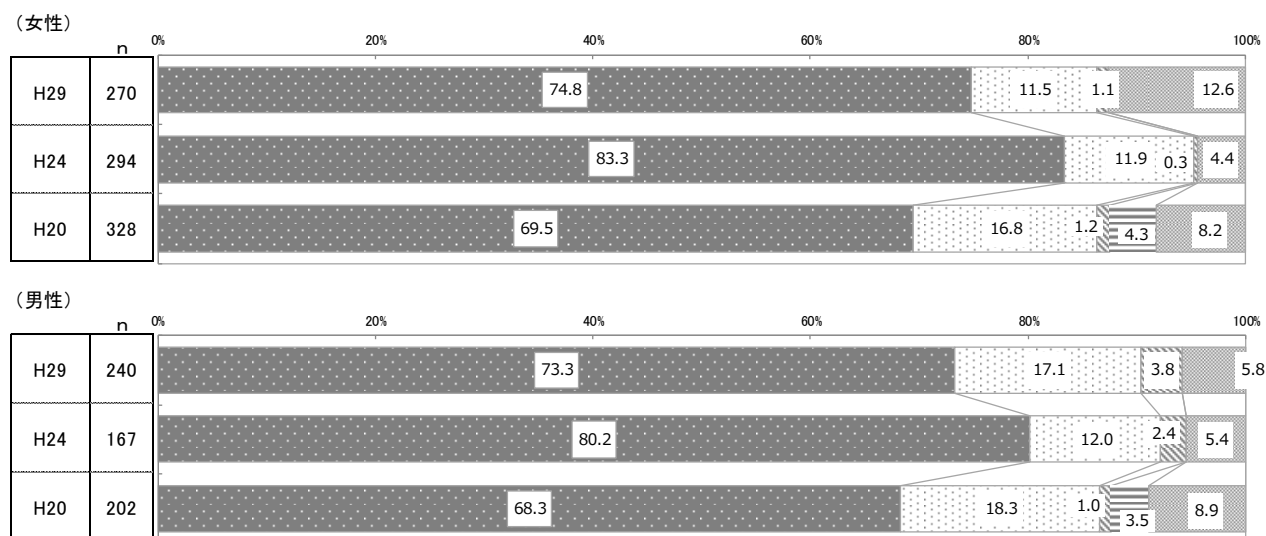
「何を言っても長期間無視し続ける」については、女性では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が、平成 20 年から、連続して上昇している。一方、男性については、平成 24 年よりは若干低下したものの、それでも平成 20 年よりは高い数値となっている。

「相手の意に反して性的な行為をしたり避妊に協力しない」については、男女ともに、平成 24 年より回答率は低下しているものの、平成 20 年の水準は上回っている（図表一問 19—⑯）。

図表一問 19—⑯ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【経年比較】
何を言っても長期間無視し続ける/相手の意に反して性的な行為をしたり避妊に協力しない



(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない

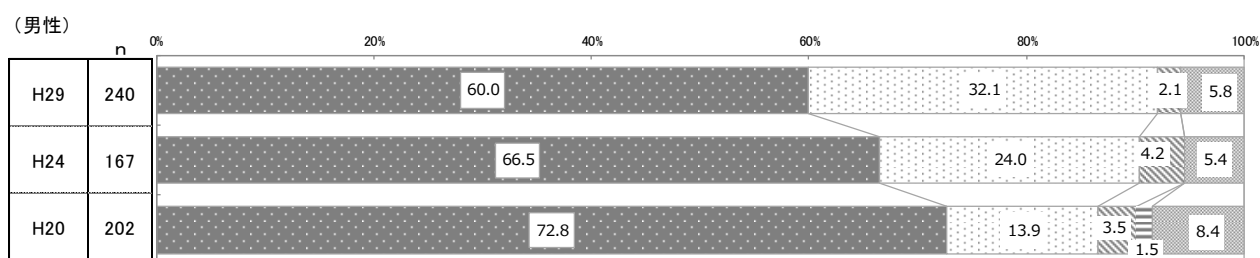
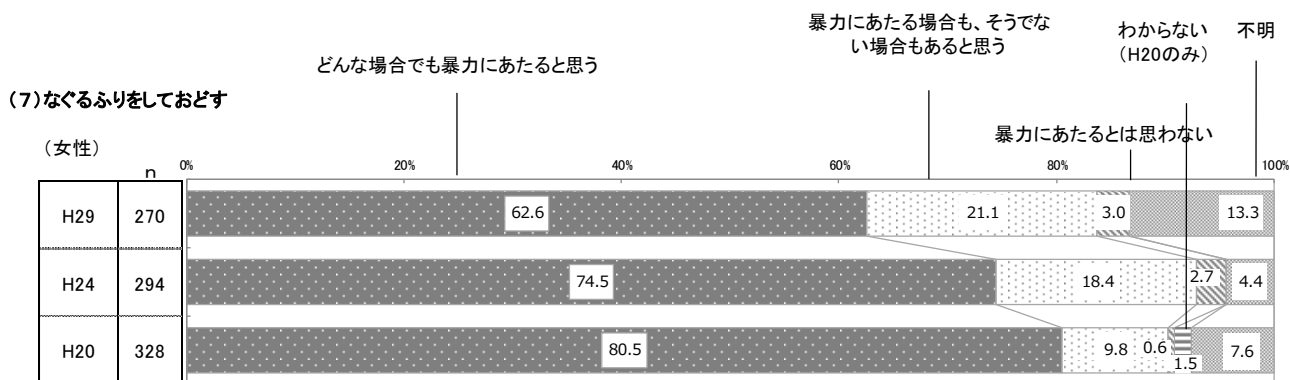


「なぐるふりをしておどす」については、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が、平成 20 年から、連続して低下している。

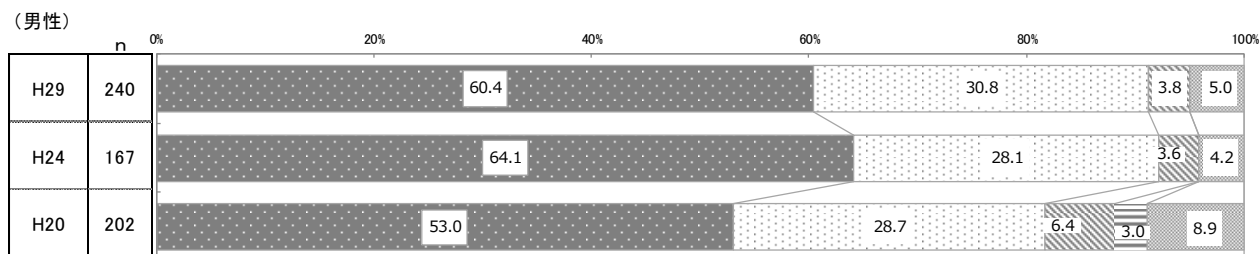
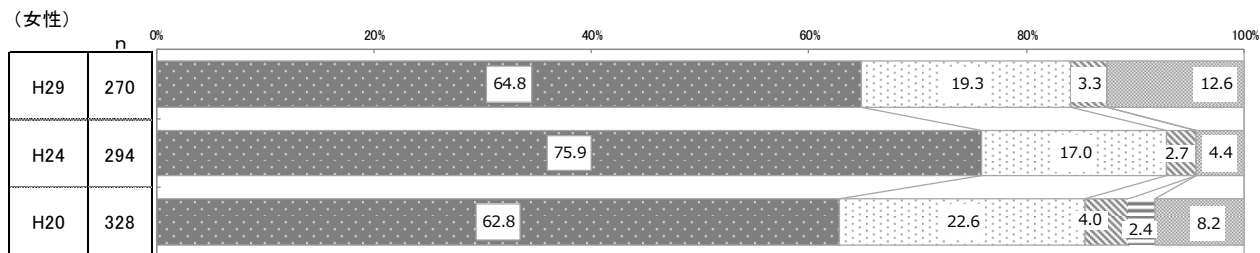
『「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう』については、男女ともに、平成 24 年より回答率は低下しているものの、平成 20 年の水準は上回っている（図表一問 19—⑰）。

図表一問 19—⑰ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【経年比較】

なぐるふりをしておどす/「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう

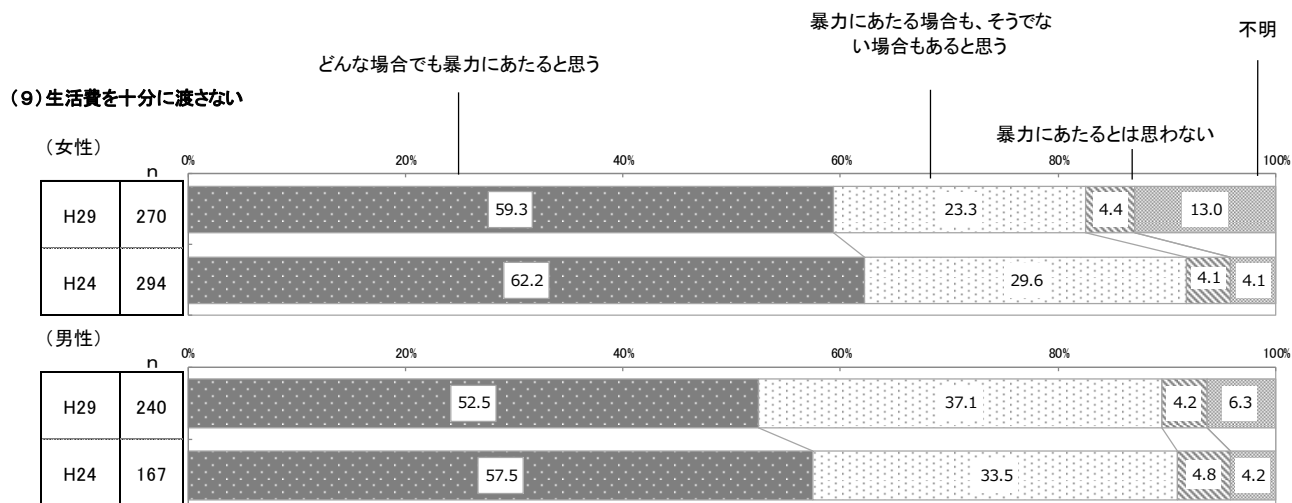


(8) 「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう



「生活費を十分に渡さない」については、男女とも平成 24 年より「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答率が低下している（図表一問 19—⑱）。

図表一問 19—⑱ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【経年比較】
生活費を十分に渡さない



※平成 20 年調査では、『平手で打つ』は『平手でたたく』、『大声でどなる』は『大声で怒鳴りつける』、『配偶者等の外出などを制限する』は『外出を制限する』、『相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない』は『性的な行為を強要する』、『なぐるふりをしておどす』は『「殺す」などと言ったり、殴るふりをしたりして脅す』となっている。

平成 20 年調査では、『生活費を十分にわたさない』についてたずねていない。

平成 20 年調査では、選択肢に「わからない」がある。

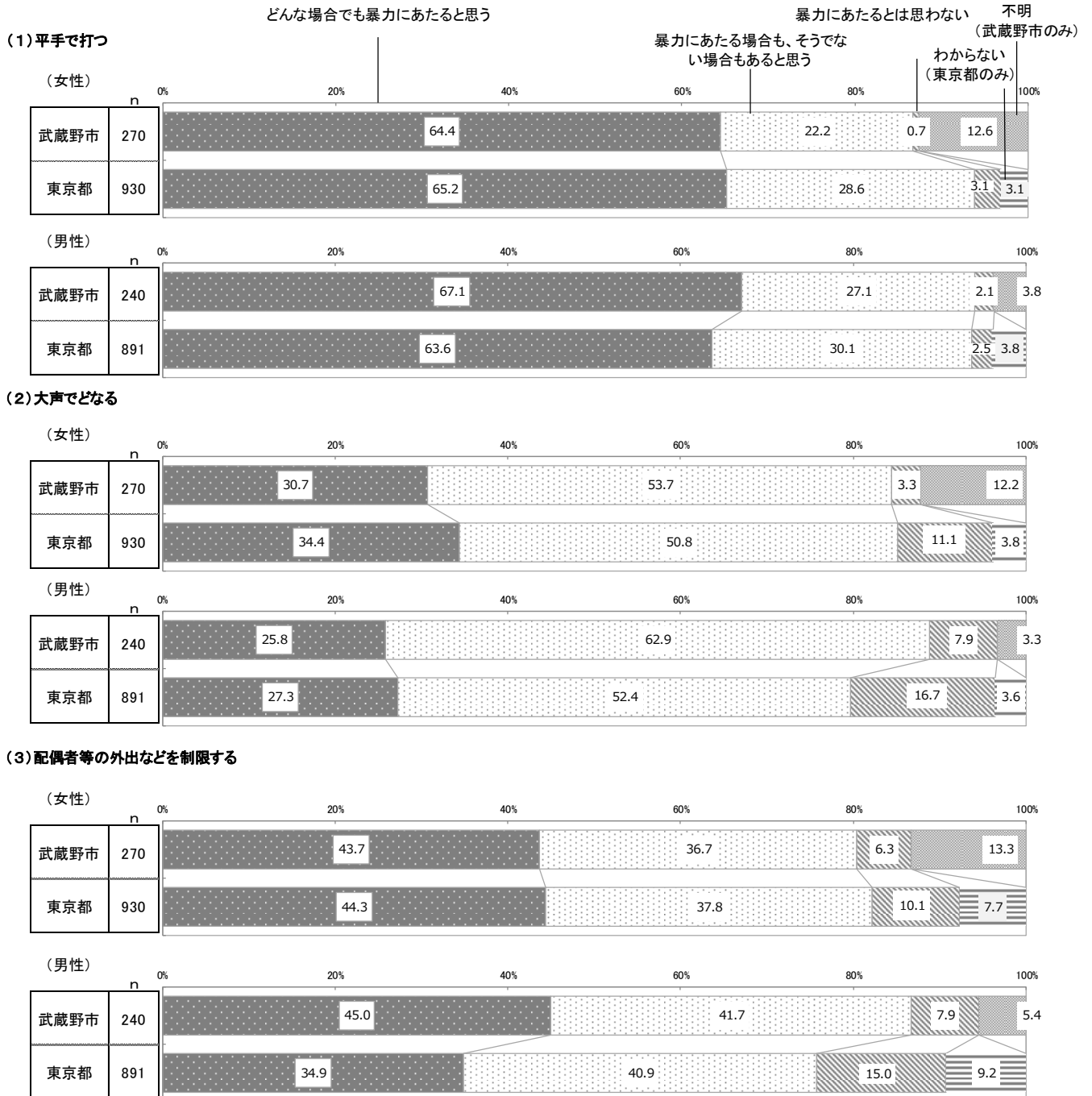
※調査対象者の年齢は、平成 29 年調査と平成 24 年調査は 18 歳以上、平成 20 年調査は 20 歳以上である。

＜類似調査比較＞

同様の質問項目がある東京都の「男女平等参画に関する世論調査（平成 27 年）」と、各項目について「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答を比べてみると、まず「平手で打つ」については、女性はほぼ同率、男性では武蔵野市の方が高い。

「大声でどなる」では、男女ともに、市より都の方回答が上回る。「配偶者等の外出などを制限する」では、女性はほぼ同率で、男性では市の方が回答が上回る（図表一問 19—⑨）。

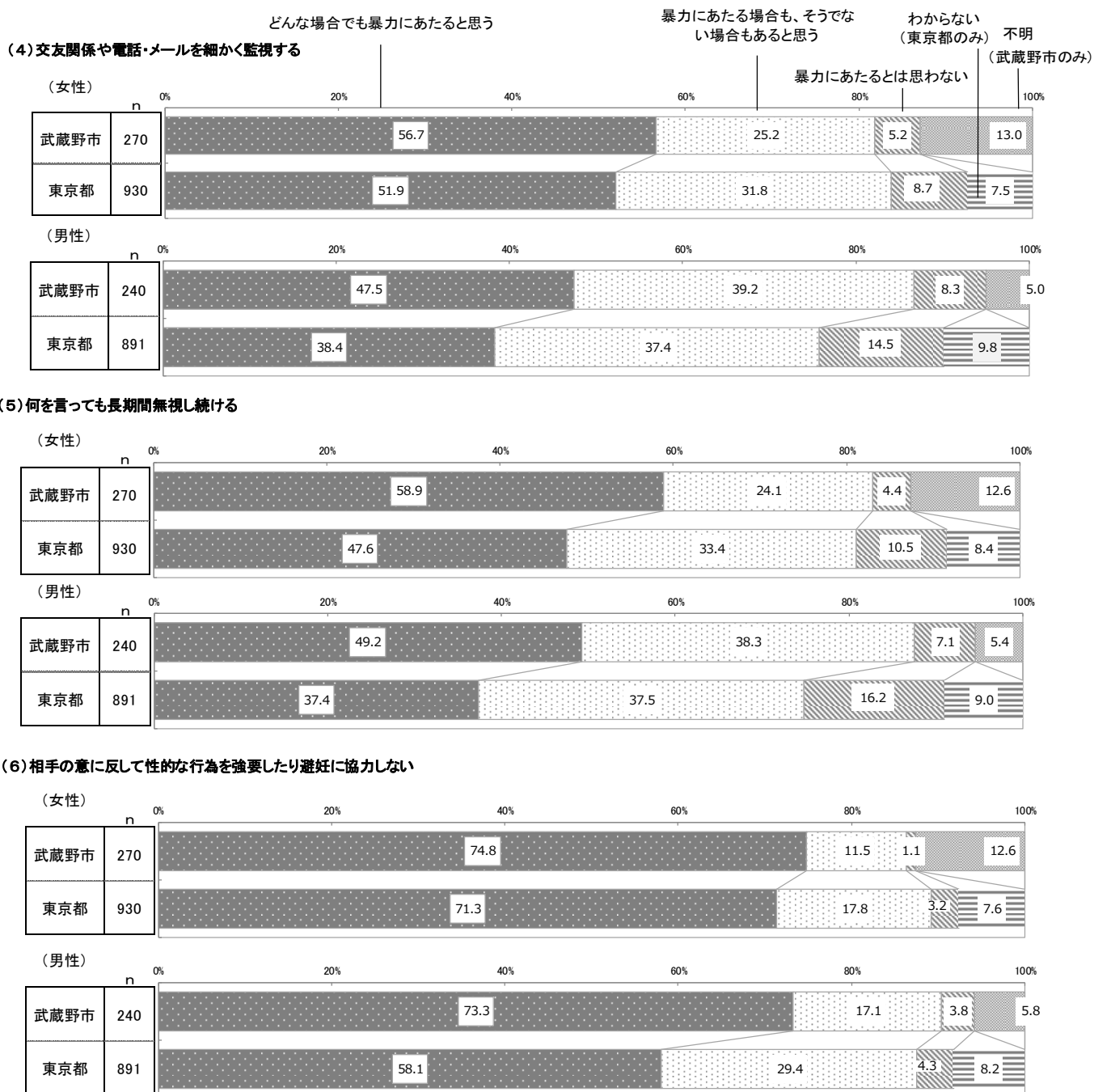
図表一問 19—⑨ 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【類似調査比較】
平手で打つ/大声でどなる/配偶者等の外出などを制限する



「交友関係や電話・メールを細かく監視する」、「何を言っても長期間無視し続ける」、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」については、男女とも、武蔵野市の方が東京都調査より回答が上回る（図表一問 19—20）。

図表一問 19—20 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）【類似調査比較】

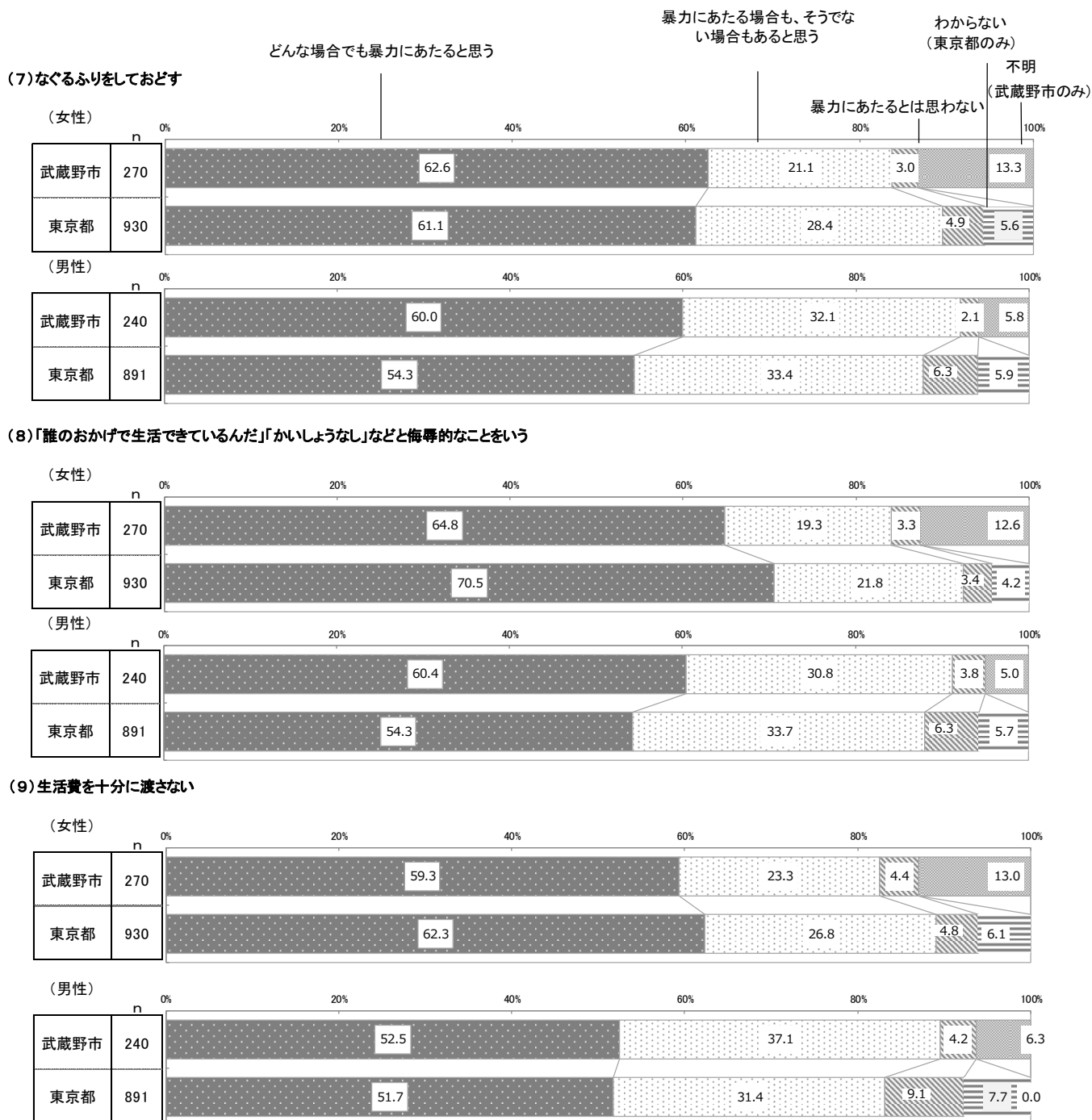
交友関係や電話・メールを細かく監視する/
相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない



「なぐるふりをしておどす」については、男女とも、武蔵野市の方が東京都調査より回答率が高い。
 『誰のおかげで生活できているんだ』、『かいしょうなし』などと侮辱的なことをいう」「生活費を十分に渡さない」については、女性では都の調査の方が、男性では市の調査が、値が上回っている(図表一問 19—②)。

図表一問 19—② 親しい関係にある男女間の暴力の認識(性別)【類似調査比較】

なぐるふりをしておどす/「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう/
 生活費を十分に渡さない



※東京都調査では「配偶者等の外出などを制限する」が「外出など制限する」に、「何を言っても長期間無視し続ける」が「何を言っても無視する」になっている。

※東京都調査は「男女平等参画に関する世論調査(平成27年)」

※調査対象者の年齢は、武蔵野市は18歳以上、東京都は20歳以上である。

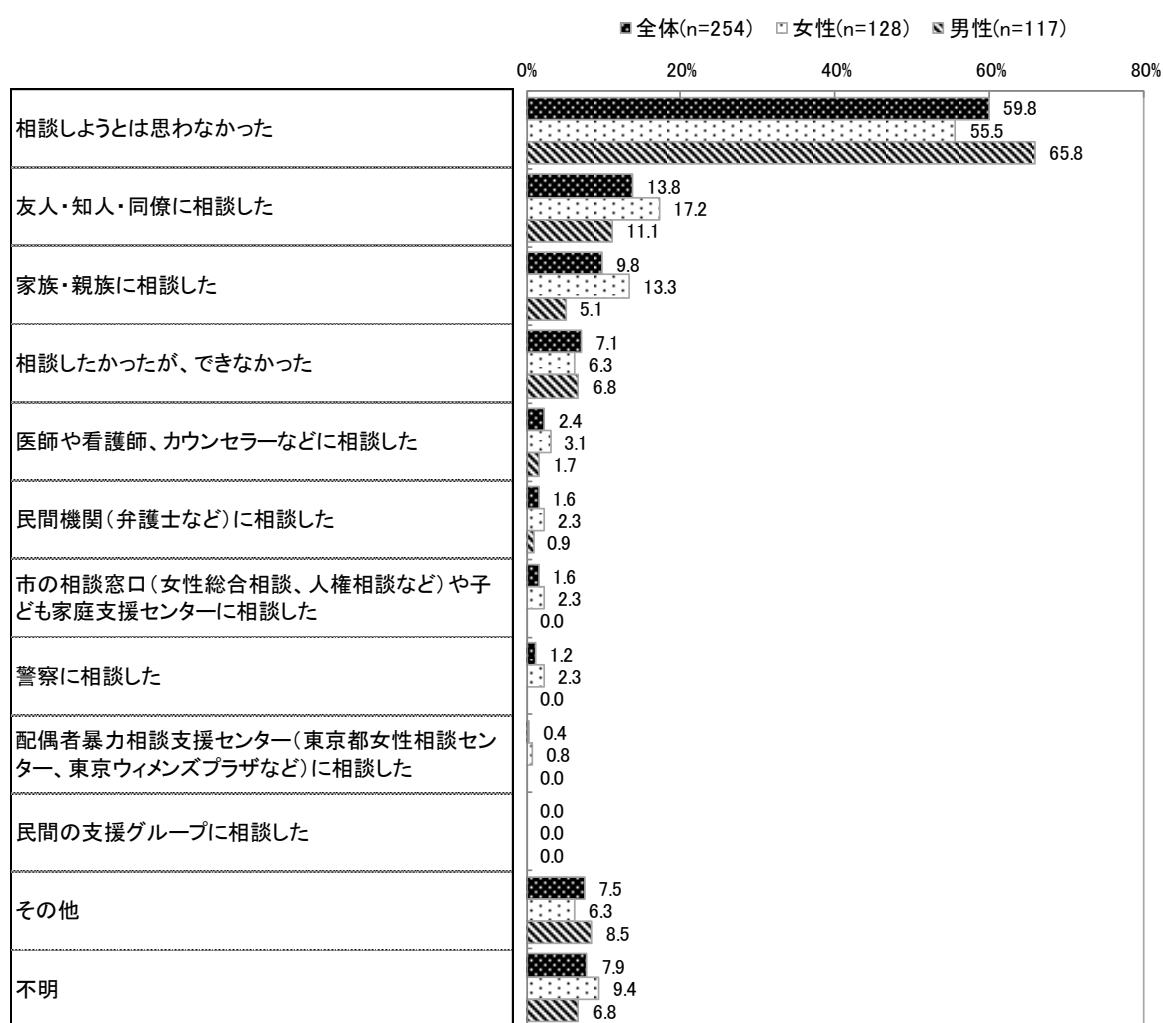
(問 19 のいずれかの項目で「A.何度もある」または「B.1、2度ある」と答えた方)

問 19-1 あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。
(○はいくつでも)

全体の 59.8%が「相談しようと思わなかった」、7.1%が「相談したかったが、できなかった」となっており、70%弱が相談していない。

全体で最も回答率が高かったのは「相談しようと思わなかった」の 59.8%で、ついでかなり離れて「友人・知人・同僚に相談した」の 13.8%、「家族・親族に相談した」の 9.8%、「相談したかったが、できなかった」の 7.1%と続く。「市の相談窓口や子ども家庭支援センターに相談した」は 1.6%となっている(図表一問 19-②)。

図表一問 19-② 暴力を受けたときの相談の有無/相談先(全体、性別)



Ⅱ-6 男女間の暴力について

性・年代別で見ると、「相談しようとは思わなかった」は男性 60 代で 90.5%、女性 70 代以上で 44.4%となっている。「友人・知人・同僚に相談した」は女性 30 代で 38.5%となっている。また、「家族・親族に相談した」は、女性 30 代と 60 代、男性 20 代で 20%台となっている。

女性 50 代では「医師や看護師、カウンセラーなどに相談した」が 12.9%、70 代以上では「相談したかったが、できなかった」が 18.5%となっている（図表一問 19—⑳）。

図表一問 19—⑳ 暴力を受けたときの相談の有無/相談先（全体、性別、性・年代別）

		n=	相談しようとは思わなかった	友人・知人・同僚に相談した	家族・親族に相談した	相談したかったが、できなかった	医師や看護師、カウンセラーなどに相談した	民間機関（弁護士など）に相談した	市の人権相談窓口（女性総合相談、支援センター）や子ども家庭支援センターに相談した	警察に相談した	相談した（東京都ウイメンズプラザなど）に相談した	配偶者暴力相談支援センター（東京都女性相談センター、東京ウイメンズプラザなど）に相談した	民間の支援グループに相談した	その他	不明
全体		254	59.8	13.8	9.8	7.1	2.4	1.6	1.6	1.2	0.4	0.0	7.5	7.9	
性別	女性	128	55.5	17.2	13.3	6.3	3.1	2.3	2.3	2.3	0.8	0.0	6.3	9.4	
	男性	117	65.8	11.1	5.1	6.8	1.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	6.8	
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	7	71.4	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代	13	53.8	38.5	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		40代	31	54.8	16.1	9.7	6.5	0.0	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0	12.9	9.7
		50代	31	67.7	9.7	19.4	0.0	12.9	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	6.5	0.0
		60代	18	50.0	22.2	22.2	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
		70代以上	27	44.4	7.4	0.0	18.5	0.0	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0	7.4	22.2
	男性	10代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		20代	10	50.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
		30代	15	60.0	20.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7
		40代	24	62.5	8.3	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	8.3
		50代	22	68.2	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6
		60代	21	90.5	9.5	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0
		70代以上	24	58.3	16.7	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	4.2

(問 19-1 で「1.相談したかったが、できなかった」または「2.相談しようとは思わなかった」と答えた方)

問 19-2

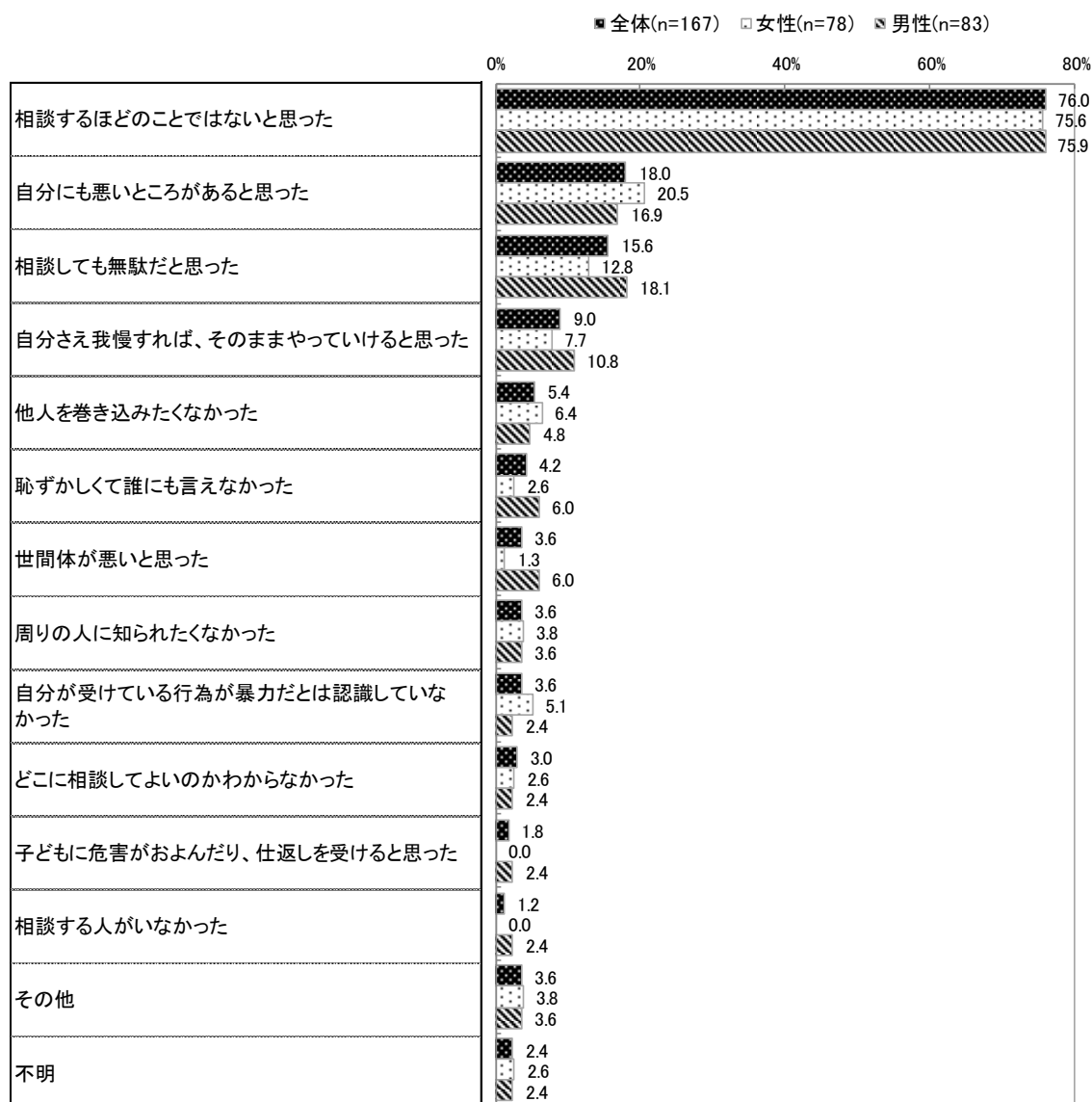
相談しなかった理由としてあなたのお考えに近いものを選んでください。
(○はいくつでも)

全体の 76.0%が「相談するほどのことではないと思った」と回答。

全体で最も回答率が高かったのは「相談するほどのことではないと思った」の 76.0%で、ついでかなり離れて「自分にも悪いところがあると思った」の 18.0%、「相談しても無駄だと思った」の 15.6%、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」の 9.0%と続く。

男女別では、女性で「自分にも悪いところがあると思った」が 20.5%、男性で「相談しても無駄だと思った」が 18.1%、「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」が 10.8%となっている(図表一問 19—④)。

図表一問 19—④ 暴力を受けたときの相談しなかった理由(全体、性別)



Ⅱ-6 男女間の暴力について

性・年代別では、女性の40代で「相談するほどのことではないと思った」の回答率が89.5%となっている。男性30代と70代以上で「自分にも悪いところがあると思った」、女性70代以上と男性40代で「自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った」の回答率が高い(図表一問19—㉔)。

図表一問 19—㉔ 暴力を受けたときの相談しなかった理由(全体、性別、性・年代別)

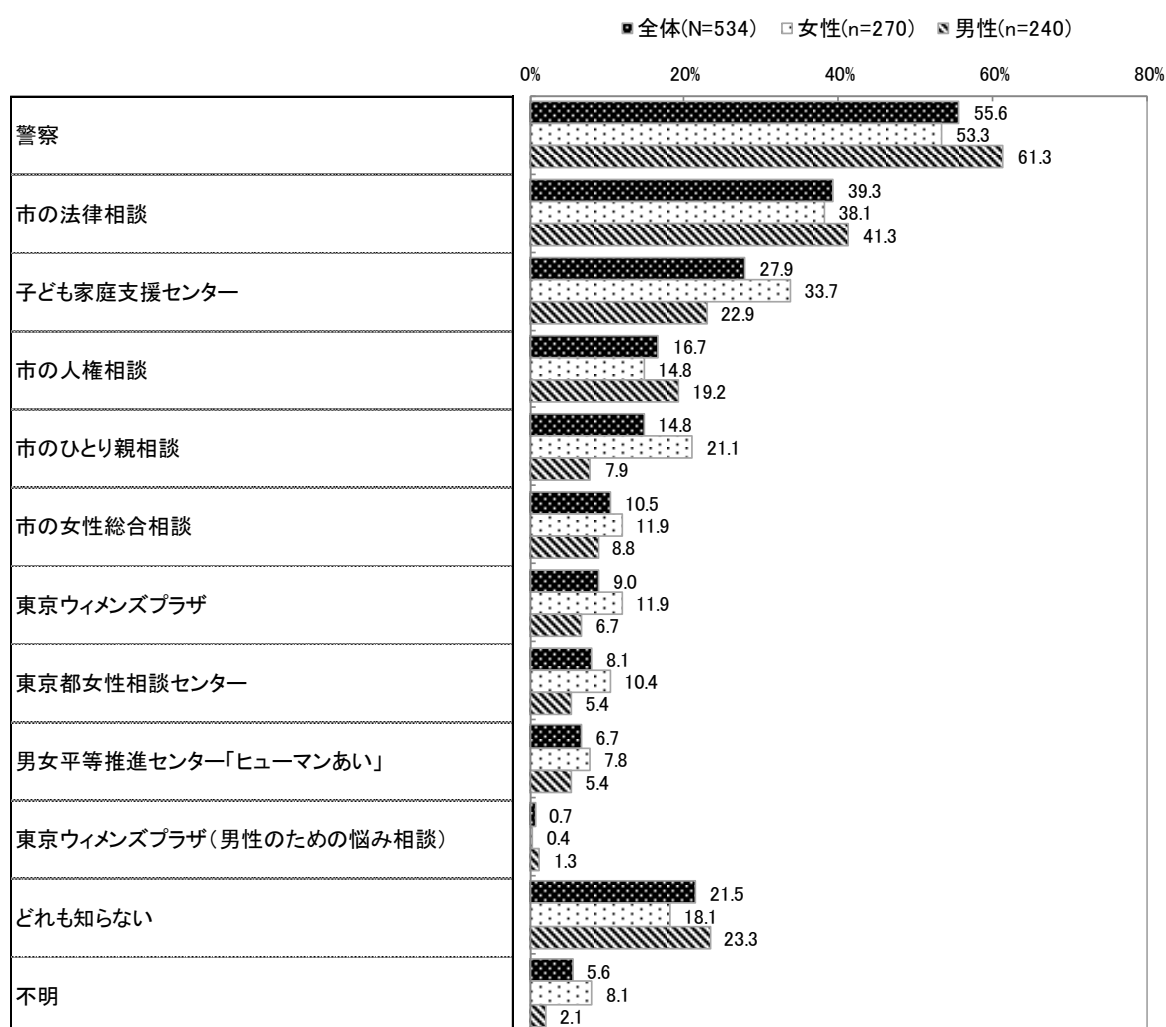
		n=	相談するほどのことではないと思 った	自分にも悪いところがあると 思った	相談しても無駄だと思った	自分さえ我慢すれば、そのま まやっていけると思った	他人を巻き込みたくなかつ た	恥ずかしくて誰にも言えなかつ た	世間体が悪いと思った	周りの人に知られたくなかつ た	自分を受けている行為が暴力だ とは認識していなかった	どこに相談してよいのかわから なかった	子どもに危害がおよんだり、仕 返しを受けると思った	相談する人がいなかった	その他	不 明		
全体		167	76.0	18.0	15.6	9.0	5.4	4.2	3.6	3.6	3.6	3.0	1.8	1.2	3.6	2.4		
性別	女性	78	75.6	20.5	12.8	7.7	6.4	2.6	1.3	3.8	5.1	2.6	0.0	0.0	3.8	2.6		
	男性	83	75.9	16.9	18.1	10.8	4.8	6.0	6.0	3.6	2.4	2.4	2.4	2.4	3.6	2.4		
	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
性・年代別	女性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		20代	5	80.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		30代	7	71.4	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		40代	19	89.5	26.3	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	
		50代	21	85.7	14.3	9.5	0.0	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0
		60代	10	50.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
		70代以上	16	62.5	25.0	12.5	25.0	12.5	6.3	6.3	0.0	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	男性	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		20代	6	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	
		30代	10	80.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	
		40代	17	70.6	11.8	23.5	23.5	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	
		50代	16	81.3	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	
		60代	19	78.9	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	10.5	
		70代以上	15	86.7	40.0	20.0	13.3	13.3	13.3	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	

問 20 あなたは下記の相談機関、相談窓口があることを知っていますか。(〇はいくつでも)

警察が55.6%と最も認知率が高く、市の法律相談の39.3%、子ども家庭支援センターの27.9%が続く。

全体で最も回答率が高かったのは「警察」の55.6%で、ついで「市の法律相談」の39.3%、「子ども家庭支援センター」の27.9%、「市の人権相談」の16.7%と続く(図表一問20-①)。

図表一問20-① 暴力を受けたときの相談機関の認知(全体、性別)



性・年代別では、「警察」の回答率が女性 50 代と男性 40 代で 70%を超えている。「市の法律相談」は女性 60 代と男性 50 代以上で 50%を超えている。「子ども家庭支援センター」は女性の 40 代と 50 代で 40%を超えている。「市のひとり親相談」は女性の 40 代から 60 代で、「市の女性総合相談」は女性 60 代で、「東京ウィメンズプラザ」は女性 20 代で 20%台となっている。また、女性 20 代と男性 20 代、30 代では「どれも知らない」が 30%台となっている（図表一問 20—②）。

図表一問 20—② 暴力を受けたときの相談機関の認知（全体、性別、性・年代別）

		N =	警察	市の法律相談	子ども家庭支援センター	市の人権相談	市のひとり親相談	市の女性総合相談	東京ウィメンズプラザ	東京都女性相談センター	男女平等推進センター「ヒューマンあい」	東京ウィメンズプラザ（男性のための悩み相談）	どれも知らない	不明	
全体		534	55.6	39.3	27.9	16.7	14.8	10.5	9.0	8.1	6.7	0.7	21.5	5.6	
性別	女性	270	53.3	38.1	33.7	14.8	21.1	11.9	11.9	10.4	7.8	0.4	18.1	8.1	
	男性	240	61.3	41.3	22.9	19.2	7.9	8.8	6.7	5.4	5.4	1.3	23.3	2.1	
	その他	2	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	64.3	28.6	21.4	14.3	14.3	0.0	21.4	14.3	7.1	7.1	35.7	0.0
		30代	40	57.5	17.5	27.5	2.5	12.5	5.0	10.0	5.0	7.5	0.0	25.0	5.0
		40代	59	54.2	27.1	47.5	10.2	22.0	8.5	16.9	8.5	6.8	0.0	22.0	1.7
		50代	45	73.3	46.7	42.2	15.6	28.9	13.3	13.3	8.9	2.2	0.0	13.3	2.2
		60代	46	47.8	54.3	28.3	23.9	28.3	21.7	15.2	13.0	6.5	0.0	10.9	6.5
		70代以上	65	36.9	46.2	26.2	20.0	16.9	13.8	3.1	13.8	13.8	0.0	15.4	23.1
	男性	10代	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
		20代	27	51.9	14.8	25.9	0.0	3.7	0.0	0.0	7.4	3.7	0.0	37.0	3.7
		30代	37	59.5	18.9	18.9	13.5	0.0	2.7	8.1	0.0	2.7	0.0	35.1	0.0
		40代	38	76.3	34.2	31.6	21.1	10.5	7.9	13.2	5.3	2.6	2.6	18.4	0.0
		50代	42	61.9	50.0	19.0	16.7	14.3	9.5	9.5	7.1	7.1	4.8	23.8	0.0
		60代	41	58.5	56.1	14.6	17.1	12.2	9.8	4.9	9.8	4.9	0.0	19.5	2.4
		70代以上	51	56.9	60.8	27.5	37.3	5.9	17.6	3.9	3.9	9.8	0.0	13.7	5.9

武蔵野市の取組についての認知との関係を見ると、市の施策を「内容まで一応知っている」「聞いたことはある」層では、各相談機関の認知率が全般的に高い(図表一問20-③)。

図表一問20-③ 暴力を受けたときの相談機関の認知(性・市の取組への認知別)

		n=	警察	市の法律相談	子ども家庭支援センター	市の人権相談	市のひとり親相談	市の女性総合相談	東京ウイメンズブラザ	東京都女性相談センター	男女平等推進センター「ヒューマンあい」	東京ウイメンズブラザ(男性のための悩み相談)	どれも知らない	不明		
武蔵野市の取り組みについての認知	例進男性に女・武蔵野市	内容まで一応知っている	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		聞いたことはある	62	69.4	59.7	61.3	30.6	38.7	32.3	14.5	25.8	19.4	0.0	4.8	1.6	
		知らない	183	51.4	32.2	25.1	9.3	14.8	3.8	11.5	4.9	3.8	0.5	24.0	5.5	
		女性	内容まで一応知っている	3	33.3	33.3	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0
			聞いたことはある	52	78.8	63.5	42.3	36.5	17.3	19.2	9.6	9.6	13.5	3.8	7.7	1.9
			知らない	179	58.7	35.8	17.3	14.0	4.5	5.6	5.0	3.9	2.8	0.0	27.9	0.0
	同第三・武蔵野市	女性	内容まで一応知っている	2	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			聞いたことはある	34	70.6	61.8	64.7	32.4	38.2	35.3	26.5	41.2	32.4	2.9	2.9	5.9
			知らない	206	52.9	35.0	28.2	11.7	18.0	5.8	10.7	4.9	3.4	0.0	22.3	3.9
		男性	内容まで一応知っている	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
			聞いたことはある	23	87.0	65.2	47.8	30.4	17.4	26.1	13.0	13.0	34.8	4.3	8.7	0.0
			知らない	208	60.1	38.9	20.2	17.8	6.3	6.7	5.3	4.3	1.9	0.5	25.5	0.5
	ンター・武蔵野市	女性	内容まで一応知っている	4	100.0	50.0	50.0	0.0	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	
			聞いたことはある	40	67.5	55.0	62.5	22.5	37.5	27.5	15.0	27.5	45.0	0.0	2.5	5.0
			知らない	199	52.8	35.2	28.1	13.6	17.6	5.5	11.6	6.0	0.5	0.5	23.1	4.0
		男性	内容まで一応知っている	5	80.0	80.0	60.0	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
			聞いたことはある	34	85.3	64.7	47.1	32.4	17.6	23.5	2.9	8.8	20.6	0.0	5.9	0.0
			知らない	193	58.0	36.3	18.1	16.6	5.7	5.7	6.7	4.1	1.6	1.0	27.5	0.5
	フオラ・武蔵野市	女性	内容まで一応知っている	2	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
			聞いたことはある	70	62.9	57.1	52.9	28.6	32.9	22.9	20.0	22.9	22.9	1.4	10.0	5.7
			知らない	172	52.3	32.0	25.6	8.7	15.7	5.2	9.9	4.1	1.7	0.0	23.3	3.5
		男性	内容まで一応知っている	3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
			聞いたことはある	49	81.6	63.3	36.7	38.8	16.3	24.5	8.2	6.1	12.2	2.0	4.1	2.0
			知らない	180	57.2	35.0	18.9	13.9	5.0	4.4	5.6	5.0	2.8	0.6	29.4	0.0
『推進情報誌』	女性	内容まで一応知っている	36	55.6	66.7	58.3	30.6	36.1	27.8	13.9	13.9	16.7	0.0	11.1	5.6	
		聞いたことはある	56	62.5	46.4	50.0	28.6	32.1	21.4	16.1	19.6	14.3	0.0	12.5	3.6	
		知らない	160	53.1	31.3	25.0	7.5	15.6	5.0	11.3	7.5	4.4	0.6	23.1	3.8	
	男性	内容まで一応知っている	9	88.9	66.7	44.4	66.7	55.6	44.4	44.4	11.1	22.2	22.2	0.0	0.0	
		聞いたことはある	33	63.6	60.6	27.3	12.1	6.1	9.1	6.1	6.1	15.2	0.0	12.1	0.0	
		知らない	190	61.1	36.8	21.6	18.9	6.3	7.4	5.3	5.3	2.6	0.5	26.8	0.5	
相談・女性総合	女性	内容まで一応知っている	5	100.0	60.0	80.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0		
		聞いたことはある	46	63.0	63.0	63.0	32.6	41.3	39.1	21.7	32.6	26.1	2.2	4.3	6.5	
	知らない	193	52.8	33.7	25.9	9.8	16.1	2.6	10.4	3.6	3.6	0.0	23.3	3.6		
	男性	内容まで一応知っている	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
聞いたことはある		32	78.1	78.1	50.0	40.6	21.9	25.0	9.4	12.5	9.4	0.0	3.1	0.0		
知らない	198	59.6	35.4	17.7	15.7	5.1	6.1	5.6	4.0	4.0	1.0	27.3	0.5			

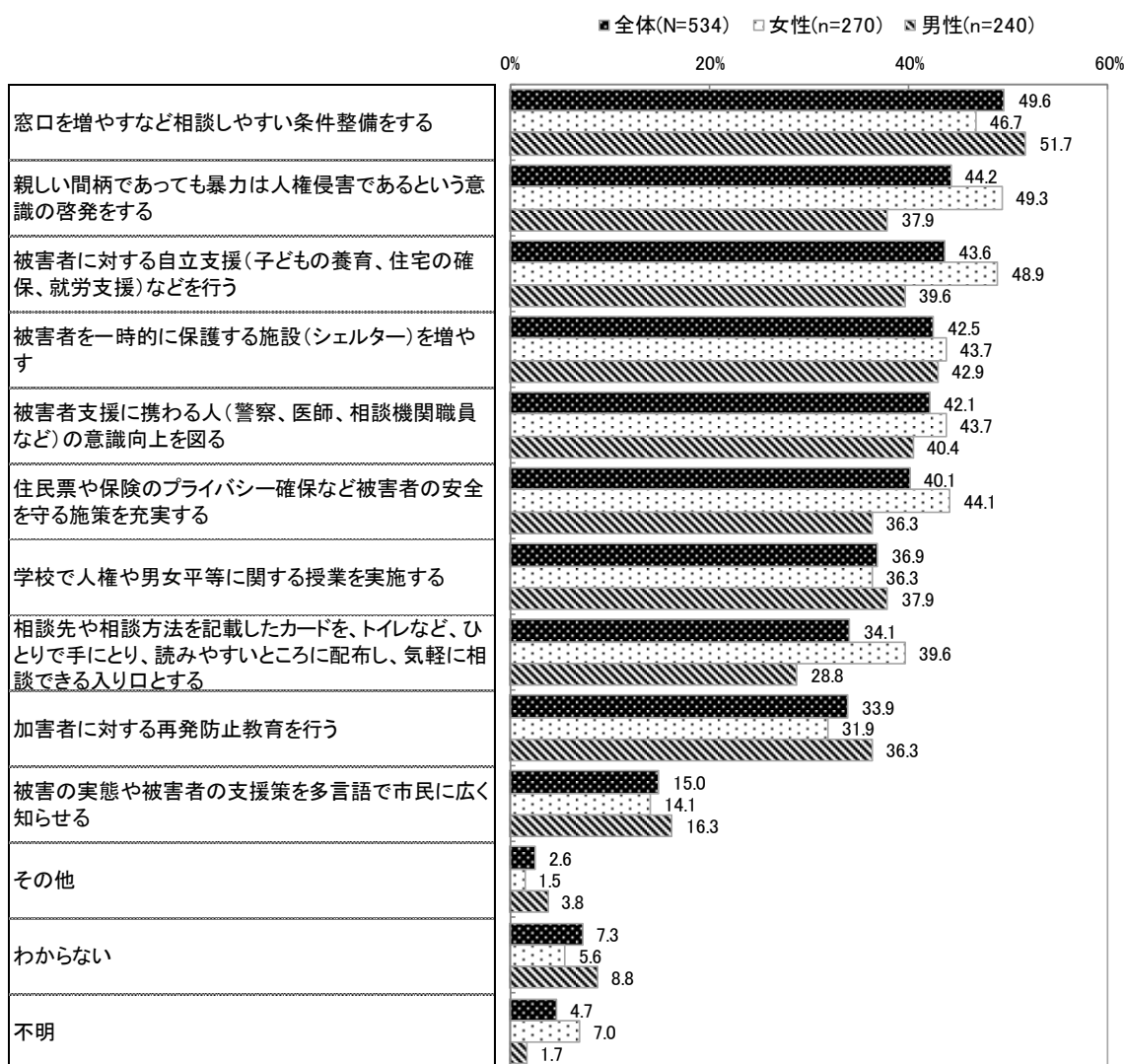
問 21 あなたは配偶者間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）やデート DV の対策や防止のために、今後、武蔵野市の施策として特にどのような事業が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

施策として特に求められているのは「窓口を増やすなどの条件整備」49.6%、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発」44.2%

全体で最も回答率が高かったのは「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」の 49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の 44.2%、「被害者に対する自立支援などを行う」の 43.6%、「被害者を一時的に保護する施設を増やす」の 42.5%と続く。

男女別でみると、女性では「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」（49.3%）、「被害者に対する自立支援などを行う」（48.9%）、「住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」（44.1%）の回答率が男性との比較で 10%前後高くなっている。男性では「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」（51.7%）、「加害者に対する再発防止教育を行う」（36.3%）の回答率が、女性との比較で 5 ポイント程度上回っている（図表一問 21-①）。

図表一問 21-① 男女間の暴力を防止するために必要な市の施策（全体、性別）



性・年代別で見ると、女性では、20代、30代、50代で「親しい間柄であっても暴力は人権侵害である」という意識の啓発をする」、20代、50代で「被害者に対する自立支援などを行う」、50代で「被害者を一時的に保護する施設を増やす」、60代で「被害者支援に携わる人の意識向上を図る」、20代、50代で「住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する」の回答が50%台の後半から70%台となっている。

一方男性では60代で「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が65.9%となっている。40代、50代では「被害者を一時的に保護する施設を増やす」、50代で「被害者支援に携わる人の意識向上を図る」、40代で「学校で人権や男女平等に関する授業を実施する」が50%を超えている。(図表一問21-②)。

図表一問21-② 男女間の暴力を防止するために必要な市の施策（全体、性別、性・年代別）

		N =	条件整備を増やすなど相談しやすい	窓口を増やすなど相談しやすい	親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発	援)などを行う	被害者に対する自立支援(子どもへの養育、住宅の確保、就労支援)	被害者を一時的に保護する施設(シェルター)を増やす	被害者支援に携わる人(警察、医師、相談機関職員など)の意識向上を図る	被害者支援に携わる人(警察、医師、相談機関職員など)の意識向上を図る	住民票や保険のプライバシー確保を充実する	学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	りに配布し、気軽に相談できる入り口とする	カード先や相談方法を記載した手にとり、読みやすいところ	加害者に対する再発防止教育を行う	被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	その他	わからない	不明	
全体		534	49.6	44.2	43.6	42.5	42.1	40.1	36.9	34.1	33.9	15.0	2.6	7.3	4.7					
性別	女性	270	46.7	49.3	48.9	43.7	43.7	44.1	36.3	39.6	31.9	14.1	1.5	5.6	7.0					
	男性	240	51.7	37.9	39.6	42.9	40.4	36.3	37.9	28.8	36.3	16.3	3.8	8.8	1.7					
	その他	2	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0				
性・年代別	女性	10代	1	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
		20代	14	35.7	57.1	57.1	28.6	21.4	71.4	42.9	57.1	42.9	7.1	0.0	0.0	0.0				
		30代	40	40.0	62.5	47.5	45.0	45.0	42.5	35.0	45.0	17.5	12.5	0.0	5.0	5.0				
		40代	59	44.1	52.5	45.8	32.2	40.7	39.0	33.9	35.6	32.2	8.5	5.1	3.4	1.7				
		50代	45	57.8	55.6	62.2	62.2	46.7	62.2	40.0	46.7	35.6	15.6	2.2	4.4	2.2				
		60代	46	52.2	43.5	50.0	41.3	60.9	39.1	41.3	37.0	32.6	15.2	0.0	4.3	4.3				
		70代以上	65	43.1	35.4	41.5	44.6	36.9	35.4	32.3	33.8	33.8	20.0	0.0	10.8	20.0				
	男性	10代	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0			
		20代	27	37.0	25.9	33.3	33.3	33.3	29.6	22.2	33.3	25.9	11.1	0.0	14.8	3.7				
		30代	37	43.2	37.8	40.5	35.1	40.5	40.5	32.4	37.8	40.5	21.6	5.4	10.8	0.0				
		40代	38	57.9	47.4	42.1	55.3	39.5	39.5	50.0	42.1	47.4	23.7	7.9	5.3	0.0				
		50代	42	52.4	42.9	52.4	59.5	52.4	40.5	45.2	23.8	42.9	26.2	4.8	2.4	0.0				
		60代	41	65.9	39.0	29.3	31.7	41.5	36.6	41.5	19.5	36.6	7.3	0.0	7.3	0.0				
		70代以上	51	49.0	33.3	41.2	43.1	37.3	33.3	35.3	23.5	27.5	9.8	2.0	11.8	5.9				

<経年比較>

平成20年調査および平成24年調査と比較すると、平成29年調査で過去調査双方よりも回答率が上昇しているのは（平成29年調査で新たに追加された選択肢を除くと）、「加害者に対する再発防止教育を行う」、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の2つに止まる。

男女別にみると、女性で過去調査より回答率が上昇しているのは「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」のみ、男性では「加害者に対する再発防止教育を行う」、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」の2つとなっている（図表一問21-③）。

図表一問21-③ 男女間の暴力を防止するために必要な市の施策（全体、性別）【経年比較】

(全体)	平成20年 (N=546)	平成24年 (N=485)	平成29年 (N=534)
窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	52.9	61.2	49.6
親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	—	23.5	44.2
被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	39.2	46.4	43.6
被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	40.7	48.9	42.5
被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	33.3	46.0	42.1
住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する	—	52.0	40.1
学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	—	—	36.9
相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	—	—	34.1
加害者に対する再発防止教育を行う	22.5	32.4	33.9
被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	16.7	22.5	15.0
その他	3.5	2.3	2.6
わからない	4.6	4.5	7.3
不明（無回答）	4.2	4.7	4.7

(女性)	平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	49.1	61.9	46.7
親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	—	24.1	49.3
被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	49.7	50.3	48.9
被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	42.7	53.1	43.7
被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	33.2	44.9	43.7
住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する	—	57.8	44.1
学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	—	—	36.3
相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	—	—	39.6
加害者に対する再発防止教育を行う	23.8	33.3	31.9
被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	16.2	18.7	14.1
その他	1.8	1.7	1.5
わからない	4.0	3.1	5.6
不明（無回答）	3.4	4.1	7.0

(男性)	平成20年 (n=202)	平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)
窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	60.4	61.1	51.7
親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	—	21.6	37.9
被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	23.3	40.1	39.6
被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	38.1	43.1	42.9
被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	34.7	47.3	40.4
住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する	—	42.5	36.3
学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	—	—	37.9
相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	—	—	28.8
加害者に対する再発防止教育を行う	20.8	29.9	36.3
被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	18.3	29.3	16.3
その他	5.9	3.6	3.8
わからない	5.4	7.2	8.8
不明（無回答）	3.5	4.8	1.7

※平成24年調査、平成20年調査では「被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる」は「被害の実態や被害者の支援策を市民に広く知らせる」になっている。平成20年調査では「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」は「配偶者間等での暴力防止に関する意識啓発を強化する」になっている。

※調査対象者の年齢は、平成20年調査は20歳以上である。

※平成20年調査は回答を「3つまで」と制限しているが、平成29年調査と平成24年調査は回答を「いくつでも」としている。

7. 市の施策について

問 22

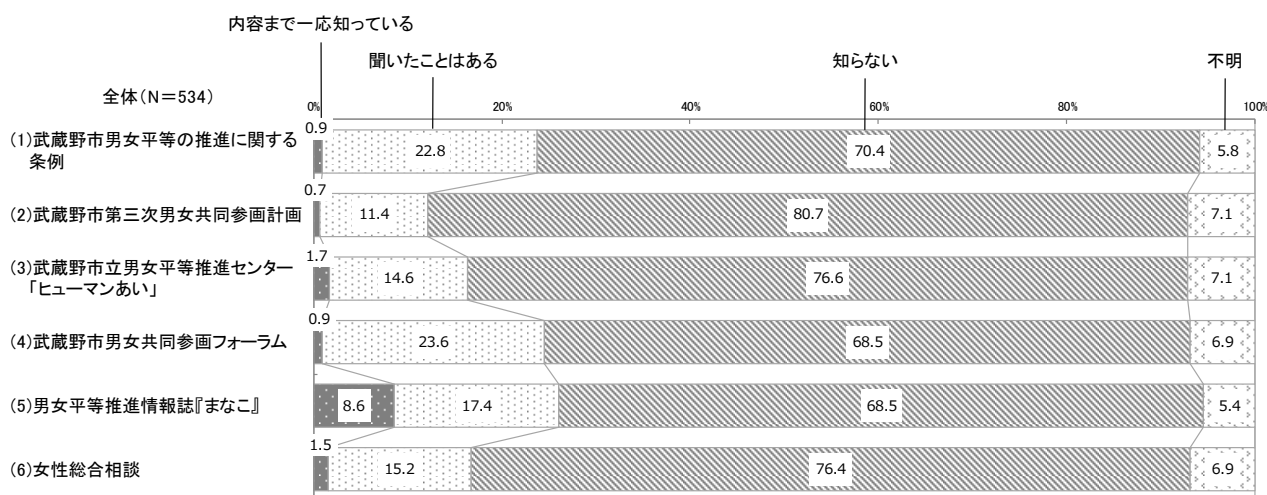
あなたは、ここにあげる武蔵野市の取り組みを知っていますか。
(それぞれについて○は1つ)

認知率が最も高かったのは「男女平等推進情報誌『まなこ』」の26.0%。次に高いのは、「聞いたことがある」まで含めれば「武蔵野市男女共同参画フォーラム」の24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の23.7%が続く。

全体で最も認知率が高かったのは「男女平等推進情報誌『まなこ』」となっている（「内容まで一応知っている」8.6%、「聞いたことがある」17.4%の合計は26.0%）。「内容まで一応知っている」と「聞いたことがある」の合計が次に高いのは「武蔵野市男女共同参画フォーラム」の24.5%で、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」が23.7%で続いている。

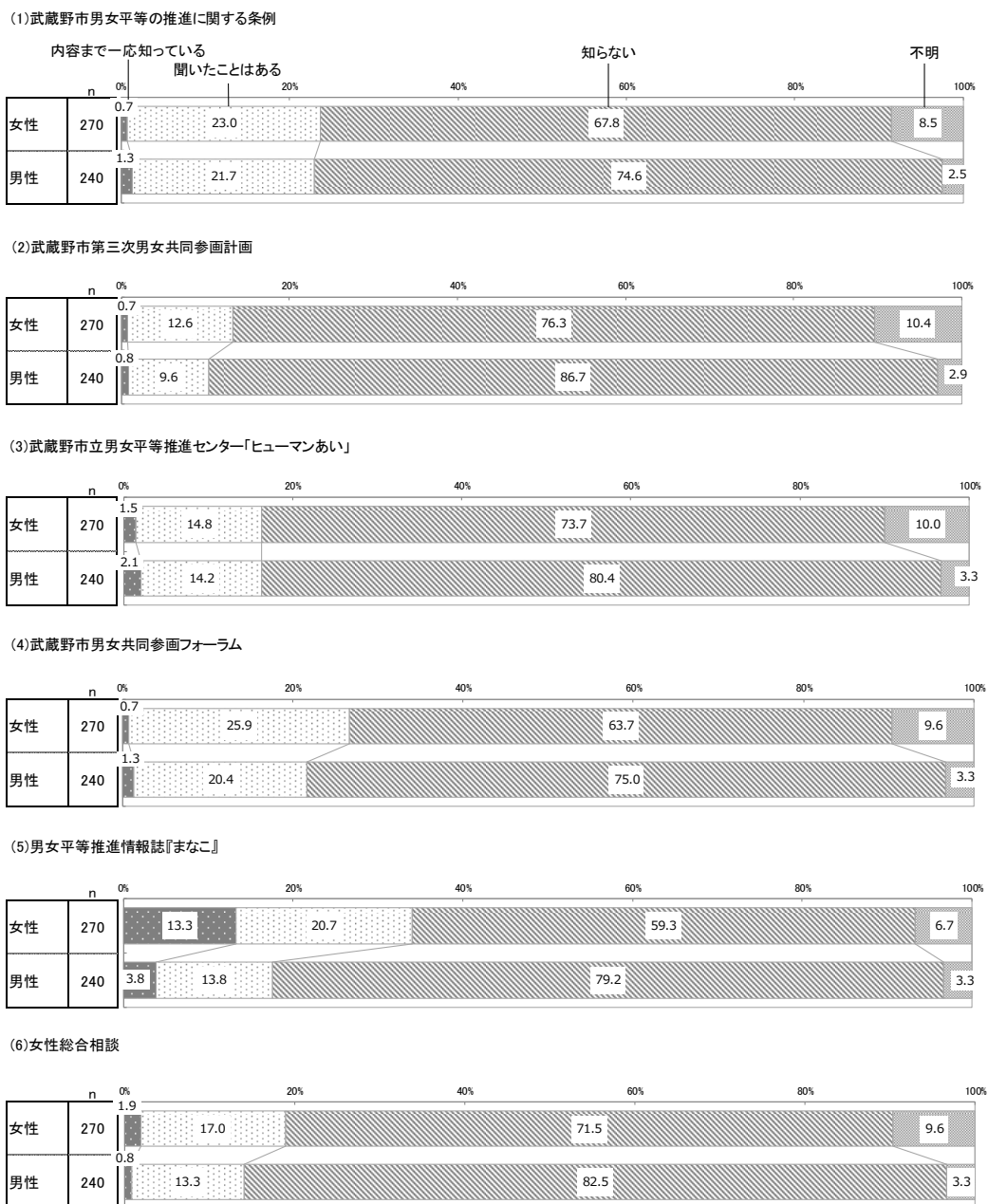
一方、「武蔵野市立男女平等推進センター『ヒューマンあい』」（「内容まで一応知っている」1.7%、「聞いたことがある」14.6%の合計は16.3%）については、「内容まで一応知っている」では、「男女平等推進情報誌『まなこ』」に次ぐ割合となっている（図表一問22-①）。

図表一問22-① 武蔵野市の施策の認知（全体）



男女別に差をみると、「武蔵野市立男女平等推進センター『ヒューマンあい』」の認知率（「内容まで一応知っている」と「聞いたことがある」の合計。以下同様。）が男女ほぼ同率なのを除くと、基本的に女性の認知率が高い。特に「男女平等推進情報誌『まなこ』」では差が大きくなっている（「内容まで一応知っている」女性 13.3%、男性 3.8%。「聞いたことがある」女性 20.7%、男性 13.8%）（図表一問 22-②）。

図表一問 22-② 武蔵野市の施策の認知（性別）



<性・年代別の傾向>

(1) 武蔵野市男女平等の推進に関する条例

性・年代別でみると、女性60代と男性70代以上で認知率が高く、女性30代、男性20代、30代、60代で低い(図表一問22—③)。

図表一問22—③ 武蔵野市の施策の認知

(1) 武蔵野市男女平等の推進に関する条例(全体、性別、性・年代別)

		N =	内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
全体		534	0.9	22.8	70.4	5.8	
性別	女性	270	0.7	23.0	67.8	8.5	
	男性	240	1.3	21.7	74.6	2.5	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	28.6	71.4	0.0
		30代	40	0.0	10.0	87.5	2.5
		40代	59	0.0	20.3	76.3	3.4
		50代	45	0.0	24.4	73.3	2.2
		60代	46	2.2	34.8	54.3	8.7
		70代以上	65	1.5	23.1	52.3	23.1
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	3.7	11.1	81.5	3.7
		30代	37	0.0	5.4	94.6	0.0
		40代	38	0.0	21.1	78.9	0.0
		50代	42	2.4	23.8	73.8	0.0
		60代	41	2.4	17.1	80.5	0.0
		70代以上	51	0.0	43.1	47.1	9.8

(2) 武蔵野市第三次男女共同参画計画

性・年代別でみると、男性 30 代、60 代で認知率が低い（図表一問 22—④）。

図表一問 22—④ 武蔵野市の施策の認知

(2) 武蔵野市第三次男女共同参画計画（全体、性別、性・年代別）

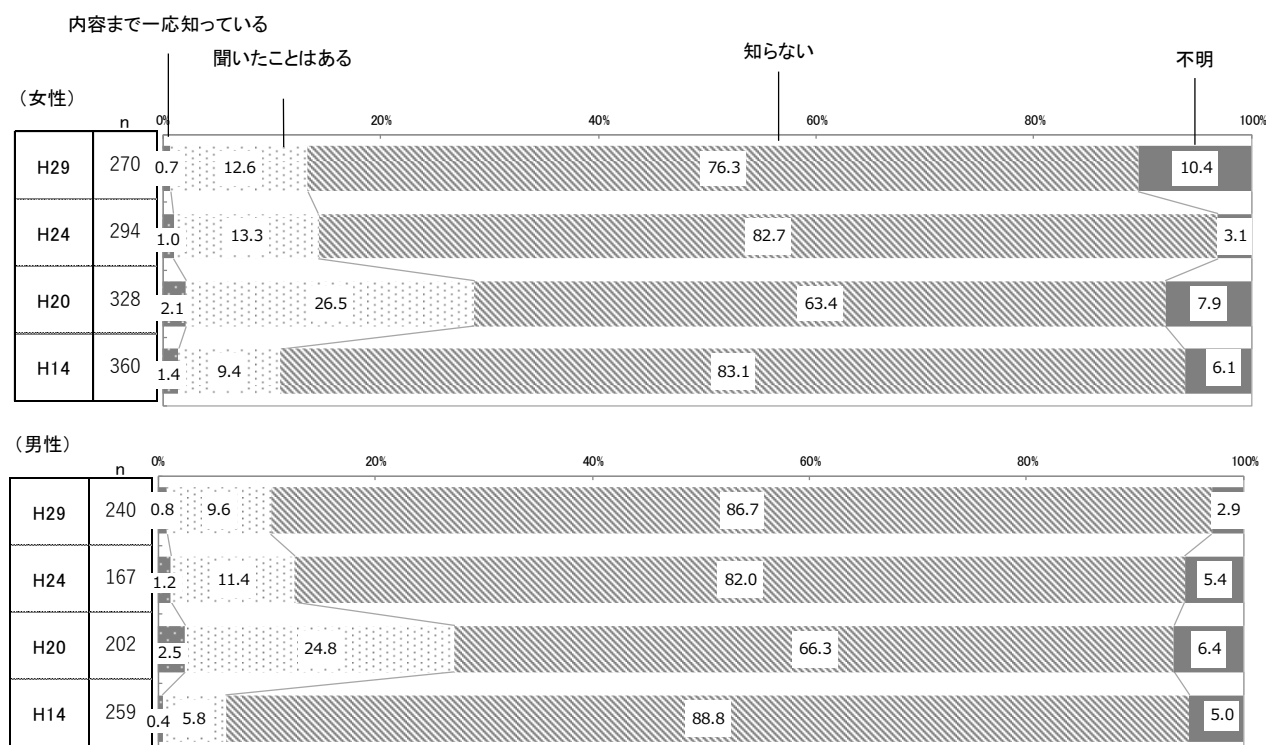
		N =	内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
全体		534	0.7	11.4	80.7	7.1	
性別	女性	270	0.7	12.6	76.3	10.4	
	男性	240	0.8	9.6	86.7	2.9	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	14.3	85.7	0.0
		30代	40	0.0	7.5	90.0	2.5
		40代	59	0.0	13.6	83.1	3.4
		50代	45	0.0	8.9	88.9	2.2
		60代	46	2.2	17.4	69.6	10.9
		70代以上	65	1.5	13.8	55.4	29.2
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	7.4	88.9	3.7
		30代	37	0.0	2.7	97.3	0.0
		40代	38	0.0	10.5	89.5	0.0
		50代	42	2.4	16.7	81.0	0.0
		60代	41	2.4	2.4	95.1	0.0
		70代以上	51	0.0	15.7	72.5	11.8

<経年比較>

「武蔵野市男女共同参画計画」については、男女とも、平成14年調査から平成20年調査にかけて認知率が上がり、その後、平成24年調査で大幅に低下、平成29年調査では、平成24年調査から微減となっている（図表一問22-⑤）。

図表一問22-⑤ 武蔵野市の施策の認知（2）武蔵野市第三次男女共同参画計画（性別）【経年比較】

(2) 武蔵野市第三次男女共同参画計画



(女性)		平成14年 (n=360)	平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
	内容まで一応知っている	1.4	2.1	1.0	0.7
	聞いたことはある	9.4	26.5	13.3	12.6
	知らない	83.1	63.4	82.7	76.3
	不明（無回答）	6.1	7.9	3.1	10.4
(男性)		平成14年 (n=259)	平成20年 (n=202)	平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)
	内容まで一応知っている	0.4	2.5	1.2	0.8
	聞いたことはある	5.8	24.8	11.4	9.6
	知らない	88.8	66.3	82.0	86.7
	不明（無回答）	5.0	6.4	5.4	2.9

※平成24年調査は『武蔵野市第二次男女共同参画計画』の認知状況を、平成20年調査は『武蔵野市男女共同参画計画』の認知状況を、平成14年調査は『女性行動計画』の認知状況をたずねている。

※平成14年調査では「聞いたことはある」は、「名称くらいは知っている」である。

※調査対象者の年齢は、平成29年調査と平成24年調査は18歳以上、平成20年調査、平成14年調査は20歳以上である。

(3) 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」

性・年代別で見ると、女性と男性の70代以上で認知率が比較的高く、女性30代、50代、男性20代、30代で特に低い。また、性・地区別では、男性の東部の居住者で「知らない」が88.9%と高くなっている(図表一問22-⑥)。

図表一問22-⑥ 武蔵野市の施策の認知

(3) 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」(全体、性別、性・年代別、性・地区別)

			内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
		N =					
		全体	534	1.7	14.6	76.6	7.1
性別	女性	270	1.5	14.8	73.7	10.0	
	男性	240	2.1	14.2	80.4	3.3	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	7.1	7.1	85.7	0.0
		30代	40	0.0	10.0	87.5	2.5
		40代	59	0.0	15.3	81.4	3.4
		50代	45	0.0	8.9	91.1	0.0
		60代	46	4.3	10.9	71.7	13.0
		70代以上	65	1.5	26.2	44.6	27.7
	男性	10代	4	0.0	25.0	75.0	0.0
		20代	27	0.0	7.4	88.9	3.7
		30代	37	0.0	5.4	94.6	0.0
		40代	38	0.0	15.8	84.2	0.0
		50代	42	4.8	11.9	83.3	0.0
		60代	41	4.9	12.2	82.9	0.0
		70代以上	51	2.0	25.5	58.8	13.7
性・地区別※	女性	東部	72	1.4	12.5	73.6	12.5
		中部	99	1.0	12.1	79.8	7.1
		西部	99	2.0	19.2	67.7	11.1
	男性	東部	63	0.0	7.9	88.9	3.2
		中部	90	3.3	15.6	78.9	2.2
		西部	87	2.3	17.2	75.9	4.6

※ 東部(吉祥寺東町、吉祥寺南町、御殿山、吉祥寺本町)
 中部(吉祥寺北町、中町、西久保、緑町、八幡町)
 西部(関前、境、境南町、桜堤)

<経年比較>

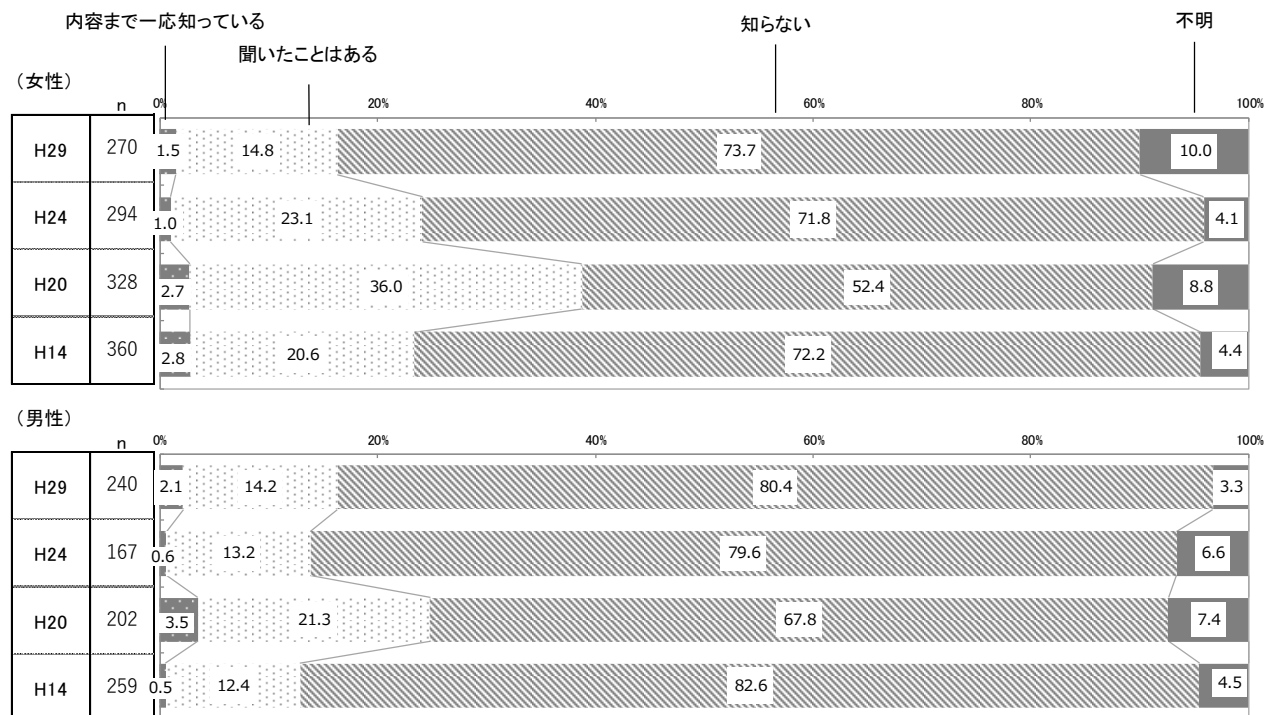
「ヒューマンあい」については、女性では、平成14年調査から平成20年調査にかけて認知率が上がり、その後、平成24年調査で大幅に低下、平成29年調査ではさらに低下している。

一方、男性では、平成14年調査から平成20年調査にかけて認知率が上がり、その後、平成24年調査で大幅に低下した後、平成29年調査でやや認知率が上がっている（図表一問22-⑦）。

図表一問22-⑦ 武蔵野市の施策の認知

(3) 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」(性別)【経年比較】

(3)武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」



性別	平成14年 (n=360)	平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)	
女性	内容まで一応知っている	2.8	2.7	1.0	1.5
	聞いたことはある	20.6	36.0	23.1	14.8
	知らない	72.2	52.4	71.8	73.7
	不明 (無回答)	4.4	8.8	4.1	10.0
男性	平成14年 (n=259)	平成20年 (n=202)	平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)	
	内容まで一応知っている	0.5	3.5	0.6	2.1
	聞いたことはある	12.4	21.3	13.2	14.2
	知らない	82.6	67.8	79.6	80.4
不明 (無回答)	4.5	7.4	6.6	3.3	

※平成14年調査では「ヒューマン・プラザ/むさしのヒューマン・ネットワークセンター」、平成20年調査と平成24年調査では「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」の認知状況をたずねている。

※平成14年調査では「聞いたことはある」は、「名称くらいは知っている」である。

※調査対象者の年齢は、平成29年調査と平成24年調査は18歳以上、平成20年調査、平成14年調査は20歳以上である。

(4) 武蔵野市男女共同参画フォーラム

性・年代別で見ると、女性の20代、60代、男性70代以上で認知率が高く、女性30代、男性20代～40代、60代で低い(図表一問22-⑧)。

図表一問22-⑧ 武蔵野市の施策の認知

(4) 武蔵野市男女共同参画フォーラム(全体、性別、性・年代別)

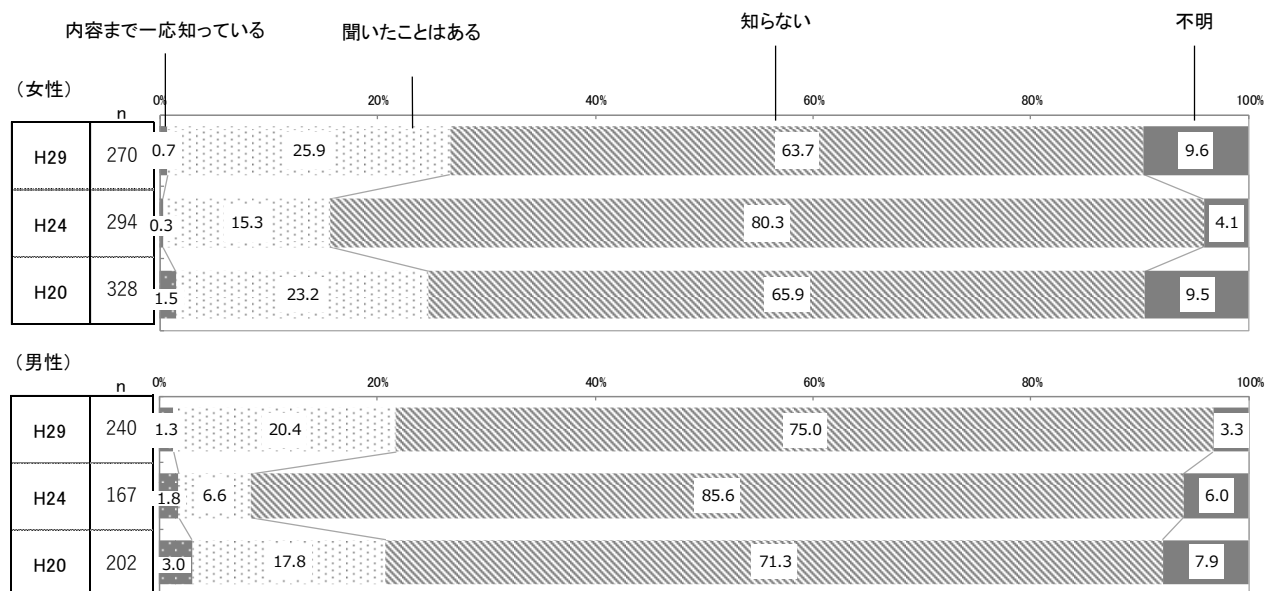
			内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
		N =					
全体		534	0.9	23.6	68.5	6.9	
性別	女性	270	0.7	25.9	63.7	9.6	
	男性	240	1.3	20.4	75.0	3.3	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	35.7	64.3	0.0
		30代	40	0.0	12.5	85.0	2.5
		40代	59	0.0	22.0	74.6	3.4
		50代	45	0.0	28.9	68.9	2.2
		60代	46	4.3	34.8	52.2	8.7
		70代以上	65	0.0	27.7	44.6	27.7
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	14.8	81.5	3.7
		30代	37	0.0	8.1	91.9	0.0
		40代	38	0.0	10.5	89.5	0.0
		50代	42	2.4	26.2	71.4	0.0
		60代	41	2.4	17.1	80.5	0.0
		70代以上	51	2.0	39.2	45.1	13.7

<経年比較>

「武蔵野市男女共同参画フォーラム」については、男女ともに、平成20年調査から平成24年調査にかけて認知率が下がり、その後、平成29年調査で、平成20年調査の水準を上回るまでに認知率が再び上昇している（図表一問22-⑨）。

図表一問22-⑨ 武蔵野市の施策の認知（4）武蔵野市男女共同参画フォーラム（性別）【経年比較】

(4) 武蔵野市男女共同参画フォーラム



性別		平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
女性	内容まで一応知っている	1.5	0.3	0.7
	聞いたことはある	23.2	15.3	25.9
	知らない	65.9	80.3	63.7
	不明（無回答）	9.5	4.1	9.6
男性	内容まで一応知っている	3.0	1.8	1.3
	聞いたことはある	17.8	6.6	20.4
	知らない	71.3	85.6	75.0
	不明（無回答）	7.9	6.0	3.3

※平成20年調査と平成24年調査では「武蔵野市男女共同参画講演会・講座」の認知状態をたずねている。
 ※調査対象者の年齢は、平成29年調査と平成24年調査は18歳以上、平成20年調査は20歳以上である。

(5) 男女平等推進情報誌『まなこ』

性・年代別でみると、女性の60代で認知率が高く、女性の20代、30代、男性20代~40代、60代で低い(図表一問22-⑩)。

図表一問22-⑩ 武蔵野市の施策の認知
(5) 男女平等推進情報誌『まなこ』(全体、性別、性・年代別)

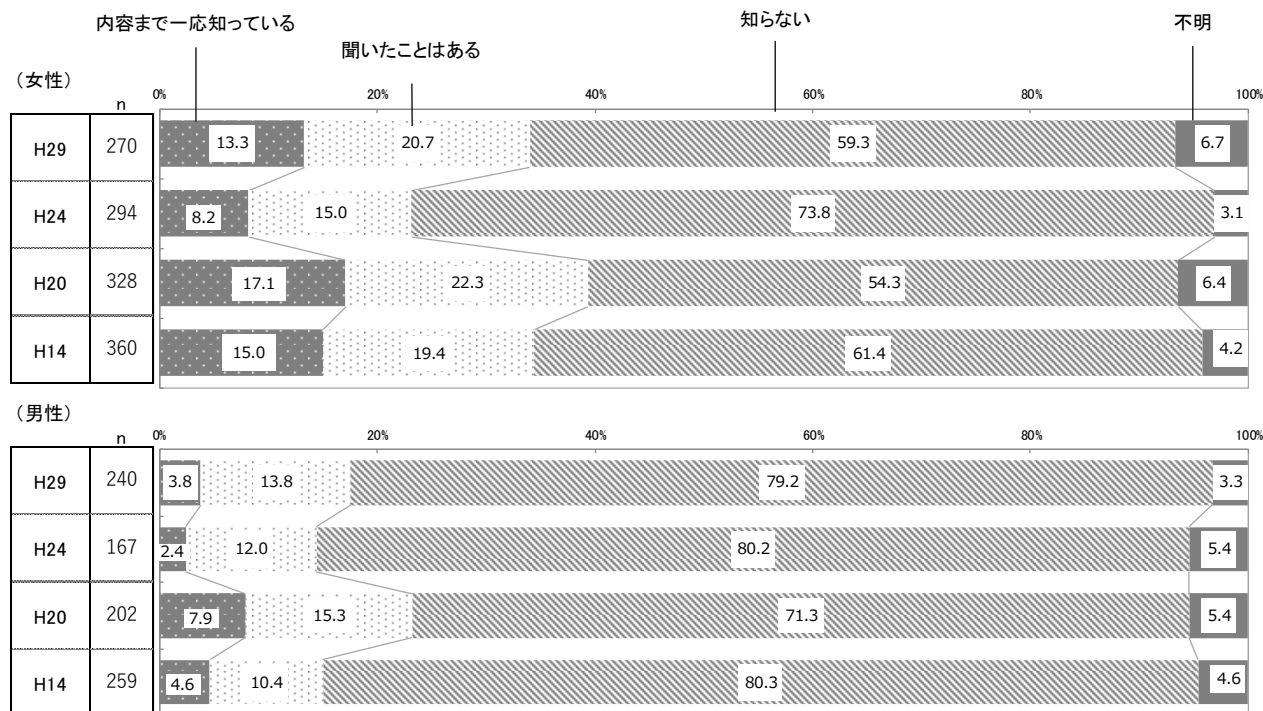
		N =	内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
全体		534	8.6	17.4	68.5	5.4	
性別	女性	270	13.3	20.7	59.3	6.7	
	男性	240	3.8	13.8	79.2	3.3	
	その他	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	0.0	21.4	78.6	0.0
		30代	40	5.0	7.5	85.0	2.5
		40代	59	15.3	16.9	66.1	1.7
		50代	45	11.1	26.7	62.2	0.0
		60代	46	21.7	30.4	43.5	4.3
		70代以上	65	15.4	21.5	41.5	21.5
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	3.7	92.6	3.7
		30代	37	2.7	0.0	97.3	0.0
		40代	38	2.6	18.4	78.9	0.0
		50代	42	7.1	21.4	71.4	0.0
		60代	41	7.3	9.8	82.9	0.0
		70代以上	51	2.0	23.5	60.8	13.7

<経年比較>

「まなこ」については、男女ともに、平成14年調査から平成20年調査にかけて認知率が上がり、その後、平成24年調査で大幅に低下、平成29年調査では再び上昇している。このうち、男性については、平成24年調査だけでなく平成14年調査も上回る認知率になっている（図表一問22-⑪）。

図表一問22-⑪ 武蔵野市の施策の認知（5）男女平等推進情報誌『まなこ』（性別）【経年比較】

（5）男女平等推進情報誌『まなこ』



（女性）		平成14年 (n=360)	平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
	内容まで一応知っている	15.0	17.1	8.2	13.3
	聞いたことはある	19.4	22.3	15.0	20.7
	知らない	61.4	54.3	73.8	59.3
	不明（無回答）	4.2	6.4	3.1	6.7
（男性）		平成14年 (n=259)	平成20年 (n=202)	平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)
	内容まで一応知っている	4.6	7.9	2.4	3.8
	聞いたことはある	10.4	15.3	12.0	13.8
	知らない	80.3	71.3	80.2	79.2
	不明（無回答）	4.6	5.4	5.4	3.3

※平成14年調査では「聞いたことはある」は、「名称くらいは知っている」である。
 ※調査対象者の年齢は、平成29年調査と平成24年調査は18歳以上、平成20年調査、平成14年調査は20歳以上である。

(6) 女性総合相談

性・年代別で見ると、男女とも70代以上で認知率が高く、女性の30代、男性30代、40代、60代で低い(図表一問22-⑫)。

図表一問22-⑫ 武蔵野市の施策の認知
(6) 女性総合相談 (全体、性別、性・年代別)

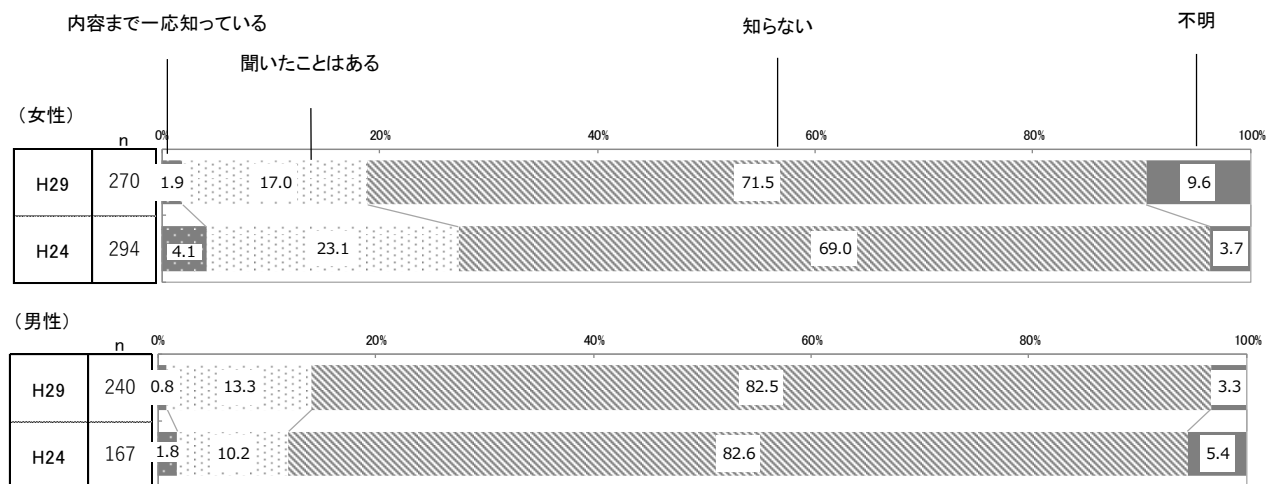
		N =	内容まで一応知っている	聞いたことはある	知らない	不明	
全体		534	1.5	15.2	76.4	6.9	
性別	女性	270	1.9	17.0	71.5	9.6	
	男性	240	0.8	13.3	82.5	3.3	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	14	7.1	7.1	85.7	0.0
		30代	40	0.0	5.0	92.5	2.5
		40代	59	1.7	18.6	76.3	3.4
		50代	45	0.0	17.8	80.0	2.2
		60代	46	4.3	15.2	67.4	13.0
		70代以上	65	1.5	26.2	47.7	24.6
	男性	10代	4	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代	27	0.0	14.8	81.5	3.7
		30代	37	0.0	5.4	94.6	0.0
		40代	38	0.0	13.2	86.8	0.0
		50代	42	2.4	11.9	85.7	0.0
		60代	41	2.4	7.3	90.2	0.0
		70代以上	51	0.0	25.5	60.8	13.7

<経年比較>

「女性総合相談」については、女性では、平成24年調査から平成29年調査にかけて認知率が低下している。一方、男性については、平成24年調査に比べ、若干認知率の上昇が見られる（図表一問22-⑬）。

図表一問22-⑬ 武蔵野市の施策の認知 (6) 女性総合相談 (性別) 【経年比較】

(6) 女性総合相談



(女性)		平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
	内容まで一応知っている	4.1	1.9
	聞いたことはある	23.1	17.0
	知らない	69.0	71.5
	不明 (無回答)	3.7	9.6
(男性)		平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)
	内容まで一応知っている	1.8	0.8
	聞いたことはある	10.2	13.3
	知らない	82.6	82.5
	不明 (無回答)	5.4	3.3

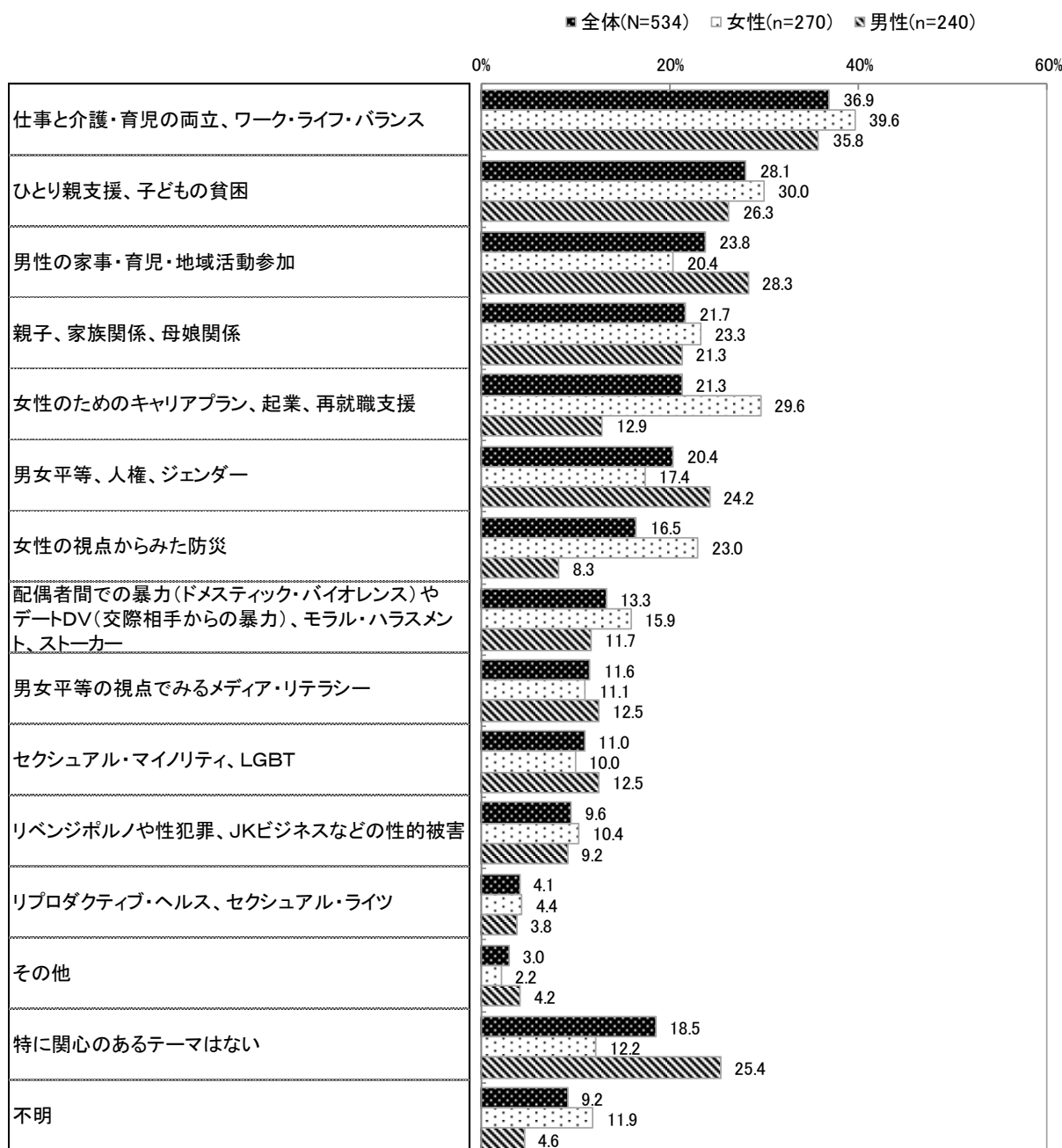
問 23 武蔵野市立男女平等推進センターでは、男女平等に関わる講座や男女平等推進情報誌『まなこ』の発行を行っています。あなたが講座や『まなこ』の特集記事として関心のあるテーマを教えてください。(〇はいくつでも)

最も高かったのは「ワーク・ライフ・バランス」の36.9%。ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」、「男性の家事・育児・地域活動参加」が続く。

全体でもっとも高かったのは「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」の36.9%で、ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」の28.1%、「男性の家事・育児・地域活動参加」の23.8%と続いている。

男女別では、女性で「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」(39.6%)、「ひとり親支援、子どもの貧困」(30.0%)、「女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援」(29.6%)などが多く、男性では、「男性の家事・育児・地域活動参加」(28.3%)、「男女平等、人権、ジェンダー」(24.2%)などが、女性との比較で7ポイント程度高くなっている(図表一問23-①)。

図表一問23-① 男女平等に関わる講座や「まなこ」の特集記事として関心のあるテーマ(全体、性別)



性・年代別でみると、「仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス」は女性 30 代で 57.5%、男性 50 代で 47.6%となっている。「ひとり親支援、子どもの貧困」は女性 50 代で 40.0%、男性 40 代で 39.5%となっている。「男性の家事・育児・地域活動参加」は女性 30 代で 37.5%、男性 40 代で 39.5%となっている。「女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援」は女性 30 代で 50.0%、「女性の視点からみた防災」は女性 20 代から 50 代で 30%程度となっている。(図表一問 23-②)。

図表一問 23-② 男女平等に関わる講座や「まなこ」の特集記事として関心のあるテーマ
(全体、性別、性・年代別)

		N =	ク 仕事と ライフ ・ バラ ンス	ひとり 親支 援、 子ど もの 貧困	加 男性 の 家事 ・ 育 児 ・ 地 域 活 動 参 加	親 子 、 家 族 関 係 、 母 娘 関 係	起 業 、 再 就 職 支 援	女 性 の た め の キ ャ リ ア プ ラ ン	男 女 平 等 、 人 権 、 ジ ェ ン ダ ー	女 性 の 視 点 か ら み た 防 災	ス ト ー カ ー	配 偶 者 間 の 暴 力 (ド メ ス ティ ク ・ パ イ オ レ ン ス) や テ レ ビ ・ ラ ジ オ の 暴 行	ア ・ リ テ ラ シ ー	セ ク シ ュ ア ル ・ マ イ ノ リ テ ィ	リ ベ ン ジ ボ ル ノ や 性 的 犯 罪 、 J K	ク シ ュ ア ル ・ ラ イ フ ・ ヘ ル ス	そ の 他	特 に 関 心 の あ る テ マ は な い	不 明	
全体		534	36.9	28.1	23.8	21.7	21.3	20.4	16.5	13.3	11.6	11.0	9.6	4.1	3.0	18.5	9.2			
性別	女性	270	39.6	30.0	20.4	23.3	29.6	17.4	23.0	15.9	11.1	10.0	10.4	4.4	2.2	12.2	11.9			
	男性	240	35.8	26.3	28.3	21.3	12.9	24.2	8.3	11.7	12.5	12.5	9.2	3.8	4.2	25.4	4.6			
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0			
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	42.9	14.3	14.3	28.6	42.9	14.3	28.6	0.0	28.6	7.1	7.1	0.0	0.0	21.4	7.1		
		30代	40	57.5	27.5	37.5	27.5	50.0	15.0	30.0	15.0	12.5	10.0	12.5	10.0	5.0	7.5	5.0		
		40代	59	33.9	20.3	16.9	33.9	28.8	8.5	28.8	11.9	6.8	11.9	10.2	1.7	1.7	13.6	5.1		
		50代	45	40.0	40.0	15.6	26.7	37.8	24.4	33.3	26.7	11.1	13.3	15.6	6.7	2.2	8.9	6.7		
		60代	46	34.8	34.8	19.6	15.2	15.2	17.4	13.0	8.7	8.7	2.2	6.5	2.2	2.2	13.0	15.2		
		70代以上	65	36.9	33.8	16.9	13.8	18.5	23.1	12.3	21.5	12.3	12.3	9.2	4.6	1.5	13.8	24.6		
	男性	10代	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0		
		20代	27	14.8	18.5	22.2	11.1	0.0	14.8	3.7	11.1	7.4	11.1	11.1	0.0	0.0	44.4	3.7		
		30代	37	32.4	16.2	29.7	21.6	13.5	24.3	16.2	10.8	13.5	18.9	8.1	10.8	2.7	35.1	0.0		
		40代	38	42.1	39.5	39.5	31.6	23.7	26.3	15.8	10.5	13.2	10.5	18.4	2.6	2.6	21.1	2.6		
		50代	42	47.6	23.8	33.3	21.4	14.3	26.2	4.8	9.5	19.0	16.7	7.1	0.0	0.0	21.4	0.0		
		60代	41	43.9	29.3	22.0	26.8	14.6	24.4	7.3	12.2	7.3	9.8	4.9	2.4	9.8	12.2	4.9		
		70代以上	51	29.4	29.4	23.5	15.7	9.8	25.5	3.9	15.7	11.8	9.8	7.8	5.9	7.8	23.5	13.7		

問 24 武蔵野市では、平成 29 年 3 月に、「男女平等の推進に関する条例」を制定しました。あなたはこの条例について、どのようにお考えですか。下記の項目それぞれについて、近いと思われるものに○をお付けください。(それぞれについて○は1つ)

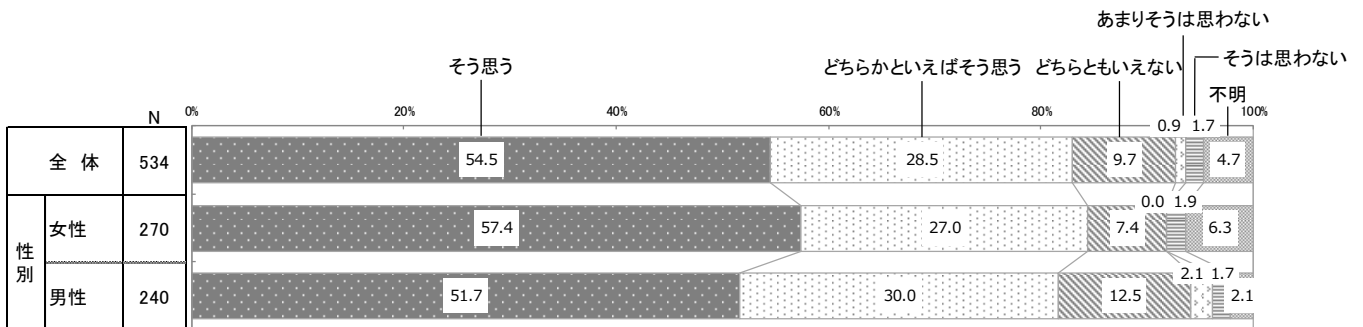
「条例ができたことはよいことだ」については、「どちらかといえばそう思う」まで含めると 83.0%と回答率が高く、「関連のパンフレットを読みたい」も 50%を超える。一方、「関連のセミナー等への参加意向」は 18.3%となっている。

(1) 武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ

全体では 83.0%が「思う」「そう思う」(「そう思う」54.5%、「どちらかといえばそう思う」28.5%の合計。以下同様。)と回答している。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い(図表一問 24-①)。

性・年代別では、女性 30 代、男性 40 代、50 代で「思う」が 90%程度となっている(図表一問 24-②)。

図表一問 24-① 武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ(全体、性別)



図表一問 24-②

武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ(全体、性別、性・年代別)

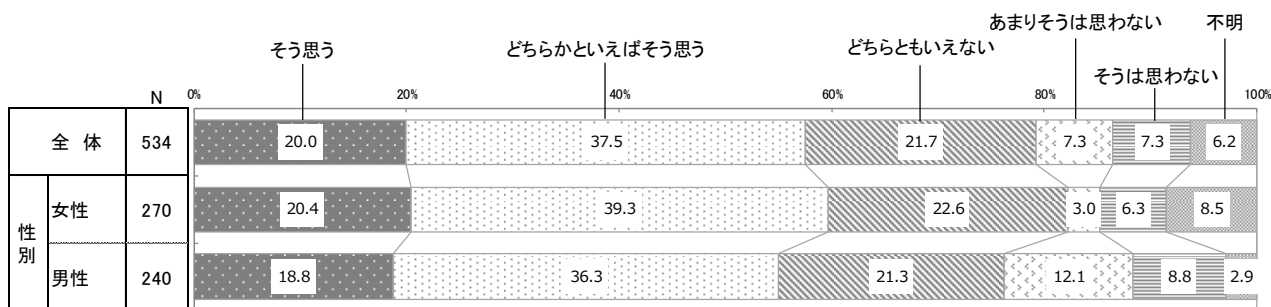
		N =	思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明	
全体		534	54.5	28.5	9.7	0.9	1.7	4.7	
性別	女性	270	57.4	27.0	7.4	0.0	1.9	6.3	
	男性	240	51.7	30.0	12.5	2.1	1.7	2.1	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	64.3	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0
		30代	40	67.5	25.0	5.0	0.0	0.0	2.5
		40代	59	47.5	39.0	6.8	0.0	5.1	1.7
		50代	45	55.6	31.1	8.9	0.0	0.0	4.4
		60代	46	60.9	23.9	10.9	0.0	2.2	2.2
		70代以上	65	56.9	16.9	6.2	0.0	1.5	18.5
	男性	10代	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		20代	27	44.4	29.6	18.5	0.0	3.7	3.7
		30代	37	43.2	32.4	16.2	2.7	2.7	2.7
		40代	38	65.8	21.1	10.5	2.6	0.0	0.0
		50代	42	45.2	42.9	9.5	0.0	2.4	0.0
		60代	41	56.1	24.4	17.1	0.0	2.4	0.0
		70代以上	51	56.9	27.5	3.9	5.9	0.0	5.9

(2) 関連のパンフレット等があったら読んでみたい

全体では「そう思う」20.0%、「どちらかといえばそう思う」37.5%の合計は 57.5%となり、半数を超えている。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い（図表一問 24-③）。

性・年代別では、女性 40 代で「思う」が 69.4%、男性 20 代で「あまりそうは思わない」が 29.6%となっている（図表一問 24-④）。

図表一問 24-③ パンフレットを読んでみたいか（全体、性別）



図表一問 24-④ パンフレットを読んでみたいか（全体、性別、性・年代別）

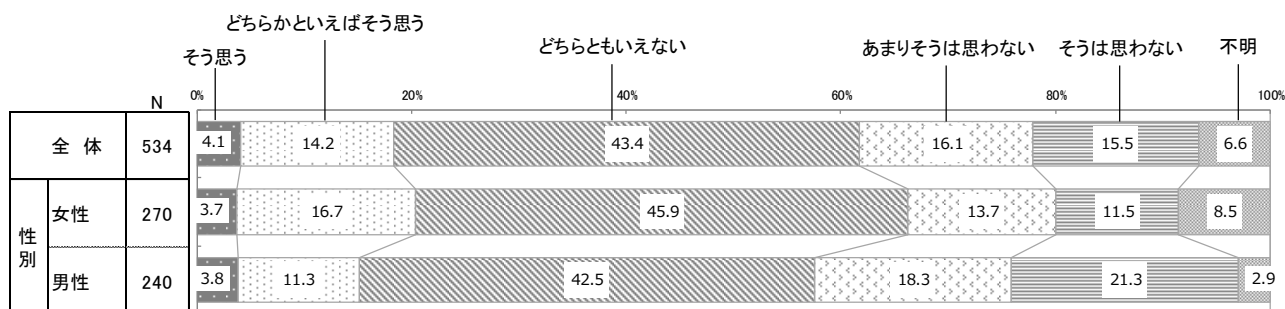
		N =	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明	
全体		534	20.0	37.5	21.7	7.3	7.3	6.2	
性別	女性	270	20.4	39.3	22.6	3.0	6.3	8.5	
	男性	240	18.8	36.3	21.3	12.1	8.8	2.9	
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	14.3	42.9	28.6	7.1	7.1	0.0
		30代	40	25.0	37.5	30.0	2.5	2.5	2.5
		40代	59	16.9	52.5	18.6	3.4	6.8	1.7
		50代	45	26.7	40.0	24.4	0.0	4.4	4.4
		60代	46	17.4	43.5	23.9	2.2	10.9	2.2
		70代以上	65	20.0	24.6	16.9	4.6	6.2	27.7
	男性	10代	4	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
		20代	27	11.1	33.3	14.8	29.6	7.4	3.7
		30代	37	13.5	35.1	24.3	8.1	16.2	2.7
		40代	38	28.9	31.6	23.7	7.9	7.9	0.0
		50代	42	21.4	45.2	21.4	7.1	4.8	0.0
		60代	41	29.3	31.7	24.4	9.8	4.9	0.0
		70代以上	51	9.8	41.2	15.7	13.7	9.8	9.8

(3) 関連のセミナーやワークショップがあったら参加してみたい

全体では「思う」の回答率は 18.3%となっている（「そう思う」4.1%、「どちらかといえばそう思う」14.2%）。男女別では、女性の方が「思う」の回答率が高い（図表一問 24-⑤）。

性・年代別では、男性 20 代と 30 代で「あまりそうは思わない」「そうは思わない」の回答率の合計が高い（図表一問 24-⑥）。

図表一問 24-⑤ セミナーなどの参加意向（全体、性別）



図表一問 24-⑥ セミナーなどの参加意向（全体、性別、性・年代別）

		N =	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明
全体		534	4.1	14.2	43.4	16.1	15.5	6.6
性別	女性	270	3.7	16.7	45.9	13.7	11.5	8.5
	男性	240	3.8	11.3	42.5	18.3	21.3	2.9
その他		2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
性・年代別	女性	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	10代	14	0.0	14.3	50.0	28.6	7.1	0.0
	20代	40	2.5	17.5	60.0	10.0	7.5	2.5
	30代	59	3.4	22.0	54.2	10.2	8.5	1.7
	40代	45	4.4	20.0	46.7	13.3	11.1	4.4
	50代	46	0.0	17.4	50.0	15.2	15.2	2.2
	60代	65	7.7	9.2	24.6	15.4	15.4	27.7
	70代以上	4	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	男性	27	0.0	3.7	29.6	25.9	37.0	3.7
	10代	37	0.0	10.8	32.4	21.6	32.4	2.7
	20代	38	7.9	10.5	52.6	10.5	18.4	0.0
	30代	42	4.8	14.3	52.4	11.9	16.7	0.0
	40代	41	2.4	14.6	51.2	19.5	12.2	0.0
	50代	51	5.9	11.8	33.3	23.5	15.7	9.8
60代	70代以上							

問 25 あなたは、男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体に入ってみたり、また、市の男女平等に関わる事業に協力してみたりしたいと思いますか。（それぞれについて○は1つ）

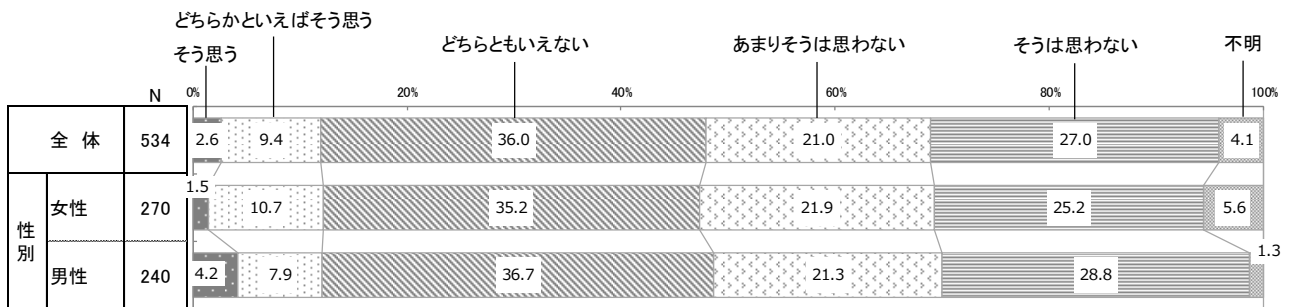
団体への参加意向は 12.0%、ボランティア実施意向は 10.7%。

(1) 男女平等に関して支援活動をしたり、相互の助け合いをしたり、学習活動をしったりする団体が地域にあったら入ってみたい

全体では「そう思う」2.6%、「どちらかといえばそう思う」9.4%となっており、「思う」の合計は12.0%となっている。男女別では、男性の方が「そう思う」が4.2%であるが、「思う」の合計としては男女ほぼ同率である（図表一問25-①）。

性・年代別では、男性20代で「思わない」が62.9%となっている（図表一問25-②）。

図表一問25-① 男女平等に関する団体への参加意向（全体、性別）



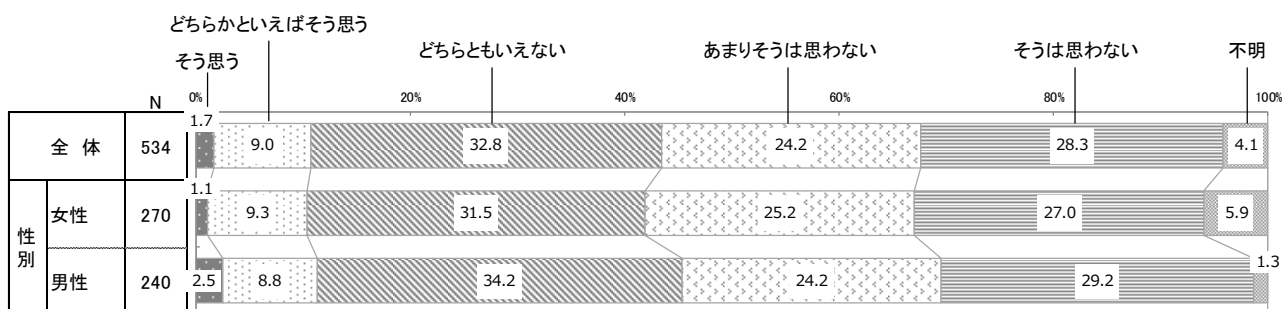
図表一問25-② 男女平等に関する団体への参加意向（全体、性別、性・年代別）

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明		
N =									
全体		534	2.6	9.4	36.0	21.0	27.0	4.1	
性別	女性	270	1.5	10.7	35.2	21.9	25.2	5.6	
	男性	240	4.2	7.9	36.7	21.3	28.8	1.3	
	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	0.0	14.3	42.9	35.7	7.1	0.0
		30代	40	2.5	12.5	40.0	22.5	20.0	2.5
		40代	59	1.7	13.6	35.6	28.8	18.6	1.7
		50代	45	0.0	15.6	42.2	20.0	22.2	0.0
		60代	46	2.2	6.5	37.0	19.6	30.4	4.3
		70代以上	65	1.5	6.2	23.1	15.4	36.9	16.9
	男性	10代	4	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
		20代	27	0.0	11.1	25.9	22.2	40.7	0.0
		30代	37	0.0	13.5	35.1	13.5	37.8	0.0
		40代	38	7.9	7.9	44.7	13.2	26.3	0.0
		50代	42	2.4	4.8	35.7	23.8	33.3	0.0
		60代	41	0.0	2.4	43.9	34.1	19.5	0.0
		70代以上	51	11.8	9.8	31.4	19.6	21.6	5.9

(2) 武蔵野市が男女平等推進の施策検討や事業を行う際に、市民委員や事業実施の際のボランティア委員などとして協力してみたい

全体では「そう思う」1.7%、「どちらかといえばそう思う」9.0%となっており、「思う」の合計は10.7%となっている。男女別では、男性の方が「そう思う」が2.5%となっている(図表一問25-③)。性・年代別では、男性20代で「思わない」が59.2%となっている(図表一問25-④)。

図表一問25-③ ボランティア委員などへの実施意向(全体、性別)



図表一問25-④ ボランティア委員などへの実施意向(全体、性別、性・年代別)

		N =	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそうは思わない	そうは思わない	不明	
全体		534	1.7	9.0	32.8	24.2	28.3	4.1	
性別	女性	270	1.1	9.3	31.5	25.2	27.0	5.9	
	男性	240	2.5	8.8	34.2	24.2	29.2	1.3	
	その他	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
性・年代別	女性	10代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		20代	14	0.0	7.1	50.0	35.7	7.1	0.0
		30代	40	2.5	10.0	40.0	12.5	32.5	2.5
		40代	59	1.7	13.6	32.2	35.6	15.3	1.7
		50代	45	0.0	11.1	40.0	26.7	22.2	0.0
		60代	46	0.0	10.9	28.3	23.9	32.6	4.3
		70代以上	65	1.5	3.1	16.9	21.5	38.5	18.5
	男性	10代	4	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0
		20代	27	0.0	14.8	25.9	14.8	44.4	0.0
		30代	37	0.0	10.8	32.4	16.2	40.5	0.0
		40代	38	5.3	7.9	47.4	15.8	23.7	0.0
		50代	42	2.4	4.8	33.3	31.0	28.6	0.0
		60代	41	0.0	2.4	34.1	41.5	22.0	0.0
		70代以上	51	5.9	13.7	29.4	21.6	23.5	5.9

問 26

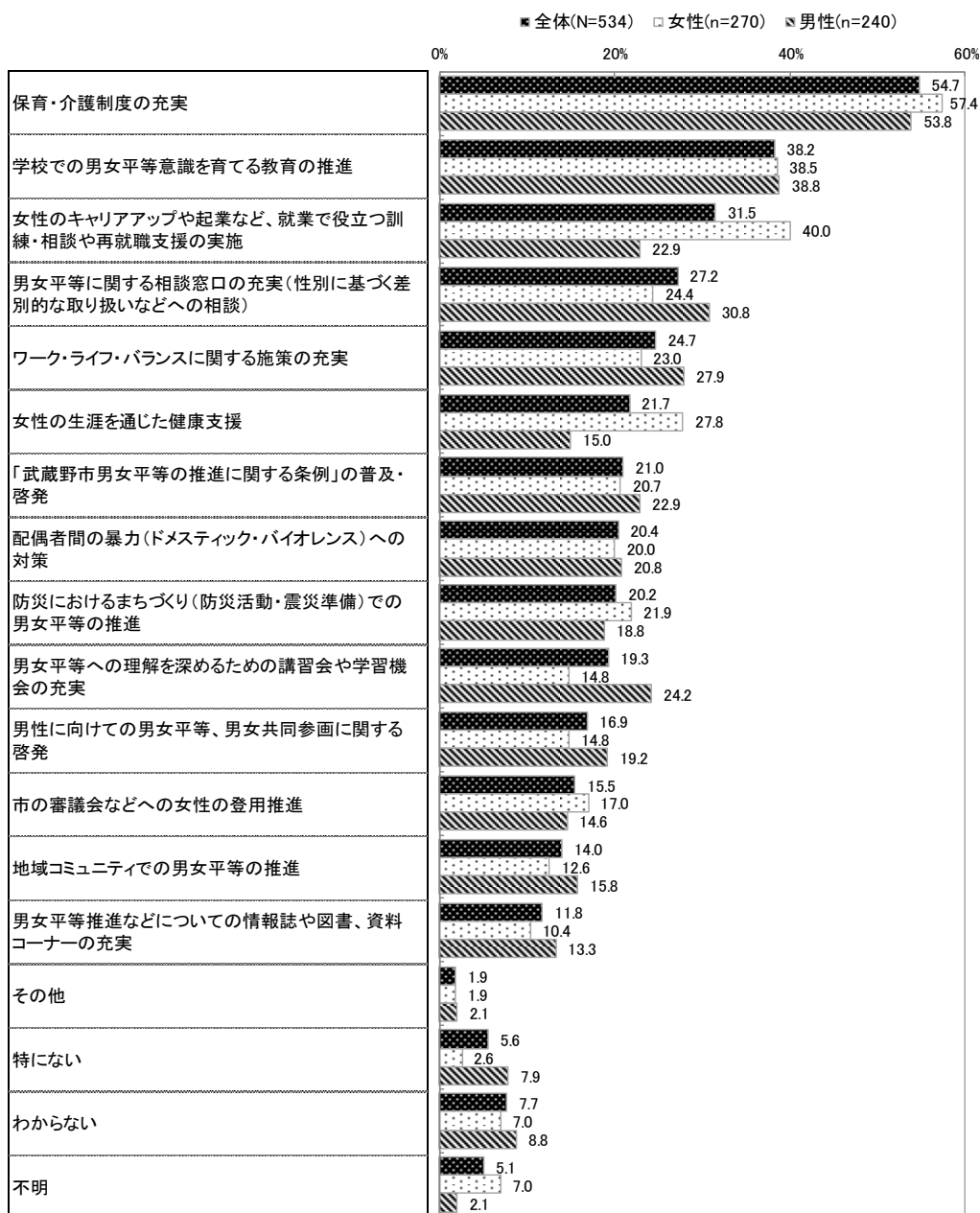
あなたは男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

「保育・介護制度の充実」が54.7%、ついで「学校教育」(38.2%)、「女性のキャリアアップ、起業、就業支援」(31.5%)が続く。

全体では「保育・介護制度の充実」が54.7%で最も回答率が高く、ついで「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」38.2%、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」31.5%と続いている。

男女別で見ると、女性で高いのは「保育・介護制度の充実」(57.4%)、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」(40.0%)となっている。一方、男性では、「男女平等に関する相談窓口の充実(性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談)」(30.8%)、「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」(27.9%)、「男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実」(24.2%)などが、女性との比較で割合が高くなっている(図表一問26-①)。

図表一問26-① 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと(全体、性別)



性・年代別にみると、「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」については女性 20 代、男性 60 代で 50%程度となっている。「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」については女性の 20 代で 71.4%、30 代で 52.5%となっている。「男女平等に関する相談窓口の充実」については女性 20 代で 57.1%となっている。「ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実」については女性 30 代と男性 40 代で 40%を超えている。「女性の生涯を通じた健康支援」については女性 30 代、50 代で 30%を超えている。「配偶者間の暴力への対策」では女性 50 代と男性 40 代で 30%を超えている。「防災におけるまちづくりでの男女平等の推進」については男性 60 代で 31.7%となっている（図表一問 26—②）。

図表一問 26—② 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと（全体、性別、性・年代別）

		N =	保育・介護制度の充実	学校での男女平等意識を育てる教育の推進	再就職支援の実施	女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施	相談窓口の充実	男女平等に関する相談窓口の充実	ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	女性の生涯を通じた健康支援	「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）への対策	活動・震災準備での男女平等の推進	防災におけるまちづくり（防災の推進）	男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実	共同参加に関する啓発	男性性に関する啓発	市の審議会などへの女性の登用	地域コミュニティでの男女平等の推進	実証や図書、資料コーナーの充実	男女平等推進などについての情報	その他	特になし	わからない	不明	
全体		534	54.7	38.2	31.5	27.2	24.7	21.7	21.0	20.4	20.2	19.3	16.9	15.5	14.0	11.8	1.9	5.6	7.7	5.1						
性別	女性	270	57.4	38.5	40.0	24.4	23.0	27.8	20.7	20.0	21.9	14.8	14.8	17.0	12.6	10.4	1.9	2.6	7.0	7.0						
	男性	240	53.8	38.8	22.9	30.8	27.9	15.0	22.9	20.8	18.8	24.2	19.2	14.6	15.8	13.3	2.1	7.9	8.8	2.1						
	その他	2	0.0	100.0	50.0	100.0	100.0	0.0	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
性・年代別	10代	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	14	64.3	50.0	71.4	57.1	35.7	21.4	21.4	14.3	21.4	14.3	0.0	7.1	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30代	40	62.5	30.0	52.5	17.5	40.0	32.5	22.5	17.5	17.5	10.0	20.0	20.0	10.0	7.5	2.5	0.0	5.0	5.0						
	40代	59	49.2	39.0	39.0	18.6	23.7	27.1	13.6	15.3	23.7	10.2	13.6	10.2	8.5	10.2	1.7	1.7	8.5	3.4						
	50代	45	64.4	44.4	46.7	33.3	24.4	35.6	15.6	33.3	24.4	11.1	13.3	17.8	13.3	4.4	2.2	2.2	4.4	0.0						
	60代	46	63.0	39.1	30.4	21.7	17.4	23.9	30.4	17.4	19.6	19.6	17.4	23.9	17.4	13.0	4.3	2.2	4.3	6.5						
	70代以上	65	50.8	36.9	27.7	21.5	12.3	24.6	23.1	20.0	23.1	21.5	13.8	18.5	12.3	13.8	0.0	6.2	12.3	18.5						
	女性	10代	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
		20代	27	51.9	25.9	14.8	14.8	33.3	3.7	11.1	18.5	18.5	11.1	11.1	11.1	7.4	7.4	0.0	14.8	11.1	0.0					
		30代	37	48.6	32.4	29.7	18.9	37.8	21.6	24.3	24.3	16.2	13.5	13.5	5.4	8.1	21.6	5.4	16.2	13.5	0.0					
		40代	38	63.2	39.5	23.7	34.2	44.7	26.3	13.2	34.2	15.8	28.9	21.1	21.1	13.2	10.5	2.6	5.3	5.3	0.0					
		50代	42	50.0	45.2	28.6	40.5	31.0	14.3	23.8	16.7	16.7	26.2	26.2	14.3	23.8	19.0	2.4	2.4	9.5	0.0					
		60代	41	56.1	48.8	14.6	46.3	22.0	9.8	22.0	19.5	31.7	24.4	22.0	17.1	19.5	12.2	0.0	7.3	2.4	4.9					
		70代以上	51	54.9	39.2	23.5	27.5	9.8	13.7	37.3	11.8	15.7	36.3	19.6	17.6	19.6	9.8	2.0	3.9	9.8	5.9					
男性	10代	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	14	64.3	50.0	71.4	57.1	35.7	21.4	21.4	14.3	21.4	14.3	0.0	7.1	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30代	40	62.5	30.0	52.5	17.5	40.0	32.5	22.5	17.5	17.5	10.0	20.0	20.0	10.0	7.5	2.5	0.0	5.0	5.0						
	40代	59	49.2	39.0	39.0	18.6	23.7	27.1	13.6	15.3	23.7	10.2	13.6	10.2	8.5	10.2	1.7	1.7	8.5	3.4						
	50代	45	64.4	44.4	46.7	33.3	24.4	35.6	15.6	33.3	24.4	11.1	13.3	17.8	13.3	4.4	2.2	2.2	4.4	0.0						
	60代	46	63.0	39.1	30.4	21.7	17.4	23.9	30.4	17.4	19.6	19.6	17.4	23.9	17.4	13.0	4.3	2.2	4.3	6.5						
	70代以上	65	50.8	36.9	27.7	21.5	12.3	24.6	23.1	20.0	23.1	21.5	13.8	18.5	12.3	13.8	0.0	6.2	12.3	18.5						

<経年比較>

平成20年、平成24年調査と比較すると、「男女平等に関する相談窓口の充実」、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」、「保育・介護制度の充実」、「女性の生涯を通じた健康支援」、「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」、「配偶者間の暴力への対策」、「市の審議会などへの女性の登用推進」の7項目で回答率が上昇している。

女性では、上記項目のうち「配偶者間の暴力への対策」については平成24年調査から横ばいとなっているが、代わりに「学校での男女平等意識を育てる教育の推進」で10.9ポイントの上昇が見られる。男性では「女性の生涯を通じた健康支援」が平成24年調査から横ばいとなっている（図表一問26-③）。

図表一問26-③ 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと（全体、性別）【経年比較】

(全体)		平成20年 (N=546)	平成24年 (N=485)	平成29年 (N=534)
	男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実	20.5	21.2	19.3
男女平等に関する相談窓口の充実（性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談）	8.6	19.6	27.2	
男女平等推進などについての情報誌や図書、資料コーナーの充実	10.1	8.7	11.8	
女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施	17.0	25.2	31.5	
「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	—	—	21.0	
保育・介護制度の充実	45.1	49.9	54.7	
女性の生涯を通じた健康支援	8.2	21.6	21.7	
ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	—	28.2	24.7	
男性に向けての男女平等、男女共同参画に関する啓発	—	18.1	16.9	
地域コミュニティでの男女平等の推進	—	19.8	14.0	
防災におけるまちづくり（防災活動・震災準備）での男女平等の推進	—		20.2	
学校での男女平等意識を育てる教育の推進	26.2	24.3	38.2	
配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）への対策	6.8	19.0	20.4	
市の審議会などへの女性の登用推進	8.4	13.2	15.5	
その他	1.6	1.2	1.9	
特にない	3.3	3.5	5.6	
わからない	8.6	10.7	7.7	
不明（無回答）	5.7	7.0	5.1	

(女性)		平成20年 (n=328)	平成24年 (n=294)	平成29年 (n=270)
	男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実	15.9	20.4	14.8
男女平等に関する相談窓口の充実（性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談）	6.7	19.7	24.4	
男女平等推進などについての情報誌や図書、資料コーナーの充実	9.5	6.8	10.4	
女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施	18.6	28.9	40.0	
「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	—	—	20.7	
保育・介護制度の充実	48.8	55.1	57.4	
女性の生涯を通じた健康支援	11.6	26.9	27.8	
ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	—	29.9	23.0	
男性に向けての男女平等、男女共同参画に関する啓発	—	17.7	14.8	
地域コミュニティでの男女平等の推進	—	20.1	12.6	
防災におけるまちづくり（防災活動・震災準備）での男女平等の推進	—		21.9	
学校での男女平等意識を育てる教育の推進	27.7	27.6	38.5	
配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）への対策	6.7	20.1	20.0	
市の審議会などへの女性の登用推進	9.5	15.0	17.0	
その他	0.6	0.7	1.9	
特にない	2.1	1.4	2.6	
わからない	9.8	10.5	7.0	
不明（無回答）	4.6	4.1	7.0	

(男性)

	平成20年 (n=202)	平成24年 (n=167)	平成29年 (n=240)
男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実	28.2	25.1	24.2
男女平等に関する相談窓口の充実（性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談）	11.4	21.0	30.8
男女平等推進などについての情報誌や図書、資料コーナーの充実	10.9	12.6	13.3
女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施	13.9	21.0	22.9
「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発	—	—	22.9
保育・介護制度の充実	40.1	46.1	53.8
女性の生涯を通じた健康支援	3.5	15.0	15.0
ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実	—	29.3	27.9
男性に向けての男女平等、男女共同参画に関する啓発	—	20.4	19.2
地域コミュニティでの男女平等の推進	—	21.6	15.8
防災におけるまちづくり（防災活動・震災準備）での男女平等の推進	—	—	18.8
学校での男女平等意識を育てる教育の推進	25.2	21.0	38.8
配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）への対策	6.4	19.2	20.8
市の審議会などへの女性の登用推進	7.4	11.4	14.6
その他	3.5	2.4	2.1
特になし	5.4	7.2	7.9
わからない	7.4	12.6	8.8
不明（無回答）	5.0	1.2	2.1

※平成24年調査と平成20年調査では、「男女平等への理解を深めるための講習会や学習機会の充実」は「男女共同参画への理解を深めるための講習会や学習機会の充実」、「男女平等推進などについての情報誌や図書、資料コーナーの充実」は「男女共同参画問題などについての情報誌や資料コーナーの充実」、「女性のキャリアアップや起業など、就業で役立つ訓練・相談や再就職支援の実施」は「就業で役立つ訓練・相談の実施」となっている。

「男女平等に関する相談窓口の充実（性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談）」は平成24年調査では「男女共同参画の総合相談窓口の充実」、平成20年調査では「男女共同参画問題総合相談窓口の創設」となっている。

「女性の生涯を通じた健康支援」は平成20年調査では「女性の健康対策の充実」となっている。

問 27

あなたが日ごろから男女平等や男女共同参画について感じていることや、市の施策についてのご意見などがありましたらご自由にお書きください。

自由意見としては、「男女平等の考え方」に関するもの、「市の政策」に関するものが多い。

自由意見としては、「男女平等の考え方」に関するものが最も多く 31 件、ついで「市の政策」に関するもの（施策の広報が足りていない、もっと啓発施策を、女性市長に期待など）が 22 件、「男女平等の進め方」に関するもの（ワーク・ライフ・バランスの難しさなど）14 件、「男女間の暴力」5 件、「セクシャル・マイノリティ」3 件などとなっている（図表一問 27-①）。

図表一問 27-① 自由意見

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年齢
男女平等の考え方について 31 件	男女差別において、女性が被害を受けている事の方が多いと思うが、男性が被害を受けている事もあるので、そちらの目線からも男女平等を考えるべきだと思う。男性と女性は別の生き物なので、全てを平等にすべきだとは思わない。なんでも女性が被害者側であると思っているとしたら、それは古い考えだと思う。	男性	18～19 歳
	男女平等に待遇や立場、地位を推進していくことは素晴らしいと思うが、細かな気遣いは女性の方がうまいし、肉体労働は男性の方が得意な場合が多いので、お互いの良さや苦手な所を補っていける社会になればよいと思う。市民で市の政策を知っている人は少ないと思う。	男性	30～34 歳
	自分の親を見ていると、口では平等だと言うのだが、父は母に命令口調で言い、母が不満そうにすると、女のくせに気が利かないとか機嫌が悪い。怒る時もある。そんな中で育ってきた自分も、無意識にそのような態度があると思う。そのような意識はどうしたら変えられるのか。やはり家庭教育、学校教育、社会教育と、地道に変えていくしかないと思う。教育者の意識も変えれば、制度的にも。	男性	40～44 歳
	男女平等と一言で言っても、妊娠・出産・産後の育児（授乳等含め）については、絶対的な差がある。平等に拘るより、性差やその他、男女や年齢にとらわれず、一人一人の個性、違い（障害を含め）を認め、互いに尊重することを目指すべきだと思う。違いを認め、不足する人には（産前産後の一定期間など）手厚くすべきだと思う。分担を平等にすることが平等ではない。男女平等というのは、感覚としてはすでに古いという気がする。先生と生徒、先生と親、雇用者と被雇用者、健常者と障害者、親と子、どこにでも差はある。差を違いと認識し、理解を進める教育や社会になってほしいと思う。	女性	45～49 歳
	様々な法律や支援体制ができて、まだまだ女性は弱い立場だと思う。男女平等推進は、男性や女性の特性を踏まえた上で、互いに尊重し合い、男女平等を築いていくべきだし、一人一人がこの問題を根本的に意識していかなければ改善できないので、いかに啓発していくか、意識を高めていくかということに、心を砕いていかななくてはいけない。難しい問題だと思う。	女性	45～49 歳
	制度として男女平等は定義されていると思うので、運用する人の意識の問題ではないかと思う。	男性	45～49 歳
	若年層より高齢者層（団塊世代中心）の方が、男尊女卑の考えが多いと思う。普段生活しているうえで、女性蔑視、職業蔑視も多いと感じる。特に男性の高齢者層へ講習会など働きかけることが良いと思う。	男性	45～49 歳
	生物的な性差については、努力だけでは克服できないこともあることを理解する必要がある。（男性には子供を産むことができないのも一例）男性だからできること、女性だからできることを認め合い、その上で自分はどうしたいのか、何か役立つことができるのかを考えるべき。完全な男女平等は無理だと思う。何事もより良く生きていくため、助け合い、思いやりの心を育むことが第一ではないか。	女性	55～59 歳
	男性と女性の違いをまず理解して、お互いが尊重できる上での男女平等や権利を守ることだと思う。女性（男性）の育児を尊重し過ぎて、仕事場に大きな影響が出るのも実際には問題だと思う。職場でのバランスも大事だと思う。	女性	55～59 歳
	規則などが増えることは、世の中が悪くなっている証。「男女」という接頭語がすでに差別や区別になっているのではないか？あまりにも過剰になっているように思う。	男性	55～59 歳

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年齢
	育った時代や環境によって、男女間や人権に関する考え方が異なるので、温度差をどのように埋めるのか、また常識と考えがちな事でも、人によっては異なる意識を共通化するのか。身勝手が先に立ち、人を想う心が欠落した時代で言葉だけではダメだと思う。	男性	55～59歳
	女性から男性への差別もかなりあると思う。また男性が不利になっていることも多くある。男女平等を女性は勘違いしていることも多い。例として飲み会の会費で女性は安くする事を要求するなど。女性への啓蒙活動も大切。	男性	55～59歳
	私の年代では、平等とは思えない場面にあうことが多くある。女性の献身と気遣いにより、そう見えたり思えたりしているように思う。若い世代の意識が変わることで、少しでも平等感のある、生きやすい世の中になったら嬉しいと思う。	女性	60～64歳
	今世においても、未だに男女平等云々について語らなくてはいけないこと自体が、後進国である。男女平等は、北欧諸国に学ぶべき。その際の議員の海外派遣は望ましくない。住民から推薦された方々に任せられた方がいいと思う。	女性	65～69歳
	男女の性を特別視するのではなく、人としてどうあるべきなのか、そこが基本だと思っています。	女性	65～69歳
	男女平等は理想であるが、根本的に平等は難しい。が、人間として相手を認めながら、互いに優れた部分を伸ばして、足りない部分は補いながら生きていく。家庭生活と社会生活は別として、柔軟に考え物事を決めつけない。相手を尊重する。	女性	65～69歳
	私が若かった4～50年前と比べて、男女平等はかなり進んでいると感じる。（共同参画なる言葉が当時はなかった）今後ますます良くなる気がする。	女性	70～74歳
	女（男）らしさはあるが、女（男）ならこうあるべき、はないと思っている。人らしくありたい。年齢や性別など各々様々な事情があるが、自身のできる範囲の地域活動をしていくことが大切だと思う。問3で家事を労働業とみなしているのに、問4、5では就労業扱いしていないのでは？設問内容に違和感を持った。	女性	70～74歳
	市政策について 22件	そもそも学校教育課程において、子育てに関して何のガイドもせず、母親メインの子育てを善として育てている環境で、大人になってから突然「イクボス」「イクメン」とプレッシャーをかけられても男性もかわいそう。男女平等を武蔵野市発信で推進するのであれば、市内の小中学校で特別カリキュラムを導入するなど、各行政機関や教育機関など、横の連携で展開してほしい。	女性
飲食店やスーパーなど、定員さんも多国籍化しつつあるので、幅広く事業者への周知や徹底も必要かと思う。	男性	35～39歳	
市での取り組みによって得られた成果や変化を知りたい。	女性	40～44歳	
学校教育で性について学べる場を増やしてほしい。	女性	40～44歳	
いくら条例を制定したとしても、普及されなければ無用の長物だと思う。広報の在り方にひと工夫をお願いしたい。	女性	50～54歳	
三鷹市のようにバスにワークライフバランス広告をしてはどうか？	男性	55～59歳	
こういう観点の催しに出ると大抵同じ顔ばかり。新しい人や頭がガチガチで緩めたい人たちを呼び込む努力が必要だと思う。屋下がりのコンサート、寄席（落語）などのイベントで人を集め、そこで話し合い、自分の意見に気付く機会を設ける。またホームページの充実で、若い人たちを助けることも必要だと思う。	女性	60～64歳	
ヒューマンあいが中心となって男女平等な社会を目指すためには、もっと啓蒙活動をすべき。市民一人一人の意識を変え、差別されることのない社会になればと期待している。	女性	60～64歳	
市の施策について触れる機会がなかった。どのように情宜されていたのだろうか。各人の意識の問題があり、行政による一律的な支援は難しいのではないか。	男性	60～64歳	
武蔵野市の男女平等の推進に関する条例を全く知らなかった。これから活躍していく若い世代の方々のためには良い事だと思う。女性に負担が多い子育て支援を充実させてほしい。性犯罪で犠牲になる女性や子供を出さない社会を作してほしい。	女性	65～69歳	
定点観測でもよいので、武蔵野市の男女共同参画の進捗度（意識改善度）などがわかる仕組みを作り、公開したらどうか？	男性	65～69歳	

分類	ご意見（主要な意見を一部抜粋）	性別	年齢
男女平等の進め方について 14件	待機児童ゼロを本当にお願したい。まだ子供はいないが、保育園問題を考えると、子供をつくることを不安に思ってしまう。夫の稼ぎだけでは足りないで、子供ができて専業主婦のままという訳にもいかないで…。	女性	30～34歳
	生産性ではなく、どれだけ長く働けるかが（長時間労働できるかが）評価ポイントとなる会社が非常に多いことが問題。男女間の能力の差はない。しかし長時間労働のできる体力差が、やがて経験値の差となり、出世の差となって出てくるのは否めない。日本の伝統企業で上記の事を感じ、海外と取引の多いグローバル企業に転職したら、そのようなことはなかったで、日本の企業の文化の何かがおかしいのだと思う。	女性	35～39歳
	このような試み自体、色々な方々が熱心にされていることは理解できるが、そもそも国として夫婦別姓を認めていないため、政府機関が男女平等推進と言ったところで、何の説得力もない。	男性	35～39歳
	男性に向いている仕事、女性に向いている仕事。男女平等とはいえ、体力的に男性に頼っている職場がある中、給与は平等などというのは、女性に都合良すぎではないかと思う。女性は責任を負う職を嫌がる傾向もあるし、夫婦もそれぞれの家庭で色々な形があると思うので、一概に外野から、夫婦共働きで家事分担を平等に、というのは違うと思う。	女性	40～44歳
	男性が育児・介護休暇を当たり前に取りれる社会に！フレックスや在宅勤務ももっともっと普通に見られる光景とし、様々な事情や都合に対応しやすい社会であるようにしてほしい。	女性	40～44歳
	女性の社会復帰は、2世帯や近所に親が住んでいないと実現できないと、自分や周囲の人たちを見て感じる。女性が外に出て働きやすくすることも大切だが、そもそも、世帯年収を支える男性の勤務条件を改善する必要があると思う。	女性	40～44歳
	男性が育休を取れることが当たり前な会社はまだまだ少数で、多くの会社は出世に響く。そのため女性が無理をして、家事・育児・仕事を一人で抱えて生きている。	女性	50～54歳
	総論的に議論される男女平等や男女共同参画は、個人レベルに落とし込んだ時には、総論では対応できない問題が多々出てくると思われる。行政としては枠組みを作って終わりにするだろうが、問題は日々の生活の中で起こる、個別の問題解決に迅速かつ親身に対応できるかではないだろうか。	男性	70～74歳
	とにかく家事・育児・介護の支援体制を整え、誰でも気軽に利用できる社会を構築すべきである。掛け声だけで何年経っても何も進まないのが日本の社会。一つずつ具体化を進めよう。	男性	75～79歳
	コミセン等の運営は、女性の方が積極的でいいと思う。	不明	75～79歳
男性、女性にはそれぞれの特性がある。その特性を生かす事こそが社会の安定の道であると思う。収入のためにだけ子供を保育園に預けるのではなく、幼児期は可能な限り母親が育てるべきだと思う。父親には家族手当の支給がいると思う。	女性	80歳以上	
男女間の暴力について 5件	自分自身は男女不平等と感じて生きてこなかったで、あまり必要性は感じないでいたが、DVやそれによって追い込まれている子供達を思うと、何かできる事はないか？と心が痛む。相談と援助が早急だが、子供達への支援と教育が未来に繋がると考える。そのためにできる事があれば手伝いたい。	女性	45～49歳
	娘を持つ親として、DVやデートDV、性犯罪から娘を守りたいと強く思う。市でそのような対策を取り、安全な街づくりをして頂きたいと思う。	女性	55～59歳
	女性が被害者、男性が加害者と決まったものではない。恐妻という言葉は昔からあるが、それに対する策は何もない。	男性	70～74歳
セクシャル・マイノリティについて 3件	セクシュアルマイノリティについて配慮し過ぎていると思える（特にマスコミ）。普通に生き、普通に生活している一般の人を軽視し、特別な人間として高い評価を与えている。また何でも男女同じくできる社会である必要もない。それぞれの生き方ができる社会であれば良い。	男性	80歳以上
	セクマイや男女平等に関する情報や知識は、当事者による生の体験談や、創作作品の一般流通及び抵抗感の排除（主に教育による）が必要だと思う。一方でセクマイのことを扱う際に、セクマイとして扱うのではなく、少し変わった条件くらいの緩い感覚が必要（意識改革）。	その他	—
	LGBT当事者（トランスジェンダー）の私が、1500人の調査対象の一人に選ばれたというのも、なにか意味があるのかなと感じている。小さい頃から数え上げればキリがない程、日常生活のちょっとした出来事や言動にストレスを感じ傷ついてきた。自分なりに折り合いをつけながら、何とか楽しく生きているが、まだまだ生きにくさを感じる場面も多々ある。武蔵野市が我々の声に耳を傾けてくれるのは大変有難く嬉しく思う。全ての市民がほんの少しずつでも、暮らしやすい市に向かってくれることを期待している。	その他	—

Ⅲ 調査票及び集計結果

※集計結果の数字は%をあらわしている

※性別が「その他」の回答者はごく少数のため記載していない

「平成29年度武蔵野市男女平等に関する意識調査」調査票

<記入にあたってのお願い>

- 同居のご家族ではなく、対象（本調査票送付の宛名）となったご本人がお答えください。
- 質問によって、○印をつける数を「1つ」「いくつでも」などと指定していますので、ご確認の上、ご回答ください。また、「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的にその内容をご記入ください。

■ あなたご自身について

(F1) 性別	1. 男性 44.9	2. 女性 50.6	3. その他 0.4	不明	4.1	
(F2) 年齢				全体	女性	男性
	1. 18～19 歳			0.9	0.4	1.7
	2. 20～24 歳			3.0	2.2	3.8
	3. 25～29 歳			4.9	3.0	7.5
	4. 30～34 歳			7.3	8.1	7.1
	5. 35～39 歳			7.1	6.7	8.3
	6. 40～44 歳			9.6	11.1	8.8
	7. 45～49 歳			8.6	10.7	7.1
	8. 50～54 歳			8.4	8.5	8.3
	9. 55～59 歳			8.6	8.1	9.2
	10. 60～64 歳			6.9	7.4	7.1
	11. 65～69 歳			9.6	9.6	10.0
	12. 70～74 歳			9.0	8.5	8.8
	13. 75～79 歳			6.6	5.9	5.8
	14. 80 歳以上			9.6	9.6	6.7
	不明			0.0	0.0	0.0
(F3) お住まいの町名				全体	女性	男性
	1. 吉祥寺東町			8.2	8.9	8.3
	2. 吉祥寺南町			7.9	8.1	6.3
	3. 御殿山			4.1	3.7	4.6
	4. 吉祥寺本町			6.4	5.9	7.1
	5. 吉祥寺北町			11.4	11.9	11.3
	6. 中町			4.9	6.7	3.3
	7. 西久保			6.2	5.2	7.1
	8. 緑町			5.8	5.2	6.7
	9. 八幡町			8.4	7.8	9.2
	10. 関前			11.8	13.0	10.8
	11. 境			9.6	8.5	10.8
	12. 境南町			9.0	9.3	8.3
	13. 桜堤			6.4	5.9	6.3
	不明			0.0	0.0	0.0

(F4) 職業		全体	女性	男性
	1. 自営業主 (家族従業員を含む)、自由業	10.9	9.3	12.5
	2. 正社員・役員、正職員	35.8	22.6	52.9
	3. パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など	15.0	23.3	6.3
	4. その他	2.2	1.9	2.5
	5. 学生	2.6	1.5	4.2
	6. 家事専業 (主婦、主夫)	17.6	31.9	0.0
	7. リタイア、その他無職 不明	15.7 0.2	9.3 0.4	21.7 0.0
(F5) 婚姻の有無		全体	女性	男性
	1. 未婚	21.0	20.0	22.9
	2. 有配偶者 (事実婚含む)	66.7	63.3	71.3
	3. 離別・死別	11.6	15.2	5.8
	不明	0.7	1.5	0.0
	(2.と答えた方に)			
	(F5-1) 配偶者の職業			
	1. 自営業主 (家族従業員を含む)、自由業	23.6	19.3	29.2
	2. 正社員・役員、正職員	28.1	46.2	10.5
	3. パートタイム、アルバイト派遣社員、嘱託など	11.8	5.8	17.5
	4. その他	0.8	1.2	0.0
	5. 学生	0.3	0.6	0.0
	6. 家事専業 (主婦、主夫)	18.5	4.7	32.7
	7. リタイア、その他無職 不明	14.9 2.0	19.9 2.3	8.2 1.8
(F6) 世帯構成		全体	女性	男性
	1. ひとり暮らし	15.9	18.5	12.9
	2. 夫婦のみ	31.1	29.3	32.5
	3. 親と未婚の子ども (たち)	39.3	38.1	41.7
	4. 親と子ども夫婦	2.2	2.6	1.7
	5. 親と子どもと孫	3.4	2.6	3.8
	6. その他 不明	7.7 0.4	8.1 0.7	7.5 0.0

■ 日頃の生活について

問1

あなたの理想として、男女の仕事と家事・育児・介護の役割は、この中のどれがもっとも望ましいと思いますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する	15.4	12.2	17.9
2. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担する	5.6	3.0	9.2
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する	59.7	61.1	57.9
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに男性が分担する	0.4	0.7	0.0
5. 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担する	0.0	0.0	0.0
6. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・ 介護サービスによってまかなう	9.2	11.5	7.1
7. わからない	6.4	7.0	5.4
その他	1.3	1.5	1.3
不明	2.1	3.0	1.3

問2

それでは、あなたのご家庭では、現在、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担している	21.7	17.8	27.1
2. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに女性が分担している	21.0	21.5	21.7
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している	10.7	11.1	10.8
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はおもに男性が分担している	0.7	0.4	1.3
5. 女性が仕事、男性が家事・育児・介護を分担している	0.6	0.4	0.8
6. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護はなるべく家事・育児・ 介護サービスを利用している	0.2	0.0	0.4
7. 分担するような相手はいない	15.5	15.2	15.4
8. どれにもあてはまらない	27.2	30.0	21.3
不明	2.4	3.7	1.3

問3

あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護・看護をしていますか。(それぞれについて○は1つ)

また、している場合は、どの程度時間をかけているかを合わせてお答えください。

※30分単位でご記入ください。(記入例：30分→0.5時間、1時間30分→1.5時間)

【家事】(食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れ、園芸など)

	全体	女性	男性
1. している	77.5	86.7	66.3
2. していない	18.5	7.0	32.1
不明	3.9	6.3	1.7

家事の1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	13.3	24.6	18.4	13.5	7.0	5.3	3.6	1.2	3.6	9.4
女性	3.4	19.2	19.7	19.2	11.1	8.5	5.6	2.1	6.0	5.1
男性	29.6	35.2	15.1	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	15.1

家事の1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	4.8	17.6	18.6	15.7	7.2	6.3	4.6	1.2	3.4	20.5
女性	0.9	9.8	12.8	18.8	12.4	9.4	7.3	2.1	5.6	20.9
男性	10.7	31.4	27.7	10.7	0.6	2.5	0.0	0.0	0.6	15.7

【子育て】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

	全体	女性	男性
1. している	22.3	26.3	20.0
2. していない	22.7	22.6	22.1
3. 該当しない(育児の対象となる家族はいない)	50.7	44.4	56.3
不明	4.3	6.7	1.7

子育ての1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	24.4	24.4	12.6	10.9	7.6	6.7	0.8	0.0	4.2	8.4
女性	8.5	19.7	16.9	15.5	12.7	9.9	1.4	0.0	7.0	8.5
男性	47.9	31.3	6.3	4.2	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	8.3

子育ての1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	6.7	11.8	12.6	10.9	5.0	6.7	10.9	1.7	10.9	22.7
女性	5.6	11.3	9.9	5.6	8.5	7.0	8.5	2.8	11.3	29.6
男性	8.3	12.5	16.7	18.8	0.0	6.3	14.6	0.0	10.4	12.5

【介護・看護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

	全体	女性	男性
1. している	7.5	10.0	4.6
2. していない	29.0	31.5	26.7
3. 該当しない（介護・看護の対象となる家族はいない）	59.0	51.5	67.1
不明	4.5	7.0	1.7

介護・看護の1日の平均時間 平日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	15.0	20.0	12.5	2.5	2.5	7.5	0.0	0.0	10.0	30.0
女性	7.4	18.5	14.8	3.7	3.7	11.1	0.0	0.0	11.1	29.6
男性	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2

介護・看護の1日の平均時間 休日

	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間以上	不明
全体	5.0	7.5	5.0	20.0	2.5	10.0	2.5	0.0	10.0	37.5
女性	3.7	7.4	0.0	22.2	3.7	11.1	0.0	0.0	11.1	40.7
男性	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	36.4

問4

あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃるとすれば、一番下のお子さんは次のどの段階にあたりますか。（○は1つ）

	全体	女性	男性
1. 1歳未満	2.1	1.1	3.3
2. 1～2歳	3.0	2.2	4.2
3. 3歳～小学校入学前	5.4	7.4	3.8
4. 小学生	5.8	5.9	6.3
5. 中学生	4.3	3.7	5.4
6. 高校生	2.8	3.3	2.5
7. 短大・各種学校・大学生など	3.4	3.7	3.3
8. 学校教育終了	25.8	26.3	25.0
9. 子どもはいない →問5へ	38.2	34.4	42.5
不明	9.2	11.9	3.8

（問4で1～8.と答えた方に）

問4-1

あなたは、育児休業を取得したことがありますか。（○は1つ）

	全体	女性	男性
1. 育児休業を取得したことがある →問5へ	10.0	17.2	2.3
2. 育児休業を取得したことがない	86.5	79.3	93.8
不明	3.6	3.4	3.9

(問 4-1 で 2. と答えた方に)

問 4-2 あなたが育児休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 働いていなかったから	27.6	54.8	1.7
2. 家庭内に育児をしてくれる人が別にいたから	23.0	4.3	42.1
3. 自分の仕事や出世に支障がでるから	5.8	0.0	11.6
4. 取得すると収入が下がるから	4.1	1.7	6.6
5. 出産・育児を機に退職したから	9.1	19.1	0.0
6. 休業の制度があることを知らなかったから	1.2	0.9	1.7
7. そのような休業の制度がなかったから	28.8	14.8	39.7
8. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったから	5.8	1.7	9.9
9. 制度はあったが、就労期間、就労時間が短いなど、育児休業の対象と ならなかったから	0.8	0.0	1.7
10. 自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから	9.9	11.3	8.3
11. その他	3.7	4.3	3.3
不明	5.8	4.3	7.4

問 5 あなたは、介護休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 介護休業を取得したことがある →問 6へ	1.5	1.9	0.8
2. 介護休業を取得したことがない	93.3	91.9	95.8
不明	5.2	6.3	3.3

(問 5 で 2. と答えた方に)

問 5-1 あなたが介護休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 介護の対象となる家族がいなかったから	59.8	56.9	64.8
2. 働いていなかったから	8.8	15.3	1.7
3. 家庭内に介護をしてくれる人が別にいたから	4.8	4.0	6.1
4. 自分の仕事や出世に支障がでるから	1.2	1.2	1.3
5. 取得すると収入が下がるから	1.4	1.6	1.3
6. 介護・看護を機に退職したから	1.8	2.4	0.4
7. 休業の制度があることを知らなかったから	1.4	1.6	0.9
8. そのような休業の制度がなかったから	9.6	8.9	10.0
9. 職場に介護休業を取りにくい雰囲気があったから	1.8	1.2	2.6
10. 制度はあったが、就労期間、就労時間が短いなど、介護休業の対象と ならなかったから	1.0	1.2	0.9
11. 自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから	7.6	7.7	7.4
その他	5.6	5.6	5.2
不明	8.2	7.3	9.6

問 6 あなたは市や地域での活動に参加していますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 子育て関係の活動（PTA、子ども会、子どもの見守りなど）	9.0	14.1	3.8
2. 自治活動（コミュニティセンター、自治会、商店会、防犯、環境など）	7.3	8.5	5.0
3. 高齢者、障害者、在住外国人などの支援活動、ボランティア	4.7	6.3	3.3
4. 趣味、スポーツ、習い事、文化活動など	18.4	24.1	12.9
5. 防災活動や震災への準備活動など	4.1	4.4	3.8
6. その他	1.9	1.1	2.5
7. 参加していない	66.7	57.8	76.3
不明	2.1	3.7	0.4

(問6で1.～6.と答えた方に)

問 6-1 あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男性は団体の長に就き、女性は補助的役職に就く慣行がある	8.4	4.8	14.3
2. 女性が責任のある役職に就きたがらない	6.0	3.8	10.7
3. 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある	10.8	7.7	14.3
4. 活動している参加者の性別に偏りがある	26.9	30.8	19.6
5. 地域活動と育児・介護・仕事との両立に理解のある人が少ない	3.6	4.8	0.0
6. 特になし	55.1	55.8	57.1
不明	4.8	3.8	3.6

問7

今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	45.9	53.7	38.3
2. 男性が家事・育児・介護・地域活動に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	16.3	17.4	13.8
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	49.3	54.4	43.3
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	24.3	25.9	21.7
5. 社会の中で、男性による家事・育児・介護などについても、その評価を高めること	40.6	47.0	34.2
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	47.9	55.9	39.6
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの在宅勤務をはじめとする多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	38.4	38.9	39.2
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	15.9	16.7	14.6
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	19.9	18.5	20.4
10. わからない	6.7	5.2	7.9
11. 特に必要なことはない	5.1	2.2	6.3
12. その他	0.9	1.1	0.8
不明	3.6	4.8	2.1

■ 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

※ワーク・ライフ・バランスとは、「誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる」よう、仕事と生活を調和させていく考え方のことです。

問8

これから男女がともに働きやすくなるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること	49.6	47.4	51.7
2. 在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方ができること	54.3	53.3	57.1
3. 仕事とプライベートの両立に理解がある上司がいること	42.9	44.1	42.1
4. 女性が働くことに対する家族や職場の理解と協力を深めること	36.3	42.2	29.2
5. 育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	41.8	43.7	40.4
6. 育児や介護で退職した時、退職時と同じ条件で復職できる ジョブ・リターン制度がある職場が増えること	40.4	42.6	39.2
7. 育児や介護をすることに対する職場の理解と協力を深めること	46.6	52.6	41.7
8. 保育サービスなどの子育て支援を充実すること	42.9	46.7	40.8
9. 介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	40.8	45.6	35.0
10. 育児や介護について地域での助け合いが進むこと	22.3	25.9	18.3
11. 再就職・再チャレンジに関する施策が充実すること	29.8	32.6	27.9
12. 「男は仕事、女は家事・育児」といった性別による固定的な役割 分担意識を変えいくこと	39.9	44.4	34.6
13. その他	3.4	3.0	3.8
14. わからない	4.5	3.3	4.2
不明	2.6	4.4	0.8

問9

あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

(1)「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

	全体	女性	男性
1. 「仕事」を優先	3.2	1.1	5.4
2. 「家庭生活」を優先	12.5	13.0	12.1
3. 「個人の生活」を優先	11.0	10.7	11.3
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先	11.6	7.4	16.7
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先	4.9	4.8	5.0
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	17.2	18.1	15.8
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて 不明	32.0	36.7	28.3
	7.5	8.1	5.4

(2)「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものをこの中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

※現在お仕事をされていない方は希望のみお答えください。

	全体	女性	男性
1. 「仕事」を優先	37.8	26.0	47.8
2. 「家庭生活」を優先	12.0	19.5	6.2
3. 「個人の生活」を優先	4.7	3.9	5.1
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先	24.6	27.9	21.9
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先	6.7	6.5	6.7
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	3.5	2.6	3.9
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて不明	7.6	9.1	6.7
	2.9	4.5	1.7

■ セクシュアル・マイノリティについて

※セクシュアル・マイノリティとは、「からだの性」と「自分が認識する性」が一致しない人や、恋愛感情などの性的な意識が同性ないしは両性に向かう人（同性愛者、両性愛者）などを総称した言葉です。

問 10

あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。または、周囲で悩んでいる人はいましたか。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 悩んだことがあります、周囲にも悩んでいる人がいた	1.3	1.1	1.3
2. 悩んだことはあるが、周囲に悩んでいる人はいなかった	0.7	0.4	0.8
3. 悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた	11.8	14.1	10.4
4. 悩んだことはなく、周囲にもいなかった	83.7	80.4	86.7
不明	2.4	4.1	0.8

問 11

あなたは、セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 正しい理解を深めるための教育を学校で行う	47.2	50.7	44.6
2. 正しい理解を深めるための啓発活動を行政が行う	26.6	28.9	25.4
3. 相談・支援体制を充実させる	34.8	36.7	34.2
4. セクシュアル・マイノリティであっても不利な取り扱いをうけないよう法律や制度を整備する	49.8	54.4	46.3
5. その他	3.0	2.6	3.3
6. 特に必要なことはない	7.3	4.8	9.2
7. わからない	15.4	12.6	16.3
不明	1.5	2.2	0.8

男女平等意識について

問 12

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女共同参画社会	61.2	57.0	67.1
2. 女性差別撤廃条約	39.0	38.5	42.1
3. 男女雇用機会均等法	87.5	86.7	90.4
4. 女性活躍推進法	33.0	31.9	35.8
5. 配偶者暴力防止法	35.0	38.5	32.1
6. ストーカー規制法	81.8	82.6	82.5
7. L G B T	51.9	48.1	59.2
8. セクシュアル・マイノリティ	63.7	66.3	63.3
9. デートDV	37.6	43.3	33.3
10. メディア・リテラシー	27.2	25.2	31.3
11. J K ビジネス	54.1	50.4	60.8
12. イクボス	21.2	18.9	24.6
13. ケアボス	7.1	5.6	9.6
14. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	10.9	11.1	10.0
15. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	60.9	63.7	62.5
16. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	57.1	51.9	65.8
17. リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）	5.8	7.0	5.0
18. セクシュアル・ライツ（性に関する権利）	9.7	9.6	10.0
19. 上記の中で知っている言葉はない	2.4	2.2	2.1
不明	3.0	3.3	1.3

問 13

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。この中から1つだけお答えください。(○は1つ)

	全体	女性	男性
1. 賛成	6.2	5.2	6.7
2. どちらかといえば賛成	32.8	27.8	37.1
3. どちらかといえば反対	22.7	27.0	17.9
4. 反対	22.3	22.6	23.8
5. わからない	13.3	13.3	13.3
6. その他	1.1	1.5	0.8
不明	1.7	2.6	0.4

問 14

あなたは次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
 (それぞれについて○は1つ)

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	不明
記入例 (1) 家庭生活の場で		1	2	3	4	5	6	
(1) 家庭生活の場で	全体	7.3	36.0	28.7	12.0	2.1	8.2	5.8
	女性	10.0	41.5	23.0	10.0	1.1	6.7	7.8
	男性	3.3	30.4	35.8	14.6	2.9	10.0	2.9
(2) 職場で	全体	17.0	41.8	19.3	3.2	0.7	10.5	7.5
	女性	19.3	41.5	14.4	1.9	0.0	12.2	10.7
	男性	12.9	44.2	25.8	5.0	1.7	7.9	2.5
(3) 学校教育の場で	全体	1.5	12.0	54.3	2.6	0.9	21.2	7.5
	女性	1.1	13.7	50.4	1.5	0.7	23.0	9.6
	男性	1.3	9.2	60.4	4.2	1.3	20.0	3.8
(4) 地域社会(町会、自治会など)で	全体	3.9	30.9	27.3	5.4	0.7	24.9	6.7
	女性	4.8	33.7	21.5	2.6	1.1	26.7	9.6
	男性	2.5	27.5	35.4	8.8	0.0	23.8	2.1
(5) 政治の場で	全体	31.1	41.9	12.4	1.5	0.7	6.4	6.0
	女性	36.3	39.6	6.3	0.4	0.0	8.5	8.9
	男性	26.7	44.6	17.9	2.9	1.7	4.6	1.7
(6) 法律や制度の上で	全体	8.1	36.5	29.4	5.4	1.3	12.4	6.9
	女性	11.1	38.5	19.3	3.3	0.0	17.4	10.4
	男性	4.6	36.7	39.6	8.3	2.9	6.3	1.7
(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで	全体	22.7	53.9	8.8	1.7	0.4	6.4	6.2
	女性	27.8	50.7	4.4	0.7	0.0	7.8	8.5
	男性	16.7	59.2	13.8	2.5	0.8	5.0	2.1
(8) 社会全体では	全体	12.4	57.7	12.9	2.2	0.4	8.4	6.0
	女性	16.3	57.4	8.1	0.7	0.0	9.3	8.1
	男性	7.5	60.0	17.9	4.2	0.8	7.1	2.5

問 15

次にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれについて○は1つ)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともい えない	あまりそ うは思わ ない	そうは 思わない	不明
(1) 男の子は男の子らしく、 女の子は女の子らしく 育てたほうがよい	全体	17.8	32.0	25.1	11.4	11.2	2.4
	女性	10.0	30.4	28.9	15.6	11.5	3.7
	男性	25.8	33.8	20.8	7.9	10.8	0.8
(2) 結婚しても、どうしても うまくいかない場合、離 婚してもかまわない。	全体	45.5	32.4	12.0	5.8	1.5	2.8
	女性	47.8	33.0	11.9	3.0	0.4	4.1
	男性	43.3	31.3	12.9	9.2	2.5	0.8
(3) 希望する者には夫婦別姓 を認めてもよい	全体	41.9	24.7	13.1	8.2	8.8	3.2
	女性	44.4	25.9	13.3	5.6	6.3	4.4
	男性	41.3	23.8	13.8	10.4	10.0	0.8
(4) 男性同士、女性同士の同性 婚もあってもよい	全体	30.0	20.4	22.8	10.3	13.3	3.2
	女性	32.6	21.9	23.3	7.8	10.0	4.4
	男性	27.9	19.6	23.3	12.9	15.4	0.8

問 16

児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思
いますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと	64.8	64.4	63.8
2. ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと	72.8	73.7	71.7
3. 人権尊重の視点に立った性教育を充実させること	38.8	39.3	38.8
4. 家庭や家族の多様なありかたについて学ぶこと	52.6	55.2	50.4
5. 生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう 配慮すること	54.1	59.3	47.5
6. 性に関する相談の機能を充実させること	24.0	24.8	23.3
7. デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者や被害者と なることを防ぐための教育を早期から行うこと	33.1	34.8	30.4
8. 性産業に巻き込まれないための教育を早期から行うこと	35.8	38.5	33.3
9. 子どもの健全な育成に向けて*メディア・リテラシーの能力を高めること	35.0	35.2	35.4
10. 教職員を対象とした男女平等の研修を実施すること	34.3	30.7	36.3
11. 管理職（校長や副校長）に女性を増やしていくこと	25.7	28.1	22.9
12. その他	4.7	4.1	5.8
13. わからない	4.5	3.3	5.4
不明	2.8	4.8	0.4

*メディア・リテラシーとはメディアの情報

を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションする能力の3つを構成要素とする複合的な能力をいいます。

問 17

テレビや雑誌、インターネットなどのメディアが発信する表現について、あなたは日頃どのように感じますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女のステレオタイプな表現（「男性は仕事、女性は家事・育児」、「男らしく、女らしく」等）を固定的に発信している	16.9	15.6	18.3
2. 色で性別を分けるなど、興味関心や服装・外見等の個性を無視あるいは軽視している	12.9	11.9	12.9
3. 女性について、容姿や若さを強調している	53.6	60.0	47.1
4. 伝えたい内容と関係がないのに、女性の性的側面を強調するなど行きすぎた表現が目立つ	30.3	30.7	29.6
5. セクシュアル・マイノリティに配慮していない	14.0	14.1	13.8
6. 特に問題はない	23.6	18.5	28.8
7. その他	0.6	0.7	0.4
不明	6.6	9.6	2.9

問 18

あなたは、災害対策に男女平等の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	36.1	30.4	40.8
2. 災害対応や復興において女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する	41.6	41.5	40.4
3. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等の視点を入れる	30.5	28.9	30.8
4. 性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を行えるようにする	76.0	82.2	68.8
5. 女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する	40.4	46.3	32.1
6. 消防職員・消防団員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	43.1	45.6	37.5
7. その他	2.4	1.9	3.3
8. わからない	7.3	3.7	11.7
不明	3.0	5.2	0.8

男女間の暴力について

問 19

配偶者からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。また近年若い世代でも「交際相手からの暴力」（いわゆるデートDV）が問題となっています。あなたは親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。

（それぞれの項目について、番号に1つずつ○）

また、これまでに配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

（それぞれの項目について、アルファベットに1つずつ○）

※この調査では、「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦・元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。以下の設問も同様です。

		どう思うか				されたことがあるか			
		もど ら思 う	どん な場 合で あ た る	暴 力に あ た る 場 合 も あ る と 思 う	暴 力に あ た る と 思 わ な い	不 明	何 度 も あ る	1. 2 度 あ る	ま っ た く な い
(1)平手で打つ	全体	65.0	24.5	1.5	9.0	2.1	7.7	79.6	10.7
	女性	64.4	22.2	0.7	12.6	1.1	7.0	79.6	12.2
	男性	67.1	27.1	2.1	3.8	2.9	8.8	81.3	7.1
(2)大声でどなる	全体	29.2	56.4	6.0	8.4	12.2	27.2	50.0	10.7
	女性	30.7	53.7	3.3	12.2	11.5	27.0	49.6	11.9
	男性	25.8	62.9	7.9	3.3	13.3	28.3	51.7	6.7
(3)配偶者等の 外出などを制限す る	全体	43.6	39.1	7.3	9.9	3.6	5.1	81.5	9.9
	女性	43.7	36.7	6.3	13.3	3.3	5.9	79.6	11.1
	男性	45.0	41.7	7.9	5.4	4.2	3.8	85.4	6.7
(4)交友関係や 電話・メールを 細かく監視する	全体	52.2	31.1	6.9	9.7	1.7	5.2	82.6	10.5
	女性	56.7	25.2	5.2	13.0	1.1	4.1	83.3	11.5
	男性	47.5	39.2	8.3	5.0	2.5	6.3	83.3	7.9
(5)何を言っても 長期間無視し続け る	全体	53.4	30.7	5.8	10.1	5.4	10.3	74.3	9.9
	女性	58.9	24.1	4.4	12.6	5.2	8.1	75.2	11.5
	男性	49.2	38.3	7.1	5.4	5.8	12.9	74.6	6.7
(6)相手の意に 反して性的な行為 を強要したり避妊 に協力しない	全体	73.0	14.0	2.4	10.5	2.4	5.6	81.3	10.7
	女性	74.8	11.5	1.1	12.6	3.7	8.5	75.9	11.9
	男性	73.3	17.1	3.8	5.8	1.3	2.5	88.8	7.5
(7)なぐるふりを しておどす	全体	60.5	26.2	2.6	10.7	1.9	6.4	80.9	10.9
	女性	62.6	21.1	3.0	13.3	1.5	6.7	79.3	12.6
	男性	60.0	32.1	2.1	5.8	2.1	5.8	84.6	7.5
(8)「誰のおかげ で生活できている んだ」「かいしょう なし」などと侮辱 的なことをいう	全体	62.0	24.7	3.7	9.6	3.2	9.2	77.5	10.1
	女性	64.8	19.3	3.3	12.6	3.7	8.1	77.0	11.1
	男性	60.4	30.8	3.8	5.0	2.9	10.8	79.6	6.7
(9)生活費を十分 に渡さない	全体	55.2	29.8	4.3	10.7	2.8	3.0	83.7	10.5
	女性	59.3	23.3	4.4	13.0	3.7	3.0	81.5	11.9
	男性	52.5	37.1	4.2	6.3	1.3	2.9	88.3	7.5

(問 19 のいずれかの項目で A または B と答えた方に)

問 19-1

あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 相談したかったが、できなかった	7.1	6.3	6.8
2. 相談しようとは思わなかった	59.8	55.5	65.8
3. 家族・親族に相談した	9.8	13.3	5.1
4. 友人・知人・同僚に相談した	13.8	17.2	11.1
5. 警察に相談した	1.2	2.3	0.0
6. 民間の支援グループに相談した	0.0	0.0	0.0
7. 民間機関(弁護士など)に相談した	1.6	2.3	0.9
8. 医師や看護師、カウンセラーなどに相談した	2.4	3.1	1.7
9. 市の相談窓口(女性総合相談、人権相談など)や子ども家庭支援センターに相談した	1.6	2.3	0.0
10. 配偶者暴力相談支援センター(東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザなど)に相談した	0.4	0.8	0.0
11. その他	7.5	6.3	8.5
不明	7.9	9.4	6.8

(問 19-1 で 1. または 2. と答えた方に)

問 19-2

相談しなかった理由としてあなたのお考えに近いものを選んでください。
(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 相談するほどのことではないと思った	76.0	75.6	75.9
2. 相談しても無駄だと思った	15.6	12.8	18.1
3. どこに相談してよいのかわからなかった	3.0	2.6	2.4
4. 相談する人がいなかった	1.2	0.0	2.4
5. 他人を巻き込みたくなかった	5.4	6.4	4.8
6. 恥ずかしくて誰にも言えなかった	4.2	2.6	6.0
7. 世間体が悪いと思った	3.6	1.3	6.0
8. 周りの人に知られたくなかった	3.6	3.8	3.6
9. 自分にも悪いところがあると思った	18.0	20.5	16.9
10. 自分さえ我慢すれば、そのままやっていけると思った	9.0	7.7	10.8
11. 自分が受けている行為が暴力だとは認識していなかった	3.6	5.1	2.4
12. 子どもに危害がおよんだり、仕返しを受けると思った	1.8	0.0	2.4
13. その他	3.6	3.8	3.6
不明	2.4	2.6	2.4

問 20 あなたは下記の相談機関、相談窓口があることを知っていますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 市の女性総合相談	10.5	11.9	8.8
2. 市のひとり親相談	14.8	21.1	7.9
3. 市の法律相談	39.3	38.1	41.3
4. 市の人権相談	16.7	14.8	19.2
5. 男女平等推進センター「ヒューマンあい」	6.7	7.8	5.4
6. 子ども家庭支援センター	27.9	33.7	22.9
7. 東京ウィメンズプラザ	9.0	11.9	6.7
8. 東京都女性相談センター	8.1	10.4	5.4
9. 東京ウィメンズプラザ（男性のための悩み相談）	0.7	0.4	1.3
10. 警察	55.6	53.3	61.3
11. どれも知らない	21.5	18.1	23.3
不明	5.6	8.1	2.1

問 21 あなたは配偶者間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）やデートDVの対策や防止のために、今後、武蔵野市の施策として特にどのような事業が必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする	49.6	46.7	51.7
2. 相談先や相談方法を記載したカードを、トイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする	34.1	39.6	28.8
3. 住民票や保険のプライバシー確保など被害者の安全を守る施策を充実する	40.1	44.1	36.3
4. 被害の実態や被害者の支援策を多言語で市民に広く知らせる	15.0	14.1	16.3
5. 被害者を一時的に保護する施設（シェルター）を増やす	42.5	43.7	42.9
6. 被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う	43.6	48.9	39.6
7. 被害者支援に携わる人（警察、医師、相談機関職員など）の意識向上を図る	42.1	43.7	40.4
8. 加害者に対する再発防止教育を行う	33.9	31.9	36.3
9. 学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	36.9	36.3	37.9
10. 親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする	44.2	49.3	37.9
11. その他	2.6	1.5	3.8
12. わからない	7.3	5.6	8.8
不明	4.7	7.0	1.7

■ 市の施策について

問 22

あなたは、ここにあげる武蔵野市の取り組みを知っていますか。
(それぞれについて○は1つ)

		内容まで 一応知って いる	聞いたことは ある	知らない	不明
(1) 武蔵野市男女平等の推進に関する条例	全体	0.9	22.8	70.4	5.8
	女性	0.7	23.0	67.8	8.5
	男性	1.3	21.7	74.6	2.5
(2) 武蔵野市第三次男女共同参画計画	全体	0.7	11.4	80.7	7.1
	女性	0.7	12.6	76.3	10.4
	男性	0.8	9.6	86.7	2.9
(3) 武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」	全体	1.7	14.6	76.6	7.1
	女性	1.5	14.8	73.7	10.0
	男性	2.1	14.2	80.4	3.3
(4) 武蔵野市男女共同参画フォーラム	全体	0.9	23.6	68.5	6.9
	女性	0.7	25.9	63.7	9.6
	男性	1.3	20.4	75.0	3.3
(5) 男女平等推進情報誌『まなこ』	全体	8.6	17.4	68.5	5.4
	女性	13.3	20.7	59.3	6.7
	男性	3.8	13.8	79.2	3.3
(6) 女性総合相談	全体	1.5	15.2	76.4	6.9
	女性	1.9	17.0	71.5	9.6
	男性	0.8	13.3	82.5	3.3

問 23

武蔵野市立男女平等推進センターでは、男女平等に関わる講座や男女平等推進情報誌『まなこ』の発行を行っています。あなたが講座や『まなこ』の特集記事として関心のあるテーマを教えてください。(〇はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女平等、人権、ジェンダー	20.4	17.4	24.2
2. 女性のためのキャリアプラン、起業、再就職支援	21.3	29.6	12.9
3. ひとり親支援、子どもの貧困	28.1	30.0	26.3
4. セクシュアル・マイノリティ、LGBT	11.0	10.0	12.5
5. 親子、家族関係、母娘関係	21.7	23.3	21.3
6. 仕事と介護・育児の両立、ワーク・ライフ・バランス	36.9	39.6	35.8
7. 男性の家事・育児・地域活動参加	23.8	20.4	28.3
8. 女性の視点からみた防災	16.5	23.0	8.3
9. 配偶者間での暴力(ドメスティック・バイオレンス)やデートDV (交際相手からの暴力)、モラル・ハラスメント、ストーカー	13.3	15.9	11.7
10. リベンジポルノや性犯罪、JKビジネスなどの性的被害	9.6	10.4	9.2
11. 男女平等の視点でみるメディア・リテラシー	11.6	11.1	12.5
12. リプロダクティブ・ヘルス、セクシュアル・ライツ	4.1	4.4	3.8
13. その他	3.0	2.2	4.2
14. 特に関心のあるテーマはない	18.5	12.2	25.4
不明	9.2	11.9	4.6

問 24

武蔵野市では、平成29年3月に、「男女平等の推進に関する条例」を制定しました。あなたはこの条例について、どのようにお考えですか。下記の項目それぞれについて、近いと思われるものに〇をお付けください。(それぞれについて〇は1つ)

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	あまりそ うは思わ ない	そうは 思わない	不明
(1) 武蔵野市に男女平等の 条例ができたことはよいことだ	全体	54.5	28.5	9.7	0.9	1.7	4.7
	女性	57.4	27.0	7.4	0.0	1.9	6.3
	男性	51.7	30.0	12.5	2.1	1.7	2.1
(2) 関連のパンフレット等が あったら読んでみたい	全体	20.0	37.5	21.7	7.3	7.3	6.2
	女性	20.4	39.3	22.6	3.0	6.3	8.5
	男性	18.8	36.3	21.3	12.1	8.8	2.9
(3) 関連のセミナーやワーク ショップがあったら参加してみたい	全体	4.1	14.2	43.4	16.1	15.5	6.6
	女性	3.7	16.7	45.9	13.7	11.5	8.5
	男性	3.8	11.3	42.5	18.3	21.3	2.9

問 25

あなたは、男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体に入ってみたり、また、市の男女平等に関わる事業に協力してみたりしたいと思いますか。(それぞれについて○は1つ)

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	あまり そうは 思わな	そうは 思わない	不明
(1) 男女平等に関して支援活動をした り、相互の助け合いをした り、学習活動をした りする団体が地域にあ ったら入ってみたい	全体	2.6	9.4	36.0	21.0	27.0	4.1
	女性	1.5	10.7	35.2	21.9	25.2	5.6
	男性	4.2	7.9	36.7	21.3	28.8	1.3
(2) 武蔵野市が男女平等推進の 施策検討や事業を行う際 に、市民委員や事業実施 の際のボランティア委員 などとして協力してみ たい	全体	1.7	9.0	32.8	24.2	28.3	4.1
	女性	1.1	9.3	31.5	25.2	27.0	5.9
	男性	2.5	8.8	34.2	24.2	29.2	1.3

問 26

あなたは男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(○はいくつでも)

	全体	女性	男性
1. 男女平等への理解を深めるための講習会や学習機 会の充実	19.3	14.8	24.2
2. 男女平等に関する相談窓口の充実 (性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談)	27.2	24.4	30.8
3. 男女平等推進などについての情報誌や図書、資 料コーナーの充実	11.8	10.4	13.3
4. 女性のキャリアアップや起業など就業で役立つ 訓練・相談や再就職支援の実施	31.5	40.0	22.9
5. 「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普 及・啓発	21.0	20.7	22.9
6. 保育・介護制度の充実	54.7	57.4	53.8
7. 女性の生涯を通じた健康支援	21.7	27.8	15.0
8. ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充 実	24.7	23.0	27.9
9. 男性に向けての男女平等、男女共同参画に関 する啓発	16.9	14.8	19.2
10. 地域コミュニティでの男女平等の推進	14.0	12.6	15.8
11. 防災におけるまちづくり(防災活動・震災準 備)での男女平等の推進	20.2	21.9	18.8
12. 学校での男女平等意識を育てる教育の推進	38.2	38.5	38.8
13. 配偶者間の暴力(ドメスティック・バイオレ ンス)への対策	20.4	20.0	20.8
14. 市の審議会などへの女性の登用推進	15.5	17.0	14.6
15. その他	1.9	1.9	2.1
16. 特にな	5.6	2.6	7.9
17. わか	7.7	7.0	8.8
不明	5.1	7.0	2.1

問 27

あなたが日ごろから男女平等や男女共同参画について感じていることや、市の施策についてのご意見などがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、このアンケート調査票は同封の返信用封筒に入れ、10月16日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手を貼る必要はありません)。

**武蔵野市男女平等に関する意識調査
報告書**

平成 30 年 3 月

発 行：武蔵野市市民部市民活動推進課男女平等推進センター
〒180-0022 東京都武蔵野市境 2 丁目 3 番 7 号
電話：0422-37-3410
FAX：0422-38-6239